

TC52

タッチ コンピュータ



プロダクト リファレンス
ガイド
(Android™ 9.0 Pie 向け)



ZEBRA

著作権

ZEBRA および図案化された Zebra ヘッドは、Zebra Technologies Corporation の商標であり、世界各地の多数の法域で登録されています。Google、Android、Google Play などの商標は、Google LLC の商標です。その他のすべての商標は、該当する各所有者が権利を有しています。©2019 Zebra Technologies Corporation および/またはその関連会社。無断複写、転載を禁じます。

著作権および商標：著作権と商標情報の詳細については、www.zebra.com/copyright でご確認ください。

保証：保証に関する詳細情報については、www.zebra.com/warranty を参照してください。

エンドユーザー ソフトウェア使用許諾契約：EULA の詳細情報については、www.zebra.com/eula を参照してください。

使用の条件

- 所有権の表明

本書には、Zebra Technologies Corporation およびその子会社（「Zebra Technologies」）に所有権が属している情報が含まれています。本書は、本書に記載されている機器の操作および保守を行うユーザーに限り、情報の閲覧とその利用を目的として提供するものです。当社に所有権が属している当該情報に関しては、Zebra Technologies の書面による明示的な許可がない限り、他の目的で利用、複製、または第三者へ開示することは認められません。

- 製品の改善

Zebra Technologies は、会社の方針として、製品の継続的な改善を行っています。すべての仕様や設計は、予告なしに変更される場合があります。

- 免責条項

Zebra Technologies では、公開されているエンジニアリング仕様およびマニュアルに誤りがないように、万全の対策を講じていますが、まれに誤りが発生することがあります。Zebra Technologies は、かかる誤りを修正する権利を留保し、その誤りに起因する責任は負わないものとします。

- 責任の限定

業務の逸失利益、業務の中断、業務情報の損失などを含めて、またはこれらに限定することなく、当該製品の使用、使用の結果、またはその使用不能により派生した損害に関しては、いかなる場合でも、Zebra Technologies、または同梱製品（ハードウェアおよびソフトウェアを含む）の開発、製造、または納入に関与したあらゆる当事者は、損害賠償責任を一切負わないものとします。さらにこれらの損害の可能性を事前に指摘されていた場合でも、損害賠償責任を一切負わないものとします。一部の法域では、付随的または派生的損害の除外または制限が認められないため、上記の制限または除外はお客様に適用されないことがあります。

改訂版履歴

元のガイドに対する変更を次に示します。

変更	日付	説明
-01 改訂版 A	2019 年 7 月	初期リリース
-02 改訂版 A	2020 年 4 月	トラブルシューティングセクションのバッテリー充電温度を更新します。
-03 改訂版 A	2021 年 7 月	195 ページの「ハードリセットキーの組み合わせを更新します。177 ページの GMS 制限 セクションを更新します。

目次

著作権	2
使用の条件	2
改訂版履歴	2
このガイドについて	12
構成	12
表記規則	12
サービスに関する情報	13
ソフトウェア バージョン	13
ご使用の前に	14
はじめに	14
パッケージの開梱	14
機能	15
デバイスのセットアップ	17
microSD カードの取り付け	17
バッテリーの取り付け	19
バッテリーの充電	19
充電インジケータ	20
Zebra 可視化サービス	20
バッテリーの交換	21
microSD カードの交換	22
デバイスの使用方法	24
ホーム画面	24
ホーム画面回転の設定	25
ステータス バー	25
ステータス アイコン	26
通知アイコン	26
通知の管理	27

クイック アクセス パネル	28
クイック設定のアイコンの編集	29
バッテリー管理	30
バッテリー使用量の監視	30
低バッテリー通知	30
バッテリー最適化	31
インタラクティブなセンサー テクノロジ	31
サスペンド モード	31
ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する	32
ファイルの転送	32
写真の転送	32
ホスト コンピュータから切断する	33
設定	34
[Settings] (設定) へのアクセス	34
ディスプレイの設定	34
画面の輝度の設定	34
ナイト ライトの設定	35
画面回転の設定	35
画面のタイムアウトの設定	35
周辺光で調整されるディスプレイ	36
フォント サイズの設定	36
タッチ パネル モード	37
日付と時刻の設定	37
通知 LED の設定	38
一般的な音設定	38
サウンド オプション	38
ウェイクアップ ソース	39
ボタンの再マッピング	39
ボタンの再マッピング	40
キーボード	40
キーボードの設定	40
キーボードを有効にする	40
キーボードの切り替え	40
テキストの編集	41
数字、記号、および特殊文字の入力	41
エンタープライズ キーボードの使用方法	41
数字タブ	41
英字タブ	42
追加文字タブ	42
スキャン タブ	42
キーボードの設定	43

キーボードを有効にする	43
言語の使用	43
言語設定の変更	43
辞書に単語を追加する	43
キーボードの設定	43
アプリケーション	44
アプリへのアクセス	47
最近使用したアプリの切り替え	47
ActiveEdge タッチ ゾーン	48
ActiveEdge の設定	48
ドロワのアプリの選択	49
ActiveEdge の使用	51
バッテリー マネージャ	53
カメラ	55
写真の撮影	55
パノラマ写真の撮影	56
ビデオの録画	57
写真設定	57
前面カメラ	58
背面カメラ	58
ビデオの設定	59
前面カメラ	59
背面カメラ	60
DataWedge デモンストレーション	61
スキャナの選択	61
Device Central	62
[Scan and Pair] (スキャンおよびペアリング) タブ	62
スキャンおよびペアリング	63
スキャンしてペアリング	63
手動によるペアリング	63
[Peripherals] (周辺機器) タブ	63
[My Device] (マイ デバイス) タブ	64
周辺機器のペアリング解除	64
RS6000 リング スキャナの呼び出し	64
診断ツール	65
設定	66
バッテリー テストの情報	66
GPS テストの情報	66
システム テストの情報	66
WLAN テストの情報	67
WWAN テストの情報	67

Bluetooth テストの情報.....	67
PTT Express Voice クライアント.....	68
PTT 音声通知.....	68
PTT 通知アイコン.....	68
PTT 通信を有効にする.....	69
トークグループの選択.....	69
PTT 通信.....	69
グループ通話の作成.....	70
プライベート応答での応答.....	70
PTT 通信を無効にする.....	70
SimulScan デモ.....	71
サンプル フォームの印刷.....	71
郵送、運輸、物流サンプルの使用法.....	72
製造サンプルの使用法.....	73
設定.....	75
詳細設定.....	75
デモ カスタマイズの作成.....	77
デフォルトのテンプレート.....	78
RxLogger.....	79
RxLogger の構成.....	79
構成ファイル.....	79
ログの有効化.....	79
ログの無効化.....	79
ログ ファイルの抽出.....	79
バックアップ.....	80
RxLogger ユーティリティ.....	80
メイン チャット ヘッドの開始.....	80
メイン チャット ヘッドの削除.....	80
ログの表示.....	80
サブ チャット ヘッド アイコンの削除.....	80
オーバーレイ ビューでのバックアップ.....	80
サウンドレコーダ.....	81
データ収集.....	82
はじめに.....	82
イメージング.....	82
デジタル カメラ.....	82
リニア イメージャ.....	83
動作モード.....	83
RS507/RS507x ハンズフリー イメージャ.....	84
RS6000 Bluetooth リング スキャナ.....	84
DS3678 デジタル スキャナ.....	84

LI3678 リニア スキャナ	85
DS2278 デジタル スキャナ	86
スキャン操作に関する考慮事項	86
内部イメージャでのスキャン	86
内蔵カメラによるスキャン	88
RS6000 Bluetooth リング スキャナでのスキャン	89
RS507/RS507X ハンズフリー イメージャでのスキャン	90
DS3678 Bluetooth スキャナでのスキャン	91
LI3678 リニア イメージャでのスキャン	92
DS2278 デジタル スキャナでのスキャン	93
RS507/RS507X/RS6000 ハンズフリー イメージャのペアリング	94
Near Field Communication を使用してペアリングする	94
Near Field Communication を使用して HID モードでペアリングする	94
Simple Serial Interface を使用してペアリングする	95
Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする	96
Bluetooth スキャナのペアリング	97
Simple Serial Interface を使用してペアリングする	97
Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする	98
DataWedge	100
DataWedge を有効にする	100
DataWedge を無効にする	100
サポート対象デコーダ	100
無線	103
[Settings] (設定) へのアクセス	103
無線 LAN	103
Wi-Fi ネットワークへの接続	104
Wi-Fi ネットワークの削除	105
WLAN の設定	105
セキュリティ保護された Wi-Fi ネットワークの設定	105
手動での Wi-Fi ネットワークの追加	106
プロキシ サーバーの設定	107
静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定	108
Wi-Fi 設定	108
追加の Wi-Fi 設定	109
Wi-Fi ダイレクト	110
Bluetooth	111
適応型周波数ホッピング	111
セキュリティ	111
Bluetooth プロファイル	112
Bluetooth の電源の状態	113

Bluetooth 無線の電源	113
Bluetooth を有効にする	113
Bluetooth を無効にする	114
Bluetooth デバイスを検出する	114
Bluetooth の名前の変更	114
Bluetooth デバイスへの接続	115
Bluetooth デバイスのプロファイル選択	115
Bluetooth デバイスのペアリング解除	115
近距離無線通信	115
NFC カードの読み取り	116
NFC を使用した情報の共有	117
キャスト	118
アクセサリ	119
はじめに	119
アクセサリ	119
バッテリーの充電	122
メイン バッテリーの充電	122
予備バッテリーの充電	122
充電温度	123
1 スロット USB 充電クレードル	124
セットアップ	125
デバイスの充電	125
高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードルに挿入する	126
4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き)	127
セットアップ	128
デバイスの充電	128
高耐久性ブーツを装着した TC52 をクレードルに挿入する	130
5 スロット充電専用クレードル	131
セットアップ	132
デバイスの充電	132
高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードルに挿入する	133
5 スロット イーサネット クレードル	134
セットアップ	135
イーサネット クレードルのデイジーチェーン接続	135
イーサネットの設定	136
イーサネット プロキシ設定の構成	136
イーサネット 静的 IP アドレスの構成	137
デバイスの充電	137
高耐久性ブーツを装着した TC52 をクレードルに挿入する	138
イーサネット接続の確立	139

LED インジケータ	139
4 スロット バッテリ充電器	140
セットアップ	140
1 台対応充電器のセットアップ	140
2 台対応充電器のセットアップ	141
予備バッテリーの充電	142
高耐久性ブーツ	144
取り付け	144
スタイラスの取り付け	145
クレードルで充電する	146
ベーシック ハンドストラップ キット	148
取り付け	148
取り外し	149
2.5mm オーディオ アダプタ	151
3.5mm オーディオ アダプタ	152
高耐久性充電 /USB ケーブル	153
TC52 への接続	153
高耐久性ブーツを装着している TC52 への接続	154
USB 通信	155
デバイスの充電	155
高耐久性充電 /USB ケーブルの取り外し	156
トリガ ハンドル	158
高耐久性ブーツの取り付け	158
オプションのストラップの取り付け	159
トリガ ハンドルへのデバイスのセット	160
トリガ ハンドルからのデバイスの取り外し	161
電源	163
5 スロット クレードル ラックの取り付け	164
4 スロット バッテリ充電器のラックへの取り付け	167
ラック マウントの取り付け	170
壁への取り付け	173
下部トレイのアセンブリ	173
ブラケットの壁面取り付け	173
アプリケーションの導入	175
セキュリティ	175
セキュリティ証明書	175
セキュリティ証明書のインストール	175
認証情報ストレージ設定の構成	176
開発ツール	176
Android アプリケーション開発	176

開発ワークステーション.....	176
対象デバイス.....	176
EMDK for Android.....	177
StageNow.....	177
GMS 制限.....	177
ADB USB のセットアップ.....	177
USB デバッグを有効にする.....	178
アプリケーションのインストール.....	178
USB 接続を使用したアプリケーションのインストール.....	179
Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール.....	179
microSD カードを使用したアプリケーションのインストール.....	180
アプリケーションのアンインストール.....	180
システム アップデートの実行.....	181
システム更新パッケージのダウンロード.....	181
microSD カードの使用.....	181
ADB の使用.....	182
システム更新のインストールを確認する.....	183
エンタープライズ リセットの実行.....	183
エンタープライズ リセット パッケージのダウンロード.....	183
microSD カードの使用.....	183
ADB の使用.....	184
工場出荷時リセットの実行.....	184
工場出荷時リセット パッケージのダウンロード.....	185
microSD カードの使用.....	185
ADB の使用.....	185
ストレージ.....	186
ランダム アクセス メモリ.....	186
内部ストレージ.....	187
外部ストレージ.....	187
microSD カードのフォーマット.....	187
内部メモリとしての microSD カードのフォーマット.....	188
Enterprise フォルダ.....	188
アプリの管理.....	188
アプリの詳細の表示.....	188
ダウンロードの管理.....	189
メンテナンスとトラブルシューティング.....	190
はじめに.....	190
デバイスのメンテナンス.....	190
ディスプレイのベスト プラクティス.....	190
画像の残留.....	190

バッテリーの安全に関するガイドライン	191
クリーニング方法	191
清掃と消毒のガイドライン	192
TC52 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤	192
TC52-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤	192
クリーニングの際の注意事項	192
クリーニングの頻度	193
デバイスのクリーニング	193
筐体	193
ディスプレイ	193
カメラと出カウインドウ	193
バッテリー ガイド スロット	193
バッテリー コネクタと位置マグネットのクリーニング	193
クレードルのコネクタのクリーニング	194
トラブルシューティング	195
デバイスのリセット	195
ソフト リセットの実行	195
ハード リセットの実行	195
TC52	195
1 スロット 充電専用 クレードル	197
4 スロット 充電専用 クレードル (バッテリー 充電器 付き) のトラブルシューティング	198
5 スロット 充電専用 クレードルのトラブルシューティング	199
5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング	200
4 スロット バッテリー 充電器のトラブルシューティング	200
技術仕様	202
読み取り可能距離	202
I/O コネクタのピン配列	203
1 スロット 充電専用 クレードルの技術仕様	204
4 スロット 充電専用 クレードル (バッテリー 充電器 付き) の技術仕様	204
5 スロット 充電専用 クレードルの技術仕様	205
5 スロット イーサネット クレードルの技術仕様	205
4 スロット バッテリー 充電器の技術仕様	206
トリガ ハンドルの技術仕様	206
高耐久性 充電 /USB ケーブルの技術仕様	207
索引	208

このガイドについて

構成

このガイドは、以下の構成を対象としています。

表 1 構成

構成	無線	ディスプレイ	メモリ	データ収集オプション	オペレーティングシステム
TC520K-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n//ac/d/h/i/r/k/v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy	5.0 インチ 高解像度 (1280 x 720) LCD	4GB RAM/ 32GB Flash	2D イメージャ (SE-4710) およ び NFC 搭載	Android ベース、 Google™ モバイル サービス (GMS) 9
TC520K-1	WLAN: 802.11 a/b/g/n//ac/d/h/i/r/k/v3/w WPAN: Bluetooth v5.0 Low Energy	5.0 インチ 高解像度 (1280 x 720) LCD	4GB RAM/ 32GB Flash	2D イメージャ (SE-4710) およ び NFC 搭載	Android ベース、 AOSP 9 (中国のみ)

表記規則

本書では、次の表記規則を使用しています。

- 太字は、次の項目の強調に使用します。
 - ダイアログ ボックス名、ウィンドウ名、画面名
 - ドロップダウン リスト名、リスト ボックス名
 - チェック ボックス名、ラジオ ボタン名
 - 画面上のアイコン
 - キーボード上のキー名
 - 画面上のボタン名
- 中黒 (•) は、次を示します。
 - 実行する操作
 - 代替方法のリスト
 - 実行する必要があるが、順番どおりに実行しなくてもかまわない手順
- 順番どおりに実行する必要のある手順 (たとえば、順を追った手順) は、番号付きのリストで示されます。

サービスに関する情報

本機器に問題が発生した場合は、お客様の地域のお客様サポートにお問い合わせください。お問い合わせ先は、次のサイトに記載されています。www.zebra.com/support

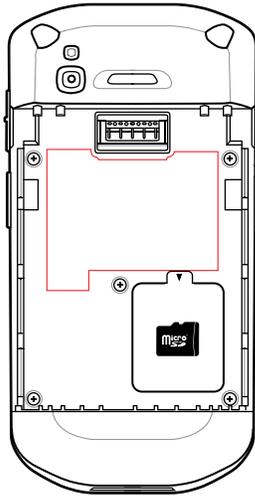
サポートへのお問い合わせの際は、以下の情報をご用意ください。

- 装置のシリアル番号 (製造ラベルに記載)
- モデル番号または製品名 (製造ラベルに記載)
- ソフトウェアのタイプとバージョン番号

カスタマーサポートは、お客様のお問い合わせに対して、サポート合意書に指定された期限までに、電子メール、または電話で回答します。

カスタマーサポートが問題を解決できない場合、修理のため機器をご返送いただくことがあります。その際に詳しい手順をご案内します。弊社は、承認済みの梱包箱を使用せずに発生した搬送時の損傷について、その責任を負わないものとします。装置を不適切に移動すると、保証が無効になる場合があります。修理のために発送する際には、事前に microSD カードをデバイスから取り外してください。

ご使用の製品をビジネス パートナーから購入された場合、サポートについては購入先のビジネス パートナーにお問い合わせください。



ソフトウェア バージョン

現在のソフトウェア バージョンを確認するには、次の手順に従います。

1. ステータス バーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
2. **[About phone]** (電話機情報) をタッチします。
3. スクロールして、次の情報を表示します。
 - モデル
 - Android バージョン
 - Android セキュリティ パッチ バージョン
 - カーネル バージョン
 - ビルド番号

デバイスのシリアル番号を確認するには、**[About phone]** (電話機情報) > **[Status]** (ステータス) をタッチします。

- シリアル番号

ご使用前に

はじめに

この章では、デバイスを初めて使用する際の手順について説明します。

パッケージの開梱

1. デバイスを覆っている保護材を慎重にすべて取り外し、後で保管や搬送に使えるように、梱包箱を保管しておきます。
2. 次のものが含まれていることを確認します。
 - タッチ コンピュータ
 - バッテリ >15.48 ワット時 (一般) / >4,150 mAh PowerPrecision+ リチウム イオン バッテリ
 - 規制ガイド
3. 機器に破損がないか確認してください。不足または破損している機器がある場合、ただちにグローバル カスタマー サポート センターにお問い合わせください。
4. デバイスを初めて使用する前に、スキャン ウィンドウ、ディスプレイ、カメラ ウィンドウを覆っている搬送保護フィルムをはがしてください。

機能

図 1 正面図

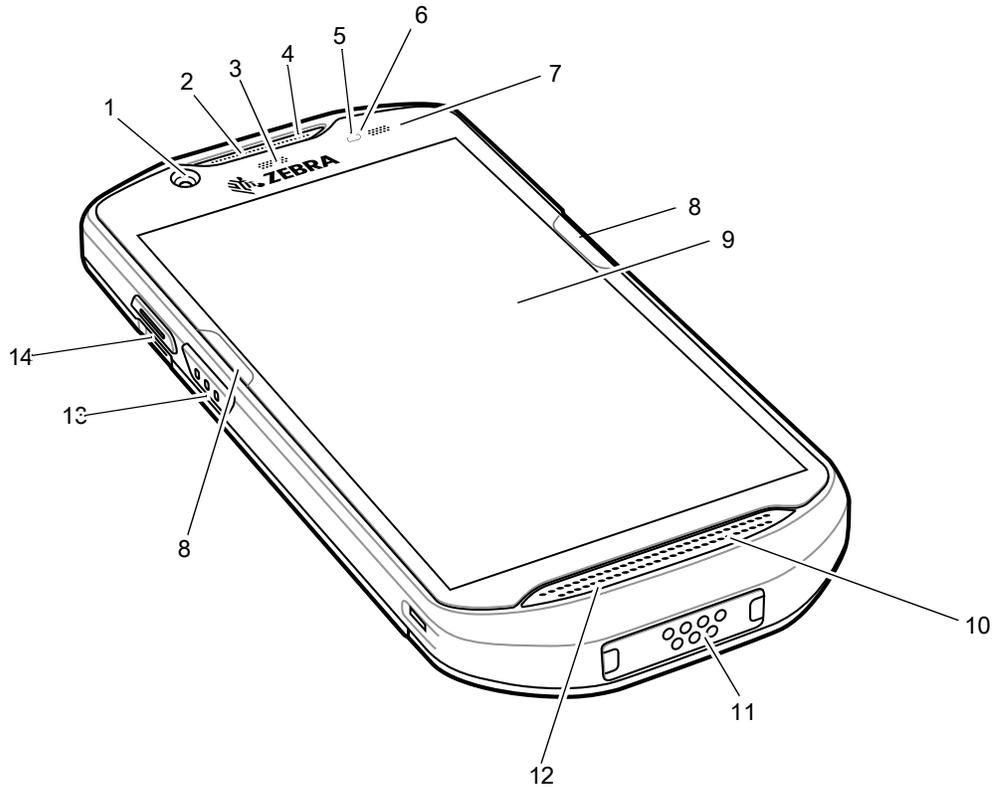


表 2 正面図の機能

番号	項目	機能
1	前面カメラ	写真やビデオを撮影します。
2	レシーバ	ハンドセット モードでのオーディオ再生に使用します。
3	データ収集 LED	データ収集ステータスを示します。
4	マイク	スピーカフォン モードでの通信に使用します。
5	近接センサー	ハンドセット モードでディスプレイをオフにする場合の近接状態を判別します。
6	光センサー	ディスプレイ バックライトの輝度をコントロールするために、周辺光を判別します。
7	充電/通知 LED	充電中のバッテリー充電状態とアプリケーションから生成された通知を示します。
8	ActiveEdge タッチ ゾーン	ディスプレイの周辺に配置されたプログラミング可能なダイナミック ソフト キー (頻繁に使用するアプリケーションや機能にアクセスできるワンタッチ アクセス対応)。
9	タッチ スクリーン	デバイスの操作に必要なすべての情報が表示されます。
10	スピーカ	ビデオや音楽の再生音を出力します。スピーカフォン モードで音声を出力します。

表 2 正面図の機能 (続き)

番号	項目	機能
11	インタフェース コネクタ	ホストとクライアントの USB 通信、ケーブルやアクセサリを使用したオーディオおよびデバイスの充電に使用します。 注意: 適切なデバイスシーリングを確保するために、インタフェース コネクタを取り外さないでください。
12	マイク	ハンドセット モードでの通信に使用します。
13	スキャン ボタン	データの収集を開始します (プログラム可能)。
14	PTT ボタン	プッシュトゥトーク通信を開始します (プログラム可能)。

図 2 背面図

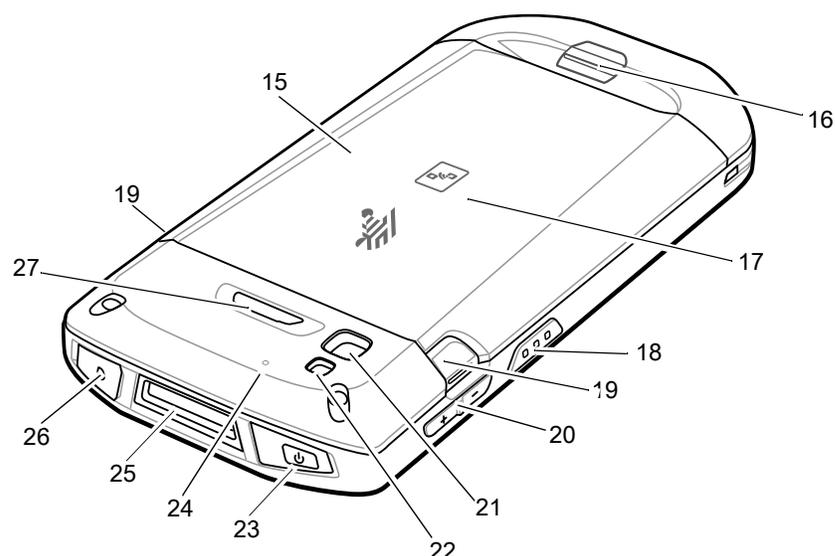


表 3 背面図の機能

番号	項目	機能
15	バッテリー	>15.48 ワット時 (一般) / >4,150 mAh PowerPrecision+ リチウムイオンバッテリー
16	ベーシック ハンドストラップ マウント	ベーシック ハンドストラップ アクセサリ用の取り付けポイントになります。
17	NFC アンテナ	他の NFC 対応デバイスとの通信を提供します。
18	スキャン ボタン	データの収集を開始します (プログラム可能)。
19	バッテリー リリース ラッチ	押して、バッテリーを取り外します。
20	音量上/下ボタン	オーディオの音量を上げ下げします (プログラム可能)。
21	背面カメラ	写真やビデオを撮影します。
22	カメラ フラッシュ	カメラの照明として使用します。
23	電源ボタン	ディスプレイをオン/オフにします。ボタンを長押ししてリセット、電源オフまたはバッテリー交換します。
24	マイク	雑音消去機能に使用します。

表 3 背面図の機能 (続き)

番号	項目	機能
25	出力ウインドウ	イメージャを使用したデータ収集に使用します。
26	ヘッドセットジャック	ヘッドセットへの音声の出力に使用します。
27	プログラム可能ボタン	プログラム設定できます。

デバイスのセットアップ

デバイスを初めて使用する際には、次のことを行います。

1. micro Secure Digital (SD) カードを取り付けます (オプション)。
2. ハンドストラップを取り付けます (オプション)。
3. バッテリを取り付けます。
4. デバイスを充電します。
5. デバイスの電源をオンにします。

microSD カードの取り付け

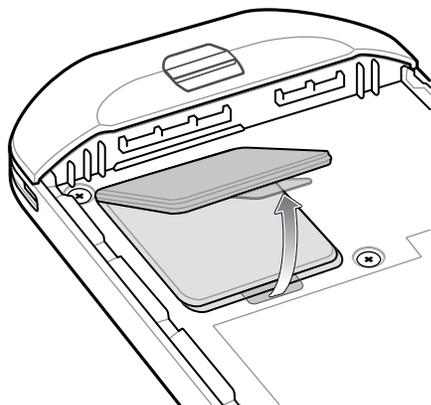
microSD カード スロットを不揮発性のセカンダリ ストレージとして使用できます。スロットはバッテリー パックの下にあります。カードに添付されているマニュアルで詳細を確認し、メーカー推奨の使用方法に従ってください。



注意: microSD カードを損傷しないように、静電気放電 (ESD) に関する注意事項に従ってください。ESD に関する注意事項には、ESD マット上での作業や、作業する場合の適切な接地などが記載されています。

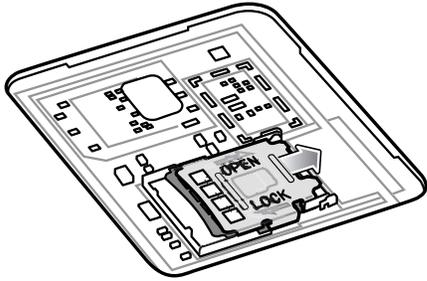
1. アクセス ドアを持ち上げます。

図 3 アクセス ドアの持ち上げ



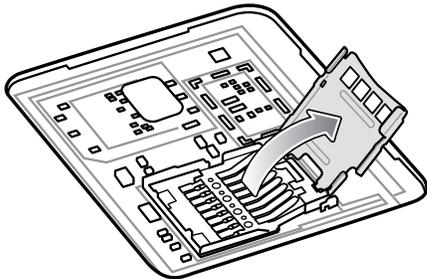
2. microSD カード ホルダをスライドさせてロックを解除します。

図4 microSD カードホルダのロック解除



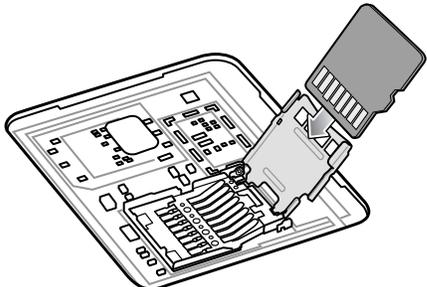
3. microSD カードホルダを持ち上げます。

図5 microSD カードホルダの持ち上げ



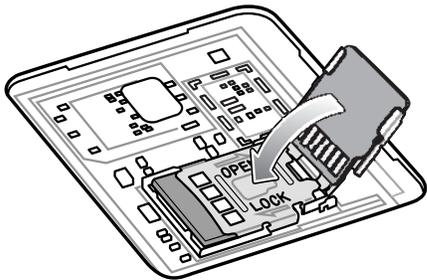
4. microSD カードをカードホルダドアに挿入して、ドアの両端にある固定タブ内部にスライドさせて挿入します。

図6 microSD カードをホルダに挿入する



5. microSD カードホルダを閉じ、スライドさせてロックします。

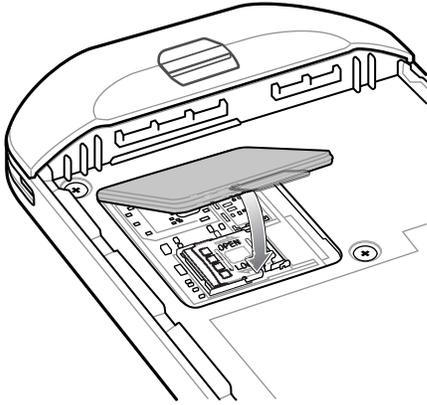
図7 アクセスドアを再度取り付ける



注意: 適切なデバイスの密閉状態を確保するために、アクセスドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

1. アクセスドアを元に戻します。

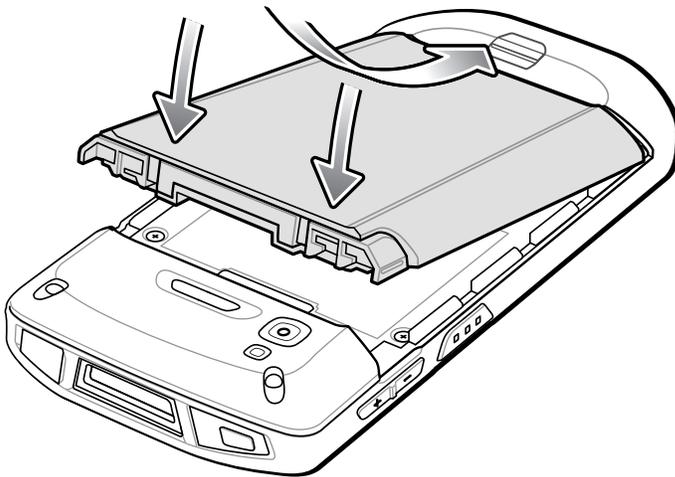
図 8 アクセスドアを元に戻す



バッテリーの取り付け

1. デバイスの背面のバッテリー収納部に、バッテリーを取り付けます。この場合、バッテリーの下側を先に入れます。

図 9 バッテリーの下側をバッテリー収納部に挿入



2. バッテリーリリースラッチが所定の位置に収まるまで、バッテリーをバッテリー収納部に押し下げます。

バッテリーの充電

デバイスを初めて使用する場合、まずバッテリー充電/通知 LED が緑色に点灯するまで、メイン バッテリーを充電します。デバイスを充電するには、ケーブルまたはクレードルを使って適切な電源に接続してください。デバイスで使用可能なアクセサリの詳細については、「[アクセサリ](#)」を参照してください。

バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



注: 多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリーのみを使用してください。デバイスをスリープモードにして、室温でバッテリーを充電します。

バッテリーの充電は、5 ~ 40°C (~ 104°F) の温度で行います。デバイスやアクセサリのバッテリー充電は、常に安全かつ適切に行われます。高温時 (約 37°C 以上 (98°F 以上) など) には、デバイスまたはアクセサリは、バッテリーの充電を有効と無効に交互に短時間で切り替えて、バッテリーを許容温度に保つ場合があります。デバイスやアクセサリで異常な温度のため充電を中止した場合には、LED が点灯するとともにディスプレイに通知が表示されます。

メイン バッテリーを充電するには、次の手順に従います。

1. 充電アクセサリを適切な電源に接続します。
2. デバイスをクレードルにセットするか、ケーブルを接続します。デバイスの電源がオンになり、充電が開始されます。充電中は、充電/通知 LED が黄色で点滅し、充電が完了すると緑色の点灯に変わります。

充電インジケータ

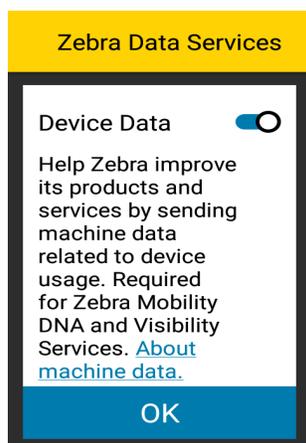
表 4 充電 / 通知 LED 充電インジケータ

状態	LED	意味
消灯		デバイスは充電されていません。デバイスが正しくクレードルにセットされていないか、電源に接続されていません。充電器/クレードルに電源が供給されていません。
黄色でゆっくり点滅 (4 秒に 1 回点滅)		デバイスは充電中です。
赤色でゆっくり点滅 (4 秒に 1 回点滅)		デバイスは充電中ですが、バッテリーの寿命が近づいています。
緑色の点灯		充電が完了しました。
赤色で点灯		充電を完了しましたが、バッテリーの寿命が近づいています。
黄色で速く点滅 (1 秒に 2 回点滅)		充電エラーです。次のような場合にこの状態になります。 <ul style="list-style-type: none"> • 温度が低すぎる、または高すぎる。 • 充電完了までの時間が長すぎる (通常は 8 時間)。
赤色で速く点滅 (1 秒に 2 回点滅)		充電エラーですが、バッテリーの寿命が近づいています。次のような場合にこの状態になります。 <ul style="list-style-type: none"> • 温度が低すぎる、または高すぎる。 • 充電完了までの時間が長すぎる (通常は 8 時間)。

Zebra 可視化サービス

デバイスは、デバイス分析情報を収集してシステム管理者に提供します。初めてデバイスが起動したとき (または工場出荷時リセット後)、Zebra Services (Zebra サービス) 契約画面が表示されます。

図 10 Zebra Services (Zebra サービス)



[Device Data] (デバイス データ) スイッチをタッチすると、デバイスの分析データ送信が無効になります。

バッテリーの交換



注: 特にバッテリー受けに対して、ユーザーによるデバイスの改変 (ラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなど) を加えると、デバイスやアクセサリの意図された性能が損なわれる可能性があります。シーリング (保護等級 (IP))、衝撃性能 (落下および転倒)、機能、耐熱性などの性能レベルが影響を受けることがあります。バッテリー受けにラベル、資産タグ、刻印、ステッカーなどを付けないでください。



注意: バッテリーの交換中は、microSD カードの挿入や取り出しを行わないでください。

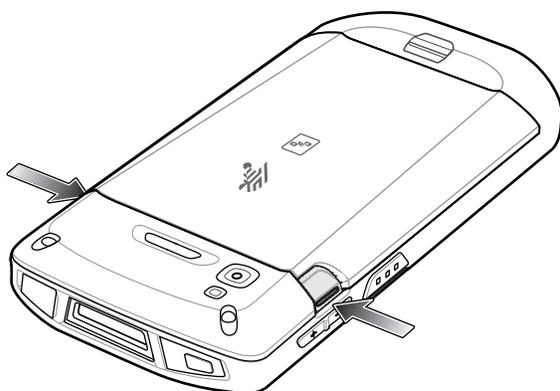
1. メニューが表示されるまで、電源ボタンを押し続けます。
2. **[Battery Swap] (バッテリー交換)** をタッチします。
3. 画面に表示される指示に従います。



警告: 赤色の LED が完全に消灯するまで、バッテリーを取り外さないでください。データが失われる可能性があります。

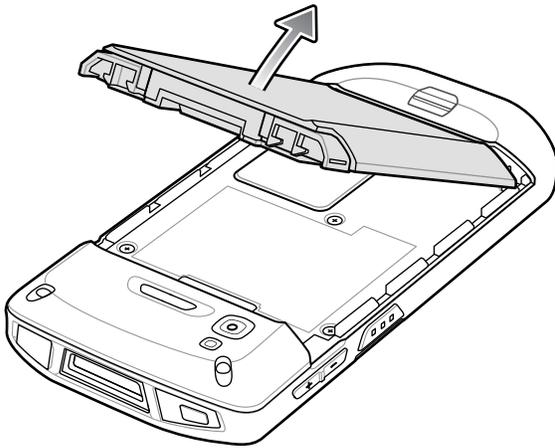
1. 赤色の LED が完全に消灯するのを待ちます。
2. ハンドストラップが取り付けられている場合、ハンドストラップを外します。
3. 2つのバッテリー ラッチを押し入れます。

図 11 バッテリー ラッチを押す



4. バッテリーをデバイスから取り出します。

図 12 バッテリーの取り出し



注意: 75 秒以内にバッテリーを交換します。75 秒経過するとデバイスが再起動し、データが失われる可能性があります。

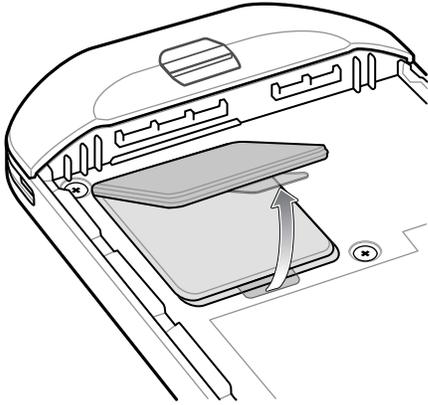
1. デバイスの背面のバッテリー コンパートメントに、交換用のバッテリーを取り付けます。この場合、バッテリーの下側を先に入れます。
2. バッテリー リリース ラッチが固定されるまで、バッテリーを押し下げます。
3. 必要に応じて、ハンドストラップを元に戻します。
4. 電源ボタンを押して、デバイスの電源をオンにします。

microSD カードの交換

microSD カードを交換するには、次の手順に従います。

1. メニューが表示されるまで、電源ボタンを押し続けます。
2. **[Power off]** (電源オフ) をタッチします。
3. **[OK]** をタッチします。
4. ハンドストラップが取り付けられている場合、ハンドストラップクリップをデバイスの上にスライドさせ、持ち上げます。
5. 2つのバッテリーラッチを押し入れます。
6. バッテリーをデバイスから取り出します。
7. アクセスドアを持ち上げます。

図 13 アクセスドアの取り外し



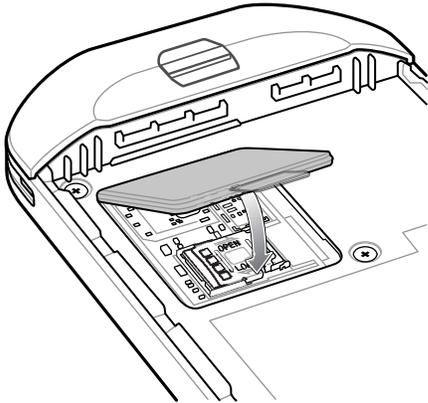
8. microSD カードをホルダから取り外します。
9. 交換用の microSD カードを取り付けます。



注意: 適切なデバイスの密閉状態を確保するために、アクセスドアは元の位置にしっかりと取り付ける必要があります。

1. アクセスドアを元に戻します。

図 14 アクセスドアを元に戻す



2. デバイスの背面のバッテリー収納部に、バッテリーを取り付けます。この場合、バッテリーの下側を先に入れます。
3. バッテリーリリースラッチが固定されるまで、バッテリーを押し下げます。
4. 必要に応じて、ハンドストラップを元に戻します。
5. 電源ボタンを長押しして、デバイスの電源をオンにします。

デバイスの使用方法

ホーム画面

ホーム画面は、デバイスをオンにすると表示されます。設定に応じて、ホーム画面に表示される内容は異なります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

サスペンドまたは画面タイムアウトの後、ホーム画面にはロック スライダーが表示されます。画面にタッチし、上にスライドさせてロックを解除します。

図 15 ホーム画面

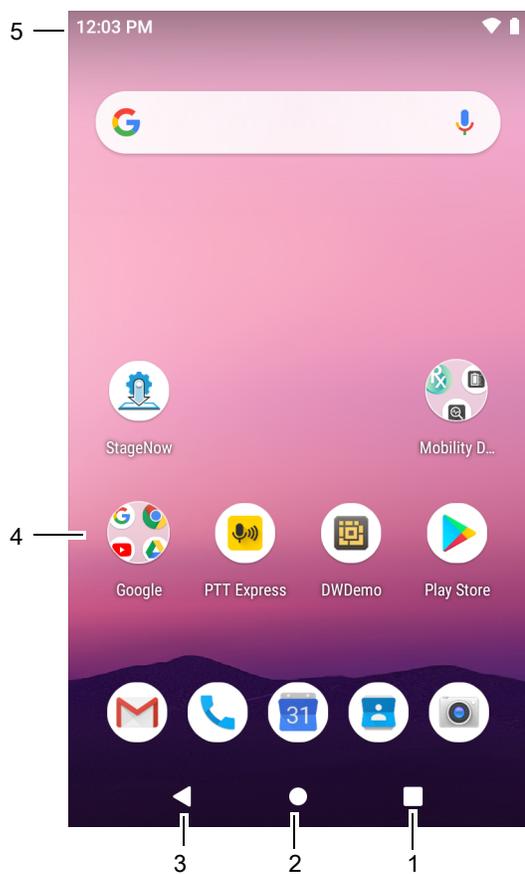


表 5 ホーム画面の項目

項目	説明
1 - 履歴ボタン	最近使用したアプリケーションを表示します。
2 - ホーム	ホーム画面を表示します。
3 - 戻る	前の画面を表示します。
4 - ショートカット アイコン	デバイスにインストールされているアプリケーションが開きます。
5 - ステータス バー	時間、ステータス アイコン (右側)、および通知アイコン (左側) が表示されます。詳細については、25 ページの「ステータス バー」および 27 ページの「通知の管理」を参照してください。

ホーム画面には、ウィジェットとショートカットを配置するための 4 つの追加画面があります。利用可能な場合、画面を左右にスワイプすると、追加画面が表示されます。追加画面はデフォルトでは見えません。

ホーム画面回転の設定

デフォルトでは、ホーム画面の回転は無効になっています。

ホーム画面の回転を有効にするには、次の手順に従います。

1. オプションが表示されるまで、ホーム画面を長押しします。
2. **[Home setting] (ホームの設定)** をタッチします。
3. **[Allow Home screen rotation] (ホーム画面の回転を許可する)** スイッチをタッチします。
4. ○ をタッチします。
5. デバイスを回転させます。

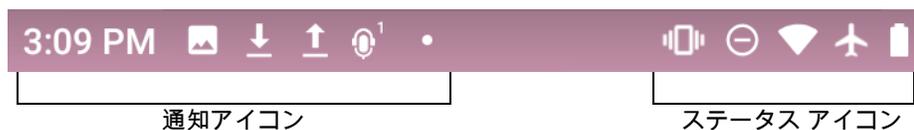
ステータス バー

ステータス バーには、時間、通知アイコン (左側)、およびステータス アイコン (右側) が表示されます。



注: 表示するアイコンが多すぎる場合、一部のステータス アイコンがステータス バーに表示されない場合があります。

図 16 通知アイコンおよびステータス アイコン



ステータス バーに表示可能な数より多くの通知がある場合、他にも通知があることを示す 1 個のドットが表示されます。ステータス バーから下にスワイプして通知パネルを開き、すべての通知とステータスを表示します。

ステータス アイコン

表 6 ステータス アイコン

アイコン	説明
	アラームがアクティブです。
	メイン バッテリーがフル充電されています。
	メイン バッテリーは一部が消耗された状態です。
	メイン バッテリーの残量が少なくなっています。
	メイン バッテリーの残量が非常に少なくなっています。
	メイン バッテリーは充電中です。
	メディアおよびアラーム以外のすべての音がミュートされています。振動モードが有効になっています。
	非通知モードが有効になっています。
	機内モードが有効になっています。すべての無線がオフになります。
	Bluetooth がオンになっています。
	デバイスが Bluetooth デバイスに接続しています。
	Wi-Fi ネットワークに接続されています。
	Wi-Fi ネットワークに接続されていないか、Wi-Fi 信号がありません。
	イーサネット ネットワークに接続されています。
	スピーカフォンがオンになっています。

通知アイコン

表 7 通知アイコン

アイコン	説明
	メイン バッテリーの残量が少なくなっています。
	表示されていない通知があります。
	データの同期中です。
	今後のイベントを示します。GMS 非搭載デバイスのみ。
	今後のイベントを示します。GMS 搭載デバイスのみ。

表 7 通知アイコン (続き)

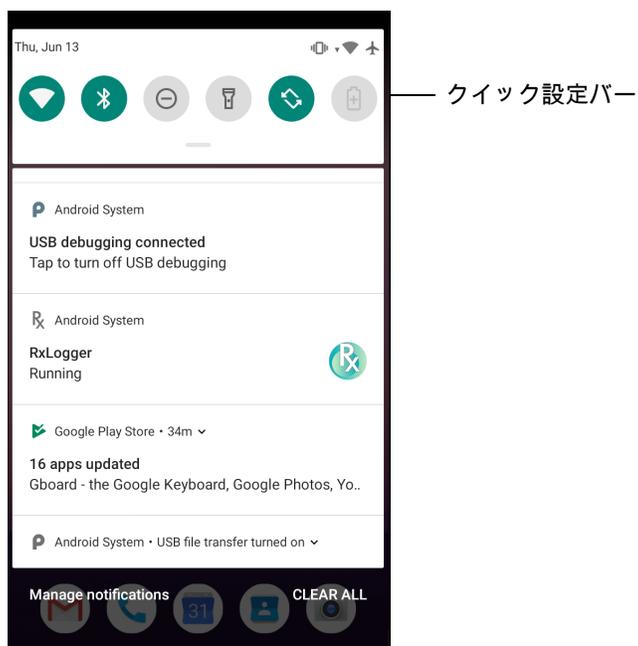
アイコン	説明
	オープン Wi-Fi ネットワークが利用できます。
	曲を再生中です。
	サインインまたは同期で問題が発生しました。
	デバイスはデータのアップロード中です。
	アイコンが動いている場合はデータのダウンロード中であることを、静止している場合はダウンロードが完了したことをそれぞれ示します。
	デバイスは USB ケーブルで接続されています。
	デバイスが VPN (仮想プライベート ネットワーク) 経由で接続しているか、または VPN が切断されました。
	内部ストレージのエラーをチェックして準備しています。
	デバイスで USB デバッグが有効になっています。
	ヘッドセットがデバイスに接続されています。
	PTT Express Voice クライアントのステータス。詳細なリストについては、PTT Express の「PTT 通知アイコン」を参照してください。
	RxLogger アプリが実行中であることを示します。
	Bluetooth スキャナがデバイスに接続されていることを示します。
	RS507/RS507X または RS6000 が HID モードでデバイスに接続されていることを示します。

通知の管理

通知アイコンは、新しいメッセージの到着、カレンダー イベント、アラーム、および進行中のイベントを報告します。通知が行われると、簡単な説明とともにアイコンがステータス バーに表示されます。表示される可能性のある通知アイコンとその説明のリストについては、「通知アイコン」を参照してください。すべての通知のリストを表示するには、通知パネルを開きます。

通知パネルを開くには、画面の上部からステータス バーを下にドラッグします。

図 17 通知パネル



通知に応答するには、通知パネルを開き、通知をタッチします。通知パネルが閉じ、対応するアプリが開きます。

最近の通知または頻繁に使用される通知を管理するには、[Notification] (通知) パネルを開いて、**[Manage notifications]** (通知の管理) をタッチします。アプリの横にある切り替えスイッチをタッチしてすべての通知をオフにするか、アプリをタッチしてその他の通知オプションを表示します。

すべての通知をクリアするには、通知パネルを開き、**[CLEAR ALL]** (すべて消去) をタッチします。イベントベースのすべての通知が削除されます。進行中の通知はそのままリストに残ります。

通知パネルを閉じるには、通知パネルを上にはスワイプします。

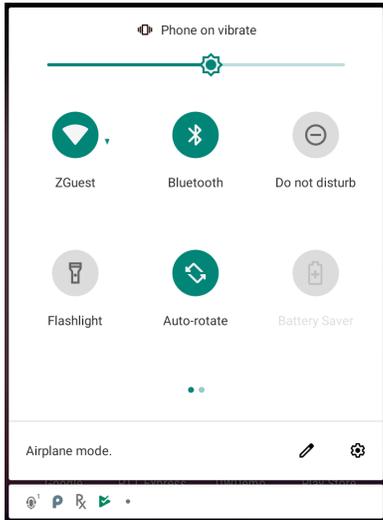
クイック アクセス パネル

クイック アクセス パネルを使用して、頻繁に使用する設定 (機内モードなど) にアクセスします。

クイック アクセス パネル全体を表示するには、次の手順に従います。

- デバイスがロックされている場合、1 回下にスワイプします。
- デバイスがロック解除されている場合、2 本の指で 1 回、または 1 本の指で 2 回下にスワイプします。
- [Notification] (通知) パネルが開いている場合は、クイック設定バーから下にスワイプします。

図 18 クイック アクセス パネル



注: 図に示されていないアイコンがあります。アイコンは異なる場合があります。

設定を変更するには、次のアイコンをタッチします。

- [Display brightness] (ディスプレイの明るさ) - スライダーを使用して、画面の明るさを増減します。
- [Wi-Fi] ネットワーク - Wi-Fi のオン/オフを切り替えます。Wi-Fi 設定を開くには、Wi-Fi ネットワーク名をタッチします。
- [Bluetooth] 設定 - Bluetooth のオン/オフを切り替えます。Bluetooth の設定を開くには、[Bluetooth] をタッチします。
- [Battery saver] (バッテリーセーバー) - バッテリーセーバーモードのオン/オフを切り替えます。バッテリーセーバーモードがオンになっている場合、バッテリー電力を節約するためにデバイスのパフォーマンスが低下します。
- [Invert colors] (色を反転) - 表示色を反転します。
- [Do not disturb] (非通知) - 通知を受信する方法とタイミングを制御します。
- [Airplane mode] (機内モード) - 機内モードのオン/オフを切り替えます。機内モードがオンの場合、デバイスは Wi-Fi または Bluetooth に接続しません。
- [Auto-rotate] (自動回転) - デバイスの向きを縦または横方向でロックするか、自動的に回転するように設定します。
- [Flashlight] (ライト) - ライトをオンまたはオフにします。カメラのフラッシュをオンまたはオフにします。
- [Night Light] (ナイトライト) - 照度の低い場所でも画面を見やすくするために、画面を暖色系の色合いに切り替えます。日没から夜明けまで、または他の時間帯に、自動的にオンになるように [Night Light] (ナイトライト) を設定します。
- [Cast] (キャスト) - Chromecast、または Google Cast が内蔵されたテレビで、電話のコンテンツを共有できます。キャスト画面にタッチしてデバイスのリストを表示し、デバイスにタッチしてキャストを開始します。

クイック設定のアイコンの編集

クイック アクセス パネルの最初の数個の設定タイルがクイック設定バーになります。クイック アクセス パネルを開き、✎ をタッチして設定タイルを編集、追加、または削除します。

バッテリー管理



注: バッテリー充電レベルを確認する前に、すべての AC 電源 (クレードルまたはケーブル) からデバイスを取り外します。

メイン バッテリーの充電状態を確認するには、**[Settings]** (設定) を開いて、**[About phone]** (電話機情報) > **[Battery Information]** (バッテリー情報) をタッチします。

または、画面の下から上にスワイプし、 にタッチして **[Battery Manager]** (バッテリー マネージャ) アプリを開きます。**[Advanced info]** (詳細情報) にタッチします。191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」を参照してください。

[Battery present status] (バッテリーの現在の状態) には、バッテリーが装着されているかが示され、**[Battery level]** (バッテリー レベル) にはバッテリー充電量 (フル充電と比較したパーセンテージ) が表示されます。バッテリーのパーセンテージは、クイック アクセス パネルのバッテリー アイコンの隣にも表示できません。ステータス バーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開きます。

バッテリー使用量の監視

[Battery] (バッテリー) 画面には、バッテリー充電の詳細情報が表示され、さらにバッテリーの寿命を延ばすための電源管理オプションが表示されます。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Battery]** (バッテリー) をタッチします。

特定のアプリに関してバッテリー情報と電源管理オプションを表示するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Apps & notifications]** (アプリと通知) をタッチします。
3. アプリをタッチします。
4. **[Advanced]** (詳細設定) > **[Battery]** (バッテリー) をタッチします。

アプリによって、表示される情報は異なります。一部のアプリには、設定画面を開くボタンが付いていて、電力消費を調整できるものもあります。**[DISABLE]** (無効にする) または **[FORCE CLOSE]** (強制停止) ボタンを使用して、電力を消費しすぎているアプリをオフにします。

低バッテリー通知

バッテリー充電残量が 18% 未満になると、デバイスを電源に接続するように指示する通知がデバイスに表示されます。ユーザーは、充電アクセサリのいずれかを使用してバッテリーを充電する必要があります。

バッテリー充電残量が 10% 未満になると、デバイスを電源に接続するように指示する通知がデバイスに表示されます。いずれかの充電アクセサリを使用してバッテリーを充電してください。

バッテリー充電残量が 4% 未満になると、デバイスの電源がオフになります。いずれかの充電アクセサリを使用してバッテリーを充電してください。

バッテリー最適化

バッテリーを節約するためのヒントを以下に示します。

- DataWedge 起動プログラムのプロファイルを無効にします。このデバイスについては、『Integrator Guide for Android 9.0.0 Pie』を参照してください。
- しばらく使用しなかった場合には画面がオフになるように設定します。
- 画面の明るさを抑えます。
- 無線を使用していないときには、すべての無線機能をオフにします。
- 電子メール、カレンダー、連絡先、および他のアプリの自動同期機能をオフにします。
- 音楽やビデオなどのアプリを使用するとデバイスがサスペンド状態にならないため、これらのアプリの使用は最小限に抑えてください。
- バッテリーセーバーモードを有効にします。ステータスバーから下にスワイプして、**[Battery saver]** (バッテリーセーバー) をタッチします。

インタラクティブなセンサーテクノロジー

このデバイスには、動き、向き、周囲光を監視するセンサーが含まれています。

- ジャイロスコープ - 角回転速度を測定して、デバイスの回転を検知します。
- 加速度計 - 動きの線形加速度を測定して、デバイスの向きを検知します。
- デジタルコンパス - デジタルコンパスまたは磁力計は、地球の磁場に対して単純な向きを示します。結果的に、デバイスは常にどの方向が北かを認識しているため、デバイスの物理的な向きに応じてデジタルマップを自動的に回転させることができます。
- 光センサー - 周辺光を検知し、画面の明るさを調整します。
- 近接センサー - 物理的な接触なしで、近くにあるオブジェクトの存在を検知します。

これらのセンサーを活用するために、アプリケーションは API コマンドを使用します。詳細については、Zebra Android EMDK を参照してください。

サスペンドモード

電源ボタンを押したときや、([Display settings] (ディスプレイの設定) ウィンドウで設定した) 一定の期間にわたって非アクティブな状態が続いた場合に、デバイスはサスペンドモードになります。

デバイスをサスペンドモードからウェイクアップするには、電源ボタンを押します。ロック画面が表示されます。画面を上から下にスワイプしてロックを解除します。[Pattern] (パターン) 画面のロック解除機能を有効にしている場合、ロック画面ではなくパターン画面が表示されます。[PIN] または [Password] (パスワード) 画面のロック解除機能を有効にしている場合、画面をロック解除した後に PIN またはパスワードを入力します。



注: 間違った PIN、パスワードまたはパターンを 5 回入力すると、再試行するまで 30 秒待たなければならなくなります。

PIN、パスワード、またはパターンを忘れてしまった場合、システム管理者に連絡してください。

ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する

デバイスとホスト コンピュータの間でファイルを転送するには、USB ケーブルまたは USB クレードルを使用してデバイスをホスト コンピュータに接続します。

デバイスをホスト コンピュータに接続する場合、ファイルの損傷や破損を防ぐため、ホスト コンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従います。

ファイルの転送



注：ファイル転送を使用して、デバイス（内部メモリまたは microSD カード）とホスト コンピュータ間でファイルをコピーします。

1. USB ケーブルをデバイスに接続するか、デバイスを USB クレードルに置きます。
2. 通知パネルを表示して、**[Charging this device via USB] (USB でこのデバイスを充電中)** をタッチします。
デフォルトでは、**[No data transfer] (データ転送なし)** が選択されています。
3. **[File Transfer] (ファイル転送)** をタッチします。



注：**[Transfer files] (ファイルの転送)** の設定を変更してから USB ケーブルを取り外すと、設定は **[No data transfer] (データ転送なし)** に戻ります。USB ケーブルを再接続した場合、**[File Transfer] (ファイル転送)** をもう一度選択します。

4. ホスト コンピュータ上で、ファイル エクスプローラ アプリケーションを開きます。
5. ポータブル デバイスとして表示されるデバイスを探します。
6. **SD カード**または**内部ストレージ フォルダ**を開きます。
7. 必要に応じて、デバイスとの間でファイルをコピーしたりファイルを削除したりします。

写真の転送

写真転送プロトコル (PTP) を使用して写真を転送するには、次の手順に従います。



注：PTP を使用して、microSD カードまたは内部メモリからホスト コンピュータに写真をコピーします。

1. USB ケーブルをデバイスに接続するか、デバイスを USB クレードルに置きます。セットアップ情報については、「[アクセサリ](#)」を参照してください。
2. 通知パネルを表示して、**[Charging this device via USB] (USB でこのデバイスを充電中)** をタッチします。
3. **[PTP]** をタッチします。
4. ホスト コンピュータ上で、ファイル エクスプローラ アプリケーションを開きます。
5. **SD カード**または**内部ストレージ フォルダ**を開きます。
6. 目的に応じて、写真をコピーまたは削除します。

ホスト コンピュータから切断する

デバイスをホスト コンピュータから切断するには、次の手順に従います。



注意: 情報がなくなってしまうよう、ホスト コンピュータの指示に慎重に従って、microSD カードをマウント解除し、USB デバイスの接続を正しく切断します。

1. ホスト コンピュータで、デバイスをマウント解除します。
2. USB をデバイスから取り外すか、デバイスをクレードルから取り外します。

設定

[Settings] (設定) へのアクセス

次のいずれかの方法で [Settings] (設定) にアクセスします。

- ホーム画面の一番上から 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
- ホーム画面の一番上から下にダブルスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
- ホーム画面の一番下から上にスワイプしてアプリを開き、 の [Settings] (設定) をタッチします。

ディスプレイの設定

ディスプレイの設定を使用して、画面の輝度の変更、ナイト ライトの有効化、背景画像の変更、画面の回転の有効化、スリープ時間の設定、およびフォント サイズの変更をします。

画面の輝度の設定

タッチスクリーンを使用して画面の輝度を手動で設定するには、次の手順に従います。

1. ステータス バーから 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開きます。
2. アイコンをスライドさせて画面の輝度レベルを調整します。

内蔵光センサーでデバイスが画面の明るさを自動的に調整できるようにするには、次の手順に従います。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Display] (ディスプレイ) をタッチします。
3. 無効になっている場合、[Adaptive brightness] (輝度の自動調整) をタッチして、輝度が自動的に調整されるようにします。
デフォルトでは、[Adaptive brightness] (輝度の自動調整) は有効になっています。無効にするには、スイッチを切り替えます。
4. をタッチします。

ナイト ライトの設定

[Night Light] (ナイト ライト) 設定を有効にすると、画面が暖色系の色合いになり、照度の低い場所でも画面が見やすくなります。

ナイト ライトを有効にするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Display]** (ディスプレイ) をタッチします。
3. **[Night Light]** (ナイト ライト) をタッチします。
4. **[Schedule]** (スケジュール) をタッチします。
5. スケジュール値を 1 つ選択します。
 - [None] (なし) (デフォルト)
 - [Turns on at custom time] (カスタムの時刻でオンにする)
 - [Turns on from sunset to sunrise] (日の出から日没までオンにする)
6. デフォルトでは、**[Night Light]** (ナイト ライト) は無効になっています。**[TURN ON NOW]** (今すぐオンにする) をタッチして有効にします。
7. **[Intensity]** (輝度) スライダーを使用して色合いを調整します。
8. をタッチします。

画面回転の設定

デフォルトでは、画面回転は有効になっています。

画面回転を無効にするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Display]** (ディスプレイ) > **[Advanced]** (詳細) の順にタッチします。
3. **[Auto-rotate screen]** (画面自動回転) をタッチします。



注: ホーム画面の回転を変更するには、「ホーム画面回転の設定」を参照してください。

4. をタッチします。

画面のタイムアウトの設定

画面のスリープ時間を設定するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Display]** (ディスプレイ) > **[Advanced]** (詳細) > **[Sleep]** (スリープ) の順にタッチします。

- スリープ値を 1 つ選択します。
 - [15 seconds] (15 秒)
 - [30 seconds] (30 秒)
 - [1 minute] (1 分) (デフォルト)
 - [2 minutes] (2 分)
 - [5 minutes] (5 分)
 - [10 minutes] (10 分)
 - [30 minutes] (30 分)
- をタッチします。

周辺光で調整されるディスプレイ

[Ambient display] (周辺光で調整されるディスプレイ) 設定では、通知を受信したときに画面が開きます。

この機能を無効にするには、次の手順に従います。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
- [Ambient display] (周辺光で調整されるディスプレイ) にタッチします。
- [When to Show] (表示するタイミング) セクションで、スイッチを使用してオプションを有効または無効にします。
- をタッチします。

フォント サイズの設定

システム アプリのフォント サイズを設定するには、次の手順に従います。

- [Settings] (設定) に移動します。
- [Display] (ディスプレイ) > [Advanced] (詳細) の順にタッチします。
- [Font size] (フォント サイズ) をタッチします。
- フォント サイズ値を 1 つ選択します。
 - [Small] (小)
 - [Default] (デフォルト)
 - [Large] (大)
 - [Largest] (最大)
- をタッチします。

タッチ パネル モード

デバイスは、指、導電性チップのスタイラス、または手袋をはめた指によるタッチを検出できます。



注: 医療用のラテックス、皮革、綿、または羊毛製の手袋を使用できます。最適なパフォーマンスを得るためには、Zebra 認定スタイラスをご使用ください。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Display] (ディスプレイ)** > **[Advanced] (詳細)** の順にタッチします。
3. **[Touch panel mode] (タッチ パネル モード)** をタッチします。
4. 以下の中から選択します。
 - a. **[Glove and Finger (Screen Protector off)] (手袋および指 (スクリーン保護シートなし))**: スクリーン保護シートが貼られていない画面で、指や手袋をはめた指を使用できます。
 - b. **[Stylus and Finger (Screen Protector off)] (スタイラスおよび指 (スクリーン保護シートなし))**: スクリーン保護シートが貼られていない画面で、指やスタイラスを使用できます。
 - c. **[Finger Only] (指のみ)**: 画面で指を使用できます。
 - d. **[Glove and Finger (Screen Protector on)] (手袋および指 (スクリーン保護シートあり))**: スクリーン保護シートが貼られた画面で、指や手袋をはめた指を使用できます。
 - e. **[Stylus and Finger (Screen Protector on)] (スタイラスおよび指 (スクリーン保護シートあり))**: スクリーン保護シートが貼られた画面で、指やスタイラスを使用できます。
5. **○** をタッチします。

日付と時刻の設定

無線 LAN でネットワーク タイム プロトコル (NTP) がサポートされていない場合は、タイムゾーンまたは日時の設定のみ必要です。

日時を設定するには、次の手順に従います。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[System] (システム)** > **[Date & time] (日付/時刻)** の順にタッチします。
3. **[Set date] (日付の設定)** をタッチします。
4. カレンダーで、今日の日付を設定します。
5. **[OK]** をタッチします。
6. **[Set time] (時間の設定)** をタッチします。
7. 緑色の丸いアイコンをタッチし、現在の時間までドラッグして放します。
8. 緑色の丸いアイコンをタッチし、現在の分までドラッグして放します。
9. **[AM] (午前)** または **[PM] (午後)** をタッチします。
10. **[OK]** をタッチします。
11. **[Use 24-hour format] (24 時間形式を使用)** をタッチします。
12. **○** をタッチします。

通知 LED の設定

充電/通知 LED は、電子メールや VoIP などのアプリケーションでプログラム可能な通知が生成された場合、またはデバイスが Bluetooth デバイスに接続されたことを示す場合に青色に点灯します。デフォルトでは、LED 通知は有効になっています。通知設定を変更するには、次を実行します。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Apps & notifications] (アプリと通知) > [Notifications] (通知)** の順にタッチします。
3. **[Blink light] (ライトを点滅)** をタッチして、通知をオンまたはオフに切り替えます。
4. **○** をタッチします。

一般的な音設定

[Sound] (音) 設定を使用して、メディアおよびアラームの音量を設定します。

音設定にアクセスするには、次の手順に従います。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Sound] (音)** をタッチします。
3. オプションにタッチして音を設定します。

サウンド オプション

- **Zebra の音量コントロール**
 - **[Ring volume] (着信音音量)** - 着信音の音量を制御します。
 - **[Media volume] (メディアの音量)** - 音楽、ゲーム、メディアの音量を制御します。
 - **[Alarm volume] (アラームの音量)** - アラーム時計の音量を制御します。
 - **[Notifications volume] (通知の音量)** - 通知の音量を制御します。
 - **[Scanner volume] (スキャナ音量)** - スキャナの音量を制御します。
 - **音量の事前設定**
 -  - 着信音、通知およびスキャナをミュートにします。デバイスは音も振動も出さなくなります。
 -  - メディアおよびアラーム以外のすべての音をミュートにします。振動モードは動作します。
 -  - ユーザーが指定したレベルですべてのサウンドが有効になります。
- **[Also vibrate for calls] (着信時に振動)** - オンまたはオフを切り替えます。
- **[Do Not Disturb preferences] (非通知設定)** - 音と振動の一部またはすべてをミュートします。
- **[Shortcut to prevent ringing] (着信音をオフにするショートカット)** - 着信音をオフにする場合のショートカット方法を選択します。
- **[Phone ringtone] (着信音)** - 電話が鳴るときの音を選択します。
- **[Default notification sound] (デフォルト通知音)** - すべてのシステム通知に対して再生される音を選択します。
- **[Default alarm sound] (デフォルトアラーム音)** - アラームの再生音を選択します。
- **その他の音と振動**
 - **[Dial pad tones] (ダイヤルパッド操作音)** - ダイヤルパッドのキーを押したときに音が鳴ります (デフォルト - 無効)。
 - **[Screen locking sounds] (画面ロック音)** - 画面をロックまたはロック解除したときに音が鳴ります (デフォルト - 有効)。

- **[Advanced] (詳細)** - タッチすると、詳細なサウンド オプションが表示されます。
 - **[Charging sounds] (充電音)** - 使用できません。
 - **[Touch sounds] (タッチ操作音)** - 画面上で選択したときに音が鳴ります (デフォルト - 有効)。
 - **[Touch vibration] (タッチ時の振動)** - 画面上で選択したときに、デバイスが振動します (デフォルト - 無効)。
- **[Wireless Emergency alerts] (ワイヤレス緊急アラート)** - タッチして、緊急警報の設定および通知を設定します。

ウェイクアップ ソース

デフォルトでは、デバイスは、ユーザーが電源ボタンを押すとサスペンド モードからウェイクアップします。デバイスの左側にある PTT ボタンまたはスキャン ボタンを押した場合に復帰するようにデバイスを設定できます。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Wake-Up Sources] (ウェイクアップ ソース)** をタッチします。
3. 次のオプションを 1 つ以上タッチします。
 - **[SCAN] (スキャン)** チェックボックスにタッチして、左のスキャン ボタンを有効にします。チェックボックスに、チェックマークが表示されます。
 - **[RIGHT_TRIGGER_2]** チェックボックスをタッチして、右のスキャン ボタンを有効にします。チェックボックスに、チェックマークが表示されます。
 - **[LEFT_TRIGGER_2] (LEFT_TRIGGER_2)** チェックボックスをタッチして、PTT ボタンを有効にします。チェックボックスに、チェックマークが表示されます。
 - **[REAR_BUTTON] (REAR_BUTTON)** チェックボックスをタッチして、後側のプログラム可能ボタンを有効にします。チェックボックスに、チェックマークが表示されます。
4. をタッチします。

ボタンの再マッピング

デバイスのボタンは、インストール済みアプリケーションのさまざまな機能またはショートカットを実行するようにプログラムできます。



注: スキャン ボタンの再マッピングはお勧めしません。

- LEFT_TRIGGER_2 (PTT ボタン)
- REAR_BUTTON (後部プログラム可能ボタン)
- RIGHT_TRIGGER_1 (右スキャン ボタン)
- SCAN (左スキャン ボタン)
- VOLUMEDOWN (音量下ボタン)
- VOLUMEUP (音量上ボタン)

ボタンの再マッピング



注: スキャン ボタンの再マッピングはお勧めしません。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Key Programmer]** (キー プログラマ) をタッチします。プログラム可能ボタンのリストが表示されます。
3. 再マッピングするボタンを選択します。
4. **[BUTTON REMAPPING]** (ボタンの再マッピング) タブまたは **[SHORTCUT]** (ショートカット) タブをタッチします。これで、使用可能な機能とアプリケーションがリストされます。
5. 機能またはアプリケーションのショートカットをタッチして、ボタンにマッピングします。



注: アプリケーションのショートカットを選択すると、**[Key Programmer]** (キー プログラマ) 画面で、ボタンの横にアプリケーション アイコンが表示されます。

6. ○ をタッチします。

キーボード

このデバイスでは、次の種類のキーボードを使用できます。

- Android キーボード - GMS 非搭載デバイスのみ
- [Gboard] - GMS デバイスのみ
- エンタープライズ キーボード



注: デフォルトでは、エンタープライズ キーボードおよび仮想キーボードは無効になっています。

キーボードの設定

キーボードを有効にする

キーボードを有効にするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[System]** (システム) > **[Languages & input]** (言語と入力) > **[Virtual keyboard]** (仮想キーボード) > **[Manage keyboards]** (キーボードを管理) の順にタッチします。
3. 有効にするキーボードにタッチします。

キーボードの切り替え

キーボードを切り替えるには、テキスト ボックスをタッチして現在のキーボードを表示します。

- Android キーボードまたは Gboard キーボードで、 を長押しします。
- エンタープライズ キーボードでは、 にタッチします。

テキストの編集

入力したテキストを編集して、メニュー コマンドを使用し、アプリ内または複数のアプリ間でテキストの切り取り、コピー、および貼り付けを行います。アプリの中には、表示しているテキストの一部またはすべての編集をサポートしていないものや、テキストの選択に独自の方法を使用するものもあります。

数字、記号、および特殊文字の入力

数字および記号を入力するには、次の手順に従います。

- メニューが表示されるまで最上部の行にあるキーの 1 つを長押ししてから、数字または特殊文字を選択します。
- Shift キーを 1 回タッチすると、大文字を 1 回入力できます。Shift キーを 2 回タッチすると、大文字がロックされます。もう一度 Shift キーをタッチすると、Capslock のロックが解除されます。
- [123] にタッチすると、数字と記号のキーボードに切り替わります。
- 数字と記号のキーボードで [=<] キーにタッチすると、別の記号が表示されます。

特殊文字を入力するには、他の記号のメニューが開くまで数字または記号のキーを長押しします。キーボードの上に、より大きいバージョンのキーが短時間表示されます。

エンタープライズ キーボードの使用法

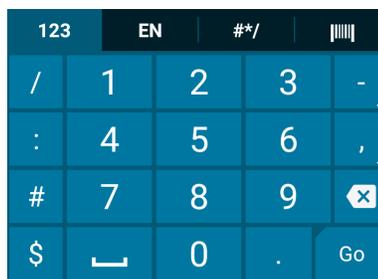
エンタープライズ キーボードには、次のキーボードが含まれています。

- 数字
- 英字
- 特殊文字
- データ収集

数字タブ

数字キーボードにアクセスするには、[123] タブをタッチします。表示されるキーは、使用しているアプリによって異なります。たとえば、[Contacts] (連絡先) には矢印が表示されますが、[Email] (電子メール) アカウント設定には [Done] (完了) が表示されます。

図 19 数字キーボード



英字タブ

英字キーボードにアクセスするには、[EN] タブをタッチします。

図 20 英字キーボード



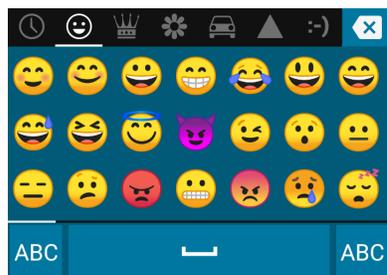
追加文字タブ

追加の文字にアクセスするには、[#*/] タブをタッチします。

図 21 記号キーボード

テキストメッセージに絵文字のアイコンを入力するには、☺ をタッチします。

図 22 絵文字キーボード



[ABC] をタッチすると、記号のキーボードに戻ります。

スキャン タブ

[スキャン] タブには、バーコードをスキャンするための簡単なデータ収集機能があります。

図 23 スキャン キーボード



キーボードの設定

キーボードを有効にする

キーボードを有効にするには、次の手順に従います。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Languages & input] (言語と入力) > [Virtual keyboard] (仮想キーボード) > [Manage keyboards] (キーボードを管理) の順にタッチします。
3. 有効にするキーボードにタッチします。

言語の使用

[Language & input] (言語と入力) 設定を使用して、辞書に追加される単語など、デバイスの言語を変更します。

言語設定の変更

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Language & input] (言語と入力) をタッチします。
3. [Languages] (言語) をタッチします。使用可能な言語のリストが表示されます。
4. 目的の言語がリストにない場合は、[Add a language] (言語を追加) をタッチして、リストから言語を選択します。
5. 目的の言語の右側にある  を長押しして、リストの上部にドラッグします。
6. オペレーティング システムのテキストが選択した言語に変わります。

辞書に単語を追加する

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [System] (システム) > [Language & input] (言語と入力) > [Advanced] (詳細設定) > [Personal dictionary] (個人辞書) をタッチします。
3. プロンプトが表示されたら、その単語または語句を保存する言語を選択します。
4. + をタッチして、新しい単語または語句を辞書に追加します。
5. 単語または語句を入力します。
6. [Shortcut] (ショートカット) テキスト ボックスに、単語またはフレーズのショートカットを入力します。
7.  をタッチします。

キーボードの設定

[Language & input] (言語と入力) 設定を使用して、画面キーボードを構成します。このデバイスには、次のキーボード設定があります。

- Android キーボード - AOSP デバイスのみ
- エンタープライズ キーボード
- Gboard - GMS デバイスのみ

アプリケーション

[APPS] (アプリ) 画面には、インストールされているすべてのアプリのアイコンが表示されます。次の表は、デバイスにインストールされているアプリのリストです。アプリのインストールとアンインストールの詳細については、「アプリケーションの導入」を参照してください。標準的な Android アプリの詳細については、support.google.com にアクセスしてください。

表 8 アプリ

アイコン	説明
	[ActiveEdge Touch Zone] (ActiveEdge タッチゾーン) - ユーザーが他のワークフロー アプリケーションまたはタスクの使用中に、主な機能またはアプリケーションやアプリケーションにすばやく簡単にワンタッチでアクセスできるようにします。
	[Battery Manager] (バッテリー マネージャ) - 充電レベル、ステータス、健全性、消耗レベルなどのバッテリー情報を表示します。
	[Battery Swap] (バッテリー交換) - バッテリーの交換時、デバイスをバッテリー交換モードにするために使用します。
	[Bluetooth Pairing Utility] (Bluetooth ペアリング ユーティリティ) - バーコードをスキャンしてデバイスと RS507 ハンズフリー イメージャをペアリングするために使用します。
	[Calculator] (電卓) - 基本演算機能および科学演算機能を備えています。
	[Calendar] (カレンダー) - イベントおよび予定を管理するために使用します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Calendar] (カレンダー) - イベントおよび予定を管理するために使用します。AOSP のみ。
	[Camera] (カメラ) - 写真を撮ったり、ビデオを録画したりします。詳細については、「カメラ」を参照してください。
	[Chrome] - インターネットまたはイントラネットにアクセスするために使用します。GMS/GMS 制限のみ。

表 8 アプリ (続き)

アイコン	説明
	[Chromium] - インターネットまたはイントラネットにアクセスするために使用します。AOSPのみ。
	[Clock] (時計) - 予定にアラームを利用したり、目覚ましとして使用したりします。
	[Contacts] (連絡先) - 連絡先の情報を管理するために使用します。詳細については、「連絡先」を参照してください。
	[DataWedge] - イメージャを使用したデータ収集を有効にします。
	[Device Central] - デバイスおよび接続された周辺機器に関して詳細情報を表示します。詳細については、「Device Central」を参照してください。
	[Diagnostic Tool] (診断ツール) - デバイスの診断に使用します。
	[Drive] (ドライブ) - 写真、ビデオ、ドキュメント、およびその他のファイルを個人用ストレージサイトにアップロードします。GMS/GMS 制限のみ。
	[DWDemo] - イメージャを使用したデータ収集機能のデモンストレーションを行うことができます。詳細については、「DataWedge デモンストレーション」を参照してください。
	[Email] (電子メール) - 電子メールを送受信するために使用します。AOSPのみ。
	[Files] (ファイル) - デバイス上のファイルを整理および管理します。詳細については、「ファイル」を参照してください。
	[Gallery] (ギャラリー) - microSD カードに保存されている写真を表示するために使用します。詳細については、「ギャラリー」を参照してください。AOSPのみ。
	[Gmail] - Google 電子メール アカウントを使用して電子メールを送受信するために使用します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Google] - Google™ 検索アプリを起動します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Keep] (保持) - メモを作成、編集、共有するために使用します。GMS/GMS 制限のみ。

アプリケーション

表 8 アプリ (続き)

アイコン	説明
	[License Manager] (ライセンス マネージャ) - デバイスのソフトウェア ライセンスを管理するために使用します。
	[Maps] (マップ) - 地図上で自分がいる場所を表示するために使用します (公共交通機関、交通状況、または航空写真の情報が表示されます)。目的の会社や場所を検索します。車、自転車、徒歩、公共の交通機関で移動するユーザーのために、音声ガイド付きのナビゲーションを提供し、渋滞回避情報や迂回ルートも表示します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Measure] (測定) - オブジェクトの長さや高さを測定するために使用します。
	[Music] (音楽) - microSD カードに保存されている音楽を再生します。AOSP のみ。
	[Music] (音楽) - microSD カードまたは内部ストレージに保存されている音楽を再生します。AOSP のみ。
	[Phone] (電話機) - 一部の Voice Over IP (VoIP) クライアント (VoIP テレフォニー対応専用) との使用時に、電話番号をダイヤルするために使用します。
	[Photos] (フォト) - 写真を Google アカウントと同期するために使用します。詳細については、「写真設定」を参照してください。GMS/GMS 制限のみ。
	[Play Movies & TV] (Play ムービー & TV) - デバイスでムービーとビデオを表示します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Play Music] (Play ミュージック) - 音楽を聴くために使用します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Play Store] (Play ストア) - 音楽、映画、書籍、Android アプリ、ゲームを Google Play ストアからダウンロードします。GMS/GMS 制限のみ。
	[PTT Express] - VoIP 通信用の PTT Express クライアントの起動に使用します。
	[RxLogger] - デバイスおよびアプリに関する問題を診断するために使用します。
	[Search] (検索) - Web の検索に使用します。インターネット接続が必要です。AOSP のみ。
	[Settings] (設定) - デバイスを設定するために使用します。

表 8 アプリ (続き)

アイコン	説明
	[SimulScan Demo] (SimulScan デモ) - デバイスの文書収集機能をデモンストレーションする際に使用します。
	[Sound Recorder] (サウンドレコーダ) - 音声を録音するために使用します。
	[StageNow] - 設定、ファームウェア、およびソフトウェアの導入を開始することで、このデバイスが任意のデバイスを初期使用に向けてステージングできるようにします。
	[Videos] (ビデオ) - デバイスでのビデオの表示に使用します。AOSP のみ。
	[Worry Free Wifi Analyzer] - 診断用インテリジェント アプリ。周辺領域を診断し、受信範囲の穴の検出や付近のアクセスポイントなど、ネットワークに関する統計情報を表示します。『Worry Free Wi-Fi Analyzer Administrator Guide for Android』を参照してください。
	[YouTube] - YouTube™ Web サイトでビデオを見るために使用します。GMS/GMS 制限のみ。
	[Zebra Bluetooth] - Bluetooth ログिंगの設定に使用します。

アプリへのアクセス

デバイスにインストールされたすべてのアプリには、[APPS] (アプリ) ウィンドウを使用してアクセスできます。

1. ホーム画面で、画面の一番下から上にスワイプします。
2. [APPS] (アプリ) ウィンドウを上または下にスライドすると、その他のアプリアイコンが表示されます。
3. アプリを開くには、アイコンをタッチします。

最近使用したアプリの切り替え

最近使用したアプリを切り替えるには、次の手順に従います。

1. □ をタッチします。最近使用したアプリのアイコンが表示されたウィンドウが画面に表示されます。
2. 表示されているアプリを上下にスライドすると、最近使用したすべてのアプリを表示できます。
3. 左か右にスワイプすると、リストからアプリを削除して、そのアプリを強制的に終了します。
4. アイコンをタッチするとアプリが開きます。または、◀ をタッチすると現在の画面に戻ります。

ActiveEdge タッチ ゾーン

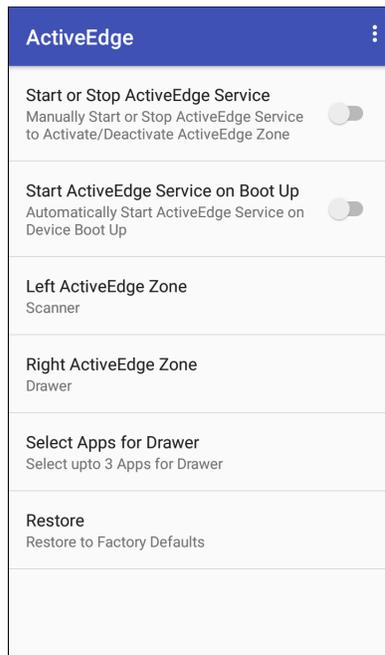
ActiveEdge タッチ ゾーン アプリは、別のアプリを使用している際によく使用する機能やアプリにワンタッチですばやく簡単にアクセスできるよう設定を変更できるアプリです。



注: ActiveEdge タッチ ゾーンは、ディスプレイが [Portrait] (縦向き) モードに設定されているときのみ使用できます。

ActiveEdge の設定

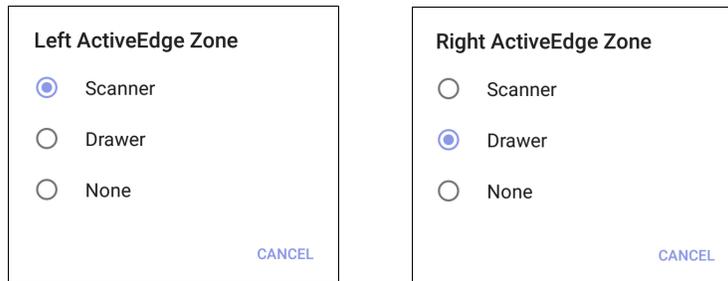
図 24 ActiveEdge アプリの設定



ActiveEdge を設定するには、ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。

- **[Start or Stop ActiveEdge Service] (ActiveEdge サービスの開始または停止)** - タッチして、ActiveEdge サービスを開始または停止し、ActiveEdge ゾーンを有効または無効にします。
- **[Start ActiveEdge Service on Boot Up] (起動時に ActiveEdge サービスを開始)** - デバイスの起動時に ActiveEdge サービスを自動的に開始します。サービスは常に実行されているため、いつでも使用できます。
- **[Left ActiveEdge Zone] (左 ActiveEdge ゾーン)** - 左の ActiveEdge ゾーンを **[Scanner]** (スキャナ)、**[Drawer]** (ドロフ)、または **[None]** (なし) に設定します。
- **[Right ActiveEdge Zone] (右 ActiveEdge ゾーン)** - 右の ActiveEdge ゾーンを **[Scanner]** (スキャナ)、**[Drawer]** (ドロフ)、または **[None]** (なし) に設定します。

図 25 左右の ActiveEdge ゾーン



- **[Select Apps for Drawer] (ドロワのアプリを選択)** - ドロワに表示するアプリを最大 3 個選択します。
49 ページの「ドロワのアプリの選択」を参照してください。
- **[Restore] (復元)** - 設定を工場出荷時のデフォルトに戻します。
- **[About ActiveEdge] (ActiveEdge のバージョン情報)** - **[About ActiveEdge] (ActiveEdge のバージョン情報)** ウィンドウを開いてバージョン番号を表示します。☰>**[About] (バージョン情報)** の順に選択します。

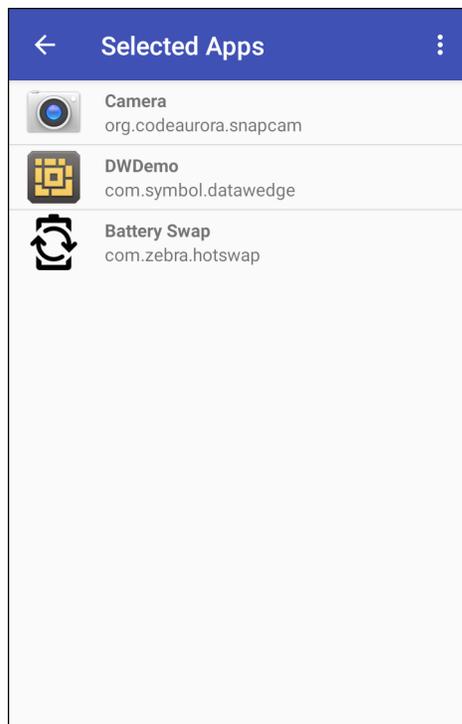
ドロワのアプリの選択

[Left ActiveEdge Zone] (左 ActiveEdge ゾーン) または **[Right ActiveEdge Zone] (右 ActiveEdge ゾーン)** が **[Drawer] (ドロワ)** に設定されている場合、ドロワに表示するアプリを最大 3 個選択します。

ドロワに表示するアプリを選択するには、次の手順に従います。

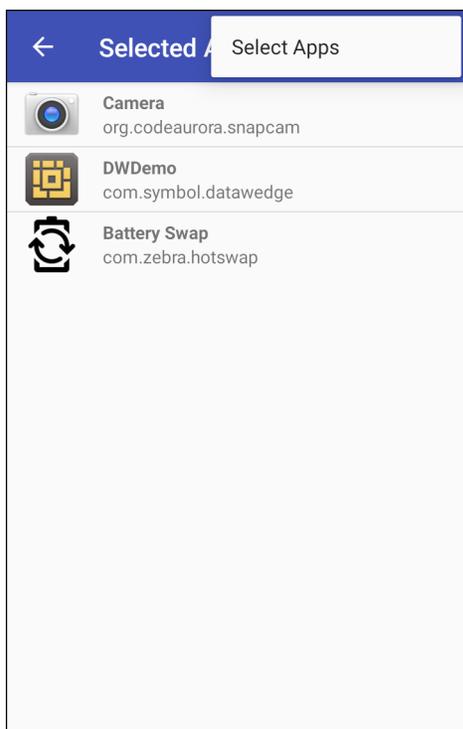
1. **[Select Apps for Drawer] (ドロワのアプリを選択)** をタッチします。

図 26 [Select Apps for Drawer] (ドロワのアプリを選択)



2. ☰> **[Select Apps] (アプリを選択)** の順にタッチします。

図 27 [Select Apps for Drawer] (ドロワのアプリを選択)

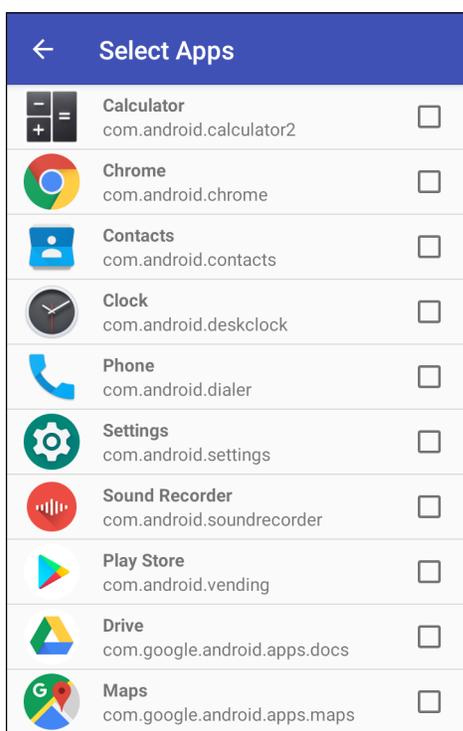


3. ドロワに表示するアプリを最大3個選択します。



注: [Left ActiveEdge Zone] (左 ActiveEdge ゾーン) と [Right ActiveEdge Zone] (右 ActiveEdge ゾーン) を、[Scanner] (スキャナ)、[Drawer] (ドロワ)、[None] (なし) のいずれかの組み合わせで設定します。ただし、両方のゾーンを [Drawer] (ドロワ) には設定できません。

図 28 [Select Apps for Drawer] (ドロワのアプリを選択)



4. ◀ をタッチします。

ActiveEdge の使用

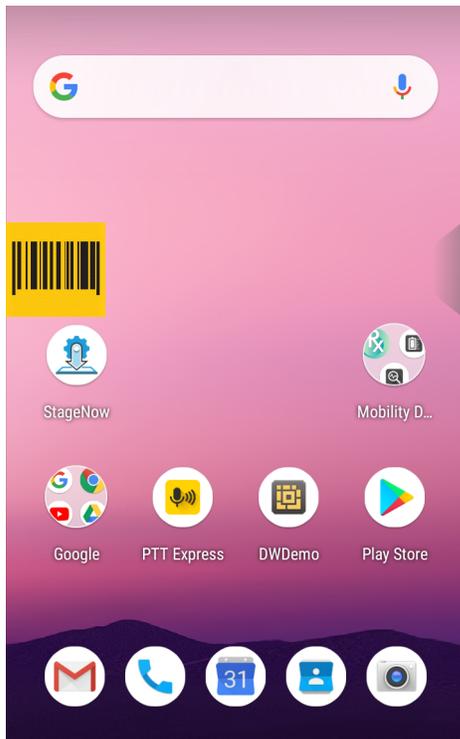
設定を行うと、ディスプレイの周辺に配置されたソフトキーを使って、頻繁に使用するアプリやタスクにアクセスできるようになります。

図 29 ActiveEdge タッチ ゾーンのソフトキー



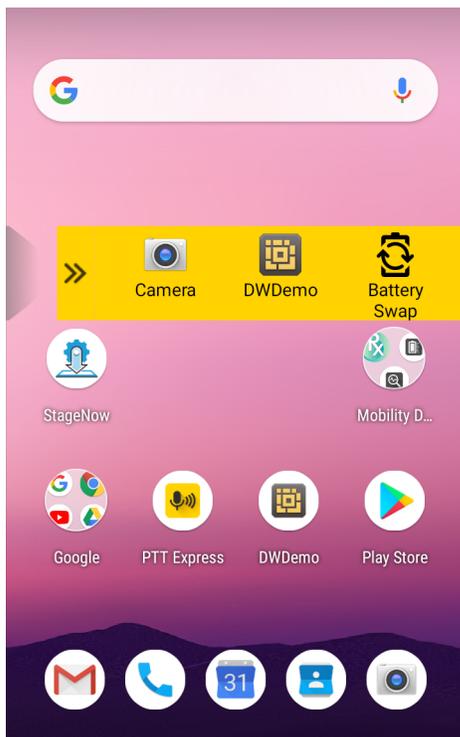
あるソフトキーがスキャナに設定されている場合は、そのソフトキーを長押ししながらバーコードをスキャンします。

図 30 スキャナに設定された左 ActiveEdge ゾーン



あるソフトキーがドロワに設定されている場合は、そのソフトキーにタッチしてドロワを開き、アプリを選択します。

図 31 ドロワに設定された右 ActiveEdge ゾーン



アプリを選択すると、ドロワが自動的に閉じられます。

バッテリー マネージャ

[Battery Manager] (バッテリー マネージャ) は、バッテリーに関する詳細情報を提供します。
バッテリー マネージャを開くには、ホーム画面の一番下から上にスワイプして、 をタッチします。

表 9 バッテリー アイコンの説明

バッテリー アイコン	説明
	バッテリーの充電レベル。
	バッテリーの充電中。
	バッテリー充電レベルが 20% 未満。

- [Battery level] (バッテリー レベル) - パーセンテージ表示での現在のバッテリー充電レベル。レベルが不明の場合、-% が表示されます。
- [Time until full] (完全充電までの時間) - バッテリーが完全に充電されるまでの時間。
- [Time since charging] (充電時間) - デバイスが充電を開始してからの時間。
- [Time until empty] (空になるまでの時間) - バッテリーが空になるまでの時間。
- [Battery status] (バッテリー状態)
 - [Not charging] (未充電) - デバイスが AC 電源に接続されていない。
 - [Charging over AC] (AC から充電中) - デバイスが AC 電源に接続され、充電中。
 - [Charging over USB] (USB から充電中) - デバイスが USB ケーブルでホスト コンピュータに接続され、充電中。
 - [Discharging] (放電) - バッテリーが放電中。
 - [Full] (フル) - バッテリーが完全に充電されている。
 - [Unknown] (不明) - バッテリーの状態が不明。
- [Battery Health] (バッテリー健全性) - バッテリーの健全性。重大なエラーが発生した場合、 が表示されます。タッチするとエラーの説明が表示されます。
 - [Decommission] (廃棄) - 寿命を過ぎているため、バッテリーを交換する必要があります。システム管理者にお問い合わせください。
 - [Good] (良好) - バッテリーは良好な状態です。
 - [Charge error] (充電エラー) - 充電中にエラーが発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
 - [Over Current] (過電流) - 過電流状態が発生しました。システム管理者にお問い合わせください。
 - [Dead] (使用不可) - バッテリーは充電できません。バッテリーを交換します。
 - [Over Voltage] (過電圧) - 過電圧状態が発生しました。システム管理者にお問い合わせください。

- **[Below Temperature]** (温度低下) - バッテリーの温度が動作温度未満です。システム管理者にお問い合わせください。
- **[Failure Detected]** (障害検出) - バッテリーに障害が検出されました。システム管理者にお問い合わせください。
- **[Unknown]** (不明) - システム管理者にお問い合わせください。
- **[Wear level]** (消耗レベル) - グラフ形式でのバッテリーの健全性。消耗レベルが 80% を超えると、バーの色が赤に変わります。
- **[Advanced info]** (詳細情報) - タッチして追加のバッテリー情報を表示します。
 - **[Battery present status]** (バッテリーの現在の状態) - バッテリーが装着されていることを示します。
 - **[Battery level]** (バッテリー レベル) - パーcentage表示のバッテリー充電レベル。
 - **[Battery scale]** (バッテリー スケール) - バッテリー レベルを判断するために使用されるバッテリーのスケールレベル (100) です。
 - **[Battery voltage]** (バッテリー電圧) - ミリボルト単位で示された現在のバッテリー電圧。
 - **[Battery temperature]** (バッテリー温度) - バッテリーの現在の温度 (摂氏)。
 - **[Battery technology]** (バッテリー テクノロジー) - バッテリーの種類。
 - **[Battery Current]** (バッテリー電流) - 直近の 1 秒間にバッテリーに出入りした平均電流 (mAh)。
 - **[Battery manufacture date]** (バッテリー製造日) - 製造日。
 - **[Battery serial number]** (バッテリー シリアル番号) - バッテリーのシリアル番号。番号は、バッテリー ラベルに印刷されているシリアル番号と一致します。
 - **[Battery part number]** (バッテリー部品番号) - バッテリーの部品番号。
 - **[Battery rated capacity]** (バッテリー定格容量) - バックアップ バッテリーの定格容量のリストの表示です (mAh)。
 - **[Battery decommission status]** (バッテリー耐用ステータス) - バッテリーの耐用期間が過ぎているかどうかを示します。
 - **[Battery Good]** (バッテリー良好) - バッテリーは良好な状態です。
 - **[Decommissioned Battery]** (使用不可バッテリー) - 寿命を過ぎているため、バッテリーを交換する必要があります。
 - **[Base cumulative charge]** (基本累積充電量) - Zebra 充電器のみを使用した累積充電量です。
 - **[Battery present capacity]** (バッテリーの現在の容量) - バッテリーが完全に充電されている場合、現在の放電状態でバッテリーから得られる最大充電量です。
 - **[Battery health percentage]** (バッテリー健全性の割合) - 0 ~ 100 の範囲の割合です。「design_capacity」の放電率で「design_capacity」に対する「present_capacity」の割合になります。
 - **[% decommission threshold]** (耐用しきい値 %) - Gifted バッテリーを 80% とした場合のデフォルトの耐用しきい値。
 - **[Battery present charge]** (バッテリーの現在の充電量) - 現在の放電状態で使用できるバッテリー残量を示します。
 - **[Battery total cumulative charge]** (バッテリー合計累積充電量) - すべての充電器の合計累積充電量。
 - **[Battery time since first use]** (初回使用時からのバッテリー使用時間) - 初めてバッテリーを Zebra ターミナルに取り付けてから経過した時間。
 - **[Battery error status]** (バッテリー エラー ステータス) - バッテリーのエラー ステータス。
 - **[App version]** (アプリ バージョン) - アプリケーションのバージョン番号。

カメラ

このセクションでは、内蔵デジタル カメラを使用した写真の撮影とビデオの録画について説明します。



注: デバイスに microSD カードを取り付けてストレージ パスを手動で変更している場合、写真やビデオが microSD カードに保存されます。デフォルトでは、写真やビデオは内部ストレージに保存されます。また、microSD カードを取り付けていない場合も内部ストレージに保存されます。

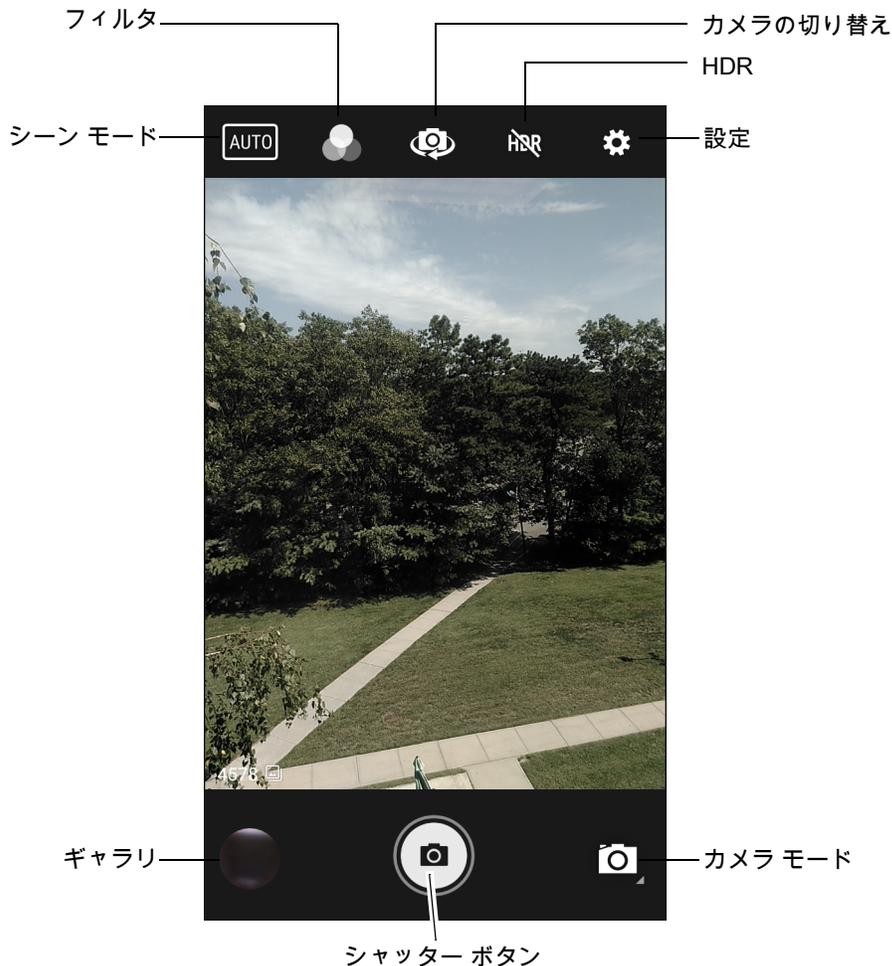
写真の撮影



注: カメラ設定の説明については、「写真設定」を参照してください。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、[Camera] (カメラ) をタッチします。

図 32 カメラ モード



2. 必要に応じて、[Camera Mode] (カメラ モード) アイコン、 の順にタッチします。
3. 背面カメラと前面カメラを切り替えるには、 をタッチします。
4. 被写体に画面のフレームを合わせます。
5. ズームインまたはズームアウトするには、2 本の指を画面に置いて指の間隔を狭めたり広げたりします。ズームを操作するオプションが画面に表示されます。

6. 画面の焦点を合わせる領域にタッチします。焦点の場所を示す円が表示されます。ピントが合うと、2本のバーが緑色に変わります。
7.  をタッチします。
カメラで写真が撮影され、シャッター音が鳴ります。
撮影した写真はサムネイルとして左下隅に短時間表示されます。

パノラマ写真の撮影

パノラマモードでは、場所(シーン)をゆっくりパンすることにより、1つの幅広い画像を撮影できます。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、[Camera] (カメラ) をタッチします。

図 33 パノラマモード

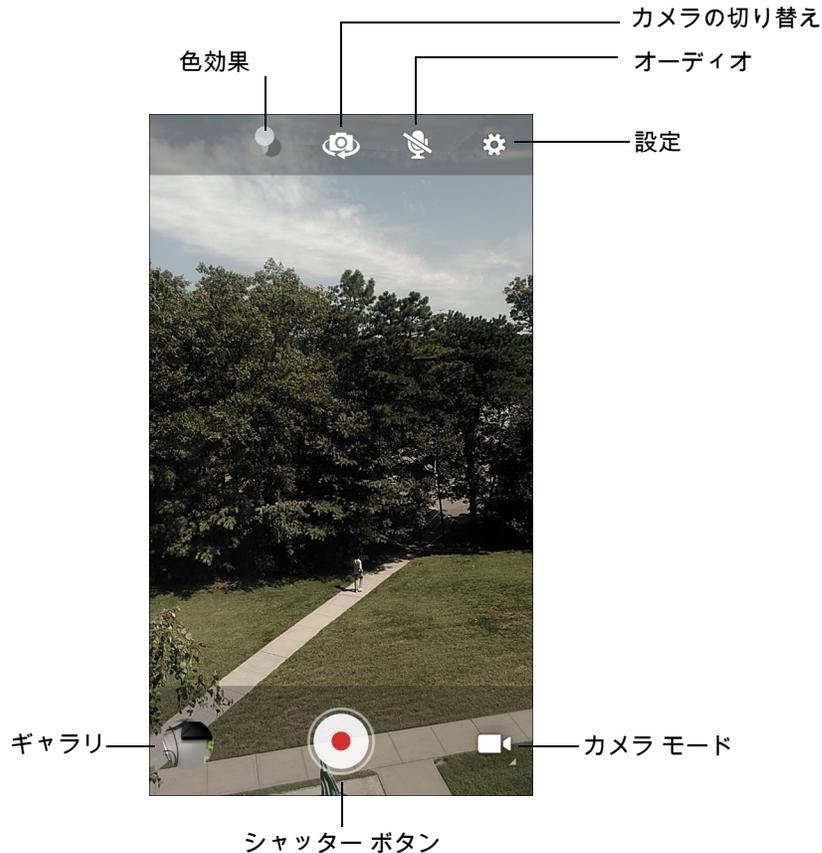


2. [Camera Mode] (カメラモード) アイコン、 の順にタッチします。
3. 撮影するシーンの片側をフレームに合わせます。
4.  をタッチして、撮影するエリア全体をゆっくりパンします。撮影中は、小さな白い正方形がボタン内に表示されます。
パンが速すぎると、[Too fast] (速すぎます) というメッセージが表示されます。
5.  をタッチして撮影を終了します。パノラマがすぐに表示され、画像を保存している間、進捗インジケータが表示されます。

ビデオの録画

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、[Camera] (カメラ) をタッチします。
2. [Camera Mode] (カメラ モード) メニュー、の順にタッチします。

図 34 ビデオ モード



3. 背面カメラと前面カメラ (使用可能な場合) を切り替えるには、 をタッチします。
4. カメラを向けて、フレームをシーンに合わせます。
5. ズームインまたはズームアウトするには、2本の指を画面に置いて指の間隔を狭めたり広げたりします。ズームを操作するオプションが画面に表示されます。
6.  をタッチして、録画を開始します。
録画残り時間が画面の左上に表示されます。
7.  をタッチして、録画を終了します。
撮影したビデオは、サムネイルとして左下隅に短時間表示されます。

写真設定

写真モードの場合、写真設定が画面に表示されます。 をタッチして、写真設定のオプションを表示します。

前面カメラ

- **[Selfie Flash]** (セルフ フラッシュ) - 画面を白にして、調光設定で少し明るくなるようにします。オプション: **[Off]** (オフ) (デフォルト)、または **[On]** (オン)。
- **[Picture size]** (写真サイズ) - 写真のサイズ (ピクセル単位) を次のいずれかに設定します。 **[5M pixels]** (5M ピクセル) (デフォルト)、 **[3M pixels]** (3M ピクセル)、 **[HD1080]**、 **[2M pixels]** (2M ピクセル)、 **[HD720]**、 **[1M pixels]** (1M ピクセル)、 **[WVGA]**、 **[VGA]**、または **[QVGA]**。
- **[Picture quality]** (画質) - 画質設定を次のいずれかに設定します: **[Low]** (低)、 **[Standard]** (標準) (デフォルト) または **[High]** (高)。
- **[Countdown timer]** (カウント ダウン タイマ) - 次のいずれかに設定します: **[Off]** (オフ) (デフォルト)、 **[2 seconds]** (2 秒)、 **[5 seconds]** (5 秒) または **[10 seconds]** (10 秒)。
- **[Storage]** (ストレージ) - 写真を保存する場所を次のように設定します: **[Phone]** (電話機) または **[SD Card]** (SD カード)。
- **[Face Detection]** (顔検出) - 選択して顔検出を **[Off]** (オフ) (デフォルト) または **[On]** (オン) にします。
- **[ISO]** - カメラの感光性を設定します。オプション: **[Auto]** (自動) (デフォルト)、 **[ISO Auto (HJR)]** (ISO 自動 (HJR))、 **[ISO100]**、 **[ISO200]**、 **[ISO400]**、 **[ISO800]**、または **[ISO1600]**。
- **[Exposure]** (露出) - タッチして、露出設定を調整します。オプション: **[+2]**、 **[+1]**、 **[0]** (デフォルト)、 **[-1]**、または **[-2]**。
- **[White balance]** (ホワイト バランス) - 最も自然な色調になるように、光源の種類に合わせてどのように色を調整するかを選択します。
 -  **[Incandescent]** (白熱灯) - 白熱灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Fluorescent]** (蛍光灯) - 蛍光灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Auto]** (自動) - ホワイト バランスを自動的に調整します (デフォルト)。
 -  **[Daylight]** (昼光) - 昼光に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Cloudy]** (曇り) - 曇天の環境に適するようにホワイト バランスを調整します。
- **[Redeye reduction]** (赤目軽減) - 赤目現象を排除します。オプション: **[Disable]** (無効化) (デフォルト) または **[Enable]** (有効化)。
- **[ZSL]** - ボタンが押されたときに、カメラが写真をただちに撮影するように設定します (デフォルトでは有効)。
- **[Selfie Mirror]** (セルフ ミラー) - オプション: **[Disable]** (無効化) (デフォルト) または **[Enable]** (有効化)。
- **[Anti Banding]** (アンチ バンディング) - カメラは、照明が不安定な人工光源による問題を回避できます。人工光源による照明周期 (ちらつき) は、人間の目では視認できない速さで連続して発生しています。カメラの目 (センサー) では、このちらつきを検知できます。オプション: **[Auto]** (自動) (デフォルト)、 **[60Hz]**、 **[50Hz]**、または **[Off]** (オフ)。

背面カメラ

- **[Flash]** (フラッシュ) - 選択して、露出計にフラッシュの有無を判別させるか、すべての撮影でフラッシュをオンまたはオフにするかを設定します。
 -  **[Off]** (オフ) - フラッシュを無効にします。
 -  **[Auto]** (自動) - 露出計に従って、フラッシュを自動的に調整します (デフォルト)。
 -  **[On]** (オン) - 写真を撮影するときにフラッシュが有効になります。

- **[Picture size] (写真サイズ)** - 写真のサイズ (ピクセル単位) を次のいずれかにします: **[13M pixels] (13M ピクセル)** (デフォルト)、**[8M pixels] (8M ピクセル)**、**[5M pixels] (5M ピクセル)**、**[3M pixels] (3M ピクセル)**、**[HD 1080]**、**[2M pixels] (2M ピクセル)**、**[HD720]**、**[1M pixels] (1M ピクセル)**、**[WVGA]**、**[VGA]**、または **[QVGA]**。
- **[Picture quality] (画質)** - 画質設定を次のいずれかに設定します。**[Low] (低)**、**[Standard] (標準)** (デフォルト) または **[High] (高)**。
- **[Countdown timer] (カウントダウン タイマ)** - **[Off] (オフ)** (デフォルト)、**[2 seconds] (2 秒)**、**[5 seconds] (5 秒)**、または **[10 seconds] (10 秒)** を選択します。
- **[Storage] (ストレージ)** - 写真の保存先を次のいずれかに設定します。**[Phone] (電話機)** または **[SD Card] (SD カード)**。
- **[Face Detection] (顔検出)** - 選択して顔検出を **[Off] (オフ)** (デフォルト) または **[On] (オン)** にします。
- **[ISO]** - 光に対するカメラ感度を次のいずれかに設定します。**[Auto] (自動)** (デフォルト)、**[ISO Auto (HJR)] (ISO 自動 (HJR))**、**[ISO100]**、**[ISO200]**、**[ISO400]**、**[ISO800]**、または **[ISO1600]**。
- **[Exposure] (露光量)** - 露光量設定を次のいずれかに設定します。**[+2]**、**[+1]**、**[0]** (デフォルト)、**[-1]** または **[-2]**。
- **[White balance] (ホワイト バランス)** - 最も自然な色調になるように、光源の種類に合わせてどのように色を調整するかを選択します。
 -  **[Incandescent] (白熱灯)** - 白熱灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Fluorescent] (蛍光灯)** - 蛍光灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Auto] (自動)** - ホワイト バランスを自動的に調整します (デフォルト)。
 -  **[Daylight] (昼光)** - 昼光に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  **[Cloudy] (曇り)** - 曇天の環境に適するようにホワイト バランスを調整します。
- **[Redeye reduction] (赤目軽減)** - 赤目現象を排除します。オプション: **[Disable] (無効化)** (デフォルト) または **[Enable] (有効化)**。
- **[ZSL]** - ボタンが押されたときに、カメラが写真をただちに撮影するように設定します (デフォルトでは有効)。
- **[Anti Banding] (アンチ バンディング)** - カメラは、照明が不安定な人工光源による問題を回避できます。人工光源による照明周期 (ちらつき) は、人間の目では視認できない速さで連続して発生しています。カメラの目 (センサー) では、このちらつきを検知できます。オプション: **[Auto] (自動)** (デフォルト)、**[60Hz]**、**[50Hz]**、または **[Off] (オフ)**。

ビデオの設定

ビデオ モードの場合、ビデオ設定が画面に表示されます。 をタッチして、ビデオ設定のオプションを表示します。

前面カメラ

- **[Video quality] (ビデオ画質)** - ビデオ画質を次のように設定します: **[HD1080]** (デフォルト)、**[HD720]**、**[SD 480p]**、**[VGA]**、**[CIF]**、または **[QVGA]**。
- **[Video duration] (ビデオ持続時間)** - 次のいずれかに設定します。**[30 seconds (MMS)] (30 秒 (MMS))** または **[30 minutes] (30 分)** (デフォルト)。
- **[Storage] (ストレージ)** - 写真の保存先を次のいずれかに設定します。**[Phone] (電話機)** (デフォルト) または **[SD Card] (SD カード)**。
- **[White balance] (ホワイト バランス)** - 最も自然な色調になるように、光源の種類に合わせてどのように色を調整するかを選択します。

-  [Incandescent] (白熱灯) - 白熱灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
-  [Fluorescent] (蛍光灯) - 蛍光灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
-  [Auto] (自動) - ホワイト バランスを自動的に調整します (デフォルト)。
-  [Daylight] (昼光) - 昼光に適するようにホワイト バランスを調整します。
-  [Cloudy] (曇り) - 曇天の環境に適するようにホワイト バランスを調整します。
- [Image Stabilization] (画像の安定化) - デバイスの振動によって発生するビデオのぼやけを軽減するように設定します。オプション: [On] (オン) または [Off] (オフ) (デフォルト)。

背面カメラ

- [Flash] (フラッシュ) - 背面カメラでフラッシュの有無を露出計に判別させるか、すべての撮影でフラッシュをオンまたはオフにするかを設定します。
 -  [Off] (オフ) - フラッシュを無効にします (デフォルト)。
 -  [On] (オン) - フラッシュが有効になります。
- [Video quality] (ビデオ画質) - ビデオ画質を次のように設定します: [4k DCI]、[4k UHD]、[HD 1080p] (デフォルト)、[HD 720p]、[SD 480p]、[VGA]、[CIF]、[QVGA]。
- [Video duration] (ビデオ持続時間) - 次のいずれかに設定します。[30 seconds (MMS)] (30 秒 (MMS))、または [30 minutes] (30 分) (デフォルト)。
- [Storage] (ストレージ) - 写真の保存先を次のいずれかに設定します。[Phone] (電話機) (デフォルト) または [SD Card] (SD カード)。
- [White balance] (ホワイト バランス) - 最も自然な色調になるように、光源の種類に合わせてどのように色を調整するかを選択します。
 -  [Incandescent] (白熱灯) - 白熱灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  [Fluorescent] (蛍光灯) - 蛍光灯に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  [Auto] (自動) - ホワイト バランスを自動的に調整します (デフォルト)。
 -  [Daylight] (昼光) - 昼光に適するようにホワイト バランスを調整します。
 -  [Cloudy] (曇り) - 曇天の環境に適するようにホワイト バランスを調整します。
- [Image Stabilization] (画像の安定化) - デバイスの振動によって発生するビデオのぼやけを軽減するように設定します。オプション: [On] (オン) または [Off] (オフ) (デフォルト)。

DataWedge デモンストレーション



注: DataWedge はホーム画面では無効になっています。この機能を有効にするには、DataWedge 設定に移動し、[Launcher] (起動プログラム) プロファイルを有効にします。

データ収集機能のデモンストレーションを実行するには、[DataWedge Demonstration] (DataWedge デモンストレーション) を使用します。

表 10 [DataWedge Demonstration] (DataWedge デモンストレーション) のアイコン

	アイコン	説明
照明		イメージャの照明がオンです。タッチして照明をオフにします。
		イメージャの照明がオフです。タッチして照明をオンにします。
データ収集		データ収集機能は内蔵イメージャを使用して行われます。
		Bluetooth スキャナが接続されています。
		Bluetooth スキャナが接続されていません。
		データ収集機能は、背面カメラを使用して行われます。
スキャン モード		イメージャがピックリスト モードになっています。タッチすると、通常のスキャン モードに切り替わります。
		イメージャが通常のスキャン モードになっています。タッチすると、ピックリスト モードに切り替わります。
		メニューを開き、アプリケーション情報の表示、またはアプリケーションの DataWedge プロファイルを設定します。



注: 詳細については、100 ページの「DataWedge」を参照してください。

スキャナの選択

スキャナを選択するには、 > [Settings] (設定) > [Scanner selection] (スキャナの選択) の順にタッチします。

詳細については、「データ収集」を参照してください。

プログラム可能ボタンを押すか、黄色のスキャン ボタンをタッチしてデータを読み取ります。収集したデータは、黄色のボタンの下にあるテキスト フィールドに表示されます。

Device Central

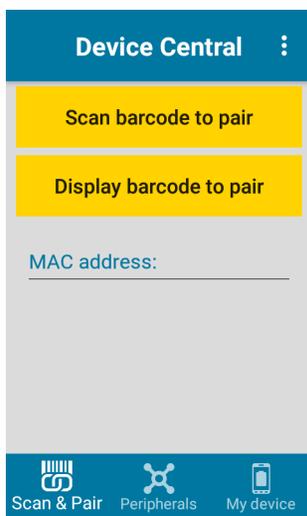
[Device Central] には、デバイスと接続済み周辺機器の詳細情報が表示されます。次の Zebra デバイスに対応しています。

- RS507/RS507X ハンズフリー イメージャ
- RS5000 コード付きリング スキャナ
- HS3100 Bluetooth ヘッドセット
- DS3678 デジタル スキャナ

Device Central の機能は次のとおりです。

- 対応周辺機器を Bluetooth または有線接続で検出し、ペアリングします。
- 接続済み RS6000 リング スキャナを呼び出します。
- 対応リング スキャナのファームウェアをアップデートします。[詳細については『RS5000 クイックスタートガイド』または『RS6000 User Guide』を参照してください。](#)
- 周辺機器の接続状態を表示します。
- 接続済みの周辺機器の情報を通知バーに表示します。

図 35 [Device Central] 画面



[Scan and Pair] (スキャンおよびペアリング) タブ

Bluetooth 周辺機器とのペアリングは、次のいずれかの方法で実行されます。

- スキャンおよびペアリング
- スキャンしてペアリング
- 手動によるペアリング

スキャンおよびペアリング

周辺機器の Bluetooth バーコードをスキャンしてペアリングするには、次の手順に従います。

1. **[Scan and Pair]** (スキャンおよびペアリング) タブで、**[Scan barcode to pair]** (バーコードをスキャンしてペアリング) をタッチします。周辺機器のスキャン ビームが点灯します。
2. 周辺機器で Bluetooth が有効になっており、検出可能モードがオンになっていることを確認します。手順については、周辺機器のユーザー ガイドを参照してください。
3. ペアリングする周辺機器の Bluetooth MAC アドレス バーコード ラベルをスキャンします。
ペアリングが成功すると、周辺機器がリストに表示されます。デバイスが接続され、使用中の可能性のある場合、Bluetooth スキャナの横に緑色のドットが表示されます。Bluetooth ヘッドセットやプリンタなど、接続されているが使用中ではない他の Bluetooth 周辺機器の場合、その横に赤いドットが表示されます。

スキャンしてペアリング

スキャンしてペアリングする場合は、画面に表示されるバーコードをスキャンしてペアリングします。これは、Bluetooth ハンドヘルド スキャナやリング スキャナなど、スキャン機能を備えた周辺機器に適用されます。

1. **[Scan and Pair]** (スキャンおよびペアリング) タブで、**[Display barcode to pair]** (バーコードを表示してペアリング) をタッチします。バーコードが表示されます。
2. 周辺機器を使用して、画面でバーコードをスキャンします。
ペアリングが成功すると、成功を示す緑色のドットとともに周辺機器がリストに表示されます。

手動によるペアリング

Bluetooth でペアリングできない周辺機器は、次の手順に従って手動でペアリングします。

1. **[Scan and Pair]** (スキャンおよびペアリング) タブで、**[MAC address]** (MAC アドレス) フィールドをタッチします。
2. 周辺機器の Bluetooth MAC アドレスを入力します。
3. **[Pair]** (ペア) をタッチします。
ペアリングが成功すると、周辺機器がリストに表示されます。デバイスが接続され、使用中の可能性のある場合、Bluetooth スキャナの横に緑色のドットが表示されます。Bluetooth ヘッドセットやプリンタなど、接続されているが使用中ではない他の Bluetooth 周辺機器の場合、その横に赤いドットが表示されます。

[Peripherals] (周辺機器) タブ

[Peripherals] (周辺機器) タブは、現在接続されている周辺機器と、以前に接続された周辺機器をすべて表示します。接続済みの周辺機器には、接続時間 (分単位) が表示されます。

接続済みデバイスのアイコンをタッチすると、周辺機器の詳細が表示されます。**[Device Details]** (デバイス詳細) 画面が表示されます。RS6000 に接続すると、**[Device Details]** (デバイスの詳細) 画面の下部に **[Page]** (ページ) ボタンが表示されます。「RS6000 リング スキャナの呼び出し」を参照してください。

[My Device] (マイ デバイス) タブ

[My Device] (マイ デバイス) タブには、デバイスの情報が表示されます。

- [Device Model] (デバイス モデル) - デバイスに割り当てられた名前が表示されます。
- [Device Serial Number] (デバイスのシリアル番号) - デバイスのシリアル番号が表示されます。
- [OS Version] (OS バージョン) - オペレーティング システムのバージョン番号を表示します。
- [Build Number] (ビルド番号) - ソフトウェアのビルド番号を表示します。
- [Battery Level] (バッテリー レベル) - パーセンテージ表示での現在のバッテリー充電レベル。
- [Battery Part Number] (バッテリー部品番号) - バッテリーの部品番号。
- [Battery Serial Number] (バッテリーシリアル番号) - バッテリーのシリアル番号。番号は、バッテリー ラベルに印刷されているシリアル番号と一致します。
- [Battery Manufactured Date] (バッテリー製造日) - 製造日。

周辺機器のペアリング解除

Bluetooth 周辺機器のペアリングを解除するには、次の手順に従います。

1. [Scan and Pair] (スキャンおよびペアリング) タブで、ペアリングを解除する周辺機器の [Unpair] (ペアリング解除) をタッチします。
確認のポップアップ メッセージが表示されます。
2. [OK] をタッチします。
ペアリングが解除されると、周辺機器が切断されたことを示すメッセージが表示され、リストから周辺機器が削除されます。

RS6000 リング スキャナの呼び出し

[Page] (呼び出し) ボタンを使用すると、現在接続されている RS6000 リング スキャナを簡単に見つけることができます。

1. RS6000 リング スキャナを接続している状態で、ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。



注: RS6000 リング スキャナとデバイスの距離は 10m (32 フィート) 以内にしてください。

2. RS6000 の周辺機器情報で [Page] (呼び出し) をタッチして RS6000 を呼び出します。呼び出された RS6000 は、ビープ音を鳴らし振動します。

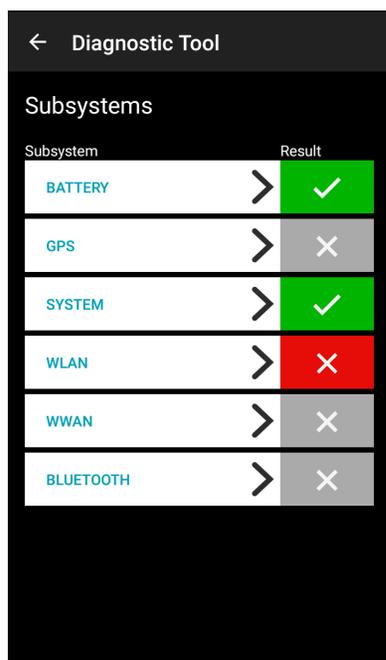
呼び出しを停止するには、RS6000 のスキャン トリガを押します。トリガがない RS6000 では、RS6000 をリセットして呼び出しを停止します。『RS6000 ユーザー ガイド』を参照してください。

診断ツール

診断ツールは、デバイスの健全性を判断するユーティリティです。デバイスのトラブルシューティングには、診断ツールを使用します。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2. **[RUN TEST] (テストの実行)** をタッチします。このアプリは、有効になっているすべてのサブシステムをテストします (デフォルトではバッテリー テストとシステム テストのみ)。サブシステム テストを有効にする方法については、「設定」を参照してください。
3. サブシステム テストごとに表示するには、**[SUBSYSTEM TESTS] (サブシステム テスト)** をタッチします。

図 36 [Subsystem] (サブシステム) 画面



4. サブシステムのいずれかをタッチすると、詳細が表示されます。

表 11 サブシステム テストの結果を表すアイコン

ステータス アイコン	説明
	テストに合格 (不具合がなかった)。
	テストに不合格 (不具合があった)。
	テストがサポートされていないが、有効になっていない。

設定

デフォルトでは、バッテリーテストとシステムテストのみが有効になっています。その他のテストを有効にするには、次の手順に従います。

1.  > **[Settings]** (設定) の順にタッチします。
2. テスト名の左側をタッチします。チェックマークが付いた緑色のボックスが表示されます。
3. **[SAVE]** (保存) をタッチします。
4. **[Yes]** (はい) をタッチして確定します。
5.  をタッチします。

バッテリーテストの情報

[Battery Test] (バッテリーテスト) では、次の情報が表示されます。

- **[Battery Level]** (バッテリーレベル) - 現在のバッテリー充電レベル
- **[Battery Voltage]** (バッテリー電圧) - 現在のバッテリー電圧
- **[Status]** (ステータス) - バッテリーが充電中 (AC 電源を使用している) か、放電中 (バッテリー電源を使用している) か
- **[Power Source]** (電源) - バッテリーと外部電源のどちらからデバイスに電力が供給されているか
- **[Temperature]** (温度) - 現在のバッテリー温度
- **[Health Percentage]** (健全性の割合) - 設計容量の放電率に基づき、設計容量に対する現在の容量の比率を示す
- **[Backup Battery Voltage]** (バックアップバッテリー電圧) - バックアップバッテリー電圧
- **[Manufacture Date]** (製造日) - バッテリーの製造日

GPS テストの情報

このデバイスではサポートされていません。

システムテストの情報

システムテストでは、CPU またはメモリの負荷が高すぎないか、デバイスで実行中のプロセスが多すぎないか、またはデバイスのストレージが満杯に近くなっていないかを判断します。

システムテストでは、次の情報を取得します。

- **[CPU Load]** (CPU 負荷) - 使用している CPU 量
- **[Free Physical Memory]** (物理メモリの空き容量) - 使用可能な RAM の量
- **[Free Storage]** (空きストレージ) - 使用可能な内部フラッシュメモリの量
- **[Process Count]** (プロセスカウント) - 現在実行中のプロセス数

WLAN テストの情報

Wi-Fi 無線がないか無効になっている場合、このテストをスキップしてください。このテストでは、デバイスの WLAN 設定が正しいかどうか、また、アクセス ポイントやネットワークとの接続があるかどうかを判断します。

WLAN テストでは、次の情報を取得します。

- **[WLAN Enabled] (WLAN 有効)** - WLAN 無線が有効か無効か
- **[WLAN Status] (WLAN ステータス)** - アクセス ポイントとの現在の接続状態
- **[ESSID]** - 無線ネットワークの名前
- **[BSSID]** - 接続されているアクセス ポイントの MAC アドレス
- **[MAC Address] (MAC アドレス)** - デバイスの MAC アドレス
- **[Signal] (信号)** - Wi-Fi 信号の強度 (単位は dBm)
- **[IP Address] (IP アドレス)** - デバイスの IP アドレス

WWAN テストの情報

このデバイスではサポートされていません。

Bluetooth テストの情報

Bluetooth テストでは、次の情報を取得します。

- **[Enabled] (有効)** - Bluetooth 無線が有効か無効か
- **[Status] (ステータス)** - 別の Bluetooth デバイスとペアリングされているかどうか
- **[Connectable/Discoverable] (接続可能/検出可能)** - デバイスが検出可能であるか、接続可能であるかどうか
- **[Address] (アドレス)** - Bluetooth 無線の MAC アドレス
- **[Name] (名前)** - デバイスの Bluetooth 名

PTT Express Voice クライアント



注: PTT Express Voice クライアントを使用すると、さまざまなエンタープライズ デバイス間でプッシュトゥトーク (PTT) 通信ができるようになります。PTT Express は、既存の無線 LAN (WLAN) インフラストラクチャを利用して、音声通信サーバー不要の簡単な PTT 通信機能を提供します。

- **グループ通話:** 他の音声クライアント ユーザーとの通信を開始するには、PTT (トーク) ボタンを長押しします。
- **プライベート応答:** 直前のブロードキャストの発信元に応答したり、プライベート応答したりするには、PTT ボタンを 2 回押しします。

PTT 音声通知

音声クライアントを使用するときに、以下の通知音が役立ちます。

- **トーク トーン:** チャープ音が 2 回鳴ります。[Talk] (トーク) ボタンを押すと鳴ります。会話の開始を促しています。
- **アクセス トーン:** ビープ音が 1 回鳴ります。相手のユーザーがブロードキャストまたは応答を終了すると鳴ります。こちら側からグループ ブロードキャストまたはプライベート応答を開始できる合図です。
- **ビジー トーン:** 連続トーンが鳴ります。[Talk] (トーク) ボタンを押したときに別のユーザーが同じトークグループですでに通信を開始しているときに鳴ります。許容される最大送信時間 (60 秒) を経過すると鳴ります。
- **ネットワーク トーン:**
 - 徐々に高くなるビープ音が 3 回鳴ります。PTT Express で WLAN 接続を確立してサービスが有効になると鳴ります。
 - 徐々に低くなるビープ音が 3 回鳴ります。PTT Express の WLAN 接続が失われるか、サービスが無効になると鳴ります。

PTT 通知アイコン

通知アイコンは、PTT Express Voice クライアントの現在の状態を示します。

表 12 PTT Express アイコンの説明

ステータス アイコン	説明
	PTT Express Voice クライアントが無効になっています。
	PTT Express Voice クライアントは有効になっていますが、WLAN に接続されていません。
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。アイコンの隣にある番号のトーク グループを聞いています。
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。アイコンの隣にある番号のトーク グループで通信しています。

表 12 PTT Express アイコンの説明 (続き)

ステータス アイコン	説明
	PTT Express Voice クライアントは有効で、WLAN に接続されています。プライベート応答中です。
	PTT Express Voice クライアントは有効でミュートになっています。
	PTT Express Voice クライアントは有効になっていますが、VoIP テレフォニー コール中のため通信できません。

PTT 通信を有効にする

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2. [Enable/Disable Switch] (スイッチのオン/オフ) を [ON] (オン) の位置にスライドします。ボタンが [ON] (オン) に変わります。

トーク グループの選択

PTT Express ユーザーは、32 のトーク グループの 1 つを選択できます。ただし、デバイスで一度に有効にできるのは、1 つのトーク グループのみです。32 のトーク グループのいずれか 1 つをタッチします。選択したトーク グループが強調表示されます。

PTT 通信



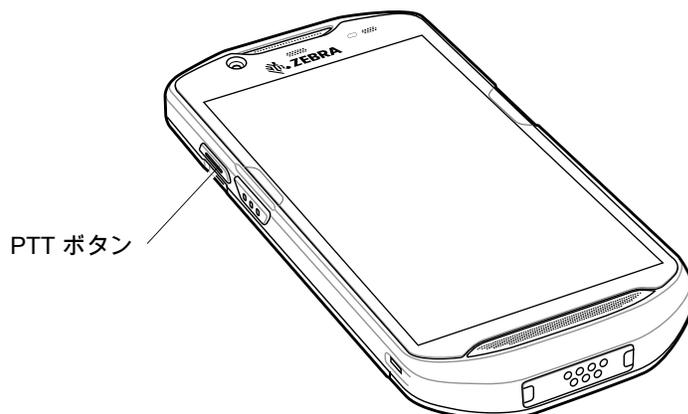
注: このセクションでは、デフォルトの PTT Express クライアント設定について説明します。クライアントの使用に関する詳細については、『PTT Express V1.2 User Guide』を参照してください。

PTT 通信は、グループ通話として確立されます。PTT Express が有効になると、デバイスの左側の PTT ボタンが PTT 通信に割り当てられます。有線ヘッドセットを使用する場合は、ヘッドセットのトークボタンを押して、グループ通話を開始することもできます。



注: 有線ヘッドセットを使用している場合、PTT ボタンの付いた Zebra 有線ヘッドセットのみを使用してください。

図 37 PTT ボタン



グループ通話の作成



注: 有線ヘッドセットを使用している場合、PTT ボタンの付いた Zebra 有線ヘッドセットのみを使用してください。

1. PTT ボタン (またはヘッドセットのトーク ボタン) を長押しして、トーク トーンが鳴るのを待ちます。
ビジー トーンが鳴る場合、ボタンを放してしばらく待ってから、やり直してみます。PTT Express と WLAN が有効であることを確認してください。
2. トーク トーンが聞こえたら、通話を開始します。



注: ボタンを 60 秒 (デフォルト) 以上押し続けると、通話が終了して、他のユーザーがグループ通話を開始できるようになります。話し終わったら、ボタンを放して他のユーザーが会話できるようにします。

プライベート応答での応答

プライベート応答を開始できるのは、グループ通話が確立されてからです。最初のプライベート応答は、グループ通話の発信元に対して実行されます。

1. アクセストーンを待ちます。
2. 10 秒以内に PTT ボタンを 2 回押し、トーク トーンが鳴るのを待ちます。
3. ビジー トーンが鳴る場合、ボタンを放してしばらく待ってから、やり直してみます。PTT Express と WLAN が有効であることを確認してください。
4. トーク トーンが鳴ったら、通話を開始します。
5. 話し終わったら、ボタンを放します。

PTT 通信を無効にする

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2. [Enable/Disable Switch] (スイッチのオン/オフ) を [OFF] (オフ) の位置にスライドします。ボタンが [OFF] (オフ) に変わります。
3. ○ をタッチします。

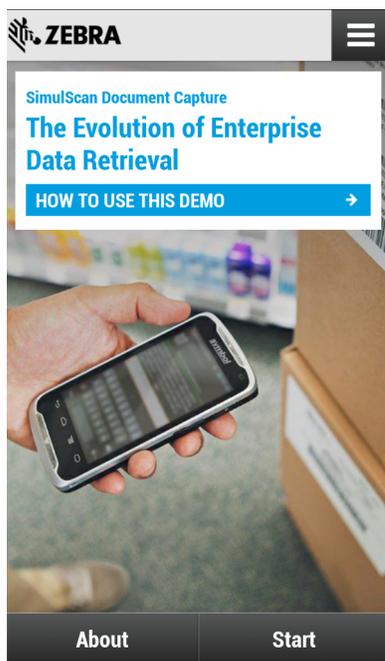
SimulScan デモ

SimulScan デモ アプリは、SimulScan 対応のデバイスに搭載されるデモンストレーション アプリです。特に設定を行わずに、そのまま使用できます。

SimulScan デモ アプリには、次のものが含まれます。

- [Postal, Transportation and Logistics Example] (郵送、運輸、物流サンプル) - 光学文字認識 (OCR) と光学マーク認識 (OMR) の機能をデモンストレーションします。
- [Manufacturing Example] (製造サンプル) - MultiCode 20 機能をデモンストレーションします。
- [Demo Customization] (デモのカスタマイズ) - テンプレート ビルダを使用してテンプレートを作成するか、デフォルトのテンプレートを使用します。デバイス上のテンプレートをテストします。

図 38 SimulScan デモのホーム画面



サンプル フォームの印刷

[Postal, Transportation & Logistics] (郵送、運輸、物流) または [Manufacturing] (製造) のデモンストレーションを実行するため、デバイスに保存されたサンプル フォームを印刷します。

1. **[SimulScan Demo] (SimulScan デモ)** アプリケーションを起動します。
2. **[SimulScan Demo] (SimulScan デモ)** のホーム画面で、**[HOW TO USE THIS DEMO]** (このデモの使用方法) をタッチします。
3. 下にスクロールして、**[Export sample forms] (サンプル フォームのエクスポート)** ボタンをタッチします。フォームが内部ストレージの `\simulscan\samples` フォルダにコピーされます。
4. USB 充電ケーブルを使用して、デバイスをコンピュータに接続します。
5. 内部ストレージの `\simulscan\samples` フォルダからコンピュータにファイルをコピーします。
6. フォームを印刷します。

郵送、運輸、物流サンプルの使用法

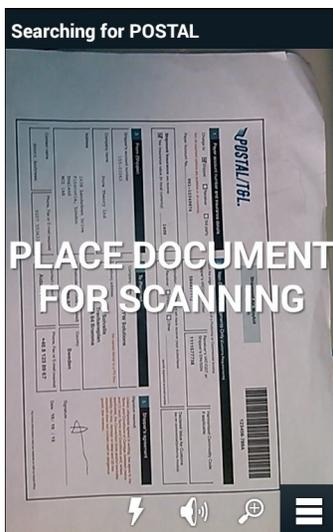
1. 郵送、運輸、物流フォームを印刷します。「サンプル フォームの印刷」を参照してください。

図 39 郵送、運輸、物流フォーム

1 Payer account number and insurance details		2 Non-Document Shipments Only (Customs Requirements)	
Charge to <input checked="" type="checkbox"/> Shipper <input type="checkbox"/> Receiver <input type="checkbox"/> 3rd party <small>Not all payment options are available in all countries.</small> Payer Account No. 001-12349876		Attach the original and four copies of a Proforma or Commercial Invoice Shipper's VAT/GST number: 564451112 Receiver's VAT/GST or Shipper's EIN/SSN: 1111577738 Harmonised Commodity Code if applicable:	
Shipment Insurance see reverse <input checked="" type="checkbox"/> Yes Insurance value (in local currency) 1400		Destination duties/taxes if left blank receiver pays duties/taxes <input type="checkbox"/> Receiver <input type="checkbox"/> Shipper <input type="checkbox"/> Other _____ specify approved account number	
3 From (Shipper)		4 To (Receiver)	
Shipper's account number: 155-22263 Company name: Pure Theory Ltd Address: 163B Lansdown Drive, Fitzrovia, London, England, WC2 1AB		Company name: TFW Solutions Delivery address: Solvalla, Travbaneplan 12A 64 Bromma Postcode/Zip Code (required): 286 32 Country: Sweden	
Contact name: Scott Andrews Phone, Fax or E-mail (required): 0207 553633		Contact person: Aidan Peterson Phone, Fax or E-mail (required): +46 8 123 89 67	
5 Shipper's agreement			
(Signature required) <small>Unless otherwise agreed in writing, we agree to the Terms and Conditions of Carriage between media and (1) such Terms and Conditions and, where applicable, the Convention limits and/or excludes liability for loss, damage or delay and (2) this shipment does not contain cash or dangerous goods (see reverse).</small>			
Signature: _____ Date: 10 / 10 / 13			

2. フォームを平らな表面に置きます。
3. デバイス上で、[SimulScan Demo] (SimulScan デモ) アプリを起動します。
4. 画面の右上にある [Menu] (メニュー) アイコンをタッチします。
5. [Postal, Transportation & Logistics] (郵送、運輸、物流) をタッチします。
6. [Start SimulScan] (SimulScan の開始) をタッチします。
7. 画面下の画像コントロールを使用して、フラッシュ、音声、ズーム レベルを制御します。

図 40 画像コントロール



8. カメラをフォームの上に配置します。フォームの境界線全体が画面に表示されることを確認します。
9. デバイスを固定します。
10. デバイスでフォームが検出されると、[Tap Screen to Scan] (画面をタップしてスキャン) というメッセージが画面に表示されます。
11. 画面をタップして、データ収集を開始します。完了すると、ビープ音が鳴り、フォームのデータが表示されます。

図 41 郵送のデータ画面

POSTAL	
Field	Parsed Data
Barcode	123456-789A
Charge To	<input checked="" type="checkbox"/>
Account Number	155-22253
Shipper Name	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;"> ▲ Check Result Pssupcs Thckry Ltd </div> Pure Theory Ltd
Shipper Address	<div style="background-color: #f08080; padding: 2px;"> ▲ Check Result 1538 Landsdown Drive lill,tgrav;la, ll;pdolrls England WC2 IAB </div> 163B Landsdown Drive Fitzrovia, London England WC2 IAB

RESCAN ACCEPT ☰

12. エラーを修正する場合、テキスト ボックスをタッチします。注: 多数のエラーがある場合、[Rescan] (再スキャン) をタッチして収集を再度実行します。
13. [Accept] (承諾) をタッチし、データが正しいことを確定します。[Results summary] (結果の要約) 画面が表示されます。
14. [OK] をタッチします。

製造サンプルの使用方法

1. 製造フォームを印刷します。「サンプル フォームの印刷」を参照してください。

図 42 製造フォーム

The screenshot shows the 'MSI reader' application interface. At the top left is a logo with a purple gear and the letter 'M'. The title 'MSI reader' is centered, and '<5 kgs MV unit' is on the top right. The main area displays the following data:

- PART NUMBER (P):** 5290261-69
- SUPPLIER (V):** V4305156059
- QUANTITY (Q):** 000128
- PKG ID/SERIAL NUMBER (IS):** 1SX1000114
- MADE IN MEXICO**

Each data point is accompanied by a barcode. At the bottom right, there is a logo for 'MANUFACTURING LTD' with a purple gear and 'M'.

2. フォームを平らな表面に置きます。
3. デバイス上で、[SimulScan Demo] (SimulScan デモ) アプリを起動します。
4. 画面の右上にある [Menu] (メニュー) アイコンをタッチします。
5. [Manufacturing] (製造) をタッチします。
6. [Start SimulScan] (SimulScan の開始) をタッチします。
7. デバイスの先端を文書の方に向け、文書上の収集対象を中央に合わせます。
8. デバイスを固定します。
9. デバイスがデータ収集を開始します。完了すると、デバイスからビープ音が鳴り、ドキュメントのデータが表示されます。

図 43 製造データ

The screenshot shows the 'MFTR' application interface. It features a table with the following data:

Field	Parsed Data
Part Number	P5290261-69
Supplier	V4305156059
Quantity	Q000128
Serial Number	1SX1000114
Country	MEX

At the bottom, there are buttons for 'Rescan' and 'Accept', and a hamburger menu icon.

10. エラーを修正する場合、テキスト ボックスをタッチします。多数のエラーがある場合、[Rescan] (再スキャン) をタッチして収集を再度実行します。

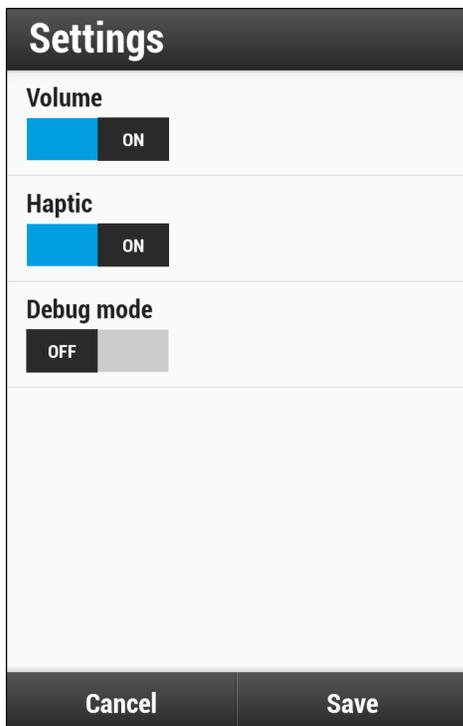
11. **[Accept]** (承諾) をタッチし、データが正しいことを確認します。 **[Results summary]** (結果の要約) 画面が表示されます。

12. **[OK]** をタッチします。

設定

[SimulScan Demo] (SimulScan デモ) アプリケーションを設定するには、 **[Menu]** (メニュー) アイコン > **[Settings]** (設定) の順にタッチします。

図 44 [Settings] (設定) 画面

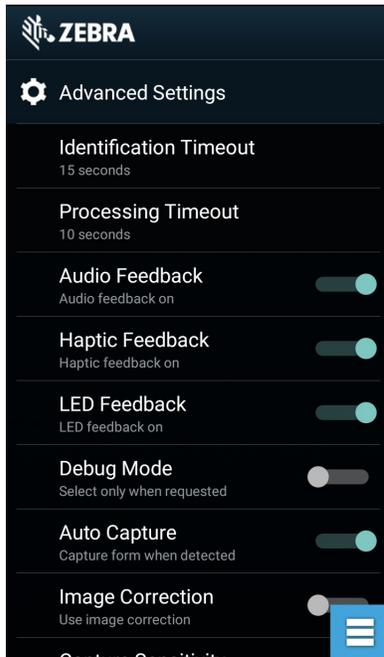


- **[Volume]** (音量) - 音声通知をオン/オフに切り替えます。
- **[Haptic]** (ハプティック) - 振動通知をオン/オフに切り替えます。
- **[Debug mode]** (デバッグ モード) - デバッグ モードをオン/オフに切り替えます。

詳細設定

データ収集オプションを設定するには、 **[Advanced Settings]** (詳細設定) を使用します。データ収集画面で、画面の右下にある  をタッチします。

図 45 [Advanced Settings] (詳細設定) 画面



- **[Identification Timeout] (特定タイムアウト)** - 対象となる文書の特定がタイムアウトする時間を設定します。オプション: **[2 seconds] (2 秒)**、**[5 seconds] (5 秒)**、**[10 seconds] (10 秒)**、**[15 seconds] (15 秒)**、**[20 seconds] (20 秒)**、または **[25 seconds] (25 秒)**。
- **[Processing Timeout] (処理タイムアウト)** - 対象となる文書が特定された後、処理がタイムアウトする時間です。
- **[Audio feedback] (オーディオ フィードバック)** - 正常に完了した解析に関するオーディオ フィードバックのオンとオフを切り替えます。
- **[Haptic feedback] (ハプティック フィードバック)** - 正常に完了した解析に関するハプティック (振動) フィードバックのオンとオフを切り替えます。
- **[LED Feedback] (LED フィードバック)** - 正常に完了した解析に関する LED フィードバックのオンとオフを切り替えます。
- **[Debug mode] (デバッグ モード)** - 有効になっている場合、収集されたフォーム、領域の画像、領域の値、および他のデータがセッションによってストレージに書き込まれます。管理者から指示された場合にのみ使用します。
- **[Auto Capture] (自動収集)** - 検出されたフォームを自動的に収集する場合、**[On] (オン)** に設定します。ユーザーが画面をタップするかトリガ ボタンを押したときにフォームを手動で収集する場合、**[Off] (オフ)** に設定します。
- **[Image Correction] (画像修正)** - 文書にしわが寄っているか曲がっていて、高度な画像修正が必要な場合にオンにします。
- **[Capture Sensitivity] (収集感度)** - 文書の識別精度を高めるには、処理を行う前にこの機能の感度を上げます。
- **[About] (バージョン情報)** - SimulScan エンジンのバージョン番号を表示します。
- **[Quit Scanner] (スキャナの終了)** - [Advanced Settings] (詳細設定) 画面を終了します。

デモ カスタマイズの作成

カスタマイズしたデモを作成する前に、次を実行します。

- テンプレートビルダツールを使用してテンプレートを作成します。
 - 会社のロゴと画像をデバイスの保存場所にコピーします。
1. **[Menu] (メニュー)** アイコンをタッチします。
 2. **[Setup Custom Demo] (カスタム デモの設定)** をタッチします。

図 46 カスタム デモ設定画面

3. **[Name] (名前)** テキスト ボックスに、ドロップダウン メニューに表示されるカスタム デモの名前を入力します。
4. **[Custom Demo Setup] (カスタム デモの設定)** テキスト ボックスに、デモ画面のタイトル ボックスに表示されるデモのタイトルを入力します。
5. **[Image] (画像)** フィールドをタッチして、SD カードから画像を選択します。
6. **[Logo] (ロゴ)** フィールドをタッチして、SD カードからロゴ画像を選択します。
7. **[Introduction] (イントロダクション)** テキスト ボックスに、デモ画面に表示するテキストを入力します。
8. **[Header color] (ヘッダー色)** テキスト ボックスに、ヘッダーの色の値を 16 進数で入力します。
9. **[Icon color] (アイコン色)** テキスト ボックスに、メニュー アイコンとボタン テキストの色の値を 16 進数で入力します。
10. **[Key Features] (主要機能)** テキスト ボックスに、[Key Feature] (主要機能) の見出しの下に箇条書きで表示するテキストを入力します。
11. **[SimulScan Document Capture Template] (SimulScan 文書収集テンプレート)** フィールドでいずれかのテンプレートをタッチして選択します。
 - a. **[Browse external storage] (外部ストレージの参照)** - デバイスに読み込まれたテンプレートを選択します。
 - b. **[Default templates] (デフォルトのテンプレート)** - いずれかのデフォルトのテンプレートを選択します。

- c. **[Select from server]** (サーバーから選択) - SimulScan サーバーからテンプレートを選択します。
12. **[Done]** (完了) をタッチします。カスタマイズされたサンプルが画面に表示されます。
13. **[Start SimulScan]** (SimulScan の開始) をタッチして、デモンストレーションを開始します。

デフォルトのテンプレート

次のテンプレートが使用できます。

- デフォルト - **BankCheck.xml** - 銀行小切手の MICR E-13B フォント (19 ~ 40 文字) を読み取ります。
- デフォルト - **Barcode 1.xml** - サポートされているバーコードを 1 個読み取ります。
- デフォルト - **Barcode 10.xml** - サポートされているバーコードを最大 10 個まで読み取ります。
- デフォルト - **Barcode 2.xml** - サポートされているバーコードを 2 個読み取ります。
- デフォルト - **Barcode 4.xml** - サポートされているバーコードを最大 4 個読み取ります。
- デフォルト - **Barcode 5.xml** - サポートされているバーコードを最大 5 個読み取ります。
- デフォルト - **BookNumber.xml** - OCR-B ISBN の 10 桁または 13 桁の図書番号を読み取ります。
- デフォルト - **DocCap + Optional Barcode** - ページ全体の画像を読み取り、そのフォーム内でサポートされているバーコードを読み取ります。読み取った領域は、実線の枠線またはバックグラウンドのコントラストで定義された、読み取り幅内で最大の長方形の領域です。このモードでは OCR または OMR コンテンツは読み取りません。読み取られた領域は、修正、傾き補正、鮮明化などの処理がさらに施されたうえで、画像として戻されます。
- デフォルト - **DocCap + Required Barcode** - ページ全体の画像を読み取り、フォーム内でサポートされているバーコードを読み取ります。読み取った領域は、実線の枠線またはバックグラウンドのコントラストで定義された、読み取り幅内で最大の長方形の領域です。このモードでは OCR または OMR コンテンツは読み取りません。読み取られた領域は、修正、傾き補正、鮮明化などの処理がさらに施されたうえで、画像として戻されます。
- デフォルト - **TravelDoc.xml** - OCR-B Type A および Type B フォントのパスポートとビザを読み取ります。
- デフォルト - **Unstructured Multi-Line** - 最大 7 行のテキストを読み取ります。
- デフォルト - **Unstructured Single Line** - 1 行のテキストを読み取ります。

RxLogger

RxLogger は、アプリケーションとシステムの測定値を示す総合的な診断ツールです。このツールでは、カスタム プラグインを作成したり、デバイスやアプリケーションの問題を診断したりできます。RxLogger には次の情報が記録されます。CPU 負荷、メモリ負荷、メモリのスナップショット、バッテリー消費、電源の状態、無線ロギング、セルラ ロギング、TCP ダンプ、Bluetooth ロギング、GPS ロギング、LogCat、FTP プッシュ/プル、ANR ダンプなど。生成されたログやファイルはすべてデバイスのフラッシュ ストレージ (内蔵または外付け) に保存されます。

RxLogger の構成

RxLogger は拡張可能なプラグイン アーキテクチャで構築されており、すでに組み込まれている多くのプラグインがパッケージ化されています。RxLogger の構成については、techdocs.zebra.com/rxlogger/ を参照してください。

構成画面を開くには、RxLogger のホーム画面で **[Settings]** (設定) をタッチします。

構成ファイル

RxLogger の構成は、XML ファイルを使用して設定できます。config.xml 構成ファイルは、microSD カード内の RxLogger\config フォルダにあります。USB 接続を使用して、デバイスからホスト コンピュータにファイルをコピーします。構成ファイルを編集したら、デバイスで XML ファイルを置き換えます。ファイルの変更は自動的に検出されるため、RxLogger サービスの停止および再開は必要ありません。

ログの有効化

ログを有効にするには、次の手順に従います。

1. 画面を上からスワイプして  を選択します。
2. **[Start]** (開始) をタッチします。
3.  をタッチします。

ログの無効化

ログを無効にするには、次の手順に従います。

1. 画面を上からスワイプして  を選択します。
2. **[Stop]** (停止) をタッチします。
3.  をタッチします。

ログ ファイルの抽出

1. USB 接続を使用し、デバイスをホスト コンピュータに接続します。
2. エクスプローラを使用して、RxLogger フォルダに移動します。
3. デバイスからホスト コンピュータにファイルをコピーします。
4. ホスト コンピュータからデバイスを切断します。

バックアップ

RxLogger ユーティリティを使用すると、ユーザーはデバイスで RxLogger フォルダの zip ファイルを作成できます。この zip ファイルには、デバイスに保存されているすべての RxLogger ログがデフォルトで含まれます。

バックアップ データを保存するには、 > [BackupNow] (今すぐバックアップ) をタッチします。

RxLogger ユーティリティ

RxLogger ユーティリティは、RxLogger の実行時にデバイスでログを表示するデータ監視アプリケーションです。ログおよび RxLogger ユーティリティ機能には、メイン チャット ヘッドを使用してアクセスします。

メイン チャット ヘッドの開始

メイン チャット ヘッドを開始するには、次の手順に従います。

1. RxLogger を開きます。
2.  > [Toggle Chat Head] (チャットヘッドの切り替え) をタッチします。メイン チャット ヘッドのアイコンが画面に表示されます。
3. メイン チャット ヘッドのアイコンをタッチし、ドラッグして画面上を移動します。

メイン チャット ヘッドの削除

メイン チャット ヘッドのアイコンを削除するには、次の手順に従います。

1. アイコンをタッチしてドラッグします。X の付いた円が表示されます。
2. アイコンを円に移動したら、指を放します。

ログの表示

ログを表示するには、次の手順に従います。

1. メイン チャット ヘッドのアイコンをタッチします。[RxLogger Utility] (RxLogger ユーティリティ) 画面が表示されます。
2. ログをタッチして開きます。ユーザーは複数のログを開いて、それぞれに新しいサブ チャット ヘッドを表示できます。
3. 必要に応じて、左または右にスクロールして、追加のサブ チャット ヘッド アイコンを表示します。
4. サブ チャット ヘッドをタッチすると、ログの内容が表示されます。

サブ チャット ヘッド アイコンの削除

サブ チャット ヘッド アイコンを削除するには、アイコンが消えるまでアイコンを長押しします。

オーバーレイ ビューでのバックアップ

RxLogger ユーティリティを使用すると、ユーザーはデバイスで RxLogger フォルダの zip ファイルを作成できます。この zip ファイルには、デバイスに保存されているすべての RxLogger ログがデフォルトで含まれます。

バックアップ アイコンは、オーバーレイ ビューで常に使用できます。

1.  をタッチします。[Backup] (バックアップ) ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Yes] (はい) をタッチして、バックアップを作成します。

サウンドレコーダ

[Sound Recorder] (サウンドレコーダ) を使用して、音声メッセージを録音します。

録音は microSD カード (取り付けられている場合) または内部ストレージに保存され、[Music] (音楽) アプリケーション (GMS が未搭載のデバイス) または [Play Music] (Play ミュージック) アプリケーション (GMS 搭載のデバイス) で使用できます。

☰ にタッチしてオプションメニューを開きます。

- [File type] (ファイルタイプ) - 録音ファイルのファイルタイプを選択します。
 - AMR
 - 3GPP
 - AAC
 - WAV
 - AMR-W B
 - AMR-WB-3GPP
- [Storage location] (保管場所) - 録音ファイルの場所を選択します。
 - 電話機のストレージ
 - SD カード

データ収集

はじめに

デバイスは以下を使用するデータ収集をサポートしています。

- 内蔵イメージャ
- 内蔵カメラ
- RS507/RS507x ハンズフリー イメージャ
- RS6000 Bluetooth リング スキャナ
- DS3678 デジタル スキャナ
- LI3678 リニア スキャナ
- DS2278 デジタル スキャナ
- DS8178 デジタル スキャナ

イメージング

イメージャは、イメージングの技術を使用してバーコードの画像を撮影し、画像をメモリに保存して、先進のソフトウェア読み取りアルゴリズムを実行して画像からバーコード データを抽出します。2D イメージャ搭載のデバイスは、次の機能を備えています。

- 最も一般的なリニア コード、郵便番号、PDF417 コード、2D マトリックス コードを含む、各種バーコード シンボルの無指向読み取り。
- 容易な読み取り操作を可能にする直感的な高性能半導体レーザー照準機能（十字およびドット照準）。

デジタル カメラ

内蔵カメラ ベースのバーコード スキャン ソリューションを備えたデバイスには、次の機能があります。

- 最も一般的なリニア コード、郵便番号、QR コード、PDF417 コード、2D マトリックス コードを含む、各種バーコード シンボルの無指向読み取り。
- 容易な読み取り操作を可能にする十字レチクル。
- 読み取り幅内の多数のバーコードから特定のバーコードを読み取るピックリスト モード。

このソリューションでは、高度なカメラ技術を使用してバーコードのデジタル画像を撮影し、先進のソフトウェア読み取りアルゴリズムを実行して画像からデータを抽出します。

リニア イメージャ

内蔵リニア イメージャ搭載のデバイスは、次の機能を備えています。

- 最も一般的な 1-D コード タイプを含む、各種バーコード シンボル体系の読み取り。
- 容易な読み取り操作を可能にする直感的な照準機能。

イメージャは、イメージングの技術を使用してバーコードの画像を撮影し、画像をメモリに保存して、先進のソフトウェア読み取りアルゴリズムを実行して画像からバーコード データを抽出します。

動作モード

内蔵イメージャ搭載のデバイスは、次の 2 種類の動作モードをサポートしています。各モードは、スキャン ボタンを押して有効にします。

- **読み取りモード:** このモードでは、デバイスは読み取り幅内にあるバーコードを見つけて読み取ります。スキャン ボタンを押している間、またはバーコードを読み取るまで、イメージャはこのモードのままになります。



注: ピックリスト モードを有効にするには、DataWedge で設定するか、または API コマンドを使用してアプリケーション内で設定します。

- **ピックアップ モード:** このモードでは、デバイスの読み取り幅内に複数のバーコードが存在する場合、選択的にバーコードを読み取れます。選択的に読み取るには、目的のバーコードに照準の十字またはドットを合わせて、そのバーコードのみを読み取ります。この機能は、複数のバーコードが含まれているピックアップや、複数のタイプ (1D または 2D) のバーコードが含まれている製造ラベルや輸送ラベルを読み取るのに適しています。



注: 基本マルチバーコード モードを有効にするには、DataWedge で設定するか、または API コマンドを使用してアプリケーション内で設定します。

- **基本マルチバーコード モード:** このモードでは、デバイスは読み取り幅内にある特定数の一意なバーコードを見つけて読み取ります。スキャン ボタンを押している間、またはすべてのバーコードを読み取るまで、デバイスはこのモードのままになります。内蔵 SE2100 または SE4710 イメージャでのみ使用可能です。
 - デバイスは、プログラムされた数の一意のバーコードをスキャンしようとしています (2 から 10 まで)。
 - 重複バーコード (同じシンボル体系のタイプとデータ) がある場合、重複バーコードの 1 つだけが読み取られ、残りは無視されます。ラベルに 2 つの重複バーコードと別の 2 つの異なるバーコードがある場合、そのラベルから最大 3 つのバーコードが読み取られます。1 つは重複として無視されます。
 - 複数のシンボル体系のバーコードを一緒に取得できます。たとえば、基本マルチバーコード スキャンの指定数量が 4 で、2 つのバーコードがシンボル体系 Code 128、他の 2 つはシンボル体系 Code 39 などが可能です。
 - 指定された数の一意のバーコードがデバイスの最初の読み取り幅内がない場合、デバイスは、デバイスを動かして追加のバーコードを収集するかタイムアウトが発生するまで、データを読み取りません。デバイスの読み取り幅内に、指定された数量よりも多くのバーコードが含まれている場合、デバイスは一意のバーコードが指定された数に達するまでバーコードをランダムに読み取ります。たとえば、数が 2 に設定されていて、8 つのバーコードが読み取り幅内にある場合、デバイスは最初に検出した 2 つの一意のバーコードを読み取り、データをランダムな順番で返します。
 - 基本マルチバーコード モードでは、連結バーコードはサポートされていません。

RS507/RS507x ハンズフリー イメージャ

RS507 および RS507x ハンズフリー イメージャは、一次元と二次元のバーコード シンボル体系のウェアラブル バーコード スキャン ソリューションです。このスキャナは、デバイスへの Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイス (HID) 接続をサポートします。

図 47 RS507/RS507x ハンズフリー イメージャ

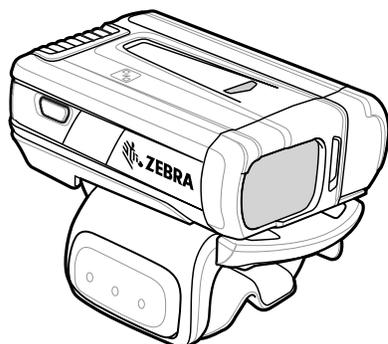


詳細については、『RS507/RS507x Hands-free Imager Product Reference Guide』を参照してください。

RS6000 Bluetooth リング スキャナ

RS6000 Bluetooth リング スキャナは、一次元と二次元のバーコード シンボル体系向けのウェアラブル バーコード スキャン ソリューションです。

図 48 RS6000 Bluetooth リング スキャナ

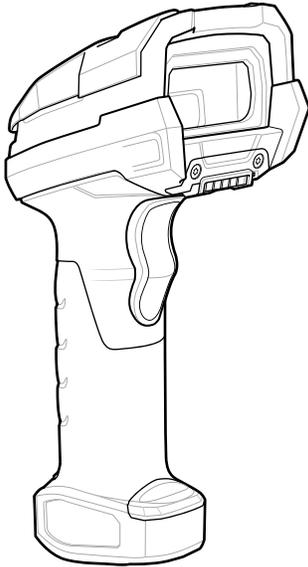


詳細については、『RS6000 Bluetooth Ring Scanner Product Reference Guide』を参照してください。

DS3678 デジタル スキャナ

コードレス DS3678 は、一次元と二次元のバーコードの高度な全方向スキャン性能を備え、軽量かつ高度な人間工学に基づいて設計されています。

図 49 DS3678 デジタル スキャナ

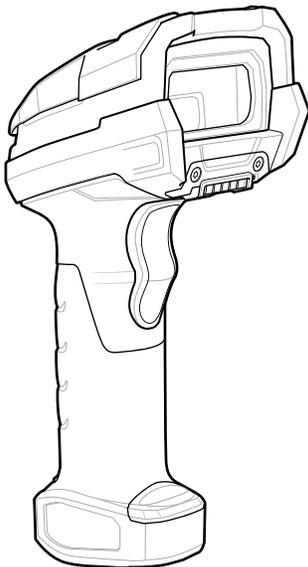


詳細については、『DS36X8 Digital Scanner Product Reference Guide』を参照してください。

LI3678 リニア スキャナ

コードレス LI3678 は、長時間にわたって簡単かつ快適に利用できる、優れたスキャン性能と高度な人間工学を統合した軽量スキャナです。

図 50 LI3678 リニア スキャナ



詳細については、『LI36X8 Linear Scanner Product Reference Guide』を参照してください。

DS2278 デジタル スキャナ

DS2278 デジタル イメージャ スキャナは、1D と 2D の両方のバーコードをスキャンできる、充実した性能と機能を備えているスキャナです。

図 51 DS2278 デジタル スキャナ



詳細については、『DS2278 デジタル スキャナ プロダクト リファレンス ガイド』を参照してください。

スキャン操作に関する考慮事項

通常、スキャン操作は、照準合わせ、スキャン、読み取りという単純な操作で、何度か練習をすればすぐに習得可能ですが、最適なスキャン効率を実現するためにも次のことを考慮してください。

- **範囲:** スキャナは、特定の読み取り幅 (バーコードからの最小距離と最大距離の範囲内) にある場合に最適な読み取りを行います。この範囲は、バーコードの密度とスキャン デバイスの光学系によって異なります。すばやく連続して読み取るには範囲内でスキャンします。近すぎたり遠すぎたりすると、正しく読み取れません。スキャナを近づけたり遠ざけたりして、スキャンするバーコードの適切な読み取り幅を見つけてください。
- **角度:** スキャン角度は、すばやく読み取るために重要です。照明/フラッシュがイメージャに直接反射する場合、正反射により照度が上がり、イメージャが読み取れなくなる可能性があります。これを回避するには、光線が正反射しないような角度でバーコードをスキャンしてください。正しく読み取るためにスキャナは散乱した反射光線を収集する必要があるため、あまりに鋭角な角度ではスキャンしないでください。少し練習すれば、適切な許容範囲を確認できます。
- 大きなシンボルの場合、デバイスを離してください。
- バーの間隔が狭いシンボルの場合、デバイスを近づけてください。



注: スキャン手順は、アプリとデバイスの構成によって異なります。アプリによっては、スキャン手順が上記とは異なる場合があります。

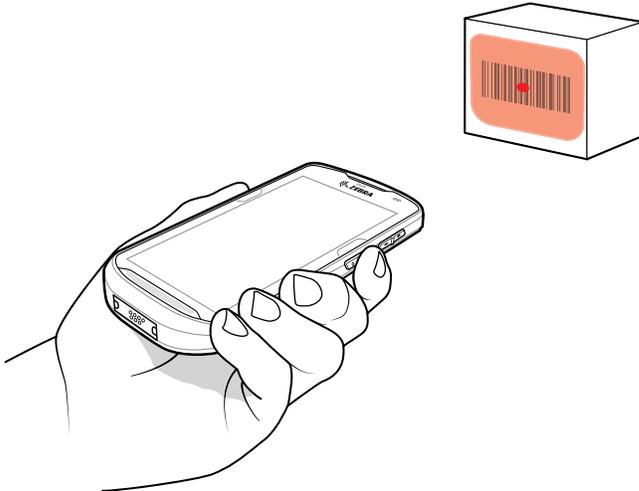
内部イメージャでのスキャン

バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。このデバイスには、ユーザーがイメージャでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリが含まれています。

内部イメージャでスキャンするには、次の手順に従います。

1. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
2. デバイスの上部にある出カウィンドウをバーコードに向けます。

図 52 イメージャでのスキャン



3. スキャン ボタンを長押しします。
照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。



注: デバイスがピックリスト モードの場合、十字またはドットの照準がバーコードに当たるまでイメージャはバーコードを読み取りません。

4. 照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

図 53 照準パターン

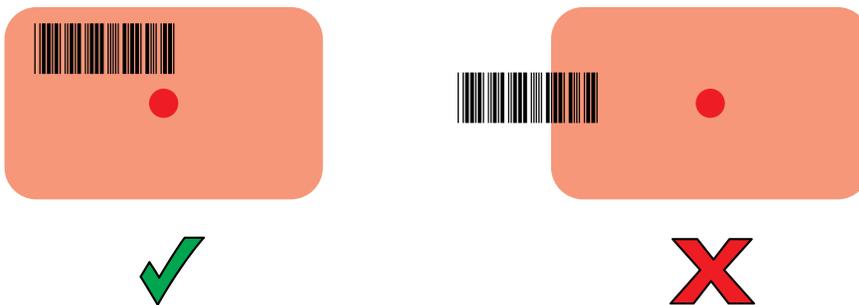
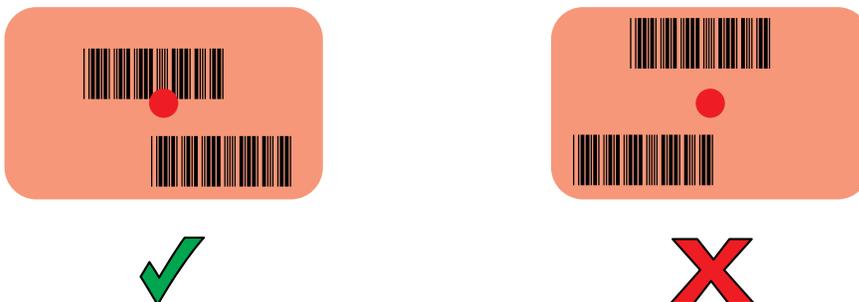


図 54 ピックリスト モード: 複数のバーコードがある場合



5. デフォルト設定の場合、データ収集 LED が緑色で点灯してビープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。

6. スキャン ボタンを放します。



注: イメージャの読み取りは、通常、瞬時に行われます。精度の悪いバーコードや読み取りづらいバーコードの場合、スキャン ボタンを押し続けると、デバイスがデジタル写真 (画像) を撮影する手順を繰り返します。

7. バーコード コンテンツ データが、テキスト フィールドに表示されます。

内蔵カメラによるスキャン

バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。このデバイスには、ユーザーがイメージャでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリが含まれています。

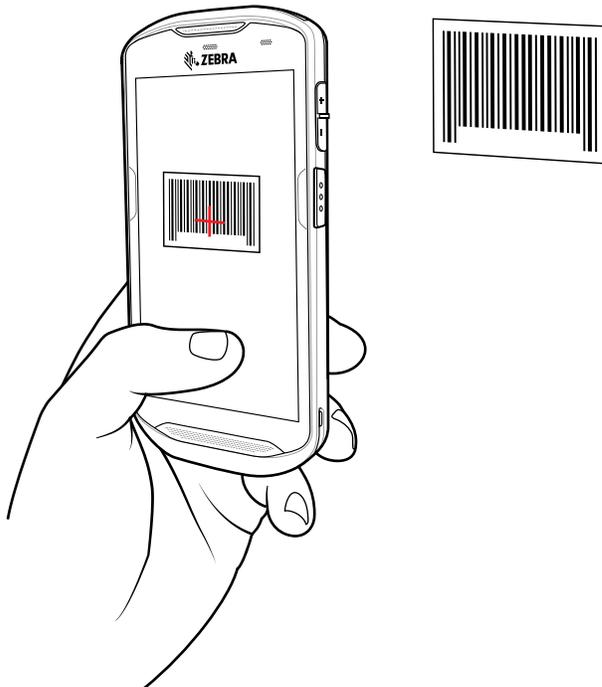
内蔵カメラでスキャンするには、次の手順に従います。



注: 暗い照明下でバーコード データを読み取る場合、DataWedge アプリケーションで、[Illumination mode] (照明モード) をオンにします。

1. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
2. デバイスの背面にあるカメラの出カウインドウをバーコードに向けます。

図 55 カメラのスキャン



3. スキャン ボタンを長押しします。デフォルトで、プレビュー ウィンドウが画面に表示されます。



注: ピックリスト モードが有効になっているときに、バーコードが画面の赤い照準の中央に来るようにデバイスを移動します。

4. バーコードが画面に表示されるまでデバイスを移動します。
5. 読み取り LED が緑色で点灯してピープ音が鳴り、デバイスが振動して、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します (デフォルト設定の場合)。
6. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

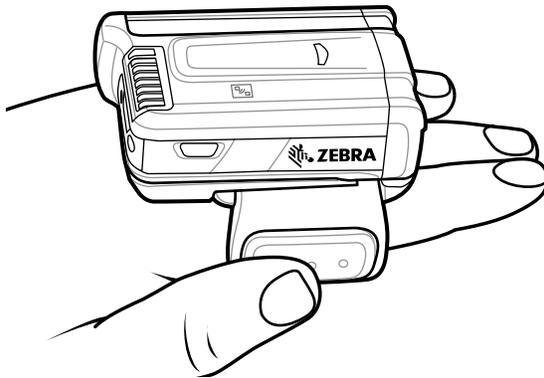
RS6000 Bluetooth リング スキャナでのスキャン

バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。Zebra DataWedge アプリを搭載しているデバイスでは、スキャナでバーコードデータを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできます。

RS6000 でスキャンするには、次の手順に従います。

1. RS6000 をデバイスとペアリングします。詳細については、「Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする」を参照してください。
2. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
3. RS6000 をバーコードに向けます。

図 56 RS6000 を使用したバーコードのスキャン



4. トリガを押したままにします。

照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

RS6000 LED が緑色に点灯してピープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。RS6000 がピックリスト モードの場合、十字の照準の中心がバーコードに当たるまで RS6000 はバーコードを読み取りません。

図 57 RS6000 の照準パターン

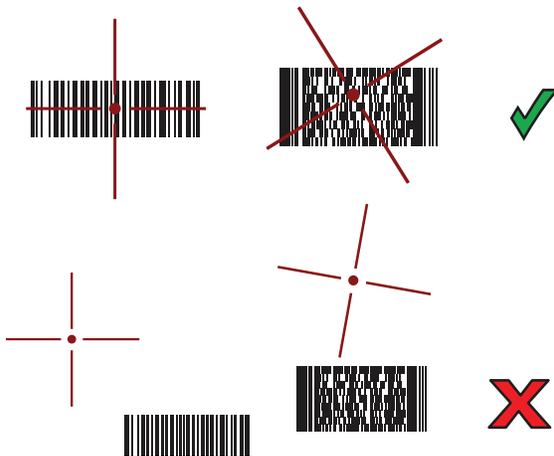


図 58 RS6000 ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



- 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

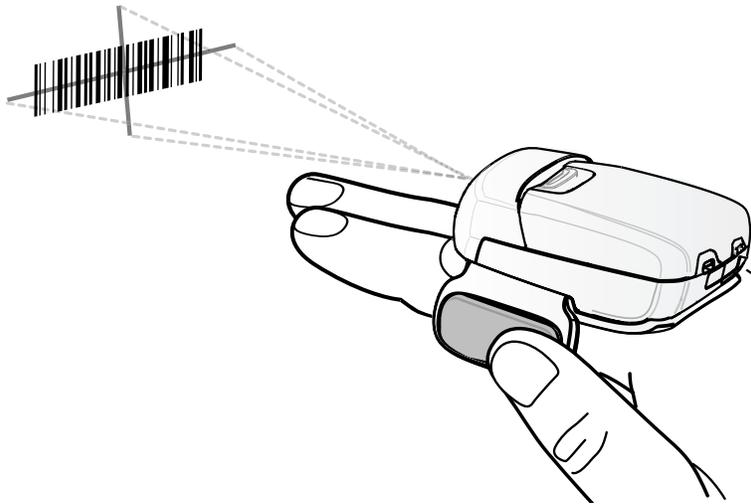
RS507/RS507X ハンズフリー イメージャでのスキャン

バーコードを読み取るには、スキャン対応アプリが必要です。デバイスには、スキャナでバーコード データを読み取ったりバーコード コンテンツを表示したりできる、DataWedge アプリがあります。

RS507/RS507X でスキャンするには、次の手順に従います。

- RS507/RS507X をデバイスとペアリングします。詳細については、「Simple Serial Interface を使用してペアリングする」または「Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする」を参照してください。
- アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
- RS507/RS507X をバーコードに向けます。

図 59 RS507/RS507X を使用したバーコードのスキャン



- トリガを押したままにします。

照準を合わせるための赤色のレーザー照準パターンがオンになります。照準パターンの十字の領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

RS507/RS507X の LED が緑色に点灯してピープ音が鳴り、バーコードの読み取りが正常に完了したことを示します。RS507/RS507X がピックリスト モードの場合、十字の照準の中心がバーコードに当たるまで RS507/RS507X はバーコードを読み取りません。

図 60 RS507/RS507X の照準パターン

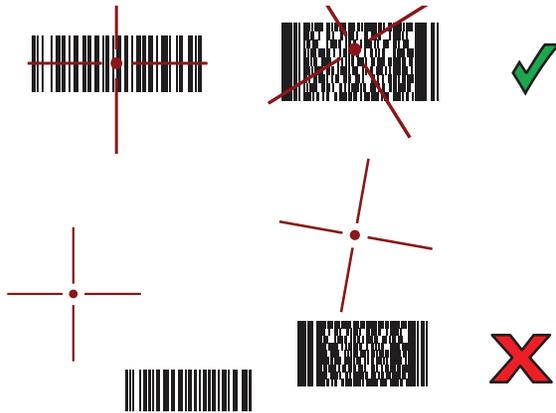


図 61 RS507/RS507X ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



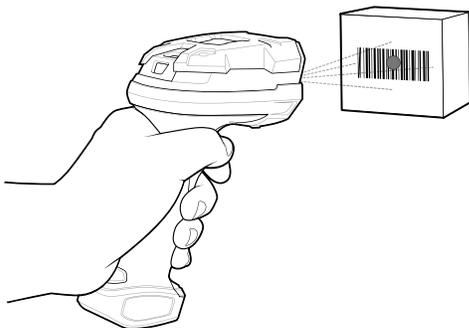
5. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

DS3678 Bluetooth スキャナでのスキャン

DS3678 でスキャンするには、次の手順に従います。

1. スキャナをデバイスとペアリングします。詳細については、「Bluetooth スキャナのペアリング」を参照してください。
2. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
3. スキャナをバーコードに向けます。

図 62 バーコード スキャン (DS3678 を表示)



4. トリガを押したままにします。

照準パターンの領域にバーコードが納まっていることを確認します。照準ドットにより、明るい照明条件でもよく見えます。

図 63 DS3678 の照準パターン

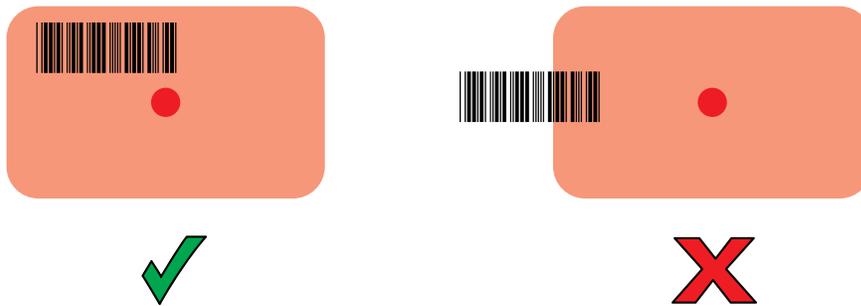
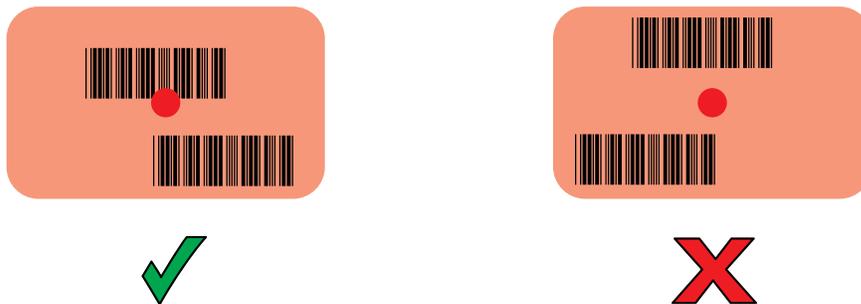


図 64 DS3678 ピックリスト モード: 複数のバーコードが照準パターン内にある場合



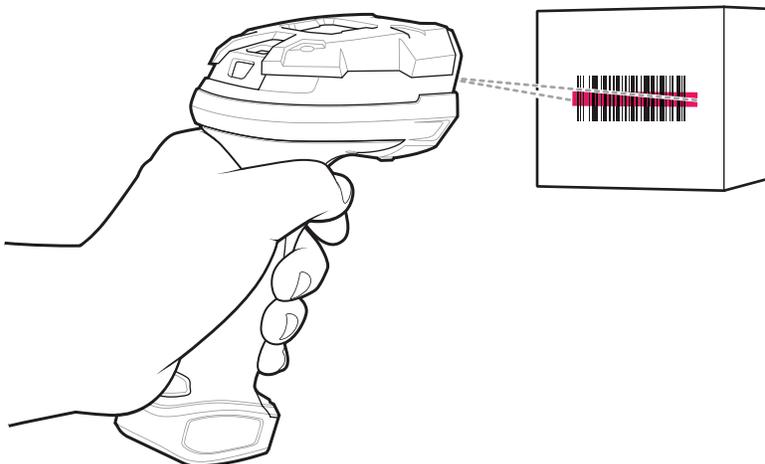
5. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

LI3678 リニア イメージャでのスキャン

LI3678 でスキャンするには、次の手順に従います。

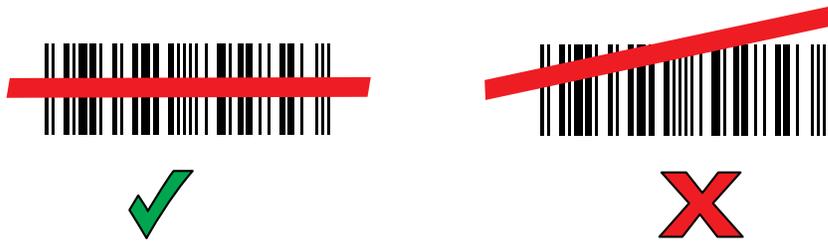
1. LI3678 をデバイスとペアリングします。詳細については、97 ページの「Bluetooth スキャナのペアリング」を参照してください。
2. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
3. LI3678 をバーコードに向けます。

図 65 LI3678 を使用したバーコードのスキャン



4. トリガを押したままにします。
5. 照準パターンがバーコードを覆っていることを確認してください。

図 66 LI3678-SR の照準パターン



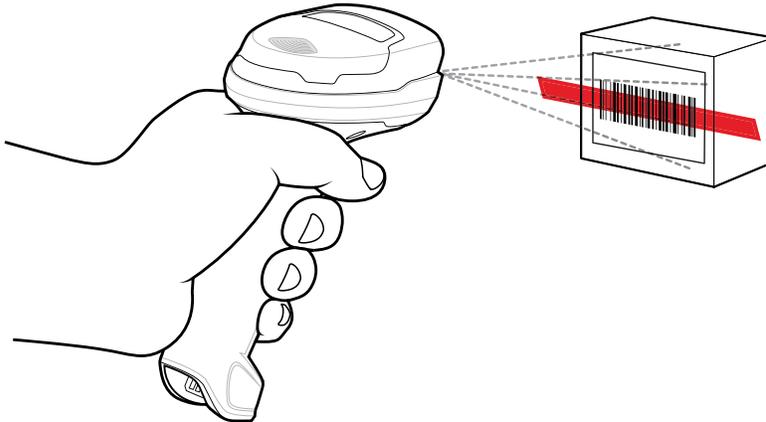
6. 読み取りが成功すると、スキャナはビーブ音を鳴らし、LED が 1 回緑色に点滅します。
7. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

DS2278 デジタル スキャナでのスキャン

DS2278 でスキャンするには、次の手順に従います。

1. DS2278 をデバイスとペアリングします。詳細については、97 ページの「Bluetooth スキャナのペアリング」を参照してください。
2. アプリがデバイスで開かれていることと、テキスト フィールドがフォーカスされている (テキスト カーソルがテキスト フィールドにある) ことを確認します。
3. スキャナをバーコードに向けます。

図 67 DS2278 を使用したバーコードのスキャン



4. トリガを押したままにします。
5. 照準パターンがバーコードを覆っていることを確認してください。

図 68 DS2278 の照準パターン



6. 読み取りに成功すると、スキャナはビーブ音を鳴らし、LED が点滅し、スキャン ラインがオフになります。
7. 読み取られたデータがテキスト フィールドに表示されます。

RS507/RS507X/RS6000 ハンズフリー イメージャのペアリング

以下のいずれかの方法により、RS507/RS507X または RS6000 イメージャをデバイスに接続します。

- 近距離無線通信 (NFC) (RS6000 のみ)
- Simple Serial Interface (SSI)
- Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイス (HID) モード

Near Field Communication を使用してペアリングする

デバイスでは、NFC を使用して RS6000 とペアリングできます。



注: RS6000 のみ。

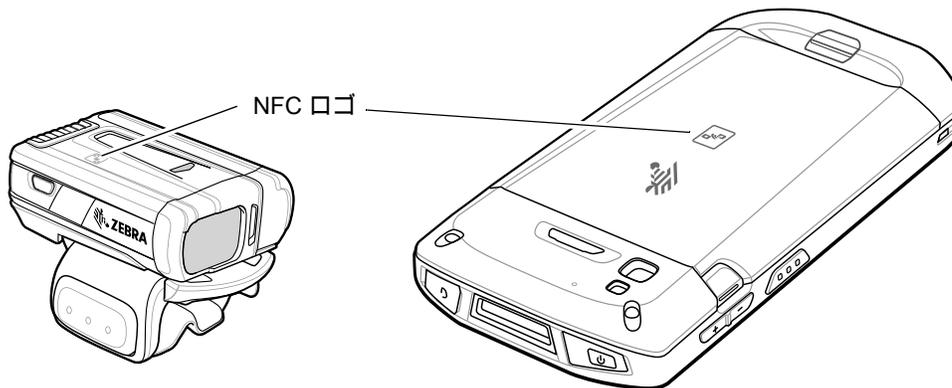
NFC を使用してペアリングするには、次の手順に従います。

1. RS6000 が SSI モードになっていることを確認します。詳細については、『RS6000 User Guide』を参照してください。
2. NFC がデバイスで有効になっていることを確認します。
3. RS6000 の NFC アイコンとデバイスの NFC アイコンを合わせます。

RS6000 がデバイスとの接続を確立しようとしていることを示す、青色の状態 LED が点滅します。接続が確立されると、状態 LED が消灯し、RS6000 で低いビープ音と高いビープ音が続けて鳴ります。

通知がデバイスの画面に表示され、 アイコンがステータスバーに表示されます。

図 69 NFC アンテナを合わせる



Near Field Communication を使用して HID モードでペアリングする

デバイスは、NFC を使用して RS6000 と HID モードでペアリングできます。



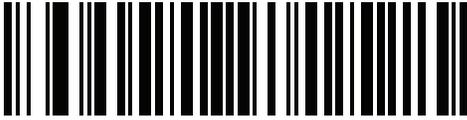
注: RS6000 のみ。

NFC を使用して HID モードでペアリングするには、次の手順に従います。

1. NFC がデバイスで有効になっていることを確認します。
2. デバイスで Bluetooth が有効になっていることを確認します。
3. RS6000 をヒューマン インタフェース デバイス (HID) モードに設定します。RS6000 がすでに HID モードになっている場合は、手順 4 に進みます。

- a. バッテリーを RS6000 から取り出します。
- b. 復元キーを長押しします。
- c. バッテリーを RS6000 に取り付けます。
- d. チャージ音が鳴り、スキャン LED が緑色に点滅するまで、復元キーを約 5 秒間押し続けます。
- e. 以下のバーコードをスキャンして、RS6000 を HID モードに設定します。

図 70 RS6000 Bluetooth HID バーコード

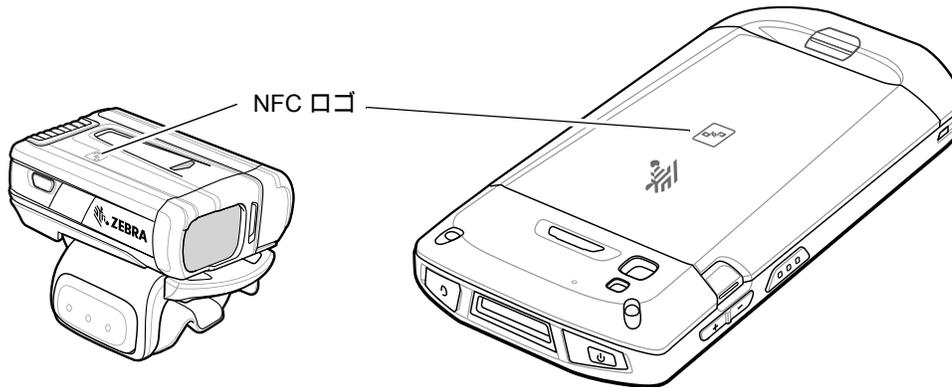


4. バッテリーを RS6000 から取り出します。
5. バッテリーを RS6000 に再度取り付けます。
6. RS6000 の NFC アイコンとデバイスの NFC アイコンを合わせます。

RS6000 がデバイスとの接続を確立しようとしていることを示す、青色の状態 LED が点滅します。接続が確立されると、状態 LED が消灯し、RS6000 で低いビープ音と高いビープ音が続けて鳴ります。

通知がデバイスの画面に表示され、**A** アイコンがステータスバーに表示されます。

図 71 NFC アンテナを合わせる

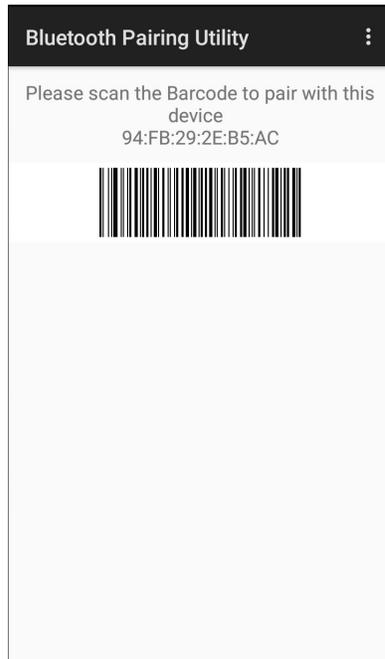


Simple Serial Interface を使用してペアリングする

SSI を使用して RS507/RS507X または RS6000 をデバイスとペアリングするには、次の手順に従います。

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。

図 72 [Bluetooth Pairing Utility] (Bluetooth ペアリング ユーティリティ)



- RS507/RS507X または RS6000 を使用して、画面のバーコードをスキャンします。

RS507/RS507X または RS6000 から、高いビープ音と低いビープ音が交互に鳴ります。スキャン LED が緑色に点滅し、RS507/RS507X または RS6000 がデバイスとの接続を確立しようとしていることが示されます。接続が確立されると、スキャン LED が消え、RS507/RS507X または RS6000 から、低いビープ音と高いビープ音が続けて鳴ります。

通知が [Notification] (通知) パネルに表示され、🔊 アイコンがステータス バーに表示されます。

Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする

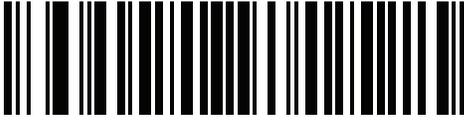
ヒューマン インタフェース デバイス (HID) を使用して RS507/RS507X または RS6000 をデバイスとペアリングするには、次の手順に従います。

- 両方のデバイスで Bluetooth が有効になっていることを確認します。
- 検出する Bluetooth デバイスが検出可能なモードになっていることを確認します。
- 2 つのデバイスの距離が 10m (32.8 フィート) 以上離れていないことを確認します。
- RS507/RS507X または RS6000 を HID モードに設定します。RS507/RS507X または RS6000 がすでに HID モードになっている場合は、手順 5 に進みます。
 - バッテリーを RS507/RS507X または RS6000 から取り出します。
 - 復元キーを長押しします。
 - バッテリーを RS507/RS507X または RS6000 に取り付けます。
 - チャープ音が鳴り、スキャン LED が緑色に点滅するまで、復元キーを約 5 秒間押し続けます。
 - 下記のバーコードをスキャンして、RS507/RS507X または RS6000 を HID モードに設定します。

図 73 RS507 Bluetooth HID バーコード



図 74 RS6000 Bluetooth HID バーコード



5. バッテリーを RS507/RS507X または RS6000 から取り出します。
6. バッテリーを RS507/RS507X または RS6000 に再度取り付けます。
7. ステータス バーから下にスワイプしてクイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
8. **[Bluetooth]** をタッチします。
9. **[Pair new device]** (新しいデバイスをペアリング) をタッチします。エリア内で検出可能な Bluetooth デバイスの検索が開始され、**[Available devices]** (使用可能なデバイス) にデバイスのリストが表示されます。
10. リストをスクロールし、RS507/RS507X または RS6000 を選択します。

デバイスが RS507/RS507X または RS6000 に接続されると、デバイス名の下に **[Connected]** (接続済み) と表示されます。Bluetooth デバイスが **[Paired devices]** (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。

通知が **[Notifications]** (通知) パネルに表示され、 アイコンがステータス バーに表示されます。

Bluetooth スキャナのペアリング

次のいずれかの方法を使用して、スキャナをデバイスに接続します。

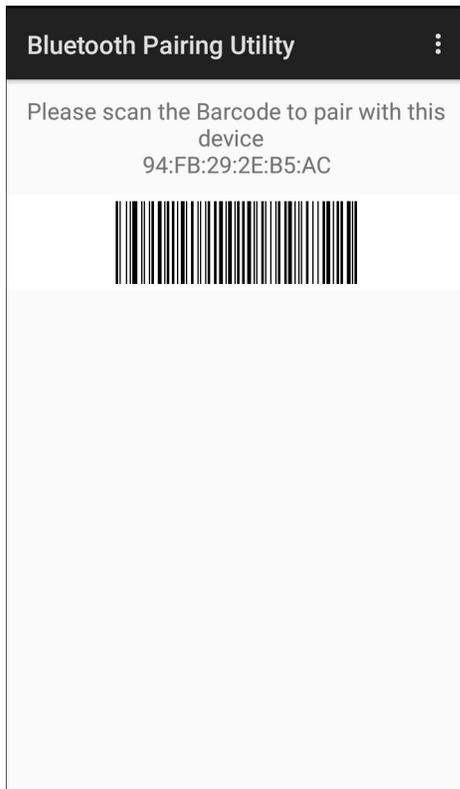
- Simple Serial Interface (SSI) モード
- Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイス (HID) モード

Simple Serial Interface を使用してペアリングする

SSI を使用してスキャナをデバイスとペアリングするには、以下の手順を実行します。

1. 2つのデバイスの距離が 10m (32.8 フィート) 以上離れていないことを確認します。
2. スキャナにバッテリーを取り付けます。
3. デバイスのホーム画面で、画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。

図 75 [Bluetooth Pairing Utility] (Bluetooth ペアリング ユーティリティ)



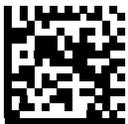
4. スキャナを使用して、画面でバーコードをスキャンします。
スキャナで高いビープ音と低いビープ音が交互に鳴ります。スキャン LED が緑色に点滅し、スキャナがデバイスとの接続を確立しようとしていることを示します。接続が確立されると、スキャン LED が消灯し、スキャナで、低いビープ音と高いビープ音が続けて 1 回鳴ります。
5. デバイスで  をタッチします。

Bluetooth ヒューマン インタフェース デバイスを使用してペアリングする

HID を使用してスキャナをデバイスとペアリングするには、以下の手順を実行します。

1. バッテリーをスキャナから取り外します。
2. バッテリーを交換します。
3. スキャナを再起動したら、以下のバーコードをスキャンして、スキャナを HID モードに設定します。

図 76 Bluetooth HID クラシック バーコード



4. デバイスで、ステータス バーから下にスワイプしてクイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
5. **[Bluetooth]** をタッチします。
6. **[Pair new device] (新しいデバイスをペアリング)** をタッチします。エリア内で検出可能な Bluetooth デバイスの検索が開始され、**[Available devices] (使用可能なデバイス)** にデバイスのリストが表示されます。

7. リストをスクロールして XXXXX xxxxxx (XXXXX はスキャナ、xxxxxx はシリアル番号) を選択します。

デバイスがスキャナに接続されると、デバイス名の下に **[Connected]** (接続済み) が表示され、スキャナでビープ音が 1 回鳴ります。Bluetooth デバイスが **[Paired devices]** (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。

DataWedge

DataWedge は、コードを作成せずに、アプリケーションに高度なバーコード スキャン機能を追加するユーティリティです。これはバックグラウンドで実行され、内蔵バーコード スキャナへのインターフェースを処理します。収集されたバーコード データはキーストロークに変換され、キーパッドで入力したかのように、目的のアプリケーションに送信されます。

DataWedge を構成するには、techdocs.zebra.com/datawedge/ を参照してください。

DataWedge を有効にする

1. ホーム画面の一番下から上にスワイプし、 をタッチします。
2.  > [Settings] (設定) の順にタッチします。
3. [DataWedge enabled] (DataWedge の有効化) チェックボックスをタッチします。青色のチェックマークがチェックボックスに表示され、DataWedge が有効になったことを示します。
4. をタッチします。

DataWedge を無効にする

1.  をタッチします。
2. [Settings] (設定) をタッチします。
3. [DataWedge enabled] (DataWedge の有効化) をタッチします。

チェックボックスから青色のチェックが消え、DataWedge が無効になったことを示します。

サポート対象デコーダ



注: DataWedge では、以下にリストされたデコーダがサポートされていますが、全デコーダがこのデバイスで検証されたわけではありません。

表 13 サポート対象デコーダ

デコーダ	カメラ	内部イメージャ SE4710	RS507/RS507X	RS6000	DS2278	DS3678	LI3678
Australian Postal	O	O	O	O	O	O	--
Aztec	X	X	X	X	X	X	--
Canadian Postal	O	O	--	O	--	--	--

表 13 サポート対象デコーダ (続き)

デコーダ	カメラ	内部イメージジャ SE4710	RS507/RS507X	RS6000	DS2278	DS3678	LI3678
Chinese 2 of 5	O	O	O	O	O	O	O
Codabar	X	X	X	X	X	X	X
Code 11	O	O	O	O	O	O	O
Code 128	X	X	X	X	X	X	X
Code 39	X	X	X	X	X	X	X
Code 93	O	O	O	O	O	O	O
Composite AB	O	O	O	O	O	O	--
Composite C	O	O	O	O	O	O	--
Discrete 2 of 5	O	O	O	O	O	O	O
DataMatrix	X	X	X	X	X	X	--
Dutch Postal	O	O	O	O	O	O	--
DotCode	X	O	O	O	O	O	O
EAN13	X	X	X	X	X	X	X
EAN8	X	X	X	X	X	X	X
GS1 DataBar	X	X	X	X	X	X	X
GS1 DataBar Expanded	X	X	X	X	X	X	X
GS1 DataBar Limited	O	O	O	O	O	O	O
GS1 DataMatrix	O	O	--	O	O	O	--
GS1 QRCode	O	O	--	O	O	O	--
HAN XIN	O	O	--	O	O	O	--
Interleaved 2 of 5	O	O	O	O	O	O	O
Japanese Postal	O	O	O	O	O	O	--
Korean 3 of 5	O	O	O	O	O	O	O
MAIL MARK	X	X	--	X	X	X	--
Matrix 2 of 5	O	O	O	O	O	O	O
MaxiCode	X	X	X	X	X	X	--

表 13 サポート対象デコーダ (続き)

デコーダ	カメラ	内部イメージャ SE4710	RS507/RS507X	RS6000	DS2278	DS3678	LI3678
MicroPDF	○	○	○	○	○	○	--
MicroQR	○	○	○	○	○	○	--
MSI	○	○	○	○	○	○	○
PDF417	X	X	X	X	X	X	--
QR Code	X	X	X	X	X	X	--
Decoder Signature	○	○	○	○	○	--	--
TLC 39	○	○	○	○	○	○	○
Trioptic 39	○	○	○	○	○	○	○
UK Postal	○	○	○	○	○	○	--
UPCA	X	X	X	X	X	X	X
UPCE0	X	X	X	X	X	X	X
UPCE1	○	○	○	○	○	○	○
US4state	○	○	○	○	○	○	--
US4state FICS	○	○	○	○	○	○	--
US Planet	○	○	○	○	○	○	--
US Postnet	○	○	○	○	○	○	--

◀ をタッチして、前の画面に戻ります。

無線

このセクションでは、次の無線機能について説明します。

- 無線 LAN (WLAN)
- Bluetooth
- 近距離無線通信 (NFC)
- キャスト

[Settings] (設定) へのアクセス

次のいずれかの方法で [Settings] (設定) にアクセスします。

- ホーム画面の一番上から 2 本の指で下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
- ホーム画面の一番上から下にダブルスワイプして、クイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
- ホーム画面の一番下から上にスワイプしてアプリを開き、 の [Settings] (設定) をタッチします。

無線 LAN

無線 LAN (WLAN) を使用すると、デバイスで屋内でも無線で通信できるようになります。WLAN でデバイスを使用するには、WLAN を実行するために必要なハードウェア (インフラストラクチャとも呼ばれる) を施設に設定する必要があります。この通信を有効にするには、インフラストラクチャとデバイスを正しく設定する必要があります。

インフラストラクチャの設定方法については、インフラストラクチャ (アクセス ポイント (AP)、アクセス ポート、スイッチ、Radius サーバーなど) に付属しているマニュアルを参照してください。

選択した WLAN セキュリティ方式を適用するようにインフラストラクチャを設定したら、**[Wireless & networks] (無線とネットワーク)** 設定を使用して、そのセキュリティ方式に適合するようにデバイスを設定します。

デバイスは、次の WLAN セキュリティ オプションをサポートします。

- [Open] (オープン)
- Wireless Equivalent Privacy (WEP)
- Wi-Fi Protected Access (WPA)/WPA2 Personal (PSK)
- Extensible Authentication Protocol (EAP)
 - LEAP

- Protected Extensible Authentication Protocol (PEAP) - MSCHAPV2 と GTC 認証が使用可能です
- Transport Layer Security (TLS)
- TTLS - Password Authentication Protocol (PAP)、MSCHAP、および MSCHAPv2 認証が使用可能です。
- EAP-FAST - MSCHAPv2 および GTC 認証が使用可能です。
- PWD

ステータス バーには、Wi-Fi ネットワークが利用できるかどうかを示すアイコンと、Wi-Fi の状態を示すアイコンが表示されます。



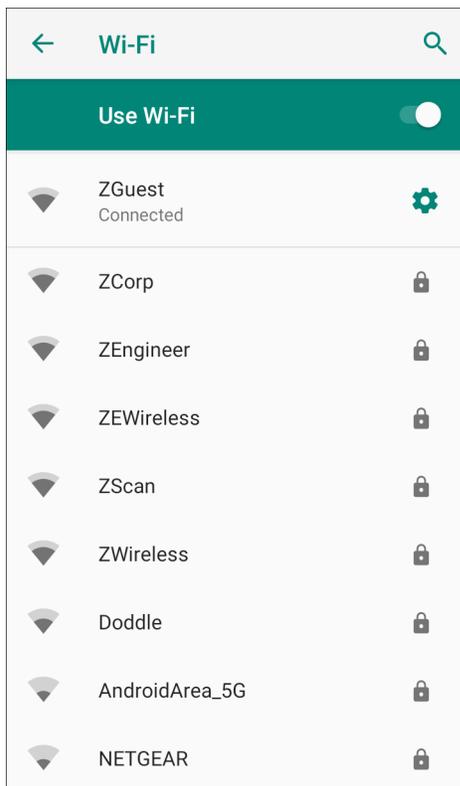
注: バッテリーの寿命を延ばすには、Wi-Fi を使用しないときはオフにします。

Wi-Fi ネットワークへの接続

Wi-Fi ネットワークに接続するには、次の手順に従います。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Wi-Fi]** にタッチすると、**[Wi-Fi]** 画面が開きます。デバイスはエリア内の WLAN を検索してリスト表示します。

図 77 [Wi-Fi] 画面



3. リストをスクロールし、使用する WLAN ネットワークを選択します。

4. 公開ネットワークの場合、プロファイルを一度タッチするか長押しして **[Connect to network]** (ネットワークに接続) を選択します。セキュアネットワークの場合、要求されるパスワードまたはその他の認証情報を入力してから、**[Connect]** (接続) をタッチします。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

デバイスは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) プロトコルを使用してネットワークからネットワークアドレスなどの必要な情報を取得します。固定インターネットプロトコル (IP) アドレスを使用するようにデバイスを設定する方法の詳細については、デバイスの『Integrator Guide』を参照してください。

5. Wi-Fi の設定フィールドに、**[Connected]** (接続済み) が表示され、デバイスが WLAN に接続されていることが示されます。

Wi-Fi ネットワークの削除

認識または接続されているネットワークを削除するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Network & Internet]** (ネットワークとインターネット) > **[Wi-Fi]** の順にタッチします。
3. リストの下部までスクロールして、**[Saved networks]** (保存済みネットワーク) をタッチします。
4. ネットワーク名をタッチします。
5. ダイアログ ボックスで、**[FORGET]** (消去) をタッチします。
6. をタッチします。

WLAN の設定

このセクションでは、Wi-Fi 設定の構成に関する情報を提供します。

セキュリティ保護された Wi-Fi ネットワークの設定

Wi-Fi ネットワークを設定するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Network & Internet]** (ネットワーク & インターネット) > **[Wi-Fi]** をタッチします。
3. スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドします。
4. エリア内に WLAN があるか検索が開始され、画面にリストが表示されます。
5. リストをスクロールし、使用する WLAN ネットワークを選択します。
6. 必要なネットワークをタッチします。ネットワークセキュリティが **[Open]** (オープン) の場合、デバイスは自動的にネットワークに接続されます。その他すべてのネットワークセキュリティについては、ダイアログ ボックスが表示されます。
7. ネットワークセキュリティが **[WEP]** または **[WPA/WPS2 PSK]** の場合、必要なパスワードを入力し、**[Connect]** (接続) をタッチします。

8. ネットワーク セキュリティが [802.1x EAP] の場合は、次の手順に従います。
 - **[EAP method] (EAP 方式)** ドロップダウン リストをタッチして、**[PEAP]**、**[TLS]**、**[TTLS]**、**[PWD]**、**[LEAP]** のいずれかを選択します。
 - **[Phase 2 authentication] (フェーズ 2 認証)** ドロップダウン リストをタッチし、認証方法を選択します。
 - 必要に応じて、**[CA certificate] (CA 証明書)** をタッチし、認証局 (CA) 証明書を選択します。注: 証明書は、**[Security] (セキュリティ)** 設定を使用してインストールします。
 - 必要に応じて、**[User certificate] (ユーザー証明書)** をタッチし、ユーザー証明書を選択します。注: ユーザー証明書は、**[Location] (場所)** および **[Security] (セキュリティ)** 設定を使用してインストールします。
 - 必要に応じて、**[Identity] (ID)** テキスト ボックスにユーザー名の認証情報を入力します。
 - 必要に応じて、**[Anonymous identity] (匿名 ID)** テキスト ボックスに匿名 ID ユーザー名を入力します。
 - 必要に応じて、**[Password] (パスワード)** テキスト ボックスに指定された ID のパスワードを入力します。



注: デフォルトで、ネットワーク プロキシは **[None] (なし)** に設定され、IP 設定は **[DHCP]** に設定されます。プロキシサーバーへの接続を設定する場合は、「プロキシサーバーの設定」を参照してください。静的 IP アドレスを使用するようにデバイスを設定する場合は、「静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定」を参照してください。

9. **[Connect] (接続)** をタッチします。
10. をタッチします。

手動での Wi-Fi ネットワークの追加

ネットワークがその名前 (SSID) をブロードキャストしない場合、またはエリア外にいるときに Wi-Fi ネットワークを追加するには、手動で Wi-Fi ネットワークを追加します。

1. **[Settings] (設定)** に移動します。
2. **[Network & Internet] (ネットワーク & インターネット)** > **[Wi-Fi]** をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを **[On] (オン)** の位置にスライドさせます。
4. リストの下部までスクロールして、**[Add network] (ネットワークの追加)** を選択します。
5. **[Network name] (ネットワーク名)** テキスト ボックスで、Wi-Fi ネットワーク名を入力します。
6. **[Security] (セキュリティ)** ドロップダウン リストで、セキュリティの種類を次のいずれかに設定します。
 - **[None] (なし)**
 - **WEP[WEP]**
 - **WPA/WPA2 PSK**
 - **802.1x EAP**
7. ネットワーク キュリティが **[None] (なし)** の場合、**[Save] (保存)** をタッチします。
8. ネットワーク セキュリティが **[WEP]** または **[WPA/WPA2 PSK]** の場合、必要なパスワードを入力し、**[Save] (保存)** をタッチします。

9. ネットワーク セキュリティが [802.1x EAP] の場合は、次の手順に従います。

- [EAP method] (EAP 方式) ドロップダウン リストをタッチして、[PEAP]、[TLS]、[TTLS]、[PWD]、[LEAP] のいずれかを選択します。
- [Phase 2 authentication] (フェーズ 2 認証) ドロップダウン リストをタッチし、認証方法を選択します。
- 必要に応じて、[CA certificate] (CA 証明書) をタッチし、認証局 (CA) 証明書を選択します。注: 証明書は、[Security] (セキュリティ) 設定を使用してインストールします。
- 必要に応じて、[User certificate] (ユーザー証明書) をタッチし、ユーザー証明書を選択します。注: ユーザー証明書は、[Security] (セキュリティ) 設定を使用してインストールします。
- 必要に応じて、[Identity] (ID) テキスト ボックスにユーザー名の認証情報を入力します。
- 必要に応じて、[Anonymous identity] (匿名 ID) テキスト ボックスに匿名 ID ユーザー名を入力します。
- 必要に応じて、[Password] (パスワード) テキスト ボックスに指定された ID のパスワードを入力します。



注: デフォルトで、ネットワーク プロキシは [None] (なし) に設定され、IP 設定は [DHCP] に設定されます。プロキシ サーバーへの接続を設定する場合は、「プロキシ サーバーの設定」を参照してください。静的 IP アドレスを使用するようにはデバイスを設定する場合は、「静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定」を参照してください。

10. [Save] (保存) をタッチします。保存したネットワークに接続するには、保存したネットワークをタッチしてその状態を維持し、[Connect to network] (ネットワークに接続) を選択します。

11. をタッチします。

プロキシ サーバーの設定

プロキシ サーバーは、他のサーバーのリソースを探しているクライアントからの要求に対して仲介役として動作するサーバーです。クライアントは、プロキシ サーバーに接続し、別のサーバーから利用できる、ファイル、接続、Web ページ、またはその他のリソースなどのサービスを要求します。プロキシ サーバーは、フィルタリングのルールに従って、要求を評価します。たとえば、IP アドレスまたはプロトコルによってトラフィックをフィルタできます。フィルタにより要求が検証された場合、プロキシは、該当サーバーに接続し、クライアントに代わってサービスを要求することにより、リソースを提供します。

企業の顧客にとって、社内にセキュリティ保護されたコンピューティング環境を設定できることは重要であり、プロキシ設定が不可欠になっています。プロキシ設定は安全防壁として機能し、インターネットとイントラネットの間のすべてのトラフィックは、プロキシ サーバーによって監視されます。通常、これは、イントラネット内の企業ファイアウォールでセキュリティを実施するために不可欠な要素です。

プロキシ サーバーに対してデバイスを設定するには、次の手順に従います。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Network & Internet] (ネットワーク & インターネット) > [Wi-Fi] をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを [On] (オン) の位置にスライドさせます。
4. [Network] (ネットワーク) ダイアログ ボックスで、任意のネットワークを選択し、タッチします。
5. [Advanced options] (高度なオプション) をタッチします。
6. [Proxy] (プロキシ) をタッチし、[Manual] (手動) を選択します。
7. [Proxy hostname] (プロキシ ホスト名) テキスト ボックスにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。
8. [Proxy port] (プロキシ ポート) テキスト ボックスにプロキシ サーバーのポート番号を入力します。
9. [Bypass proxy for] (プロキシのバイパス) テキスト ボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。アドレス間にはカンマ (,) を使用します。アドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。

10. **[Connect]** (接続) をタッチします。

11. をタッチします。

静的 IP アドレスを使用するためのデバイスの設定

デフォルトでは、デバイスは、無線ネットワークに接続されたときに、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用してインターネット プロトコル (IP) アドレスを割り当てるように設定されます。

静的 IP アドレスを使用してネットワークに接続するようにデバイスを設定するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Network & Internet]** (ネットワーク & インターネット) > **[Wi-Fi]** をタッチします。
3. Wi-Fi のスイッチを **[On]** (オン) の位置にスライドさせます。
4. **[Network]** (ネットワーク) ダイアログ ボックスで、任意のネットワークを選択し、タッチします。
5. **[Advanced options]** (高度なオプション) をタッチします。
6. **[IP settings]** (IP 設定) をタッチして、**[Static]** (静的) を選択します。
7. **[IP address]** (IP アドレス) テキスト ボックスにデバイスの IP アドレスを入力します。
8. 必要に応じて、**[Gateway]** (ゲートウェイ) テキスト ボックスにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。
9. 必要に応じて、**[Network prefix length]** (ネットワーク プリフィックスの長さ) テキスト ボックスにプリフィックスの長さを入力します。
10. 必要に応じて、**[DNS 1]** テキスト ボックスにドメイン ネーム システム (DNS) アドレスを入力します。
11. 必要に応じて、**[DNS 2]** テキスト ボックスに DNS アドレスを入力します。
12. **[Connect]** (接続) をタッチします。
13. をタッチします。

Wi-Fi 設定

[Wi-Fi preferences] (Wi-Fi 設定) を使用して、高度な Wi-Fi 設定を構成します。Wi-Fi 画面から画面の一番下までスクロールし、**[Wi-Fi preferences]** (Wi-Fi 設定) をタッチします。

- **[Turn on Wi-Fi automatically]** (Wi-Fi を自動的にオンにする) - 有効にすると、Wi-Fi は、高品質の保存済みネットワークに近づくと自動的にオンに戻ります。
- **[Open network notification]** (ネットワーク通知を開く) - 有効にすると、オープン ネットワークが使用可能なときにそのことをユーザーに通知します。
- **[Advanced]** (詳細) - タッチしてオプションを展開します。
 - **[Additional settings]** (追加設定) - 「追加設定」を参照してください。
 - **[Install Certificates]** (証明書のインストール) - タッチして、証明書をインストールします。
 - **[Network rating provider]** (ネットワーク評価プロバイダ) - **[Disabled]** (無効) (AOSP デバイス)。優れた Wi-Fi ネットワークの構成要素を判断できるように、Android はオープン Wi-Fi ネットワークの品質に関する情報を提供する外部ネットワーク評価プロバイダをサポートしています。リストされているプロバイダのいずれか、または **[None]** (なし) を選択します。使用可能なネットワークがない場合、または何も選択されていない場合、オープン ネットワークへの接続機能は無効になります。

- **[Wi-Fi Direct] (Wi-Fi ダイレクト)** - ダイレクト Wi-Fi 接続に使用できるデバイスのリストを表示します。
- **[MAC address] (MAC アドレス)** - Wi-Fi ネットワークに接続しているときにデバイスのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを表示します。
- **[IP address] (IP アドレス)** - Wi-Fi ネットワークに接続されているときにデバイスの IP アドレスを表示します。

追加の Wi-Fi 設定



注: Wi-Fi の追加設定は、特定の無線ネットワークを対象としたものではなく、デバイスを対象にしています。

追加の Wi-Fi 設定を行うには、**[Additional Settings] (追加の設定)** を使用します。その他の Wi-Fi 設定を表示するには、Wi-Fi 画面の下部までスクロールし、**[Wi-Fi Preferences] (Wi-Fi 設定) > [Advanced] (詳細設定) > [Additional settings] (追加設定)** をタッチします。

- **[Regulatory] (規制)**
 - **[Country selection] (国の選択)** - 802.11d が有効なときに取得された国コードを表示します。802.11d が有効でないときは、現在選択されている国コードを表示します。
 - **[Region code] (リージョン コード)** - 現在のリージョン コードを表示します。
- **[Band and Channel Selection] (帯域とチャネルの選択)**
 - **[Wi-Fi frequency band] (Wi-Fi 周波数帯)** - 周波数帯を次のいずれかに設定します。**[Auto] (自動)** (デフォルト)、**[5 GHz only] (5GHz のみ)**、または **[2.4 GHz only] (2.4GHz のみ)**。
 - **[Available channels (2.4 GHz)] (使用可能なチャネル (2.4GHz))** - タッチして、**[Available channels] (使用可能なチャネル)** メニューを表示します。特定のチャネルを選択して、**[OK]** をタッチします。
 - **[Available channels (5 GHz)] (使用可能なチャネル (5GHz))** - タッチして、**[Available channels] (使用可能なチャネル)** メニューを表示します。特定のチャネルを選択して、**[OK]** をタッチします。
- **[Logging] (ロギング)**
 - **[Advanced Logging] (詳細ロギング)** - タッチして、詳細ロギングを有効にするか、ログ ディレクトリを変更します。
 - **[Wireless logs] (無線ログ)** - Wi-Fi ログ ファイルを読み取るのに使用します。
 - **[Fusion Logger] (Fusion ログガー)** - タッチして、**[Fusion Logger] (Fusion ログガー)** アプリケーションを開きます。このアプリケーションは、高レベルの WLAN イベントの履歴を保持するため、接続のステータスを理解するのに役立ちます。
 - **[Fusion Status] (Fusion ステータス)** - タッチして、WLAN 状態のライブ ステータスを表示します。また、デバイスおよび接続されたプロファイルの情報を提供します。
- **[About] (バージョン情報)**
 - **[Version] (バージョン)** - 現在の Fusion 情報を表示します。

Wi-Fi ダイレクト

Wi-Fi ダイレクト デバイスは、アクセス ポイントを経由せずに相互に接続できます。Wi-Fi ダイレクト デバイスは、必要に応じて独自のアドホック ネットワークを確立します。使用可能なデバイスが表示されるため、ユーザーは接続するデバイスを選択できます。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Wi-Fi] > [Wi-Fi preferences]** (Wi-Fi 設定) > **[Advanced]** (詳細設定) > **[Wi-Fi Direct]** (Wi-Fi ダイレクト) をタッチします。デバイスは別の Wi-Fi ダイレクト デバイスの検索を開始します。
3. **[Peer devices]** (ピア デバイス) で、他のデバイス名をタッチします。
4. もう一方のデバイスで、**[Accept]** (受け入れる) を選択します。
5. デバイスに **[Connected]** (接続済み) が表示されます。どちらのデバイスでも、**[Wi-Fi Direct]** (Wi-Fi ダイレクト) 画面のリストには、相手方のデバイス名が表示されます。

Bluetooth

Bluetooth デバイスは、周波数ホッピング方式スペクトル拡散 (FHSS) 無線周波数 (RF) を使用して 2.4GHz の産業科学医療用 (ISM) バンド (802.15.1) でデータを送受信する無線通信が可能です。Bluetooth 無線テクノロジーは、短距離 (10m/32.8 フィート) 通信用に特別に開発された低消費電力の通信技術です。

Bluetooth 機能を搭載したデバイスは、プリンタ、アクセス ポイント、その他のモバイル デバイスなどの Bluetooth 対応デバイスと、情報 (ファイル、予定、タスクなど) を交換できます。

デバイスでは、Bluetooth Low Energy がサポートされています。Bluetooth Low Energy は、医療、フィットネス、セキュリティおよびホーム エンタテインメント業界のアプリケーションを対象としています。Bluetooth の標準の範囲を確保しつつ、電力消費とコストの削減を可能にします。

適応型周波数ホッピング

適応型周波数ホッピング (AFH) は、固定周波数干渉を回避する方式で、Bluetooth 音声通信に使用できます。AFH が機能するには、ピコネット (Bluetooth ネットワーク) 内のすべてのデバイスが AFH に対応している必要があります。デバイスの接続時および検出時に AFH は行われません。802.11b で重要な通信を行っている際は、Bluetooth 接続の確立や検出を行わないでください。Bluetooth の AFH は、次の 4 つの主なセクションから構成されています。

- チャンネル分類 - チャンネルごとに干渉を検出する方式、または定義済みのチャンネル マスクで干渉を検出する方式です。
- リンク管理 - AFH 情報を調整して、Bluetooth ネットワーク全体に AFH 情報を配信します。
- ホップ シーケンス修正 - ホッピング チャンネル数を選択的に削減することで干渉を回避します。
- チャンネル メンテナンス - 定期的にチャンネルを再評価する方法です。

AFH が有効な場合、Bluetooth 無線は 802.11b 高速チャンネルを通るのではなく、「ホッピング」します。AFH の共存性により、エンタープライズ デバイスはあらゆるインフラストラクチャで動作できます。

デバイスの Bluetooth 無線は、Class 2 デバイス パワー クラスとして動作します。最大出力は 2.5mW で、予想伝送距離は 10m (32.8 フィート) です。伝送距離は、出力およびデバイスの違いや、開放空間なのかまたは閉鎖されたオフィス空間なのかによって左右されるため、パワー クラスに基づいて伝送距離を判断することは困難です。



注: 802.11b での高速な動作が求められる場合、Bluetooth 無線テクノロジーの照会を実行することはお勧めしません。

セキュリティ

現在の Bluetooth 仕様は、リンク レベルでセキュリティを定義しています。アプリケーション レベルのセキュリティは指定されていません。このため、アプリケーション開発者は、各自のニーズに応じてカスタマイズしたセキュリティ メカニズムを定義できます。リンク レベルのセキュリティはユーザー間ではなくデバイス間に適用されるのに対して、アプリケーション レベルのセキュリティはユーザーごとに実装できます。Bluetooth の仕様では、デバイスの認証に必要なセキュリティ アルゴリズムとプロシージャ、および必要に応じてデバイス間のリンクで伝送されるデータを暗号化するためのセキュリティ アルゴリズムとプロシージャを定めています。デバイスの認証は Bluetooth の必須の機能ですが、リンクの暗号化は任意の機能です。

Bluetooth デバイスのペアリングは、デバイスを認証してデバイスのリンク キーを作成するための初期化キーを作成することで行われます。ペアリングしようとするデバイスの共通個人識別番号 (PIN) を入力することで、初期化キーが生成されます。PIN は無線では送信されません。デフォルトでは、Bluetooth スタックは、キーが要求されたときにキーなしで応答します (キー要求イベントに応答するかどうかは任意です)。Bluetooth デバイスの認証は、チャレンジ レスポンス トランザクションをベースにしています。Bluetooth では、他の 128 ビットキーの作成に使用した PIN またはパスキーをセキュリティおよび暗号化のために使用できません。暗号化キーは、ペアリング デバイスの認証に使用したリンク キーから導出されます。また、Bluetooth 無線の制限された伝送距離と高周波ホッピングにより、離れた場所からの盗聴が困難であることも特長の 1 つです。

推奨事項

- セキュリティ保護された環境でペアリングする
- PIN コードを公開しない、また PIN コードをデバイスに保存しない
- アプリケーション レベルのセキュリティを実装する

Bluetooth プロファイル

デバイスは、次の表に示す Bluetooth サービスをサポートしています。

表 14 Bluetooth プロファイル

プロファイル	説明
サービス検索プロトコル (SDP)	既知のサービスおよび特殊なサービスの他、一般サービスの検索も処理します。
シリアル ポート プロファイル (SPP)	RFCOMM プロトコルを使った 2 台の Bluetooth ピア デバイス間でのシリアル ケーブル接続のエミュレートが可能になります。たとえば、デバイスをプリンタに接続できます。
オブジェクト プッシュ プロファイル (OPP)	デバイスとプッシュ サーバーの間で、オブジェクトのプッシュとプルを可能にします。
高品質オーディオ配信プロファイル (A2DP)	ステレオ並みの高品質な音声を無線ヘッドセットや無線ステレオスピーカにストリーミング配信できます。
Audio/Video Remote Control Profile (AVRCP)	ユーザーがアクセスできる AV 機器をデバイスからリモートで制御できます。A2DP と併せて使用できます。
パーソナル エリア ネットワーク (PAN)	Bluetooth ネットワーク カプセル化プロトコルを使用して、Bluetooth リンクで L3 のネットワーク機能を提供します。PANU ロールのみサポートされます。
ヒューマン インタフェース デバイス プロファイル (HID)	Bluetooth キーボード、ポインティング デバイス、ゲーム デバイス、およびリモート監視デバイスをデバイスに接続できるようになります。
ヘッドセット プロファイル (HSP)	Bluetooth ヘッドセットなどのハンズフリー デバイスを使用した発信信の操作を行えるようになります。
ハンズフリー プロファイル (HFP)	車載ハンズフリー キットと車内のデバイスの間の通信を可能にします。
Phone Book Access Profile (PBAP)	車載キットと携帯電話の間で Phone Book オブジェクトを交換できるようにして、車載キットで、着信通話の発信者の名前を表示し、Phone Book をダウンロードして、車載ディスプレイから通話を開始できるようにします。

表 14 Bluetooth プロファイル (続き)

プロファイル	説明
アウト オブ バンド (OOB)	ペアリング プロセスで使用する情報の交換を可能にします。ペアリングは Bluetooth 無線で行いますが、OOB メカニズムからの情報を必要とします。OOB を NFC で使用すると、時間のかかる検出プロセスを行う必要がなくなり、デバイスを近付けるだけでペアリングできるようになります。
Symbol Serial Interface (SSI)	Bluetooth イメージャと通信できるようにします。
一般属性プロファイル (GATT)	Bluetooth Low Energy プロトコル用にプロファイルの検出と説明のサービスを提供します。サービスを形成するセットに属性をグループ化する方法を定義します。
ダイヤルアップ ネットワーク (DUN)	Bluetooth を介してインターネットやその他のダイヤルアップ サービスにアクセスするための標準を提供します。
一般アクセス プロファイル (GAP)	デバイスの検出と認証に使用します。
OBject EXchange (OBEX)	デバイス間のバイナリ オブジェクトの交換を容易にします。

Bluetooth の電源の状態

Bluetooth 無線はデフォルトではオフになっています。

- [Suspend] (サスペンド) - デバイスがサスペンド モードになっても、Bluetooth 無線はオンのままです。
- [Airplane Mode] (機内モード) - デバイスを [Airplane Mode] (機内モード) に設定すると、Bluetooth 無線がオフになります。機内モードをオフにすると、Bluetooth 無線が前の状態に戻ります。機内モードがオンでも、必要であれば Bluetooth 無線はオンにできます。

Bluetooth 無線の電源

バッテリーを節約する、または無線機器の使用が制限されている区域 (航空機内など) に入る場合、Bluetooth 無線をオフにします。無線をオフにすると、他の Bluetooth デバイスはデバイスを検出したり接続したりできなくなります。通信圏内の他の Bluetooth デバイスと情報を交換するには、Bluetooth 無線をオンにします。デバイスが近接した場所にある場合のみ Bluetooth 無線で通信してください。



注: バッテリーを長持ちさせるには、未使用時に無線をオフにします。

Bluetooth を有効にする

Bluetooth を有効にするには、次の手順に従います。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. ✖ をタッチして、Bluetooth をオンにします。
3. ○ をタッチします。

Bluetooth を無効にする

Bluetooth を無効にするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. ✖ をタッチして、Bluetooth をオフにします。
3. ○ をタッチします。

Bluetooth デバイスを検出する

デバイスは、検出されたデバイスとペアリングされていなくても、そのデバイスから情報を受信できます。ただし、ペアリングしておく、Bluetooth 無線をオンにした時点で、デバイスとペアリングされたデバイスは情報を自動的に交換します。通信圏内の Bluetooth デバイスを検出するには、次の手順に従います。

1. 両方のデバイスで Bluetooth が有効になっていることを確認します。
2. 検出する Bluetooth デバイスが検出可能なモードになっていることを確認します。
3. 2つのデバイスの距離が 10m (32.8 フィート) 以上離れていないことを確認します。
4. ステータス バーから下にスワイプして、クイック アクセス パネルを開きます。
5. **[Bluetooth]** を長押しします。
6. **[Pair new device]** (新しいデバイスをペアリング) をタッチします。エリア内で検出可能な Bluetooth デバイスの検索が開始され、**[Available devices]** (使用可能なデバイス) にデバイスのリストが表示されます。
7. リストをスクロールし、デバイスを選択します。**[Bluetooth pairing request]** (Bluetooth ペアリングのリクエスト) ダイアログ ボックスが表示されます。
8. 両方のデバイスで **[Pair]** (ペアリング) をタッチします。
9. Bluetooth デバイスが **[Paired devices]** (ペアリング済みデバイス) リストに追加され、信頼された (ペアリングされた) 接続が確立されます。

Bluetooth の名前の変更

デバイスには汎用の Bluetooth 名があり、他のデバイスに接続されると、デフォルトではこの名前が表示されます。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Connected devices]** (接続済みデバイス) > **[Connection preferences]** (接続設定) > **[Bluetooth]** をタッチします。
3. Bluetooth がオンになっていない場合は、スイッチにタッチして Bluetooth をオンにします。
4. **[Device name]** (デバイス名) をタッチします。
5. 名前を入力して、**[RENAME]** (名前変更) をタッチします。
6. ○ をタッチします。

Bluetooth デバイスへの接続

ペアリングが完了したら、Bluetooth デバイスに接続します。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Connected devices]** (接続済みデバイス) > **[Connection preferences]** (接続設定) > **[Bluetooth]** をタッチします。
3. リストで、未接続の Bluetooth デバイスをタッチします。
4. 接続されると、デバイス名の下に **[Connected]** (接続済み) と表示されます。

Bluetooth デバイスのプロフィール選択

一部の Bluetooth デバイスには複数のプロフィールが含まれています。プロフィールを選択するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Connected devices]** (接続済みデバイス) > **[Connection preferences]** (接続設定) > **[Bluetooth]** をタッチします。
3. **[Paired Devices]** (ペアリング済みデバイス) リストで、デバイス名の隣にある  をタッチします。
4. プロフィールをオンまたはオフにして、デバイスがプロフィールを使用できるようにします。
5. をタッチします。

Bluetooth デバイスのペアリング解除

Bluetooth デバイスのペアリングを解除してすべてのペアリング情報を消去するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Connected devices]** (接続済みデバイス) > **[Connection preferences]** (接続設定) > **[Bluetooth]** をタッチします。
3. **[Paired Devices]** (ペアリング済みデバイス) リストで、デバイス名の隣にある  をタッチします。
4. **[FORGET]** (消去) をタッチします。
5. をタッチします。

近距離無線通信

NFC/HF RFID は、リーダーと非接触型スマート カード間の安全なトランザクションを可能にする短距離無線接続技術です。この技術は、HF 13.56MHz の免許不要の帯域を利用し、ISO/IEC 14443 type A/B (近接) および ISO/IEC 15693 (周辺) 標準に基づいています。デバイスでは次の動作モードがサポートされています。

- リーダー モード
- ピアツーピア通信
- カード エミュレーション モード

NFC を使用して、デバイスで次のことを実行できます。

- 非接触型チケット、ID カードおよび ePassport などの非接触型カードの読み取り。
- SmartPoster やチケットなどの非接触型カードのほか、自動販売機などの NFC インタフェース搭載デバイスに対する情報の読み取りと書き込み。
- サポート対象の医用センサーからの情報の読み取り。
- プリンタ、リング スキャナ (例: RS6000)、ヘッドセット (例: HS3100) など、サポート対象の Bluetooth デバイスとのペアリング。
- 別の NFC デバイスとのデータの交換。
- 支払い、チケット、SmartPoster などの非接触型カードのエミュレート。

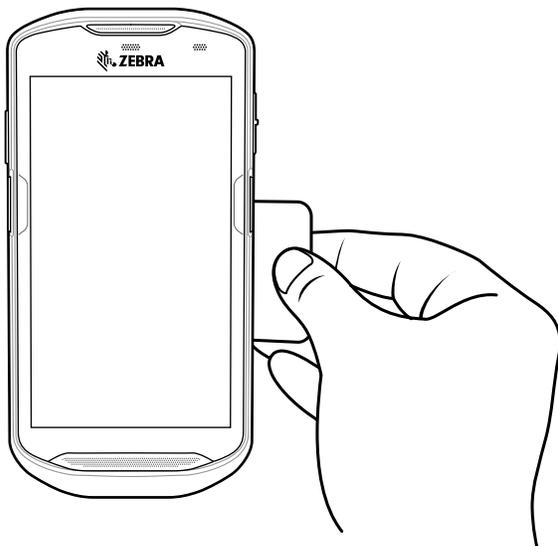
デバイスの NFC アンテナは、ユーザーが手に持った状態で、デバイスの上部から NFC カードを読み取れるように配置されています。

NFC カードの読み取り

NFC カードを読み取るには、次の手順に従います。

1. NFC 対応アプリケーションを起動します。
2. 次に示すように、デバイスを持ちます。
3. デバイスがカードを検出するまで、デバイスを NFC カードに近づけます。
4. トランザクションが完了するまで (通常はアプリケーションによって示される)、カードを固定したままかざします。

図 78 カードの読み取り



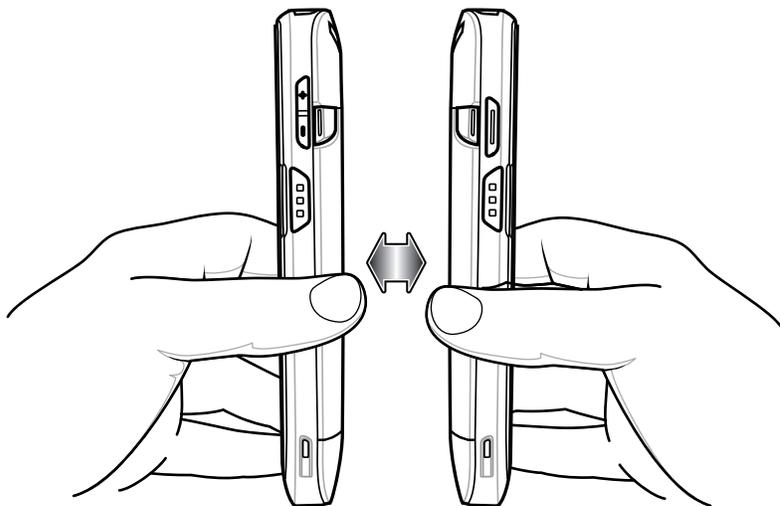
NFC を使用した情報の共有

複数のデバイスを背中合わせにして、画面に表示されている Web ページ、連絡先カード、画像、YouTube のリンクまたは位置情報などのコンテンツを送信できます。

両方のデバイスがロックされていないこと、NFC をサポートしていること、および NFC と Android Beam の両方がオンになっていることを確認してください。

1. Web ページ、ビデオ、写真、または連絡先を表示する画面を開きます。
2. デバイスの背面を、他のデバイスの背面に向けます。

図 79 NFC を使用したデータの共有



デバイスが接続された時点で、サウンドが再生され、画面に表示されている画像のサイズが縮小され、**[Touch to beam]** (タッチして送信) というメッセージが表示されます。

3. 画面にタッチします。
送信が開始されます。

キャスト

[Cast] (キャスト) を使用して、Miracast 対応無線ディスプレイにデバイスの画面をミラー表示します。

1. [Settings] (設定) に移動します。
2. [Connected devices] (接続済みデバイス) > [Connection preferences] (接続設定) > [Cast] (キャスト) をタッチします。
3.  > [Enable wireless display] (無線ディスプレイを有効にする) をタッチします。デバイスは近くの Miracast デバイスを検索してリスト表示します。
4. デバイスをタッチしてキャストを開始します。
5.  をタッチします。

アクセサリ

はじめに

この章では、デバイスのアクセサリの使用方法について説明します。

アクセサリ

次の表に、デバイスで使用できるアクセサリを示します。

表 15 アクセサリ

アクセサリ	部品番号	説明
クレードル		
1 スロット USB/ 充電専用クレードル キット	CRD-TC51-1SCU-01	デバイスの充電および通信用です。 クレードル、電源 (PWR-BGA12V50W0WW) および DC 電源コードが含まれます。
4 スロット充電専用 クレードル (バッテリー 充電器キット付き)	CRD-TC51-5SC4B-01	最大 4 台のデバイスと 4 個の予備バッテリーを 充電します。クレードル、電源 (PWR-BGA12V108W0WW) および DC 電源 コードが含まれます。
5 スロット充電専用 クレードル キット	CRD-TC51-5SCHG-01	最大 5 台のデバイスを充電します。クレー ドル、電源 (PWR-BGA12V108W0WW) およ び DC 電源コードが含まれます。
5 スロット イーサネット クレードル キット	CRD-TC51-5SETH-01	最大 5 台のデバイスの充電およびイーサネッ ト通信用です。クレードル、電源 (PWR-BGA12V108W0WW) および DC 電源 コードが含まれます。
クレードル マウント	BRKT-SCRD-SMRK-01	壁面またはラックに 5 スロット充電専用ク レードル、5 スロット イーサネット クレー ドル、および 4 スロット バッテリー充電器を 取り付けます。
USB イーサネット アダプタ	KT-TC51-ETH1-01	1 スロット USB/充電専用クレードル キット との USB およびイーサネット通信を提供し ます。

表 15 アクセサリ (続き)

アクセサリ	部品番号	説明
バッテリーと充電器		
4,300mAh (通常) / 4,050mAh (最小) PowerPrecisionPlus バッテリー	BTRY-TC51-43MA1-01 BTRY-TC51-43MA1-10	交換用バッテリー (シングル パック) 交換用バッテリー (10 パック)
4 スロット バッテリー充電 器キット	SAC-TC51-4SCHG-01	最大 4 個のバッテリー パックを同時に充電し ます。クレードル、電源 (PWR-BGA12V50W0WW) および DC 電源 コードが含まれます。
充電専用車載用クレードル	CRD-TC56-CVCD1-01	デバイスを充電するとともに、 しっかりと固定します。電源ケーブル CHG-AUTO-CLA1-01 または CHG-AUTO-HWIRE1-01 (別売り) が必要です。
充電ケーブルおよび通信ケーブル		
高耐久性充電 / USB ケーブル	CBL-TC51-USB1-01	デバイスへの電力供給と通信に使用します。 電源 PWR-WUA5V12W0xx が必要です。
高耐久性 USB-C アダプタ	ADPTR-TC56-USBC-01	USB-C ケーブル (CBL-TC5X-USBC2A-01) を 使用して、デバイスとの通信と電源供給を行 います。
USB-C 通信充電ケーブル	CBL-TC5X-USBC2A-01	USB-A から USB-C への通信とデバイスへの 電力供給を行います。
USB 通信ケーブル	25-124330-01R	1 スロット USB / 充電専用クレードル キットで Micro USB から USB への通信に使用します。
オーディオ アクセサリ		
2.5mm オーディオ アダプタ	CBL-TC51-HDST25-01	デバイスに差し込み、2.5mm プラグの有線 ヘッドセットに音声を送ります。
2.5mm ヘッドセット	HDST-25MM-PTVP-01	PTT 通話および VoIP 通話に使用します。
3.5mm オーディオ アダプタ	CBL-TC51-HDST35-01	デバイスに差し込み、3.5mm カラープラグの有線 ヘッドセットに音声を送ります。
3.5mm ヘッドセット	HDST-35MM-PTVP-01	PTT 通話および VoIP 通話に使用します。
その他		
高耐久性ブーツ	SG-TC5X-EXO1-01	デバイスの保護を強化します。
トリガ ハンドル	TRG-TC51-SNP1-01	使いやすく生産性の高いスキャン操作を可能 にするスキャナトリガを備えたガン タイプ のハンドルを取り付けます。高耐久性ブーツ が必要です。
トリガ ハンドル キット (高耐久性ブーツ付き)	TRG-TC51-TRG1-01	使いやすく生産性の高いスキャン操作を可能 にするスキャナトリガを備えたガン タイプ のハンドルを取り付けます。
スクリーン保護シート	KT-TC51-SCRNP1-01	画面保護を強化します。
SmartDEX ソリューション	DEX30	デバイスに無線 DEX 通信機能を提供します。

表 15 アクセサリ (続き)

アクセサリ	部品番号	説明
手首のストラップ	SG-PD40-WLD1-01	デバイスを手首でしっかりと持つために使用します。トリガ ハンドルまたは高耐久性ブーツで使用します。
高耐久性 I/O コネクタ	ADP-TC51-RGIO1-03	交換用の高耐久性 I/O コネクタ (3 個パック)。
携帯用ソリューション		
ソフト ホルスタ	SG-TC51-HLSTR1-01	デバイスを腰に固定する際に使用します。高耐久性ブーツとトリガ ハンドル付きのデバイスに対応します。
ハンド ストラップ	SG-TC51-EHDSTP1-03	ハンド ストラップ マウント クリップ付き交換ハンド ストラップ (3 パック)
ベーシック ハンド ストラップ	SG-TC51-BHDSTP1-03	高耐久性ブーツのないデバイスを持ちやすくするためのハンド ストラップです。
スタイラスおよびコイル ストラップ	SG-TC7X-STYLUS-03	スタイラスとコイル ストラップ (3 個パック)。
電源		
電源	PWR-BGA12V50W0WW	1 スロット USB 充電クレードルおよび 4 スロット予備バッテリー充電器に電力を供給します。AC 電源コードが必要です。
電源	PWR-BGA12V108W0WW	4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き)、5 スロット充電専用クレードルおよび 5 スロットイーサネット クレードルに電力を供給します。p/n 50-16002-029R の DC 電源コードと、国別のアース付き AC 電源コード (3 ワイヤ) が必要です (別売り)。
電源	PWR-WUA5V12W0US	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。米国で使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0GB	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。欧州連合で使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0EU	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。英国で使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0AU	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。オーストラリアで使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0CN	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。中国で使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0IN	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。インドで使用するためのプラグ アダプタが含まれます。
電源	PWR-WUA5V12W0KR	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。韓国で使用するためのプラグ アダプタが含まれます。

表 15 アクセサリ (続き)

アクセサリ	部品番号	説明
電源	PWR-WUA5V12W0BR	高耐久性充電/USB ケーブルに DC 12V、2.5A の電力を供給します。ブラジルで使用するためのプラグアダプタが含まれます。
DC 電源コード	CBL-DC-381A1-01	電源 (PWR-BGA12V108W0WW) から 4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き)、5 スロット充電専用クレードル、および 5 スロットイーサネットクレードルに電力を供給します。
DC 電源コード	CBL-DC-388A1-01	電源 (PWR-BGA12V50W0WW) から 1 スロット USB/充電専用クレードルおよび 4 スロットバッテリー充電器に電力を供給します。
2 股 DC ケーブル	CBL-DC-523A1-01	1 つの電源 (PWR-BGA12V108W0WW) を 2 台の 4 スロットバッテリー充電器に接続します。
US AC 電源コード	23844-00-00R	電源に電力を供給します。

バッテリーの充電

メインバッテリーの充電

デバイスの充電/通知 LED は、デバイスのバッテリー充電状態を示します。デバイスの充電状態については、[20 ページの表 4](#) を参照してください。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



注: 多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリーのみを使用してください。デバイスをスリープモードにして、室温でバッテリーを充電します。

予備バッテリーの充電

カップの予備バッテリー充電 LED は、予備バッテリーの充電の状態を示します。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.3 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。



注: 多くの場合、日常的な使用に対しては 90% までの充電で充分です。100% にフル充電すると、約 14 時間連続で使用できます。

最も速く充電するには、Zebra の充電アクセサリおよびバッテリーのみを使用してください。

表 16 予備バッテリー LED の充電インジケータ

LED	LED	意味
黄色で点灯		予備バッテリーを充電中です。
黄色で点灯 (黄色の明るさに明暗がある)		適切な予備バッテリーを充電中です。
緑色の点灯		予備バッテリーの充電が完了しました。
緑色で点灯 (緑色の明るさに明暗がある)		最適な予備バッテリーの充電が完了しました。
赤色で点灯		予備バッテリーが充電中です。バッテリーの寿命が近づいています。 充電が完了しました。バッテリーの寿命が近づいています。
赤色で速く点滅 (1秒に2回点滅)		充電中にエラーが発生しました。予備バッテリーが正しく挿入されているか確認してください。バッテリーの寿命が近づいています。
消灯		スロットに予備バッテリーがありません。予備バッテリーがスロットに正しく装着されていません。クレードルに電源が供給されていません。

充電温度

バッテリーの充電は、5 ~ 40°C (41 ~ 104°F) の温度で行います。本デバイスまたはクレードルでは、常に安全で適切な方法で充電が行われます。高温時 (約 37°C 以上 (98°F 以上) など) には、デバイスまたはクレードルは、バッテリーの充電を有効と無効に交互に短時間で切り替えて、バッテリーを許容温度に保つ場合があります。異常な温度のために充電が無効になった場合は、デバイスおよびクレードルの LED に表示されます。

1 スロット USB 充電クレードル

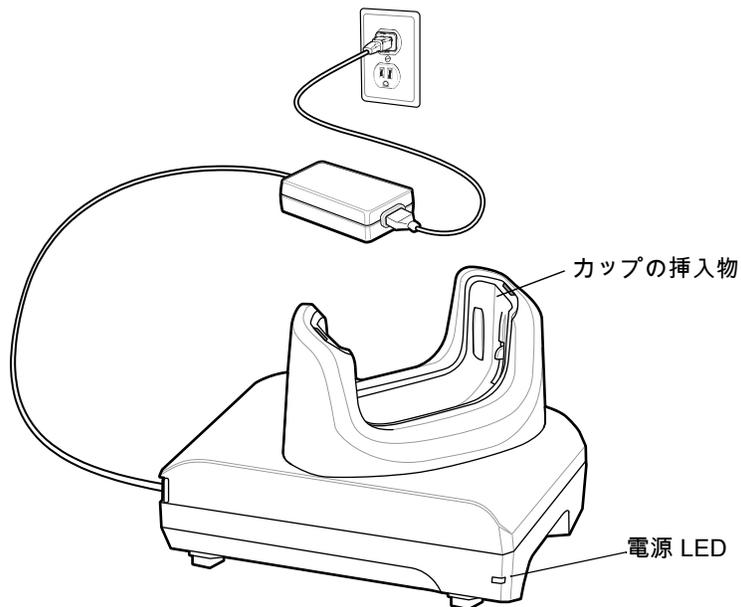


注意: 191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」で説明している、バッテリーの安全に関するガイドラインに従ってください。

1 スロット USB 充電クレードルには、次のような機能があります。

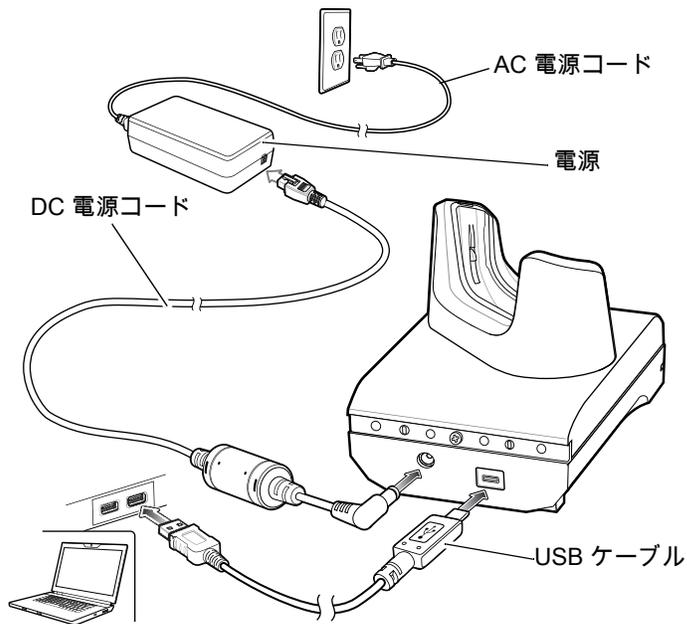
- デバイスの操作に必要な DC 5V の電力を供給する。
- デバイスのバッテリーを充電する。
- ホスト コンピュータとの USB 通信を行う。

図 80 1 スロット USB 充電クレードル



セットアップ

図 81 1 スロット USB 充電クレードルのセットアップ



デバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。

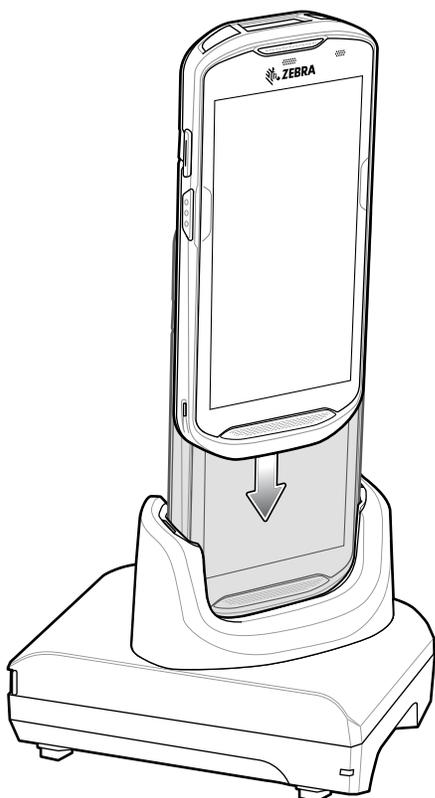


注: デバイスに高耐久性ブーツがある場合、デバイスを挿入する前にカップの挿入物を取り外します。詳細については、『Integrator Guide』を参照してください。

デフォルトでは、デバイスはインタフェース コネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインタフェース コネクタを取り外している場合、コネクタをつなぎ直してから充電するかイーサネット IP アドレスを受信してください (クレードルに装着している場合)。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電が開始します。

図 82 バッテリーの充電

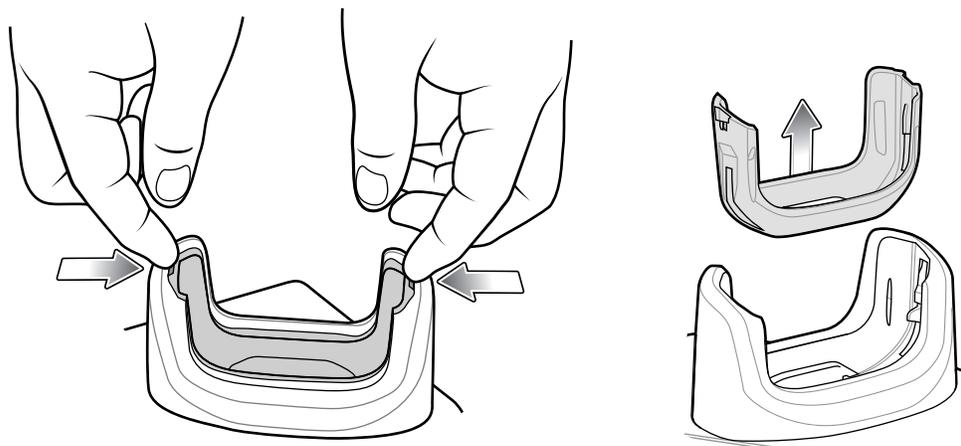


2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードルに挿入する

クレードルの各カップには挿入物があります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、この挿入物を先に取り外す必要があります。挿入物を取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 83 カップから挿入物を取り外す



4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き)

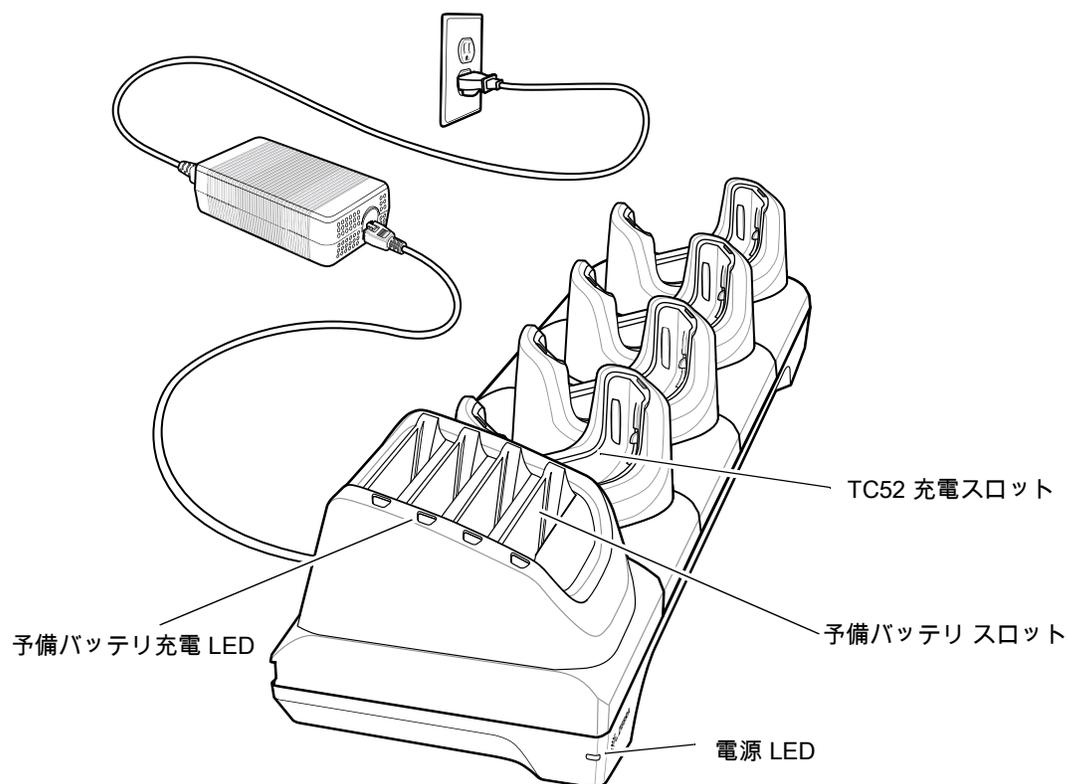


注意: 191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」で説明している、バッテリーの安全に関するガイドラインに従ってください。

4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き) には、次のような機能があります。

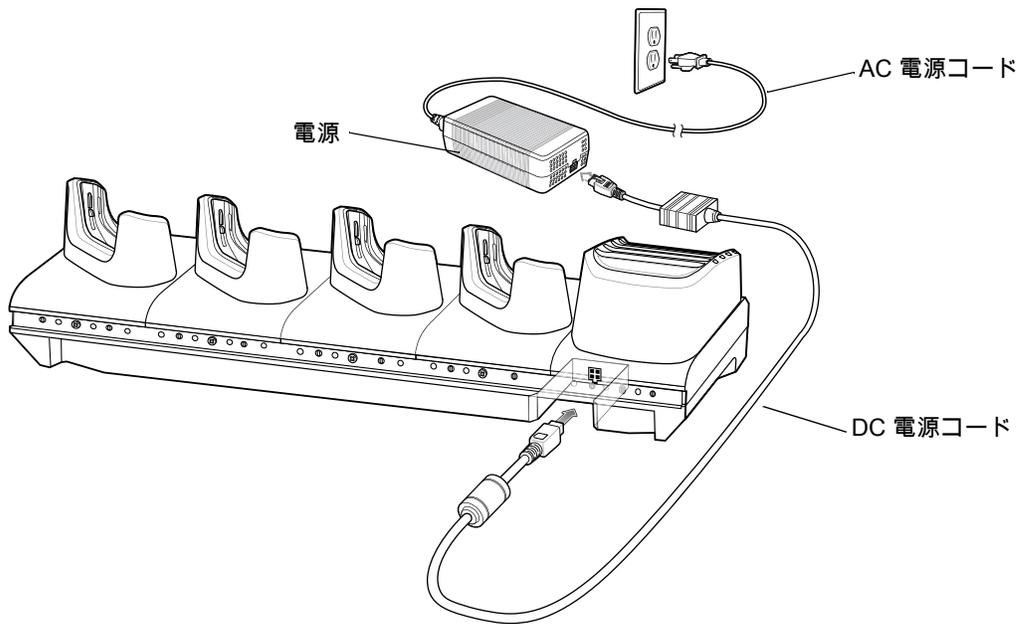
- デバイスの操作に必要な DC 5V の電力を供給する。
- バッテリー充電器アダプタを使用して、同時に最大 4 台のデバイスと最大 4 台の予備バッテリーを充電する。

図 84 4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き)



セットアップ

図 85 4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き) のセットアップ



デバイスの充電

デバイスを充電するには、次の手順に従います。



注: デバイスに高耐久性ブーツがある場合、デバイスを挿入する前にカップの挿入物を取り外します。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電を開始します。

図 86 デバイスのバッテリーの充電

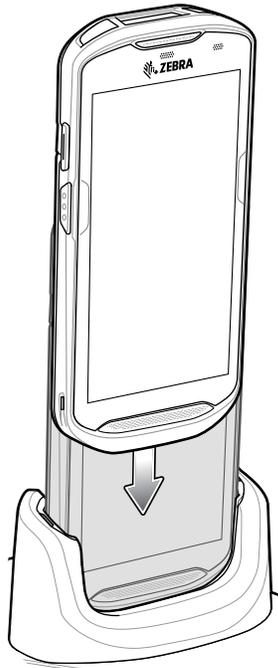
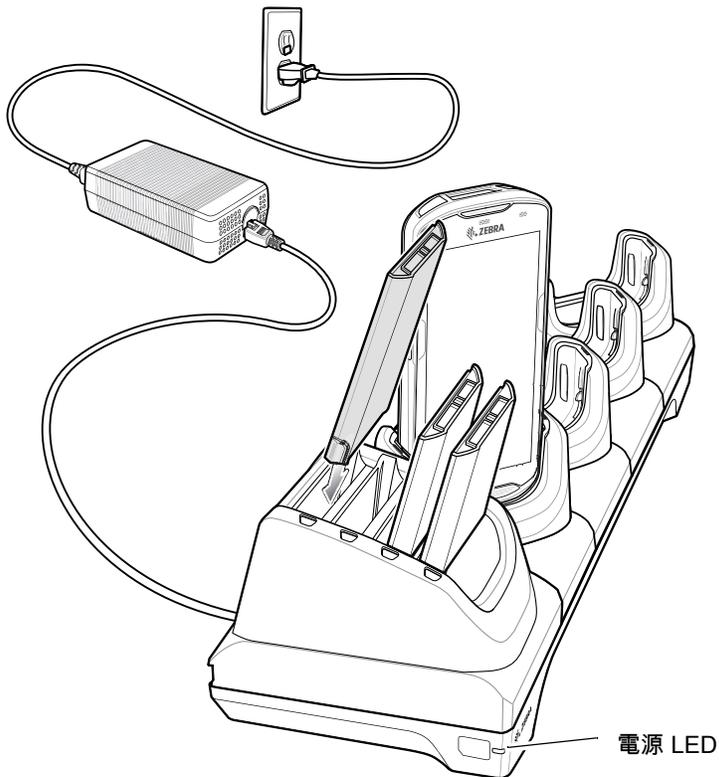


図 87 予備バッテリーの充電



2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

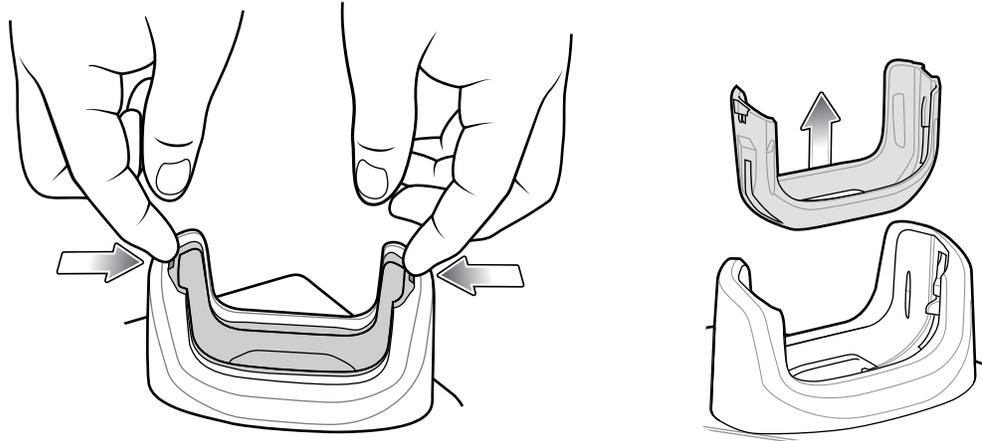


注: 4 スロット バッテリー充電器のクレードルへの取り付け方法の詳細については、『Integrator Guide』を参照してください。

高耐久性ブーツを装着した TC52 をクレードルに挿入する

クレードルの各カップには挿入物があります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、この挿入物を先に取り外す必要があります。挿入物を取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 88 カップから挿入物を取り外す



5 スロット充電専用クレードル

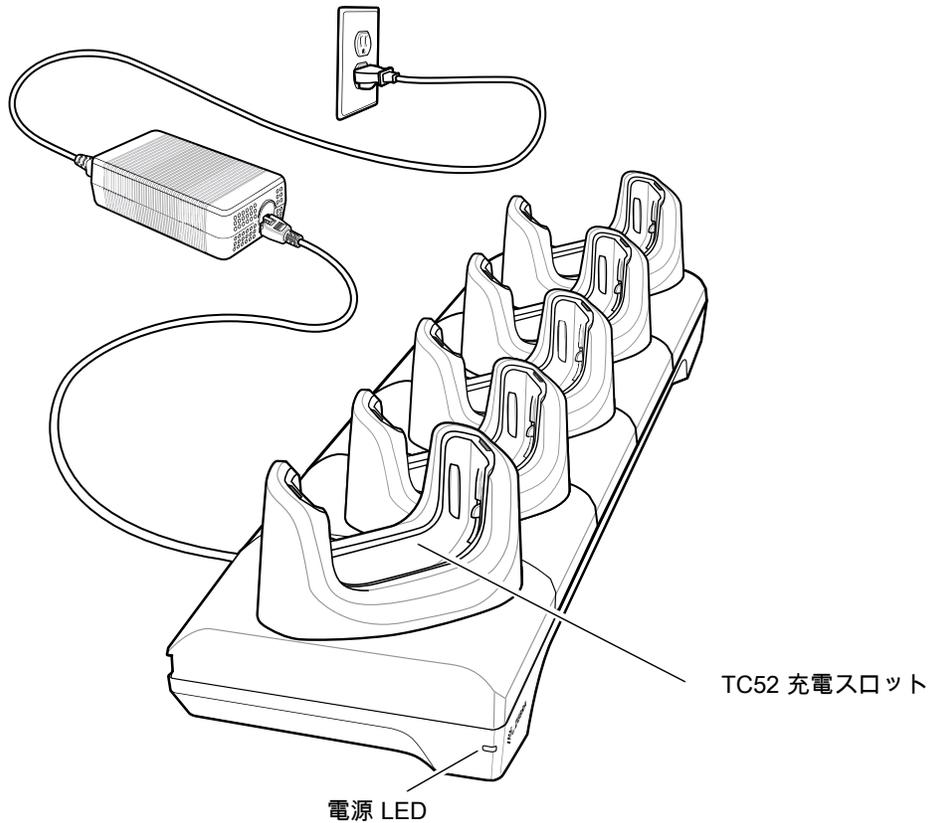


注意: 191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」で説明している、バッテリーの安全に関するガイドラインに従ってください。

5 スロット充電専用クレードルには、次のような機能があります。

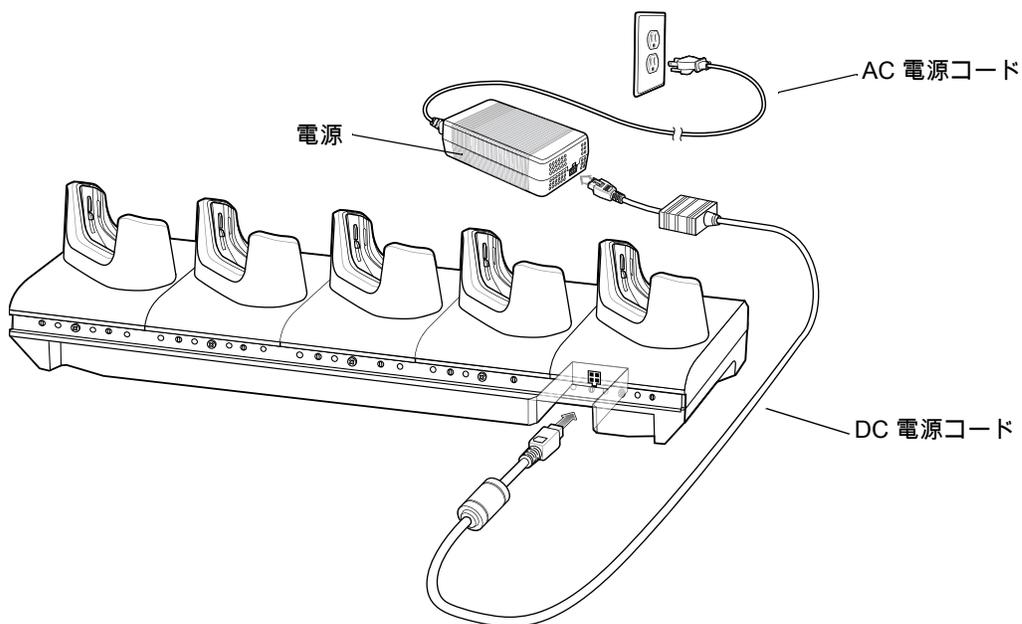
- デバイスの操作に必要な DC 5V の電力を供給する。
- 最大 5 台のデバイスを同時に充電します。

図 89 5 スロット充電専用クレードル



セットアップ

図 90 5 スロット充電専用クレードルのセットアップ



デバイスの充電

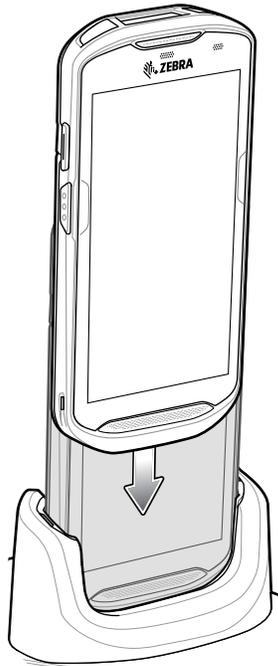
デバイスを充電するには、次の手順に従います。



注: デバイスに高耐久性ブーツがある場合、デバイスを挿入する前にカップの挿入物を取り外します。詳細については、『TC52 Touch Computer Integrator Guide for Android 8 Oreo』を参照してください。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電を開始します。

図 91 TC52 のバッテリーの充電



2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

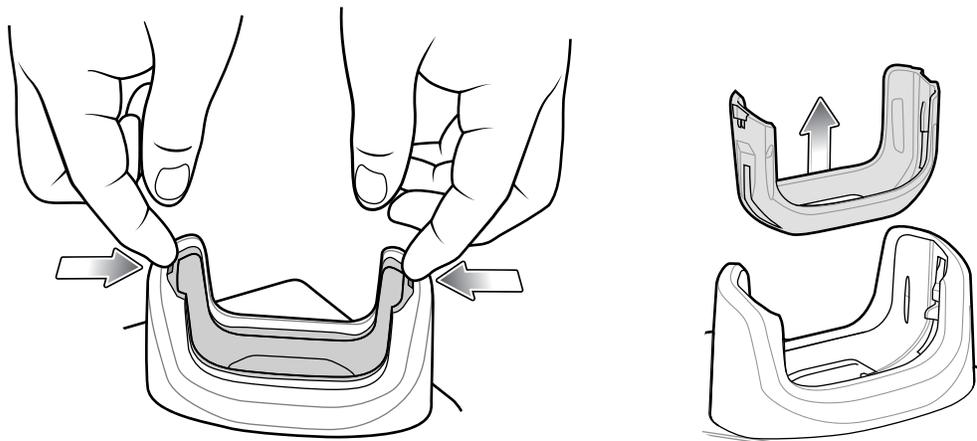


注: 4 スロット バッテリー充電器をクレードルに設置する方法については、『Integrator Guide for Android 8.1 Oreo』を参照してください。

高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードルに挿入する

クレードルの各カップには挿入物があります。高耐久性ブーツを装着したデバイスを挿入する場合、この挿入物を先に取り外す必要があります。挿入物を取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 92 カップから挿入物を取り外す



5 スロット イーサネット クレードル

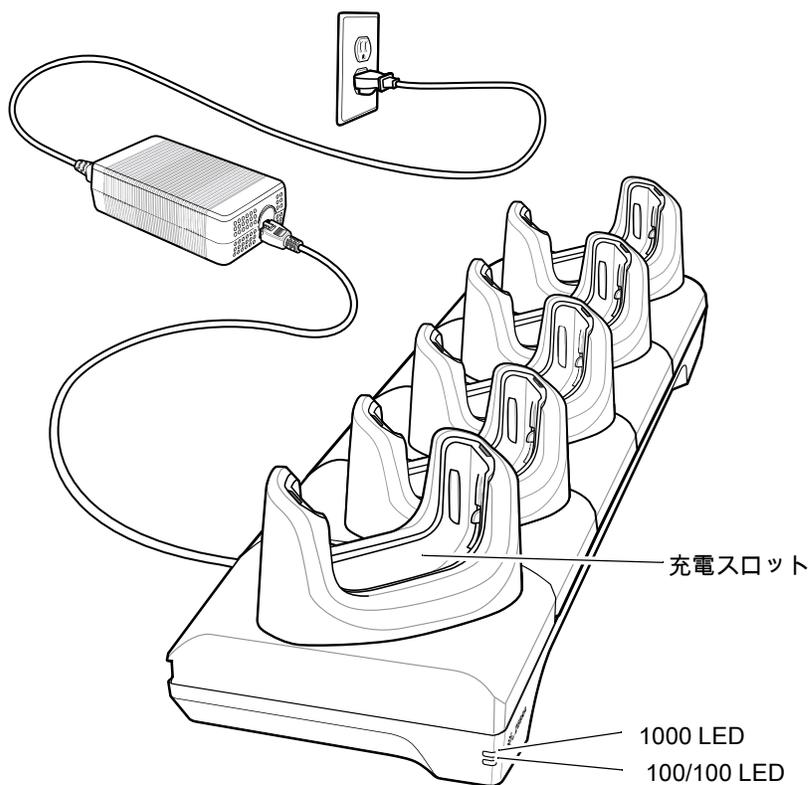


注意: 191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」で説明している、バッテリーの安全に関するガイドラインに従ってください。

5 スロット イーサネット クレードルには、次のような機能があります。

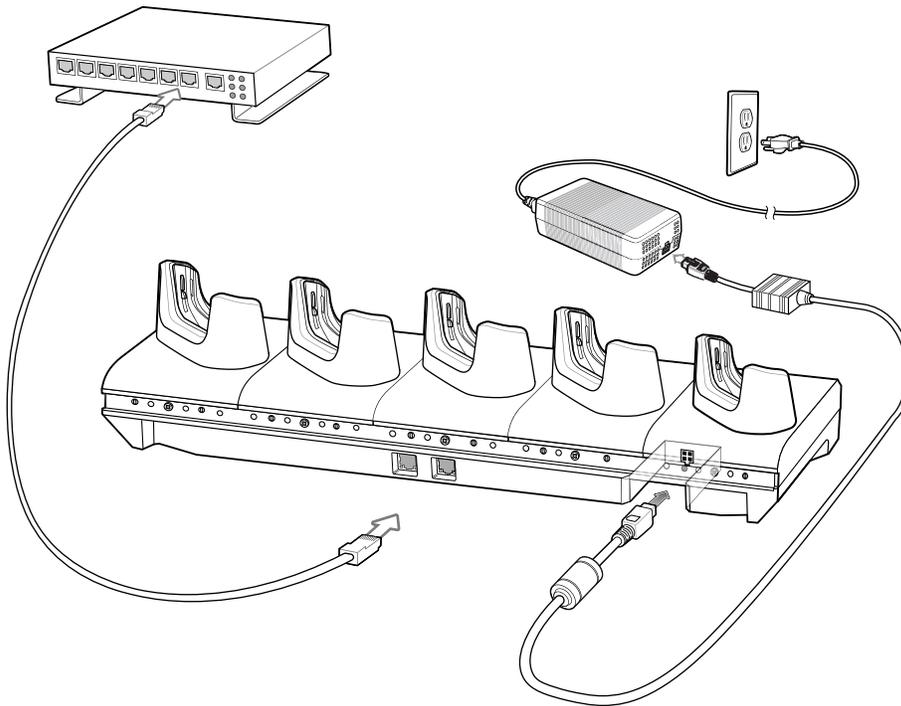
- デバイスの操作に必要な DC 5V の電力を供給する。
- 最大 5 台のデバイスをイーサネット ネットワークに接続する。
- 最大 5 台のデバイスを同時に充電します。

図 93 5 スロット イーサネット クレードル



セットアップ

図 94 5 スロット イーサネット クレードルのセットアップ



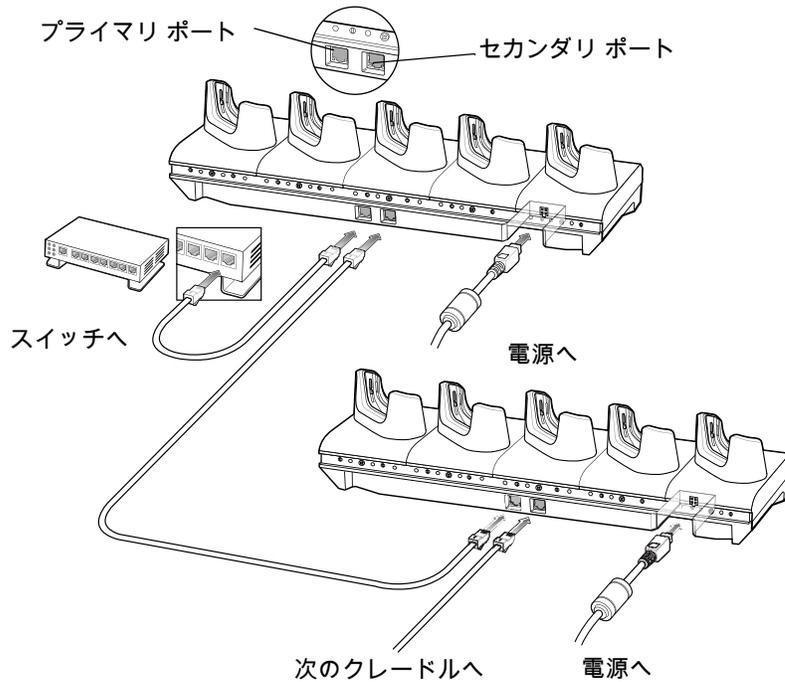
イーサネット クレードルのデジーチェーン接続

最大 10 台の 5 スロット イーサネット クレードルをデジーチェーン接続して、複数のクレードルをイーサネット ネットワークに接続します。ストレート ケーブルまたはクロス ケーブルを使用します。最初のクレードルへのメイン イーサネット接続が 10Mbps である場合、スループットの問題がほぼ確実に発生するため、デジーチェーン接続を試行しないでください。

5 スロット イーサネット クレードルをデジーチェーン接続するには、次の手順に従います。

1. 各 5 スロット イーサネット クレードルに電源ケーブルを接続します。
2. イーサネット ケーブルをスイッチ ポートの 1 つに接続し、もう一方の端を最初のクレードルのプライマリ ポートに接続します。
3. イーサネット ケーブルを最初のクレードルのセカンダリ ポートに接続します。
4. イーサネット ケーブルのもう一方の端を、次の 5 スロット イーサネット クレードルのプライマリ ポートに接続します。

図 95 5 スロット イーサネット クレードルのデジーチェーン接続



5. 手順 3 および 4 の説明に従って、追加のクレードルを接続します。

イーサネットの設定

イーサネット通信を使用する場合、次の設定を構成できます。

- プロキシ設定
- 静的 IP

イーサネット プロキシ設定の構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入したら、イーサネット接続を構成します。

1. ステータスバーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、 をタッチします。
2. **[Ethernet]** (イーサネット) をタッチします。
3. スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドします。
4. デバイスをイーサネット クレードル スロットに配置します。
5. メニューが表示されるまで **eth0** を長押しします。
6. **[Modify Proxy]** (プロキシの変更) をタッチします。
7. **[Proxy]** (プロキシ) ドロップダウン リストをタッチし、**[Manual]** (手動) を選択します。
8. **[Proxy hostname]** (プロキシ ホスト名) フィールドに、プロキシ サーバーのアドレスを入力します。
9. **[Proxy port]** (プロキシ ポート) フィールドに、プロキシ サーバーのポート番号を入力します。



注: **[Bypass proxy for]** (プロキシのバイパス) フィールドにプロキシ アドレスを入力する際は、アドレスとアドレスの間にスペースや改行を使用しないでください。

1. **[Bypass proxy for]** (プロキシのバイパス) テキスト ボックスに、プロキシ サーバーを経由する必要がない Web サイトのアドレスを入力します。アドレスとアドレスの間には区切り記号「|」を使用します。
2. **[MODIFY]** (変更) をタッチします。
3. **○** をタッチします。

イーサネット静的 IP アドレスの構成

デバイスには、イーサネット クレードル ドライバが搭載されています。デバイスを挿入したら、イーサネット 接続を構成します。

1. ステータス バーから下にスワイプしてクイック設定バーを開き、**⚙** をタッチします。
2. **[Ethernet]** (イーサネット) をタッチします。
3. スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドします。
4. デバイスをイーサネット クレードル スロットに配置します。
5. **[eth0]** をタッチします。
6. **[Disconnect]** (切断) をタッチします。
7. **[eth0]** をタッチします。
8. **[IP settings]** (IP 設定) ドロップダウン リストをタッチし、**[Static]** (静的) を選択します。
9. **[IP address]** (IP アドレス) フィールドにプロキシ サーバーのアドレスを入力します。
10. 必要に応じて、**[Gateway]** (ゲートウェイ) フィールドにデバイスのゲートウェイ アドレスを入力します。
11. 必要に応じて、**[Netmask]** (ネットマスク) フィールドにネットワーク マスク アドレスを入力します。
12. 必要に応じて、**[DNS]** アドレス フィールドにドメイン ネーム システム (DNS) アドレスを入力します。
13. **[CONNECT]** (接続) にタッチします。
14. **○** をタッチします。

デバイスの充電

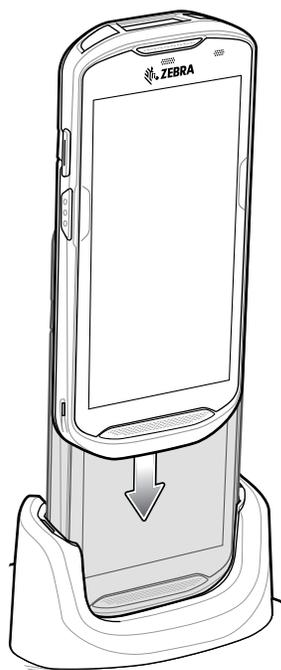
デバイスを充電するには、次の手順に従います。



注: デバイスに高耐久性ブーツがある場合、デバイスを挿入する前にカップの挿入物を取り外します。詳細については、『TC52 Touch Computer Integrator Guide for Android 8 Oreo』を参照してください。

1. スロットにデバイスを挿入すると充電を開始します。

図 96 TC52 のバッテリーの充電

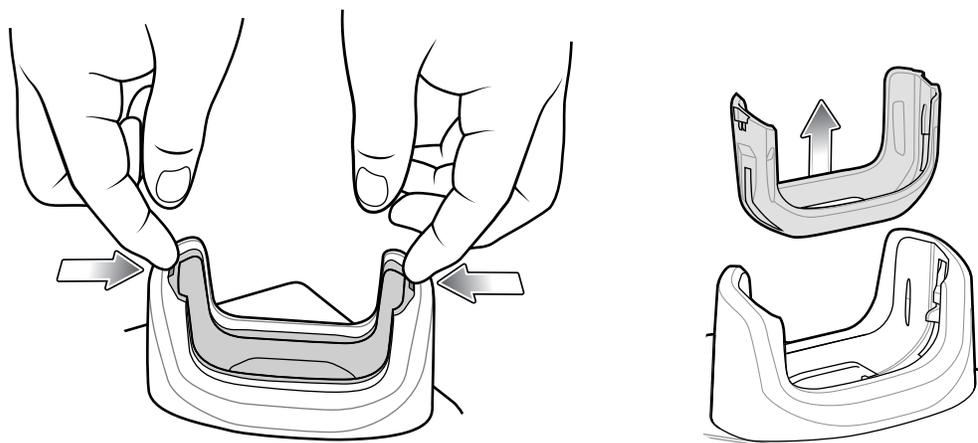


2. デバイスが正しくセットされていることを確認してください。

高耐久性ブーツを装着した TC52 をクレードルに挿入する

クレードルの各カップには挿入物があります。高耐久性ブーツを装着したデバイス挿入する場合、この挿入物を先に取り外す必要があります。挿入物を取り外した後、デバイスをカップに挿入します。

図 97 カップから挿入物を取り外す



イーサネット接続の確立



注: イーサネット設定の詳細については、『TC52 Touch Computer Integrator Guide for Android 8 Oreo』を参照してください。

1. ステータスバーから2本の指で下にスワイプして、クイックアクセスパネルを開き、 をタッチします。
2. [Ethernet] (イーサネット) をタッチします。
3. イーサネットスイッチを [ON] (オン) の位置にスライドします。
4. デバイスをスロットに挿入します。
↳ アイコンがステータスバーに表示されます。
5. [Eth0] をタッチし、イーサネット接続の詳細を表示します。

LED インジケータ

クレードルの側面には、2つの緑色のLEDが搭載されています。これらの緑色のLEDは、点灯および点滅してデータ転送速度を示します。

表 17 LED データ速度インジケータ

データ速度	1000 LED	100/10 LED
1Gbps	点灯/点滅	消灯
100Mbps	消灯	点灯/点滅
10Mbps	消灯	点灯/点滅

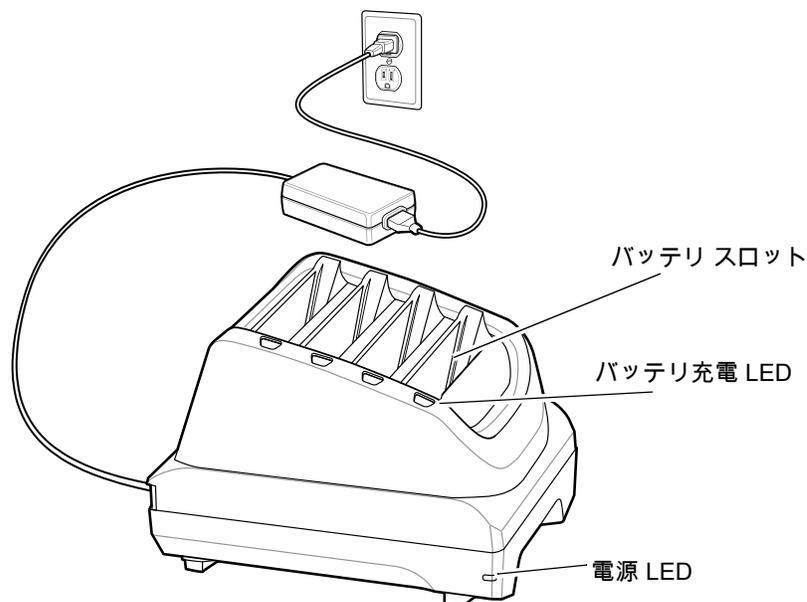
4 スロット バッテリ充電器



注意: 191 ページの「バッテリーの安全に関するガイドライン」で説明している、バッテリーの安全に関するガイドラインに従ってください。

ここでは、4 スロット バッテリ充電器を使用して最大 4 台のデバイスのバッテリーを充電する方法について説明します。

図 98 4 スロット バッテリ充電器

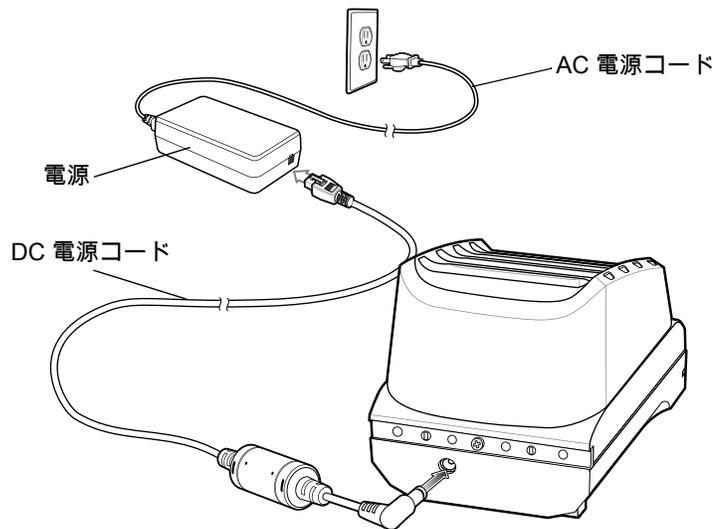


セットアップ

1 台対応充電器のセットアップ

1. DC 電源コード プラグを充電器の背面にある電源ポートに差し込みます。
2. DC 電源コード コネクタを電源アダプタに差し込みます。
3. AC 電源コードを電源アダプタに差し込みます。
4. AC 電源コードを AC コンセントに差し込みます。

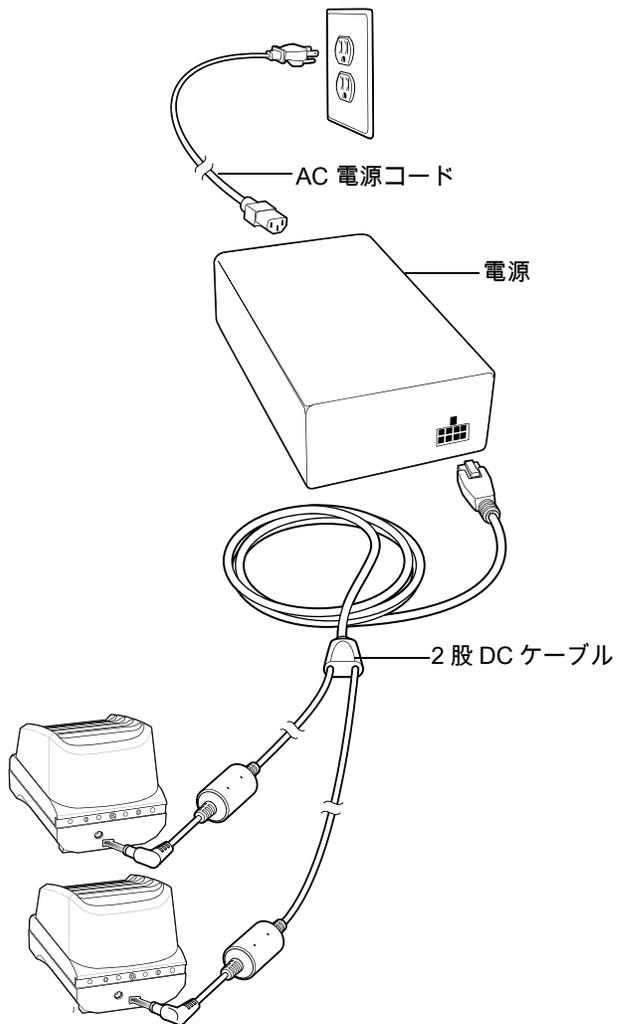
図 99 4 スロット バッテリ充電器の電源のセットアップ



2 台対応充電器のセットアップ

1. 2 股 DC ケーブル プラグを各充電器の背面にある電源ポートに差し込みます。
2. 2 股 DC ケーブル コネクタを電源アダプタの電源出力 (PWR-BGA12V108W0WW) に差し込みます。
3. AC 電源コードを電源アダプタに差し込みます。
4. AC 電源コードを AC コンセントに差し込みます。

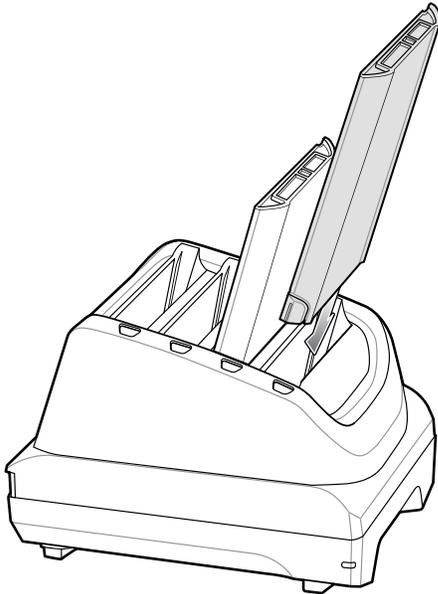
図 100 2 股 DC ケーブルでのセットアップ



予備バッテリーの充電

1. 電源に充電器を接続します。
2. バッテリーをバッテリー受けに差し込み、バッテリーをゆっくり押し下げて正しく接触するようにします。

図 101 充電器にバッテリーを挿入



バッテリー充電 LED はそれぞれ、各スロットのバッテリー充電状態を示します。予備バッテリーの充電インジケータの説明については、[123 ページの表 16](#)を参照してください。

高耐久性ブーツ

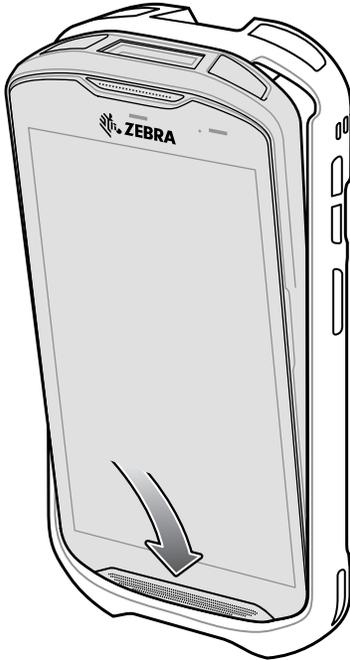
高耐久性ブーツは、デバイスの保護を強化します。

取り付け

高耐久性ブーツを取り付けるには、次の手順に従います。

1. デバイスの下部をブーツの下部に挿入します。

図 102 デバイスをブーツに挿入



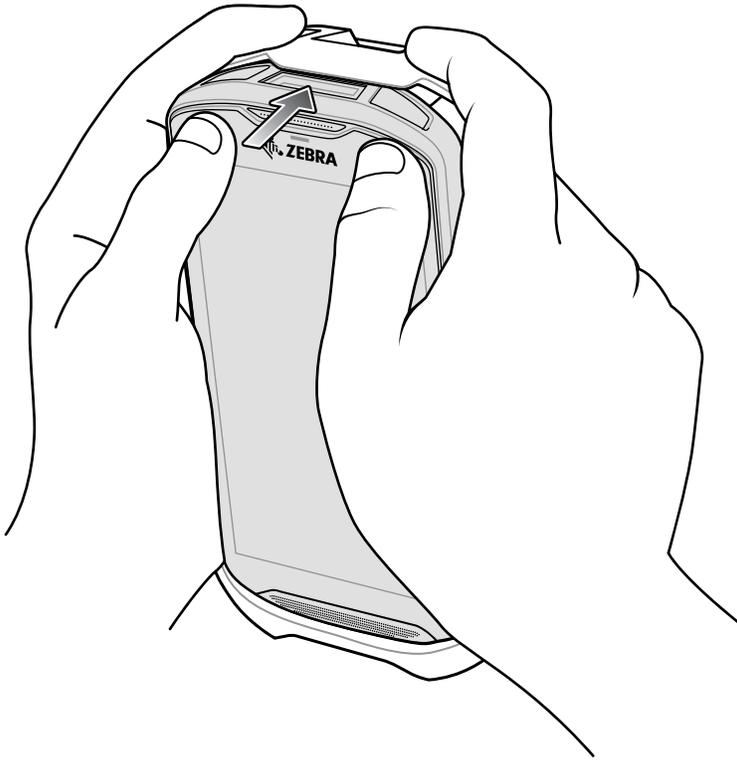
2. 高耐久性ブーツの上部をデバイスの上部に持ち上げてかぶせます。

図 103 ブーツをデバイスの上まで持ち上げる



3. デバイスを高耐久性ブーツに押し込みます。

図 104 デバイスをブーツに押し込む



スタイラスの取り付け

オプションのスタイラスを取り付けるには、次の手順に従います。

1. ストラップの端のループの 1 つをスタイラスの穴に通します。
2. ストラップをループに通します。
3. ループが締まるまでストラップを引きます。
4. ハンドストラップホルダにループを挿入します。
5. スタイラスをループに通します。

図 105 スタイラスにストラップを取り付ける

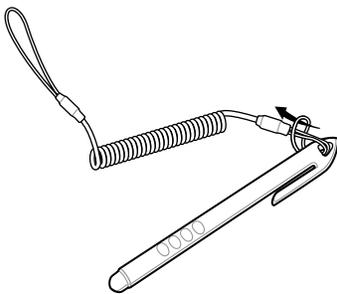
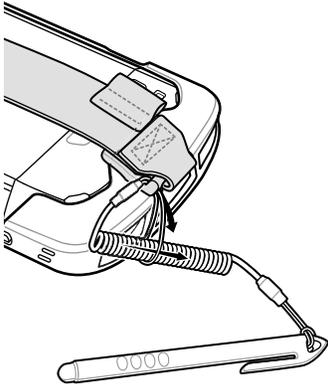


図 106 ハンドストラップにスタイラスを取り付ける

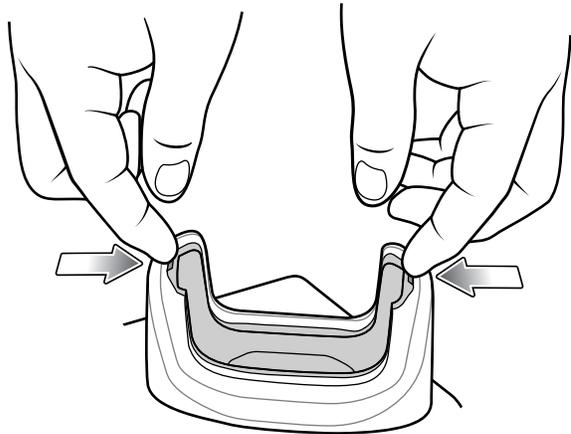


クレードルで充電する

高耐久性ブーツを装着したデバイスをクレードル カップに挿入する場合、まずカップから挿入物を取り外します。

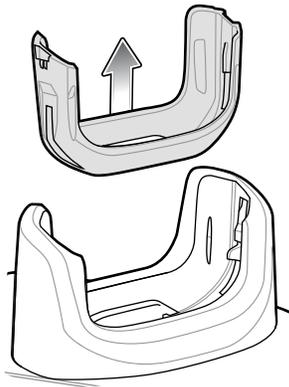
1. 両手の人差し指で挿入物をカップの中心に向かって押します。

図 107 中心に向かって挿入物を押す



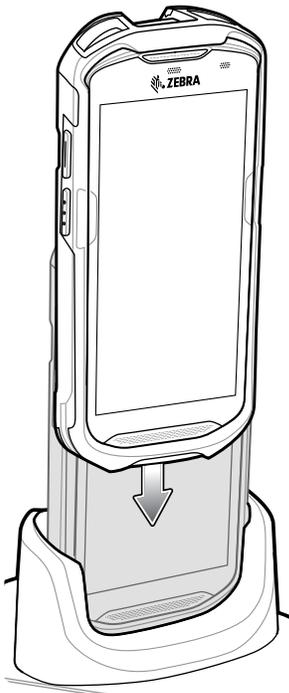
2. 挿入物をカップから持ち上げます。

図 108 挿入物をカップから持ち上げる



3. クレードルにデバイスを装着します。

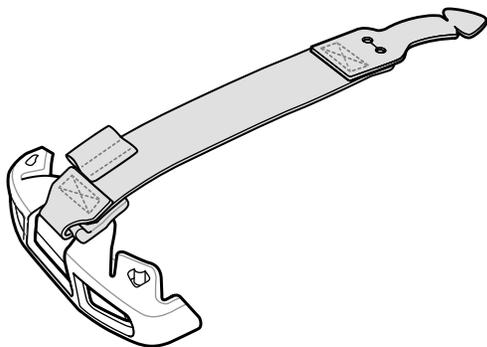
図 109 ブーツを装着しているデバイスをクレードル カップに装着する



ベーシック ハンドストラップキット

ベーシック ハンドストラップキットを使用して、ハンドストラップをデバイスに取り付けます。

図 110 ベーシック ハンドストラップキット

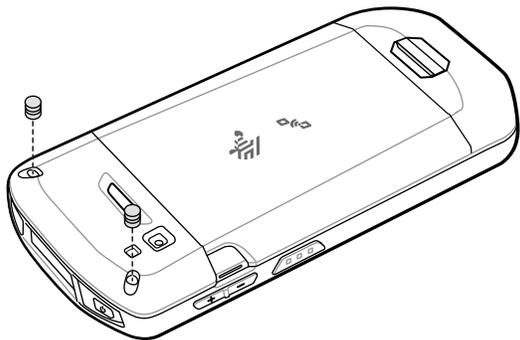


取り付け

ベーシック ハンドストラップキットを取り付けるには、次の手順に従います。

1. デバイスの背面にある 2 つのゴム製プラグを取り外します。

図 111 プラグを取り外す



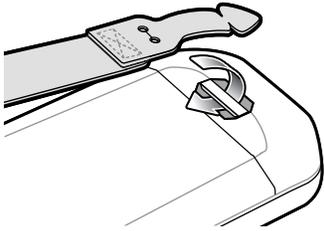
2. 上部キャップをデバイスの位置に合わせます。
3. デバイスの上部を覆うように上部キャップをかぶせます。

図 112 デバイスの上部を覆うように上部キャップをかぶせる



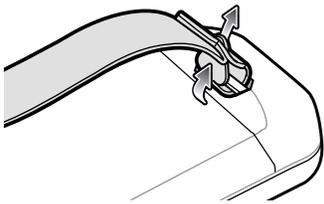
4. ハンドストラップのタブの先端をデバイスのスロットに挿入します。

図 113 ハンドストラップ タブをスロットに挿入する



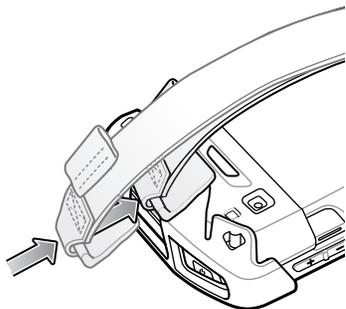
5. タブをストラップの切れ込みに通します。

図 114 タブをスロットに通す



6. ハンドストラップ クリップを上部キャップの位置に合わせます。

図 115 ハンドストラップ クリップを上部キャップに取り付ける



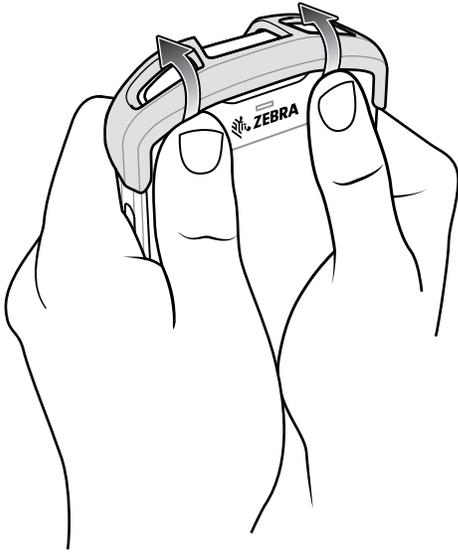
7. クリップを上部キャップに押し込みます。

取り外し

ベーシック ハンドストラップキットを取り外すには、次の手順に従います。

1. 親指を使って、上部キャップを回転させるようにしてデバイスの上から押し上げます。

図 116 上部キャップを取り外す



2. ストラップ タブを切り込みスロットから引き出します。
3. ハンドストラップ タブをデバイスのスロットから引き出します。

2.5mm オーディオ アダプタ



注: オーディオ アダプタは、デバイス標準構成で使用できます。

デバイスに 2.5mm オーディオ アダプタを接続し、その端を 2.5mm プラグの有線ヘッドセットに接続します。

2.5mm ヘッドセットを接続するには、次の手順に従います。

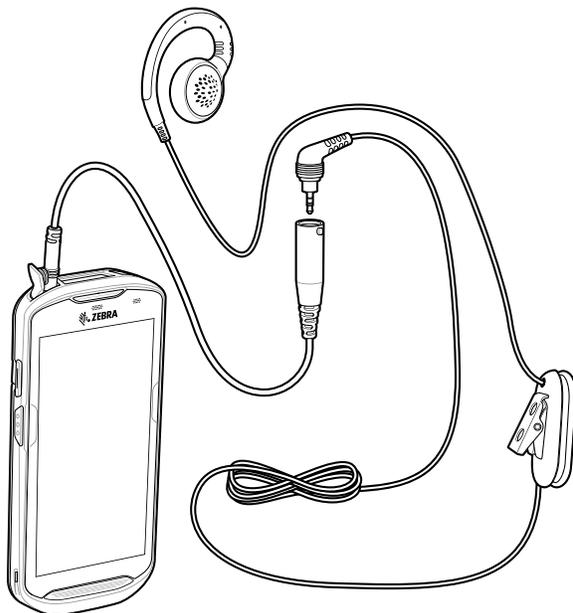
1. ヘッドセットのジャック カバーを開きます。
2. 2.5mm オーディオ アダプタ プラグをヘッドセット ジャックに差し込みます。

図 117 オーディオ アダプタの取り付け



3. 2.5mm ヘッドセットのプラグをオーディオ アダプタのジャックに差し込みます。

図 118 ヘッドセットをオーディオ アダプタに接続する



注意: ヘッドセットを取り外した後は、ヘッドセットのジャック カバーをしっかりと元に戻し、適切な密閉状態を確保してください。

3.5mm オーディオ アダプタ



注: オーディオ アダプタは、デバイス標準構成で使用できます。

デバイスに 3.5mm オーディオ アダプタを接続し、その端を 3.5mm プラグの有線ヘッドセットに接続します。

3.5mm ヘッドセットを接続するには、次の手順に従います。

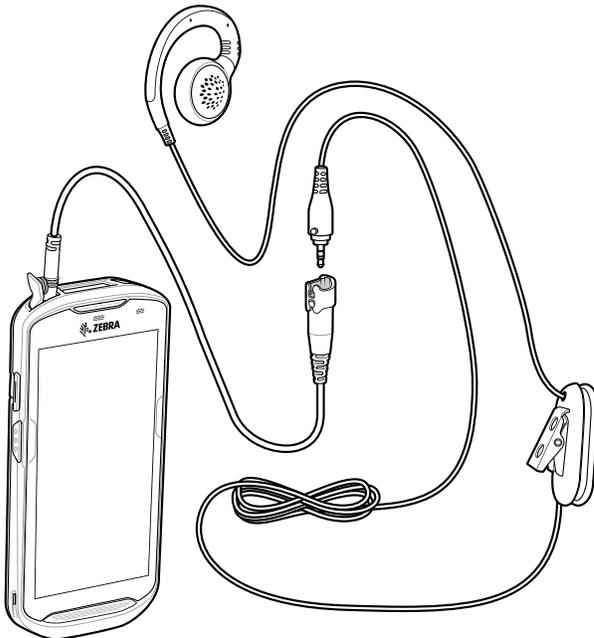
1. ヘッドセットのジャック カバーを開きます。
2. 3.5mm オーディオ アダプタ プラグをヘッドセット ジャックに差し込みます。

図 119 オーディオ アダプタの取り付け



3. ヘッドセットの 3.5mm コネクタ プラグを 3.5mm オーディオ アダプタに接続します。

図 120 3.5mm アダプタ ケーブルへのヘッドセットの接続

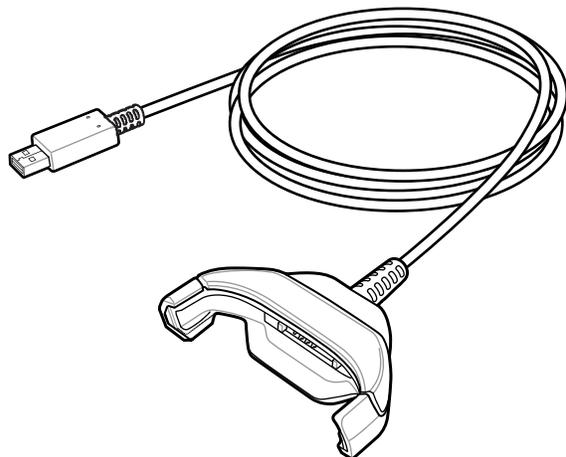


注意: ヘッドセットを取り外した後は、ヘッドセットのジャック カバーをしっかりと元に戻し、適切な密閉状態を確保してください。

高耐久性充電/USB ケーブル

高耐久性充電/USB ケーブルはデバイスの下部に取り付けます。使用しないときは簡単に取り外せます。デバイスに接続すると、デバイスで充電、およびホスト コンピュータへのデータ転送が可能になります。

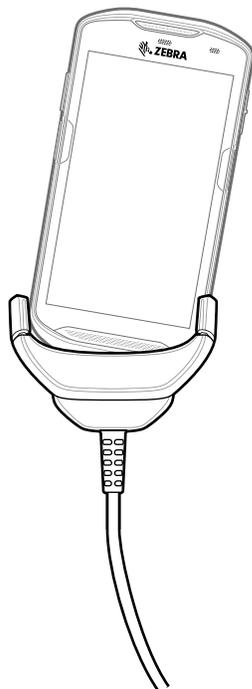
図 121 高耐久性充電/USB ケーブル



TC52 への接続

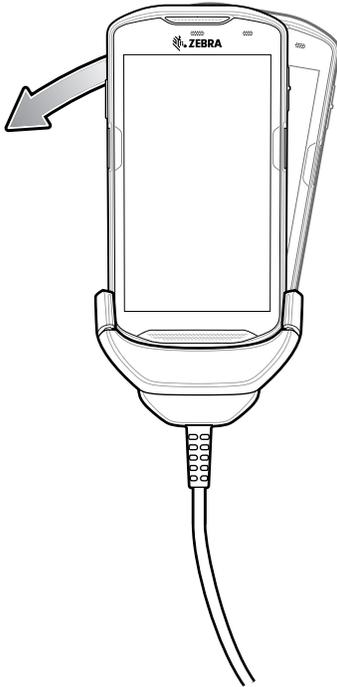
1. デバイスを斜めにして、ケーブル カップの下部に触れるまで挿入します。

図 122 デバイスをケーブル カップに挿入



2. デバイスを回転させるようにしてカップに挿入します。

図 123 デバイスを回転させるようにしてケーブル カップに挿入する

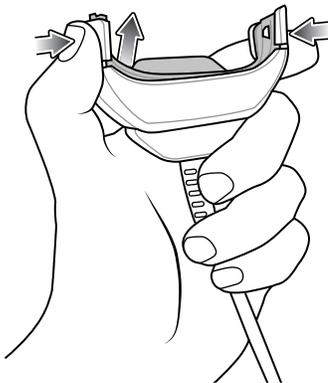


高耐久性ブーツを装着している TC52 への接続

高耐久性ブーツを装着しているデバイスに高耐久性充電/USB ケーブルを接続するには、次の手順に従います。

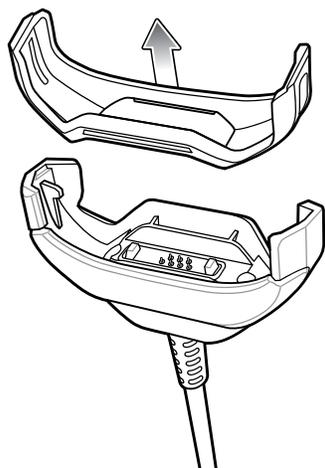
1. 親指と人差し指でカップの両端を内側に押し込みます。

図 124 ケーブル カップの挿入物を取り外す



2. 挿入物をカップから持ち上げます。

図 125 ケーブルの接続



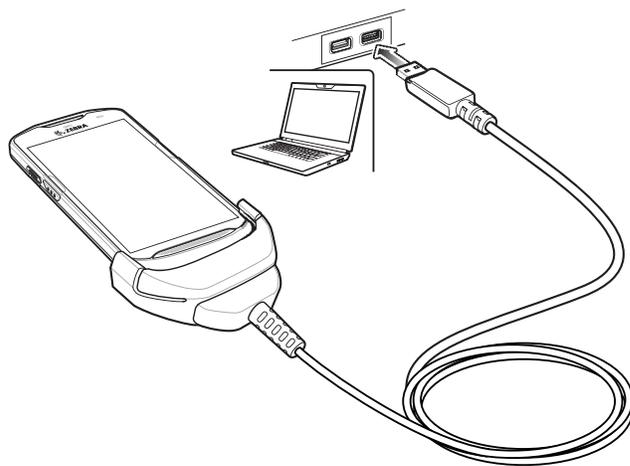
3. ケーブル カップをデバイスの下部の位置に合わせます。
4. デバイスをケーブル カップに押し込み、しっかりと固定します。

USB 通信

デバイスをホスト コンピュータに接続するには、次の手順に従います。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスに接続します。
2. ケーブルの USB コネクタをホスト コンピュータに接続します。

図 126 高耐久性充電/USB ケーブルをホスト コンピュータに接続



デバイスの充電

高耐久性充電/USB ケーブルを使用してデバイスを充電するには、次の手順に従います。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスに接続します。
2. 電源の USB コネクタを接続します。

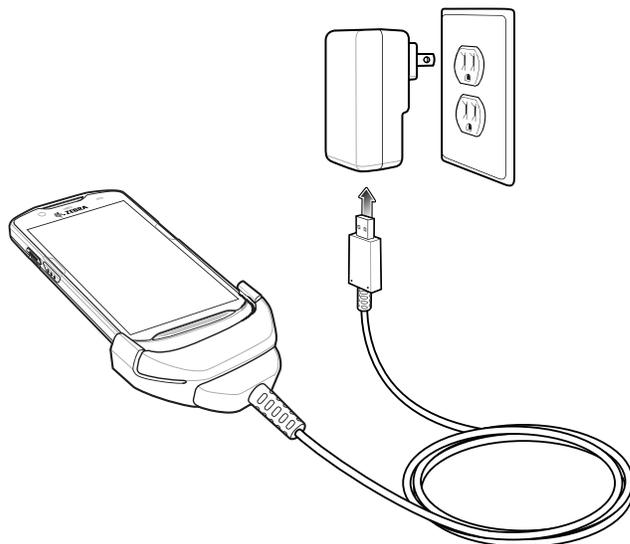


注: 電源の設定の詳細については、163 ページの「電源」を参照してください。

デフォルトでは、デバイスはインタフェース コネクタを搭載しています。USB タイプ C ケーブルを接続するためインタフェース コネクタを取り外している場合、コネクタをつなぎ直してから充電するかイーサネット IP アドレスを受信してください (クレードルに装着している場合)。

1. 電源を電源コンセントに差し込みます。

図 127 高耐久性充電/USB ケーブルを使用した充電

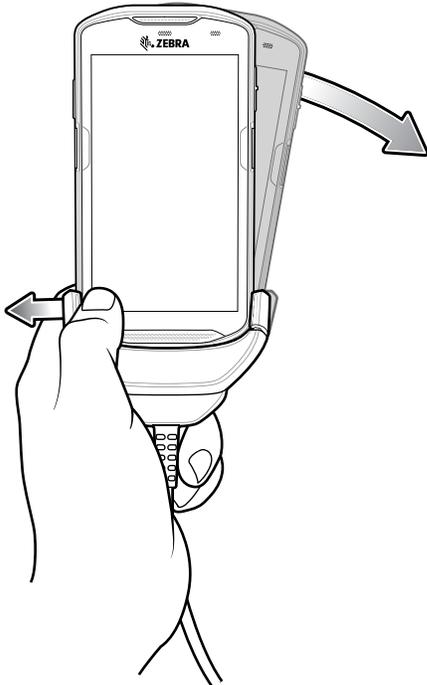


高耐久性充電/USB ケーブルの取り外し

高耐久性充電/USB ケーブルをデバイスから取り外すには、次の手順に従います。

1. デバイスを片側に回転させます。

図 128 高耐久性充電/USB ケーブルからデバイスを取り外す



2. 高耐久性充電/USB ケーブルを反対側に押します。
3. 高耐久性充電/USB ケーブルからデバイスを取り外します。

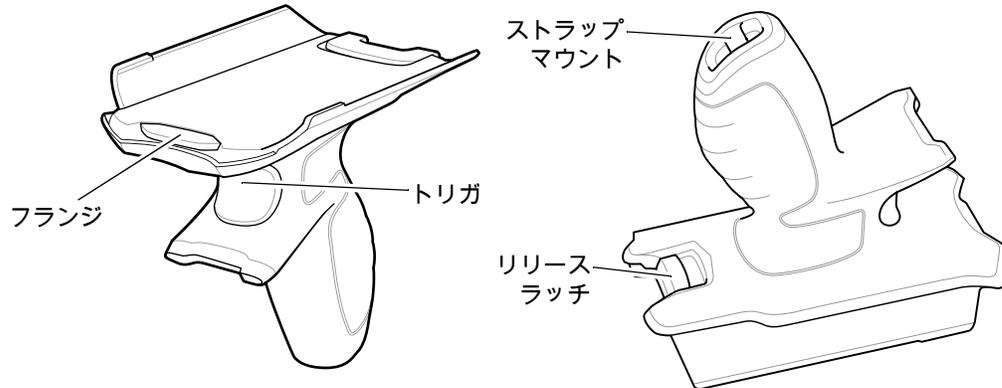
トリガ ハンドル



注: トリガ ハンドルをデバイスに取り付けるには、高耐久性ブーツが必要です。トリガ ハンドル (p/n TRG-TC51-SNP1-01) には、高耐久性ブーツが含まれていないため、別途購入する必要があります。トリガ ハンドル キット (p/n TRG-TC51-TRG1-01) には、高耐久性ブーツが含まれています。

トリガ ハンドルを使用すると、スキャントリガを備えたガン タイプのハンドルをデバイスに取り付けられます。長時間にわたる大量のスキャンが必要な作業でデバイスを使用する場合に、ユーザーへの負担が軽減されます。

図 129 トリガ ハンドル



高耐久性ブーツの取り付け

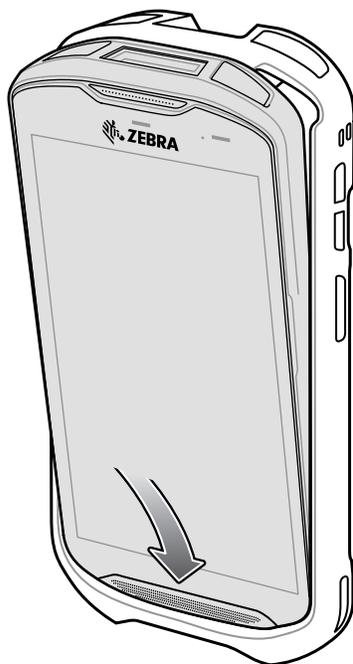


注: 高耐久性ブーツにハンドストラップを取り付けている場合、ブーツ取り付けの前に外します。

高耐久性ブーツを取り付けるには、次の手順に従います。

1. デバイスの下部をブーツの下部に挿入します。

図 130 デバイスをブーツに挿入



2. 高耐久性ブーツの上部をデバイスの上部に持ち上げてかぶせます。

図 131 ブーツをデバイスの上まで持ち上げる



3. デバイスを高耐久性ブーツに押し込みます。

図 132 デバイスをブーツに押し込む

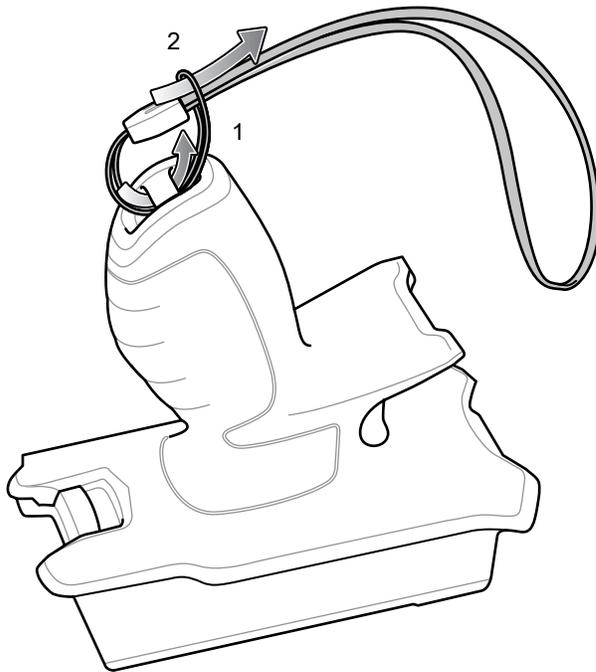


オプションのストラップの取り付け

トリガ ハンドルにストラップを取り付けるには、次の手順に従います。

1. ストラップの端のループをハンドルの下部にあるスロットに挿入します。
2. ストラップをループに通します。

図 133 アタッチメント プレートを手柄に取り付ける



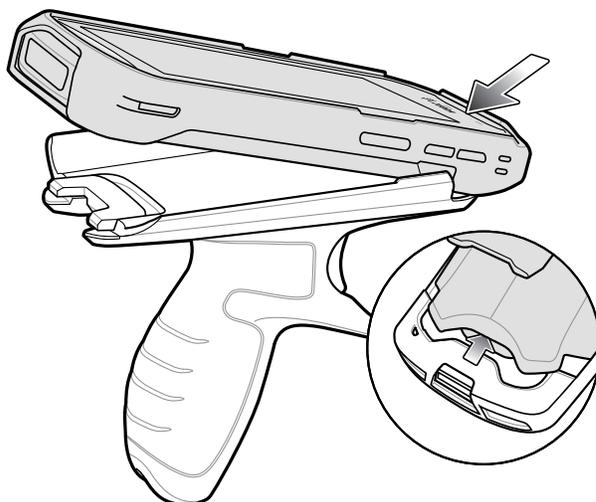
3. ループが締まるまでストラップを引きます。

トリガ ハンドルへのデバイスのセット

トリガ ハンドルにデバイスを取り付けるには、次の手順に従います。

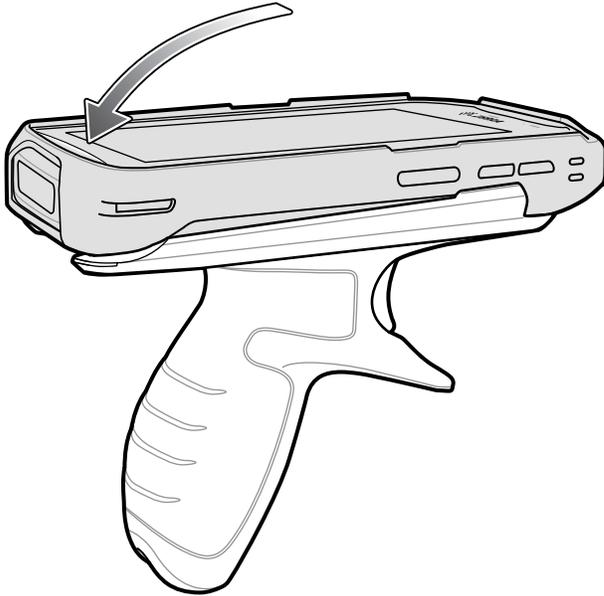
1. トリガ ハンドルのフランジを、高耐久性ブーツの上部の位置に合わせて挿入します。

図 134 トリガ ハンドルへのデバイスの取り付け



2. デバイスを回転させるようにして、所定の位置にカチッとハマるまで押し下げます。

図 135 デバイスをトリガ ハンドルの方へ倒す

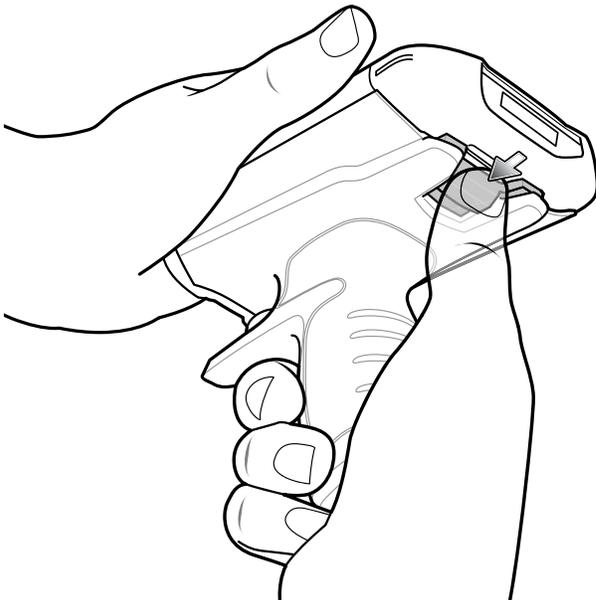


トリガ ハンドルからのデバイスの取り外し

トリガ ハンドルからデバイスを取り外すには、次の手順に従います。

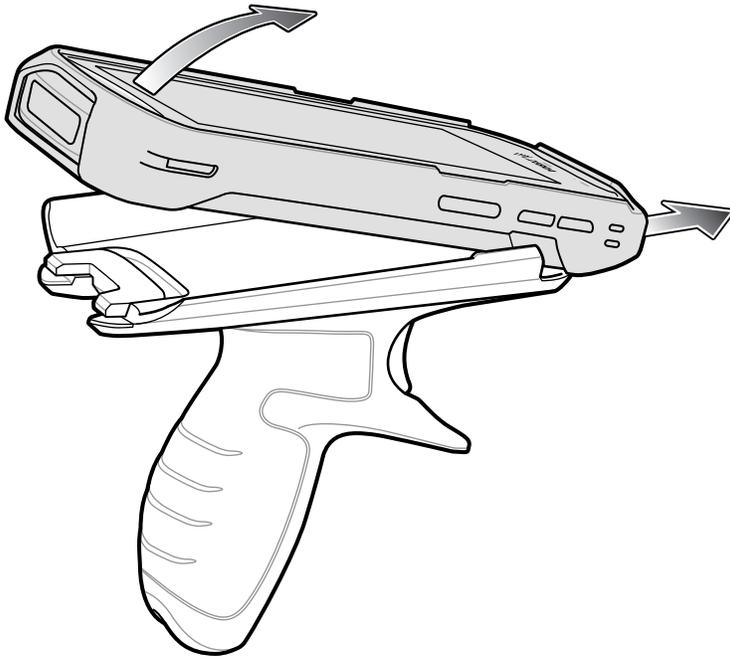
1. トリガ ハンドルのリリース ラッチを押します。

図 136 リリース ラッチを押す



2. デバイスを前方にスライドさせ、デバイスの下部を上引き上げます。

図 137 トリガ ハンドルからデバイスを取り外す

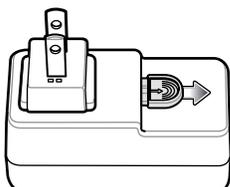


電源

高耐久性充電/USB ケーブル付きの電源を使用して、デバイスを充電します。海外でも使用できるように、さまざまな構成の電源があり、プラグ アダプタも複数用意されています。プラグ アダプタを変更するには、次の手順に従います。

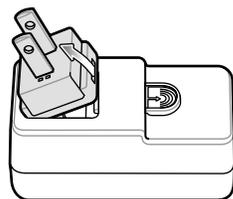
1. リリース ボタンを引き下げます。

図 138 リリース ボタンを引く



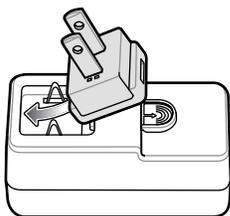
2. プラグ アダプタを回転させるようにして電源から持ち上げます。

図 139 プラグ アダプタを持ち上げる



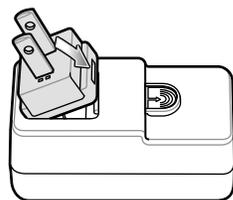
3. 交換するプラグ アダプタを電源に挿入します。

図 140 プラグ アダプタを挿入



4. プラグ アダプタを下に回転させるようにして所定の位置にはめ込みます。

図 141 プラグ アダプタを回転させるようにして電源に挿入する



5 スロット クレードル ラックの取り付け

ラック/壁取り付けブラケットを使用して、5 スロット クレードルをラックに取り付けます。ラックに取り付ける場合は、まずブラケットとクレードル/充電器を組み立ててから、ラックに取り付けます。

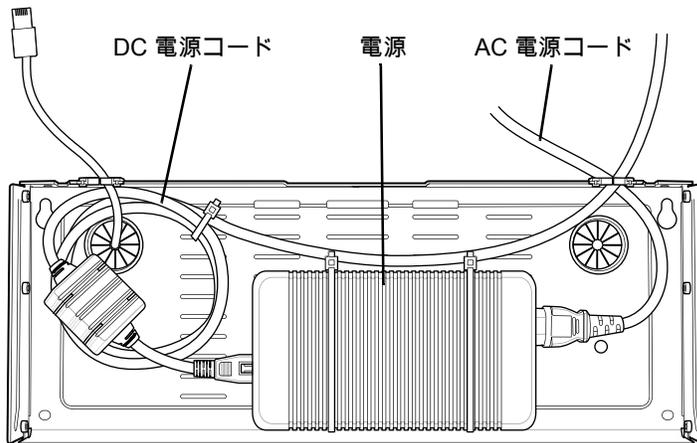
1. 電源アダプタを下部トレイに配置します。
2. AC 電源コードを電源アダプタに接続します。
3. DC 電源コードを電源アダプタに接続します。
4. 結束バンドで電源アダプタとケーブルを下部トレイに固定します。



注: 結束バンドの結束部が電源アダプタの側面にあることを確認します。電源アダプタの上部に結束バンドの結束部があると、上部トレイの障害になります。

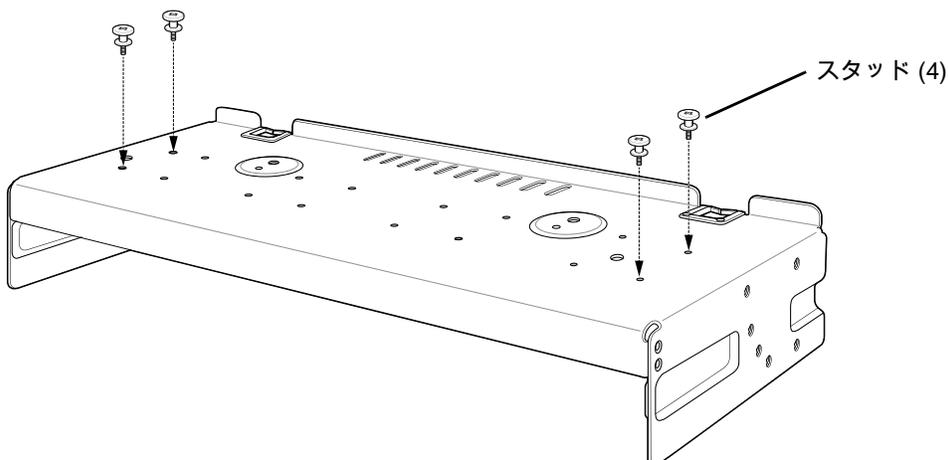
1. ケーブル スロットを通して、ケーブルを配線します。

図 142 下部トレイの電源アダプタ



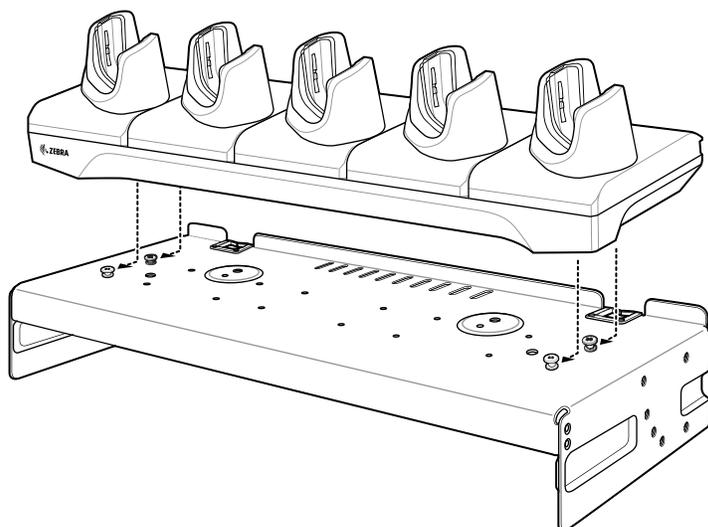
2. 図に示すように、4 本の M2.5 スタッドを上部トレイに取り付けます。

図 143 スタッドを取り付ける



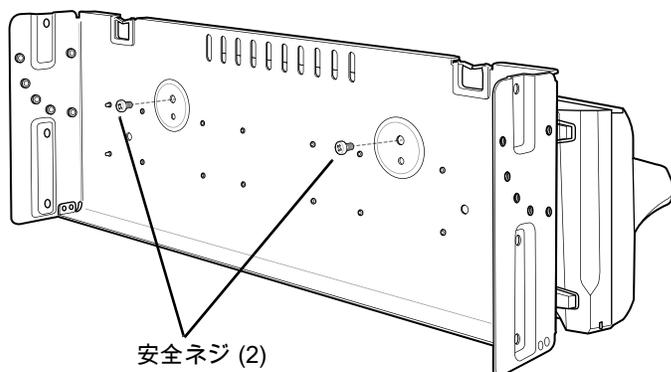
3. 5 スロット クレードルを上部トレイのスタッドに合わせて取り付けます。

図 144 クレードルをスタッドに合わせる



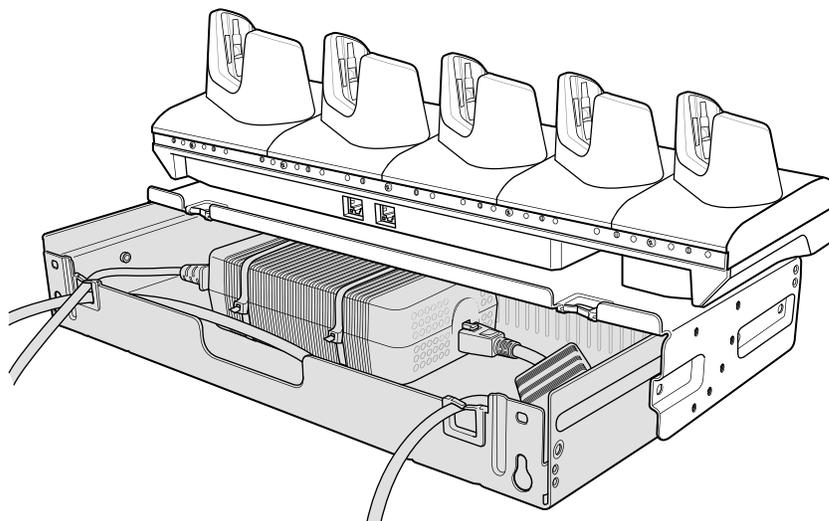
4. 2本の M2.5 安全ネジでクレードルを上部トレイに固定します。

図 145 クレードルを固定する



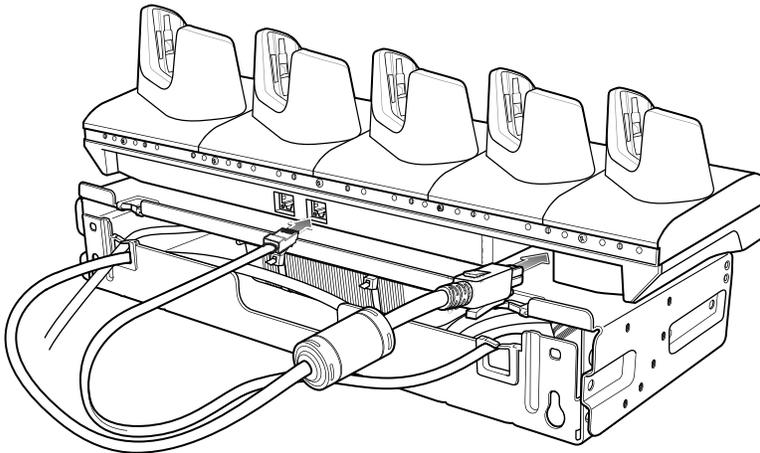
5. スライドさせて上部トレイを下部トレイにはめ込みます。

図 146 スライドさせて上部トレイを下部トレイにはめ込む



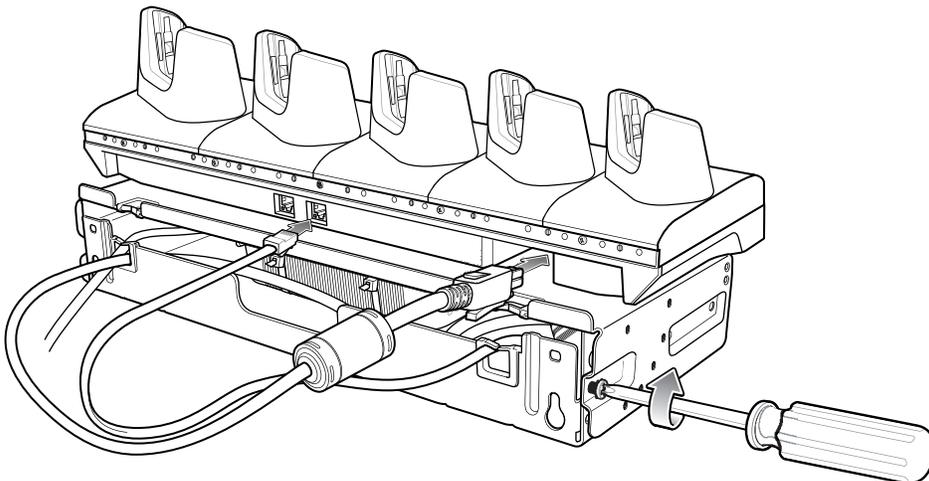
6. ケーブルをクレードルに接続します。

図 147 ケーブルを接続する



7. 4本のM5ネジ(各側面に2本)で上部トレイを下部トレイに固定します。

図 148 上部トレイを下部トレイに固定する



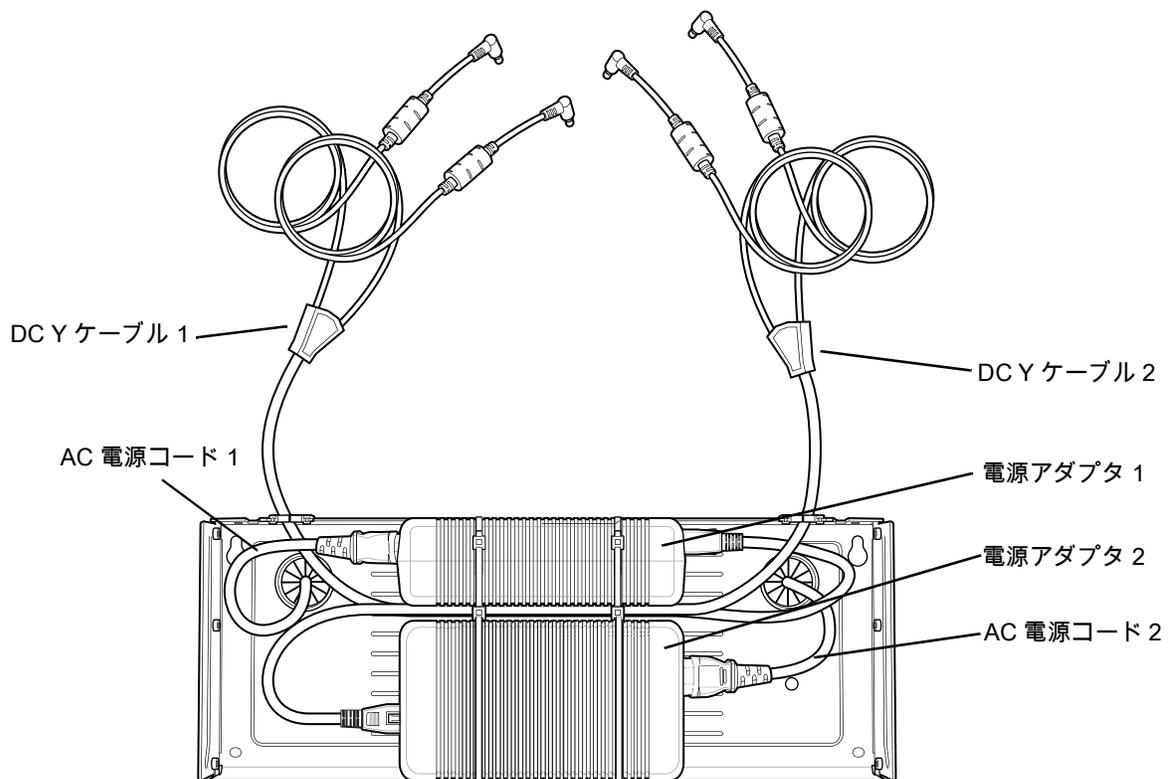
ラックにブラケット アセンブリを取り付ける手順については、170 ページの「ラック マウントの取り付け」を参照してください。

4 スロット バッテリ充電器のラックへの取り付け

ラック/壁取り付けブラケットを使用して、4 台の 4 スロット バッテリ充電器をラックに取り付けます。ラックに取り付ける場合は、まずブラケットと充電器を組み立ててから、ラックに取り付けます。

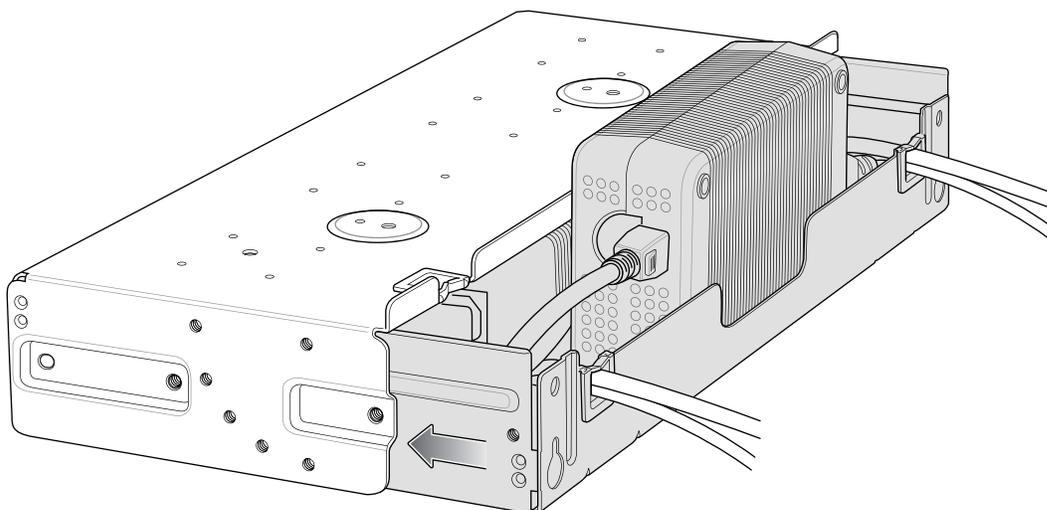
1. 1 個の電源アダプタを横にして下部トレイに配置します。
2. 1 個の電源アダプタを縦にして下部トレイに配置します。
3. AC 電源コードを電源アダプタに接続します。
4. DC 電源コードを電源アダプタに接続します。
5. 結束バンドで電源アダプタとケーブルを下部トレイに固定します。
6. ケーブル スロットを通して、ケーブルを配線します。

図 149 下部トレイ内の電源アダプタ



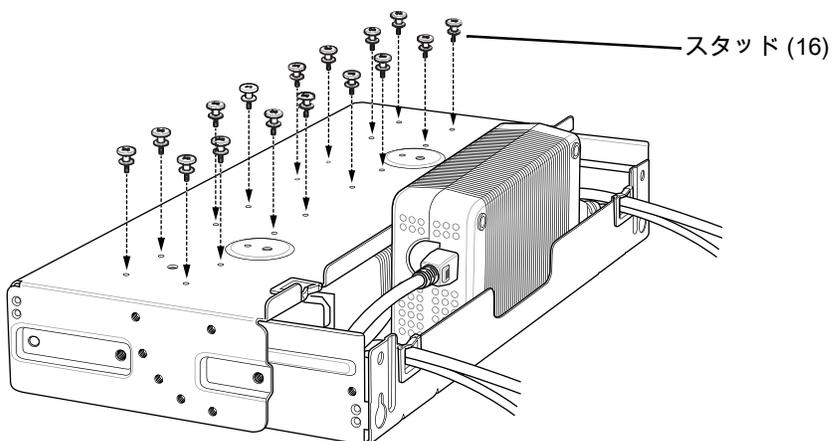
7. 上部トレイが縦になった電源アダプタに触れるまで、上部トレイをスライドさせて下部トレイにはめ込みます。

図 150 スライドさせて上部トレイを下部トレイにはめ込む



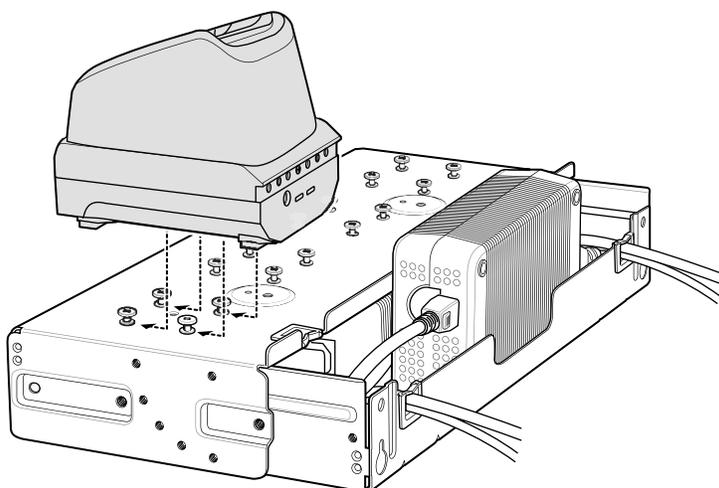
8. 次の図に示すように、16本のM2.5スタッドを上部トレイに取り付けます。

図 151 スタッドを取り付ける



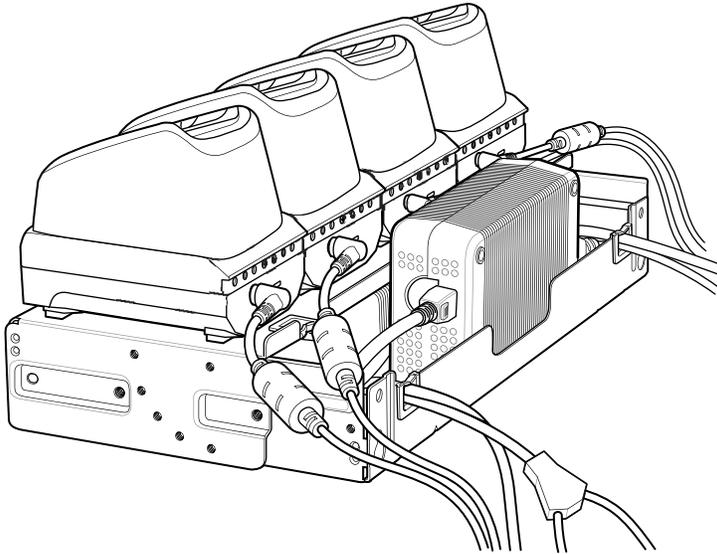
9. 4本のスタッドに合わせて4スロット バッテリ充電器を取り付けます。

図 152 充電器の位置をスタッドに合わせる



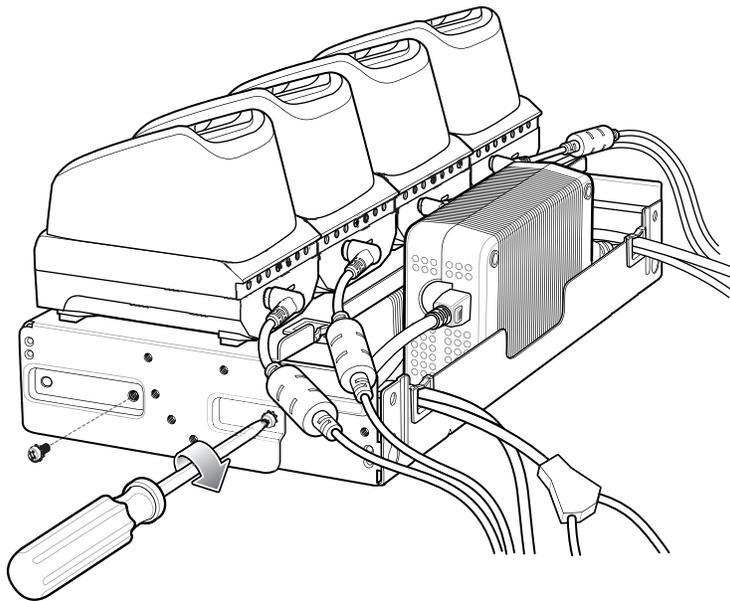
10. DC Y ケーブルを 4 台の 4 スロット バッテリ充電器に接続します。

図 153 ケーブルを接続する



11. 4 本の M5 ネジ (各側面に 2 本) で上部トレイを下部トレイに固定します。

図 154 上部トレイを下部トレイに固定する



ラックにブラケットを取り付ける手順については、170 ページの「ラック マウントの取り付け」を参照してください。

ラック マウントの取り付け



注: ラック システムの付属ネジを使用します。手順については、ラックのユーザー ドキュメントを参照してください。

1. 4 本の M5 ネジ (各側面に 2 本) を使用して、取り付けブラケットを上部トレイの両側に固定します。5 スロット クレードルの場合、水平取り付けに合わせてフランジを配置します。4 スロット バッテリー充電器の場合、25° 傾斜取り付けに合わせてフランジを配置します。

図 155 フランジの水平配置 (5 スロット クレードル)

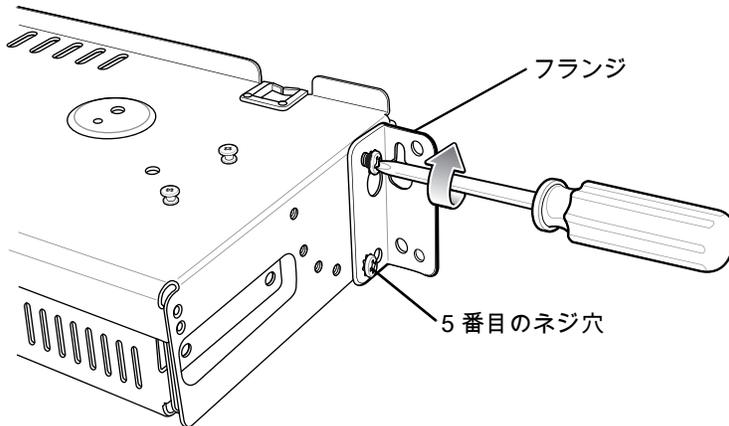
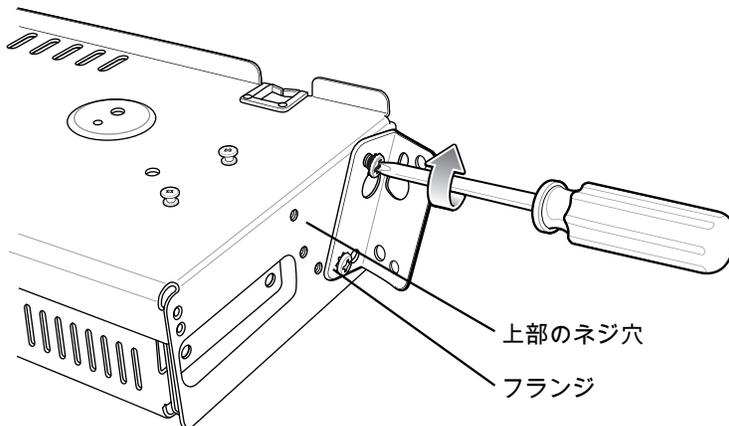


図 156 フランジの 25° 傾斜配置 (4 スロット バッテリー充電器)



注意: 5 スロット クレードルの取り付けブラケットを、地面から最大 120cm の高さに取り付けます。4 スロット バッテリー充電器の取り付けブラケットを、地面から最大 90cm の高さに取り付けます。



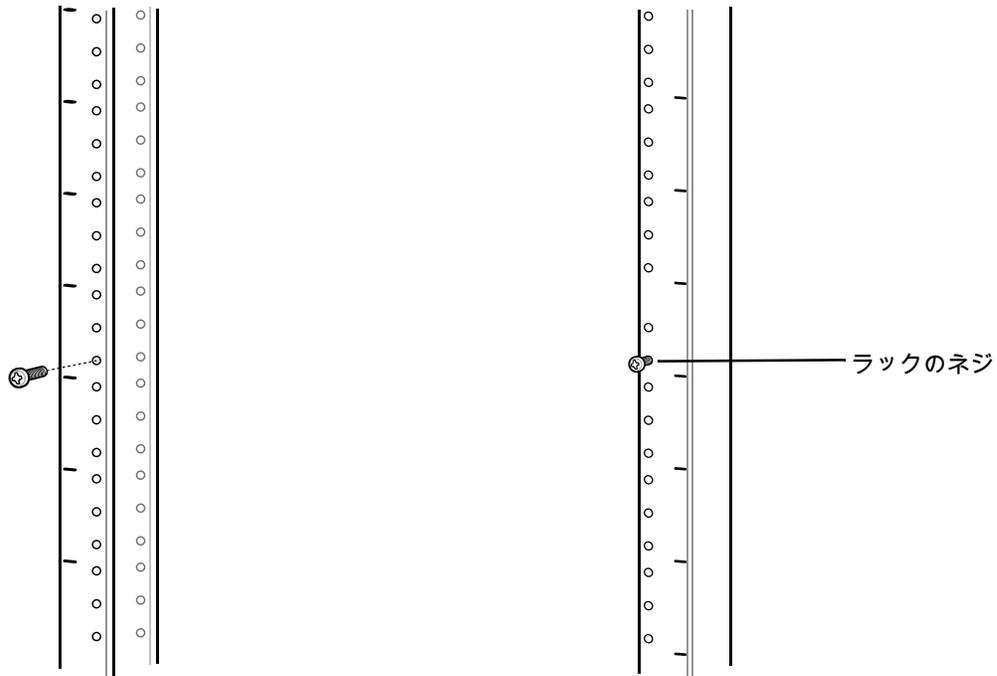
注: 2 個の水平取り付けブラケット間の距離 (1 個のフランジの上部から次のフランジの上部まで) は、少なくとも 35cm 離れている必要があります。

1 個の水平取り付けブラケットと 1 個の 25° 傾斜取り付けブラケット間の距離 (1 個のフランジの上部から次のフランジの上部まで) は、少なくとも 41.3cm 離れている必要があります。

デバイスの上部と、上記の取り付けブラケットの下部の間には、十分な空間 (7cm) が必要です。

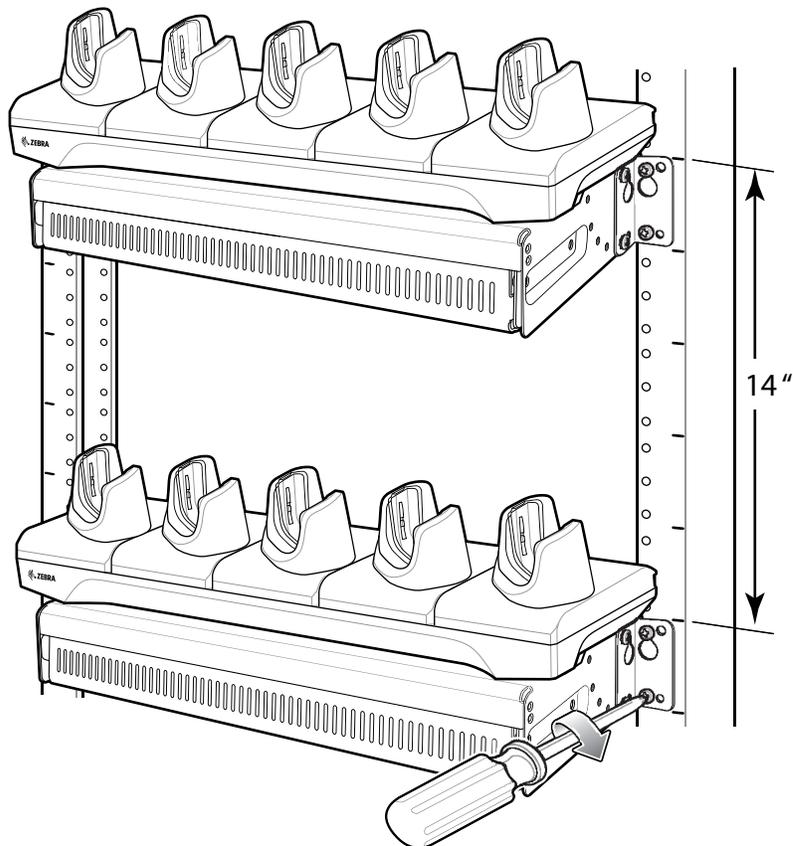
1. 取り付けブラケットの上部に 2 本のラック システム ネジを取り付けます。ネジの頭部が、レールから半分突き出た状態になります。

図 157 ラックシステムのネジを取り付ける



2. 取り付けブラケットの上部取り付けキーホールをネジに合わせます。
3. ブラケットをネジに取り付けます。

図 158 ブラケットをラックに固定する (図は水平配置)



4. 上部のネジを固定します。
5. 下部のネジを挿入してネジを締めます。
6. ケーブルを配線し、電源アダプタに接続します。



注意: 設置者は、電源アダプタを AC 電源に接続する際に、すべての建築基準法を順守していることを確認する必要があります。

ブラケット、電源、およびケーブルの取り付け時には、次の点に注意してください。

- 結束バンドを使用して、ケーブルをブラケットとレールに固定します。
- 可能な限りケーブルを巻き取ります。
- 電源ケーブルをレールに沿って配線します。
- クレードル間のケーブルをサイドレールに配線し、次にレールからブラケットに配線します。

壁への取り付け

ラック/壁取り付けブラケットを使用して、4 台の 4 スロット バッテリ充電器またはクレードルを壁に取り付けます。壁に取り付ける場合は、最初に下部トレイを組み立て、下部トレイを壁に取り付けてから、上部トレイを組み立てます。

ブラケットを取り付ける壁に応じて、使用する取り付け金具（ネジおよび/またはアンカー）を選択します。取り付けブラケットの取り付けスロットは、寸法が 5mm (0.2 インチ) になっています。固定具は最低 20Kg (44 ポンド) を保持できる必要があります。

適切な取り付けについては、専門の設置業者にご相談ください。ブラケットを正しく取り付けないと、ハードウェアが損傷する可能性があります。



注意: 5 スロット クレードルの取り付けブラケットを、地面から最大 120cm の高さに取り付けます。
4 スロット バッテリ充電器の取り付けブラケットを、地面から最大 90cm の高さに取り付けます。

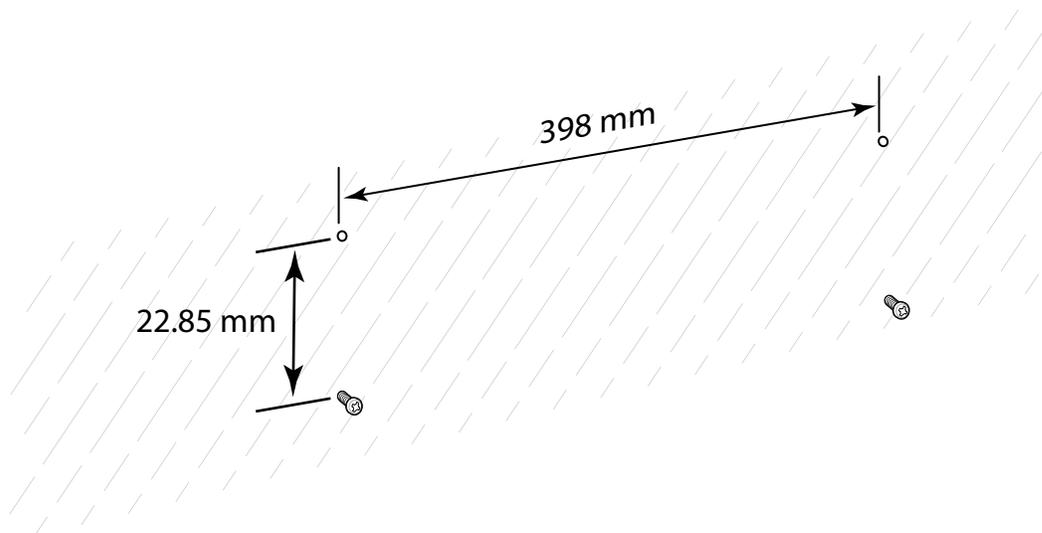
下部トレイのアセンブリ

手順については、167 ページの手順 1 ~ 5 を参照してください。

ブラケットの壁面取り付け

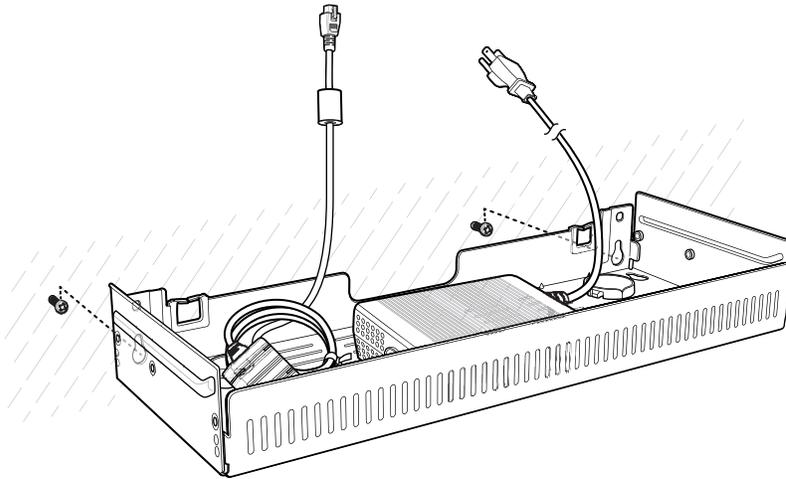
1. ブラケットの付属テンプレートに従ってドリルで穴を開け、アンカーを取り付けます。
2. ブラケットの下部をはめ込むことができるように、2 本のネジを取り付けます。ネジの頭部が、壁から 2.5mm (0.01 インチ) 突き出た状態になります。

図 159 水平取り付けテンプレート



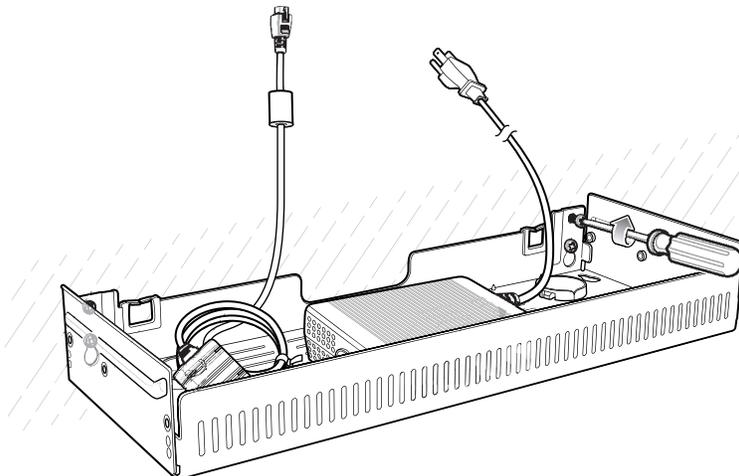
3. 取り付けブラケットの下部取り付けキー ホールをネジに合わせます。
4. ブラケットをネジにはめ込みます。

図 160 水平取り付け



5. 上部に 2 本のネジを取り付けます。
6. すべてのネジを締めます。

図 161 水平取り付け - ネジを締め込む



7. 4 台の 4 スロット バッテリー充電器またはクレードルをブラケットに取り付けます。167 ページの手順 7 ~ 11 を参照してください。
8. ケーブルを配線し、電源アダプタに接続します。



注意: 設置者は、電源アダプタを AC 電源に接続する際に、すべての建築基準法を順守していることを確認する必要があります。

ブラケット、電源、およびケーブルの取り付け時には、次の点に注意してください。

- 結束バンドを使用して、ケーブルをブラケットとレールに固定します。
- 可能な限りケーブルを巻き取ります。
- 電源ケーブルをレールに沿って配線します。
- クレードル間のケーブルをサイドレールに配線し、次にレールからブラケットに配線します。

アプリケーションの導入

セキュリティ

デバイスは、一連のセキュリティ ポリシーを実装します。これらのポリシーは、アプリケーションの実行を許可するかどうかや、許可する場合の信頼レベルを決定します。アプリケーションを開発する場合、デバイスのセキュリティ構成と、適切な証明書でアプリケーションにサインインしてアプリケーションを実行できるようにする（および必要な信頼レベルで実行できるようにする）方法を把握する必要があります。



注: 証明書をインストールする前、またはセキュリティで保護された Web サイトにアクセスする場合は、日付が正しく設定されていることを確認してください。

セキュリティ証明書

VPN または Wi-Fi ネットワークがセキュリティ証明書に依存している場合、VPN または Wi-Fi ネットワークへのアクセスを構成する前に、証明書を取得してデバイスのセキュリティで保護された認証情報ストレージに格納します。

Web サイトから証明書をダウンロードする場合、認証情報ストレージのパスワードを設定します。デバイスは、PKCS # 12 キーストア ファイルに保存されている .p12 拡張子が付いた X.509 証明書をサポートしています (キーストアに .pfx またはその他の拡張子が付いている場合は、.p12 に変更します)。

デバイスは、キーストアに含まれている付属の秘密鍵または認証局の証明書もインストールします。

セキュリティ証明書のインストール

セキュリティ証明書をインストールするには、次の手順に従います。

1. ホスト コンピュータから、microSD カードのルートまたはデバイスの内部メモリに証明書をコピーします。デバイスをホスト コンピュータに接続してファイルをコピーする方法については、[32 ページの「ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する」](#)を参照してください。
2. **[Settings] (設定)** に移動します。
3. **[Security & location] (セキュリティと場所)** > **[Advanced] (詳細設定)** > **[Encryption & credentials] (暗号化と認証情報)** をタッチします。
4. **[Install from storage] (ストレージからインストール)** をタッチします。
5. 証明書ファイルの場所に移動します。
6. インストールする証明書のファイル名をタッチします。
7. プロンプトが表示されたら、認証情報ストレージのパスワードを入力します。認証情報ストレージにパスワードが設定されていない場合は、パスワードを 2 回入力し、**[OK]** をタッチします。

8. プロンプトが表示されたら、証明書のパスワードを入力して **[OK]** をタッチします。
9. 証明書の名前を入力し、**[Credential use]** (認証情報の使用) ドロップダウンで、**[VPN and apps]** (VPN とアプリ) または **[Wi-Fi]** を選択します。
10. **[OK]** をタッチします。

これでセキュリティで保護されたネットワークへの接続時に証明書を使用できるようになります。セキュリティ上の理由で、証明書は microSD カードまたは内部メモリから削除されます。

認証情報ストレージ設定の構成

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Security & location]** (セキュリティと場所) > **[Advanced]** (詳細設定) > **[Encryption & credentials]** (暗号化と認証情報) をタッチします。
 - **[Trusted credentials]** (信頼された認証情報) - タッチして、信頼されたシステムとユーザーの認証情報を表示します。
 - **[User credentials]** (ユーザーの認証情報) - タッチして、ユーザーの認証情報を表示します。
 - **[Install from storage]** (ストレージからインストール) - タッチして、microSD カードまたは内部ストレージからセキュリティ証明書をインストールします。
 - **[Clear credentials]** (認証情報のクリア) - すべてのセキュリティ証明書と関連の認証情報を削除します。

開発ツール

Android アプリケーション開発

開発ワークステーション

Android 開発ツールは、developer.android.com で入手できます。

デバイス向けのアプリケーション開発を開始するには、Android Studio をダウンロードします。開発は、Microsoft® Windows®, Mac® OS X®, または Linux® オペレーティングシステムで実行できます。

アプリケーションは Java 言語で記述されますが、Dalvik 仮想マシンでコンパイルおよび実行されます。Java コードが正常にコンパイルされると、開発者ツールにより、AndroidManifest.xml ファイルを含め、アプリケーションが適切にパッケージ化されていることが確認されます。

Android Studio には、完全機能版の IDE と、Android アプリケーション開発に必要な SDK コンポーネントが含まれています。

対象デバイス

[Developer options] (開発者オプション) 画面を開いて、開発関連の設定を行います。

デフォルトでは、**[Developer options]** (開発者オプション) は非表示になっています。開発者オプションを表示するには、ステータス バーから下にスワイプしてクイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。

[System] (システム) > **[About device]** (デバイス情報) をタッチします。**[Build number]** (ビルド番号) まで下にスクロールします。**[You are now a developer]** (これであなたも開発者です) が表示されるまで、**[Build number]** (ビルド番号) を 7 回タップします。

[System] (システム) > **[Developer options]** (開発者向けオプション) をタッチします。スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドして、開発者向けオプションを有効にします。

EMDK for Android

EMDK for Android は、開発者向けの包括的なツール セットです。このツール セットでは、エンタープライズモバイル コンピューティング デバイス向けの強力な基幹業務アプリケーションを簡単に作成できます。このツール セットは、Google の Android SDK および Android Studio 用に設計されており、クラス ライブラリ、サンプル アプリケーション (ソース コード付き)、関連ドキュメントがすべて含まれているため、アプリケーションでは、Zebra デバイスの機能を最大限に活用できます。

このキットには、Zebra MX デバイス管理フレームワークへの排他的アクセスを提供する GUI ベースのデバイス構成ツール Profile Manager も含まれています。このツールを使用すると、より少ない時間、より少ないコード行、より少ないエラーで、開発者はアプリケーション内から Zebra デバイスを構成できます。

詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。

StageNow

StageNow は Zebra の次世代 Android ステージング ソリューションです。Android Lollipop、KitKat®、および Jelly Bean オペレーティング システムをサポートしており、MX 4.3/4.4/5.x/6.0 プラットフォーム上に構築されます。デバイス プロファイルをすばやく簡単に作成できます。さらに、バーコードのスキャン、タグの読み取り、またはオーディオ ファイルの再生だけでデバイスに導入できます。

StageNow Staging Solution には、次のコンポーネントが含まれています。

- StageNow Workstation ツールは、ステージング ワークステーション (ホスト コンピュータ) にインストールされます。管理者は、このツールにより、デバイス コンポーネントを構成するためのステージング プロファイルを簡単に作成できます。さらに、ターゲット デバイスの状態を確認して、ソフトウェア アップグレードやその他のアクティビティの適合性を判断するなど、その他のステージング アクションも実行できます。StageNow Workstation には、後で使用するために、プロフィールおよびその他の作成済みコンテンツが保存されます。
- StageNow Client はデバイスに常駐し、ステージング オペレータがステージングを開始できるように、ユーザー インタフェースを提供します。オペレータは、1 つ以上のステージング方法 (バーコードの印刷/スキャン、NFC タグの読み取り、またはオーディオ ファイルの再生) で、ステージング素材をデバイスに提供します。

詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。

GMS 制限

GMS 制限モードは、Google モバイル サービス (GMS) を無効にします。デバイスですべての GMS アプリが無効になり、Google との通信 (分析データ収集および位置情報サービス) が無効になります。

GMS 制限モードは、StageNow を使用して無効または有効にします。デバイスが GMS 制限モードになったら、StageNow を使用して個々の GMS アプリとサービスを有効/無効にします。エンタープライズ リセットの後も GMS 制限モードを維持するには、StageNow の Persist Manager オプションを使用します。StageNow の詳細については、techdocs.zebra.com を参照してください。

ADB USB のセットアップ

ADB を使用するには、USB ドライバをインストールします。これは、開発 SDK がホスト コンピュータにインストール済みであることが前提になっています。開発 SDK のセットアップの詳細については、developer.android.com/sdk/index.html にアクセスしてください。

Windows および Linux 向けの ADB ドライバは、Zebra Support Central Web サイト (www.zebra.com/support) で入手できます。ADB および USB ドライバ セットアップ パッケージをダウンロードします。パッケージの指示に従って、Windows および Linux 向けの ADB および USB ドライバをインストールします。

USB デバッグを有効にする

デフォルトでは、USB デバッグは無効になっています。USB デバッグを有効にするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[About phone]** (電話機情報) をタッチします。
3. **[Build number]** (ビルド番号) まで下にスクロールします。
4. **[Build number]** (ビルド番号) を 7 回タップします。**[You are now a developer!] (これであなたも開発者です!)** というメッセージが表示されます。
5. **<** をタッチします。
6. **[System]** (システム) > **[Advanced]** (詳細設定) > **[Developer options]** (開発者向けオプション) をタッチします。
7. **[USB debugging]** (USB デバッグ) スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドさせます。
8. **[OK]** をタッチします。
9. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、デバイスをホスト コンピュータに接続します。
デバイスで **[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?)** ダイアログ ボックスが表示されます。
10. デバイスで **[OK]** をタッチします。
11. ホスト コンピュータで、`platform-tools` フォルダに移動します。
12. 「adb devices」と入力します。
次のような画面が表示されます。
`List of devices attached`
`XXXXXXXXXXXXXXXX device (XXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です)`



注: デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

13. **○** をタッチします。

アプリケーションのインストール

アプリケーションの開発後、次のいずれかの方法で、アプリケーションをデバイスにインストールします。

- USB 接続については、179 ページの「[USB 接続を使用したアプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
- Android Debug Bridge については、179 ページの「[Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
- microSD カードについては、180 ページの「[microSD カードを使用したアプリケーションのインストール](#)」を参照してください。
- アプリケーション プロビジョニングに対応したモバイル デバイス管理 (MDM) プラットフォーム。詳細については、MDM ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

USB 接続を使用したアプリケーションのインストール



注意: デバイスをホスト コンピュータに接続して microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホスト コンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

1. 高耐久性充電/USB ケーブルを使用して、デバイスをホスト コンピュータに接続します。
2. 通知パネルを表示して、**[Charging this device via USB] (USB でこのデバイスを充電中)** をタッチします。
3. **[File Transfer] (ファイル転送)** をタッチします。
4. ホスト コンピュータ上で、ファイル マネージャ アプリケーションを開きます。
5. ホスト コンピュータで、アプリケーションの .apk ファイルをホスト コンピュータからデバイスにコピーします。



注意: 情報がなくなってしまうよう、ホスト コンピュータの指示に慎重に従って、microSD カードをマウント解除し、USB デバイスを正しく切断します。

6. ホスト コンピュータからデバイスを切断します。
7. 画面を上からスワイプし、 を選択して microSD カードまたは内部ストレージ内のファイルを表示します。
8. アプリケーションの .apk ファイルを見つけます。
9. アプリケーション ファイルをタッチします。
10. **[Continue] (続行)** をタッチしてアプリをインストールするか、**[Cancel] (キャンセル)** をタッチしてインストールを停止します。
11. インストールを確認し、アプリケーションによる影響を受け入れる場合は、**[Install] (インストール)** をタッチします。そうでない場合は **[Cancel] (キャンセル)** をタッチします。
12. **[Open] (開く)** をタッチしてアプリケーションを開くか、**[Done] (完了)** をタッチしてインストール プロセスを終了します。アプリケーションが、アプリ リストに表示されます。

Android Debug Bridge を使用したアプリケーションのインストール

ADB コマンドを使用して、アプリケーションをデバイスにインストールします。



注意: デバイスをホスト コンピュータに接続して、microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホスト コンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

ホスト コンピュータで ADB ドライバがインストール済みであることを確認します。[177 ページの「ADB USB のセットアップ」](#)を参照してください。

1. USB を使用し、デバイスをホスト コンピュータに接続します。[32 ページの「ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する」](#)を参照してください。
2. **[Settings] (設定)** に移動します。
3. **[System] (システム)** > **[Advanced] (詳細設定)** > **[Developer options] (開発者向けオプション)** をタッチします。
4. スイッチを **[ON] (オン)** の位置にスライドします。
5. **[USB Debugging] (USB デバッグ)** をタッチします。チェック ボックスに、チェック マークが表示されます。**[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?)** ダイアログ ボックスが表示されます。
6. **[OK]** をタッチします。
7. ホスト コンピュータで、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次の adb コマンドを実行します。
`adb install <アプリケーション>`
 値は次のとおりです。<アプリケーション> = apk ファイルのパスとファイル名。
8. ホスト コンピュータからデバイスを切断します。[32 ページの「ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する」](#)を参照してください。

microSD カードを使用したアプリケーションのインストール



注意: デバイスをホスト コンピュータに接続して、microSD カードを取り付ける場合は、ファイルを破損しないように、ホスト コンピュータの USB デバイスの接続と切断の指示に従ってください。

1. USB を使用し、デバイスをホスト コンピュータに接続します。32 ページの「ホスト コンピュータとの間で USB 経由でファイルを転送する」を参照してください。
2. ホスト コンピュータから microSD カードにアプリケーションの APK ファイルをコピーします。
3. microSD カードをホスト コンピュータから取り出します。
4. メニューが表示されるまで、電源ボタンを長押しします。
5. **[Power off]** (電源オフ) をタッチします。
6. 2 つのバッテリー ラッチを押し入れます。
7. バッテリーをデバイスから取り出します。
8. アクセス ドアを持ち上げます。
9. microSD カードを挿入します。
10. アクセス ドアを元に戻します。
11. デバイスの背面のバッテリー収納部に、バッテリーを取り付けます。この場合、バッテリーの下側を先に入れます。
12. バッテリー リリース ラッチが固定されるまで、バッテリーを押し下げます。
13. 電源ボタンを長押しして、デバイスの電源をオンにします。
14. 画面を上にもスワイプし、 を選択して microSD カード内のファイルを表示します。
15.  > **[SD card]** (SD カード) の順にタッチします。
16. アプリケーションの .apk ファイルを見つけます。
17. アプリケーション ファイルをタッチします。
18. **[Continue]** (続行) をタッチしてアプリをインストールするか、**[Cancel]** (キャンセル) をタッチしてインストールを停止します。
19. インストールを確認し、アプリケーションによる影響を受け入れる場合は、**[Install]** (インストール) をタッチします。そうでない場合は **[Cancel]** (キャンセル) をタッチします。
20. **[Open]** (開く) をタッチしてアプリケーションを開くか、**[Done]** (完了) をタッチしてインストール プロセスを終了します。アプリケーションが、アプリ リストに表示されます。

アプリケーションのアンインストール

アプリケーションをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Apps & notifications]** (アプリと通知) をタッチします。
3. **[See all apps]** (すべてのアプリを表示) をタッチして、リスト内のすべてのアプリを表示します。
4. リストをスクロールして、アプリを見つけます。
5. アプリをタッチします。**[App info]** (アプリ情報) 画面が表示されます。
6. **[Uninstall]** (アンインストール) をタッチします。
7. **[OK]** をタッチして確定します。

システム アップデートの実行

システム更新パッケージには、オペレーティング システムの更新の一部または全部が含まれています。Zebra は、Zebra サポート & ダウンロード Web サイトでシステム更新パッケージを配布しています。microSD カードまたは ADB を使用してシステムの更新を実行します。

システム更新パッケージのダウンロード

システム更新パッケージをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. Zebra サポート & ダウンロード Web サイト (www.zebra.com/support) に移動します。
2. 適切なシステム更新パッケージをホスト コンピュータにダウンロードします。

microSD カードの使用

使用する前に、デバイスで microSD カードをフォーマットすることを強くお勧めします。

1. システム更新の zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
 - ホスト コンピュータを使用して zip ファイルを microSD カードにコピーし (詳細については「USB 通信」を参照)、デバイスに microSD カードを取り付けます (詳細については「microSD カードの交換」を参照)。
 - microSD カードがすでに取り付けられているデバイスをホスト コンピュータに接続し、zip ファイルを microSD カードにコピーします。詳細については、「USB 通信」を参照してください。ホスト コンピュータからデバイスを切断します。
2. メニューが表示されるまで、電源ボタンを長押しします。
3. **[Restart]** (再起動) をタッチします。
4. **[OK]** をタッチします。デバイスがリセットされます。
5. デバイスが振動するまで、PTT ボタンを長押しします。[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
6. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from sdcard]** (SDカードから適用する) に移動します。
7. 電源ボタンを押します。
8. 音量上/下ボタンを押して、**[Full OTA Package]** (完全 OTA パッケージ) または **[Diff OTA Package]** (差分 OTA パッケージ) に移動します。
9. 電源ボタンを押します。
10. 音量上/下ボタンを押して、システム更新ファイルに移動します。
11. 電源ボタンを押します。システム更新がインストールされ、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
12. 電源ボタンを押して、デバイスを再起動します。



注: GMS 以外のソフトウェアを搭載したデバイスに GMS ソフトウェアをインストールする場合、または GMS ソフトウェアを搭載したデバイスに GMS 以外のソフトウェアをインストールする場合、出荷時設定復元リセットまたはエンタープライズ リセットを実行します (エンタープライズ データは残ります)。

ADB の使用

ADB を使用してシステムを更新するには、次の手順に従います。

1. デバイスを高耐久性充電/USB ケーブルに接続するか、デバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入します。
2. ケーブルまたはクレードルをホスト コンピュータに接続します。
3. **[Settings]** (設定) に移動します。
4. **[System]** (システム) > **[Advanced]** (詳細設定) > **[Developer options]** (開発者向けオプション) をタッチします。
5. スイッチを **[ON]** (オン) の位置にスライドします。
6. **[USB Debugging]** (USB デバッグ) をタッチします。チェック ボックスに、チェック マークが表示されます。**[Allow USB debugging?]** (USB デバッグを許可しますか?) ダイアログ ボックスが表示されます。
7. **[OK]** をタッチします。
8. ホスト コンピュータで、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次の adb コマンドを実行します。

```
adb devices
```

次のような画面が表示されます。

```
List of devices attached
```

```
XXXXXXXXXXXXXXXXX device (XXXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です)
```



注: デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

9. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

10. Enter キーを押します。**[System Recovery]** (システム リカバリ) 画面が表示されます。
11. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from adb]** (adb から適用する) に移動します。
12. 電源ボタンを押します。
13. 音量上/下ボタンを使用して、**[Full OTA Package]** (完全 OTA パッケージ) または **[Diff OTA Package]** (差分 OTA パッケージ) ファイルに移動します。
14. 電源ボタンを押します。
15. ホスト コンピュータのコマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

```
adb sideload <????>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

16. Enter キーを押します。システム更新がインストールされ (進行状況がパーセンテージでコマンド プロンプト ウィンドウに表示されます)、その後 **[Recovery]** (リカバリ) 画面が表示されます。
17. 電源ボタンを押して、デバイスを再起動します。



注: GMS 以外のソフトウェアを搭載したデバイスに GMS ソフトウェアをインストールする場合、または GMS ソフトウェアを搭載したデバイスに GMS 以外のソフトウェアをインストールする場合、出荷時設定復元リセットまたはエンタープライズ リセットを実行します (エンタープライズ データは残ります)。

システム更新のインストールを確認する

システム更新が正しくインストールされたことを確認するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[About phone]** (電話機情報) をタッチします。
3. **[Build number]** (ビルド番号) まで下にスクロールします。
4. ビルド番号と新しいシステム更新パッケージ ファイル番号が一致することを確認します。

エンタープライズ リセットの実行

エンタープライズ リセットを実行すると、プライマリ ストレージ (/sdcard およびエミュレートされたストレージ) 内のデータを含めて、/data パーティション内のユーザー データがすべて消去されます。

エンタープライズ リセットの実行前に、必要な構成ファイルをすべてプロビジョニングしておき、リセット後にこれらを復元します。

microSD カードまたは ADB を使用して、エンタープライズ リセットを実行します。

エンタープライズ リセット パッケージのダウンロード

システム更新パッケージをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. Zebra サポート & ダウンロード Web サイト (www.zebra.com/support) に移動します。
2. エンタープライズ リセット ファイルをホスト コンピュータにダウンロードします。

microSD カードの使用

1. エンタープライズ リセットの zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
 - ホスト コンピュータを使用して zip ファイルを microSD カードにコピーし (詳細については「USB 通信」を参照)、デバイスに microSD カードを取り付けます (詳細については「microSD カードの交換」を参照)。
 - microSD カードがすでに取り付けられているデバイスをホスト コンピュータに接続し、zip ファイルを microSD カードにコピーします。詳細については、「USB 通信」を参照してください。ホスト コンピュータからデバイスを切断します。
2. メニューが表示されるまで、電源ボタンを長押しします。
3. **[Restart]** (再起動) にタッチします。
4. **[OK]** をタッチします。デバイスがリセットされます。
5. デバイスが振動するまで、PTT ボタンを長押しします。[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
6. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from sdcard]** (SDカードから適用する) に移動します。
7. 電源ボタンを押します。
8. 音量上/下ボタンを押して、**[Full OTA Package]** (完全 OTA パッケージ) に移動します。
9. 電源ボタンを押します。
10. 音量上/下ボタンを使用して、エンタープライズ リセット ファイルに移動します。
11. 電源ボタンを押します。エンタープライズ リセットが実行され、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
12. 電源ボタンを押します。

ADB の使用

ADB を使用してエンタープライズ リセットを実行するには、次の手順に従います。

1. デバイスを高耐久性充電/USB ケーブルに接続するか、デバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入します。
2. ケーブルまたはクレードルをホスト コンピュータに接続します。
3. デバイスで、ステータス バーから下にスワイプしてクイック アクセス パネルを開き、 をタッチします。
4. **[System] (システム) > [Developer options] (開発者向けオプション)** をタッチします。
5. スイッチを **[ON] (オン)** の位置にスライドします。
6. **[USB Debugging] (USB デバッグ)** をタッチします。チェック ボックスに、チェック マークが表示されます。**[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?)** ダイアログ ボックスが表示されます。
7. **[OK]** をタッチします。
8. ホスト コンピュータで、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
adb devices
```

次のような画面が表示されます。

```
List of devices attached
```

```
XXXXXXXXXXXXXXXX device (XXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です)
```



注: デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

9. タイプ:

```
adb reboot recovery
```

10. Enter キーを押します。[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
11. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from adb] (adb から適用する)** に移動します。
12. 電源ボタンを押します。
13. 音量上/下ボタンを押して、**[Full OTA Package] (完全 OTA パッケージ)** ファイルに移動します。
14. 電源ボタンを押します。
15. ホスト コンピュータのコマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。


```
adb sideload <ファイル>
```

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。
16. Enter キーを押します。エンタープライズ リセット パッケージがインストールされ、[Recovery] (リカバリ) 画面が表示されます。
17. 電源ボタンを押して、デバイスを再起動します。

工場出荷時リセットの実行

工場出荷時リセットを実行すると、内部ストレージの /data パーティションおよび /enterprise パーティション内のデータがすべて消去され、すべてのデバイス設定がクリアされます。工場出荷時リセットでは、デバイスが最後にインストールされたオペレーティング システム イメージに戻されます。以前のバージョンのオペレーティング システムに戻すには、そのオペレーティング システム イメージを再インストールします。詳細については、[181 ページの「システム アップデートの実行」](#)を参照してください。

工場出荷時リセット パッケージのダウンロード

工場出荷時リセット パッケージをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. Zebra サポート & ダウンロード Web サイト (www.zebra.com/support) に移動します。
2. 適切な工場出荷時リセット ファイルをホスト コンピュータにダウンロードします。

microSD カードの使用

使用する前に、デバイスで microSD カードをフォーマットすることを強くお勧めします。

1. 工場出荷時リセットの zip ファイルを microSD カードのルートにコピーします。
 - ホスト コンピュータを使用して zip ファイルを microSD カードにコピーし (詳細については「USB 通信」を参照)、デバイスに microSD カードを取り付けます (詳細については「microSD カードの交換」を参照)。
 - microSD カードがすでに取り付けられているデバイスをホスト コンピュータに接続し、zip ファイルを microSD カードにコピーします。詳細については、「USB 通信」を参照してください。ホスト コンピュータからデバイスを切断します。
2. メニューが表示されるまで、電源ボタンを長押しします。
3. **[Restart] (再起動)** にタッチします。
4. **[OK]** をタッチします。デバイスがリセットされます。
5. デバイスが振動するまで、PTT ボタンを長押しします。[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。
6. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from sdcard] (SD カードから適用する)** に移動します。
7. 電源ボタンを押します。
8. 音量上/下ボタンを押して、**[Full OTA Package] (完全 OTA パッケージ)** に移動します。
9. 電源ボタンを押します。
10. 音量上/下ボタンを使用して、工場出荷時リセット ファイルに移動します。
11. 電源ボタンを押します。工場出荷時リセットが実行され、デバイスが [Recovery] (リカバリ) 画面に戻ります。
12. 電源ボタンを押します。

ADB の使用

ADB を使用して工場出荷時リセットを実行するには、次の手順に従います。

1. デバイスを高耐久性充電/USB ケーブルに接続するか、デバイスを 1 スロット USB/充電専用クレードルに挿入します。
2. ケーブルまたはクレードルをホスト コンピュータに接続します。
3. **[Settings] (設定)** に移動します。
4. **[System] (システム)** > **[Advanced] (詳細設定)** > **[Developer options] (開発者向けオプション)** をタッチします。
5. スイッチを **[ON] (オン)** の位置にスライドします。
6. **[USB Debugging] (USB デバッグ)** をタッチします。チェック ボックスに、チェック マークが表示されます。**[Allow USB debugging?] (USB デバッグを許可しますか?)** ダイアログ ボックスが表示されます。

7. **[OK]** をタッチします。
8. ホスト コンピュータで、コマンド プロンプト ウィンドウを開き、次の adb コマンドを実行します。

adb devices

次のような画面が表示されます。

List of devices attached

XXXXXXXXXXXXXXXXX device (XXXXXXXXXXXXXXXXX はデバイス番号です)



注: デバイス番号が表示されない場合は、ADB ドライバが正しくインストールされていることを確認します。

9. タイプ:

adb reboot recovery

10. Enter キーを押します。[System Recovery] (システム リカバリ) 画面が表示されます。

11. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from adb]** (adb から適用する) に移動します。

12. 電源ボタンを押します。

13. 音量上/下ボタンを押して、**[apply from adb]** (adb から適用する) に移動します。

14. 電源ボタンを押します。

15. 音量上/下ボタンを押して、**[Full OTA Package]** (完全 OTA パッケージ) ファイルに移動します。

16. 電源ボタンを押します。

17. ホスト コンピュータのコマンド プロンプト ウィンドウで、次のコマンドを実行します。

adb sideload <ファイル>

値は次のとおりです。<ファイル> = zip ファイルのパスとファイル名。

18. Enter キーを押します。工場出荷時リセット パッケージがインストールされ、[Recovery] (リカバリ) 画面が表示されます。

19. 電源ボタンを押して、デバイスを再起動します。上部カバーを再び取り付けます。

ストレージ

デバイスには、次の 4 種類のファイル ストレージがあります。

- ランダム アクセス メモリ (RAM)
- 内部ストレージ
- 外部ストレージ (microSD カード)
- Enterprise フォルダ

ランダム アクセス メモリ

プログラムを実行すると、RAM を使用してデータが格納されます。RAM に格納されているデータは、リセット時に失われます。アプリケーションで RAM が使用される方法は、オペレーティング システムによって管理されます。アプリケーション、コンポーネント プロセス、サービスによる RAM の使用は、必要な場合にのみ許可されます。最近使用したプロセスは RAM にキャッシュされるため、再び開く場合はより迅速に再起動されます。ただし、新しいアクティビティに RAM が必要な場合、キャッシュは消去されます。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。

2. **[System]** (システム) > **[Advanced]** (詳細設定) > **[Developer options]** (開発者向けオプション) > **[Memory]** (メモリ) をタッチします。

画面には、RAM の使用中の容量、空き容量が表示されます。

- **[Performance]** (パフォーマンス) - メモリのパフォーマンスを示します。
- **[Total memory]** (合計メモリ) - 使用可能な RAM の合計容量を示します。
- **[Average used (%)]** (平均使用量 (%)) - 選択した期間 (デフォルトは 3 時間) に使用されたメモリの平均使用量 (パーセント) を示します。
- **[Free]** (空き容量) - 使用されていない RAM の合計容量を示します。
- **[Memory used by apps]** (アプリが使用したメモリ) - タッチして、個々のアプリの RAM 使用量を表示します。

内部ストレージ

デバイスには内部ストレージがあります。デバイスがホスト コンピュータに接続されている場合、内部ストレージのコンテンツを表示したり、ファイルをコピーしたりできます。一部のアプリケーションは、内部メモリではなく内部ストレージに格納されるように設計されています。

内部ストレージの使用量と使用可能な容量を表示するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
 2. **[Storage]** (ストレージ) をタッチします。
- **[Internal Storage]** (内部ストレージ) - 内部ストレージの合計容量と使用量を表示します。

[Internal shared storage] (内部共有ストレージ) をタッチして、アプリ、写真、ビデオ、オーディオ、その他のファイルで使用されるストレージの量を表示します。

外部ストレージ

デバイスには、取り外し可能な microSD カードを挿入できます。デバイスがホスト コンピュータに接続されている場合、microSD カードのコンテンツを表示したり、ファイルをコピーしたりできます。

microSD カードの使用量と使用可能な容量を表示するには、次の手順に従います。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Storage]** (ストレージ) をタッチします。

[Portable storage] (ポータブル ストレージ) には、取り付けられた microSD カードの合計容量と使用量が表示されます。

microSD カードをマウント解除するには、▲ をタッチします。

[SD card] (SD カード) をタッチすると、カードのコンテンツが表示されます。

microSD カードのフォーマット

取り付けられた microSD カードまたは USB ドライブをポータブル ストレージとしてフォーマットするには、次の手順に従います。

1. **[SD card]** (SD カード) をタッチします。
2. ⋮ > **[Storage settings]** (ストレージの設定) をタッチします。
3. **[Format]** (フォーマット) をタッチします。
4. **[ERASE & FORMAT]** (消去してフォーマット) をタッチします。
5. **[DONE]** (完了) をタッチします。

内部メモリとしての microSD カードのフォーマット

microSD カードを内部メモリとしてフォーマットし、デバイスの内部メモリの実際の容量を増やすことができます。一度フォーマットすると、microSD カードを読み取ることができるのは、そのデバイスのみになります。取り付けられた microSD カードを内部メモリとしてフォーマットするには、次の手順に従います。

1. **[SD card]** (SD カード) をタッチします。
2. **[Storage settings]** (ストレージの設定) をタッチします。
3. **[Format as internal]** (内部としてフォーマット) をタッチします。
4. **[ERASE & FORMAT]** (消去してフォーマット) をタッチします。
5. **[DONE]** (完了) をタッチします。

Enterprise フォルダ

Enterprise フォルダ (内部フラッシュ内) は、リセット後およびエンタープライズ リセット後もデータが保持される優れた永続ストレージです。工場出荷時リセット時に Enterprise フォルダは消去されます。Enterprise フォルダは、導入データおよびデバイス固有データに使用されます。Enterprise フォルダの容量は約 128MB (フォーマット済み) です。アプリケーションは、データを Enterprise/User フォルダに保存することで、エンタープライズ リセットの後までデータを保持できます。このフォルダは ext4 形式であり、ADB を使用するホスト コンピュータまたは MDM からのみアクセスできます。

アプリの管理

アプリでは、ストレージ メモリと RAM の 2 種類のメモリを使用します。アプリでは、アプリ自体およびすべてのファイル、設定、その他のデータでストレージ メモリを使用します。アプリの実行時には RAM も使用します。

1. **[Settings]** (設定) に移動します。
2. **[Apps & notifications]** (アプリと通知) をタッチします。
3. **[See all XX apps]** (すべての XX アプリを表示) をタッチして、デバイス内のすべてのアプリを表示します。
4. **[Show system]** (システムを表示) をタッチして、システム プロセスをリストに表示します。
5. リスト内のアプリ、プロセス、またはサービスをタッチすると、画面が開いて詳細が表示されます。この画面では、アイテムに応じて、設定、権限、通知を変更したり、強制停止/アンインストールを実行したりできます。

アプリの詳細の表示

アプリには、さまざまな種類の情報とコントロールがありますが、通常は次の項目が含まれています。

- **[Force stop]** (強制停止) - アプリを停止します。
- **[Disable]** (無効化) - アプリを無効にします。
- **[Uninstall]** (アンインストール) - アプリ、関連データ、設定をすべてデバイスから削除します。アプリのアンインストールについては、[180 ページの「アプリケーションのアンインストール」](#)を参照してください。
- **[Storage]** (ストレージ) - 保存されている情報の量と、それをクリアするためのボタンが表示されます。
- **[Data usage]** (データ使用量) - アプリで使用されたデータ (Wi-Fi) に関する情報が表示されます。
- **[Permissions]** (権限) - アプリがアクセスできるデバイス上の領域が表示されます。
- **[Notifications]** (通知) - アプリの通知設定を設定します。

- **[Open by default]** (デフォルトで開く) - 特定のファイル タイプがデフォルトで起動されるようにアプリを設定した場合は、その設定をクリアできます。
- **[Battery]** (バッテリー) - アプリで使用されるコンピューティングの電力量が表示されます。
- **[Memory]** (メモリ) - アプリの平均メモリ使用量がリストされます。
- **[Advanced]** (詳細)
 - **[Draw over other apps]** (他のアプリに重ねて描画) - アプリを他のアプリに重ねて表示できます。

ダウンロードの管理

ブラウザまたは電子メールを使用してダウンロードしたファイルとアプリは、ダウンロード ディレクトリ内の microSD カードまたは内部ストレージに保存されます。ダウンロードしたアイテムを表示する、開く、または削除する場合は、ダウンロード アプリを使用します。

1. 画面を上から下にスワイプして  をタッチします。
2.  > **[Downloads]** (ダウンロード) をタッチします。
3. アイテムを長押しして、削除するアイテムを選択してから  をタッチします。アイテムがデバイスから削除されます。

メンテナンスとトラブル シューティング

はじめに

この章では、デバイスのクリーニングと保管方法、および操作中に発生する可能性のある問題のトラブルシューティングについて説明します。

デバイスのメンテナンス

トラブルを避けるため、デバイスの使用中は次の注意事項を守ってください。

- スクリーンを傷付けないように、タッチスクリーンでの使用を目的とした付属のタッチペンまたは先端がプラスチックのペンをご使用ください。デバイスの画面の表面で、実際のペンや鉛筆、その他の鋭いものを使用しないでください。
- デバイスのタッチスクリーンはガラス製です。デバイスを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。
- デバイスを極度の高温または低温にさらさないでください。暑い日に車のダッシュボードに置いたままにしたり、熱源のそばに置いたりしないでください。
- ほこりや湿気が極端に多い場所では、デバイスの保管を避けてください。
- デバイスをクリーニングする場合、レンズ用の柔らかい布を使用してください。デバイスのディスプレイが汚れた場合は、柔らかい布を使用可能な洗剤で湿らせてクリーニングします。使用できる洗剤のリストについては、192 ページの「TC52 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤」または 192 ページの「TC52-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤」を参照してください。
- バッテリーの寿命と製品の性能を最大限に活用するために、充電式バッテリーは定期的に交換してください。バッテリーの寿命は、ユーザーの利用状況によって異なります。

ディスプレイのベストプラクティス

画像の残留

画像の残留は、静止画を長時間画面に表示した場合に発生することがあります。新しい画像を表示した後も、前の画像がかすかに表示される場合があります。画像の残留を避けるには、次の手順に従います。

- アイドル状態が数分間続いたときにディスプレイがオフになるように設定します。
- 背景画像を定期的に回転させます。
- デバイスを使用していないときには、ディスプレイをオフにします。
- 次の特性を持つスクリーンセーバーを使用します。
 - 背景色を黒に設定しているスクリーンセーバー

- 小さな画像 (ディスプレイ サイズの約 2%) が移動しているスクリーン セーバー
- 画面上で画像をランダムに移動させるスクリーン セーバー
- 静止画を使用する場合、スクリーン セーバーを有効にする

バッテリーの安全に関するガイドライン

機器を充電する場所には埃が溜まらないようにしてください。また、近くに可燃性の物質や薬品を置かないでください。業務環境以外で機器を充電する場合は、特に細心の注意を払ってください。

- バッテリーの使用、保管、および充電については、ユーザー ガイドに記載されているガイドラインに従ってください。
- バッテリーを正しく使用しないと、火災、爆発、またはその他の事故の原因となる場合があります。
- モバイル デバイスのバッテリーを充電する場合、バッテリーと充電器の温度を 5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F) に保つ必要があります。
- 互換性のないバッテリーや充電器は使用しないでください。互換性のないバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、液漏れなどの事故の原因となる場合があります。バッテリーまたは充電器の互換性についてのご質問は、Zebra サポートにお問い合わせください。
- USB ポートを充電用の電源として利用する機器は、USB-IF のロゴのある製品か、USB-IF コンプライアンス プログラムで認証された製品のみ接続できます。
- 分解または外殻を開くこと、粉碎、屈曲または変形、穿孔、もしくは切断を行わないでください。
- バッテリー駆動式の機器を硬い地面に落とすと、バッテリーがオーバーヒートする原因になる可能性があります。
- バッテリーをショートさせたり、金属や導電性の物体をバッテリー端子に接触させたりしないでください。
- 改造や再加工、バッテリー内部への異物の挿入、水やその他の液体への浸漬や接触、火、爆発物または他の危険物との接触は避けてください。
- 駐車中の車両内、またはラジエータなどの熱源の近くなど、高温になる可能性のある場所あるいはその近くに、機器を放置または保管しないでください。バッテリーを電子レンジや乾燥機に入れしないでください。
- 児童がバッテリーを使用する場合は、保護者の監督が必要です。
- 使用済みの充電式バッテリーは、現地の法令に従ってすみやかに廃棄してください。
- バッテリーを廃棄するときは焼却しないでください。
- バッテリーを飲み込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- バッテリーが液漏れした場合は、漏れた液体が皮膚や目に触れないようにしてください。触れてしまった場合は、接触部位を大量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 機器またはバッテリーの破損が疑われる場合は、Zebra サポートに検査を依頼してください。

クリーニング方法



注意: 必ず保護用めがねを着用してください。

ご使用前に、アルコール製品に関する警告ラベルをお読みください。

医学的な理由などで他の溶液を使用する必要がある場合、グローバル カスタマー サポート センターに詳細をお問い合わせください。



警告: 製品が高温の油やその他の可燃性の液体に触れないようにしてください。万一そのような液体に触れた場合、製品を電源から抜き、このガイドラインに従って製品をただちにクリーニングしてください。

清掃と消毒のガイドライン

- デバイスをオフにするか、AC/DC 電源から切断します。
- デバイスまたはアクセサリの損傷を防ぐため、デバイス向けに指定された承認済みの洗浄剤と消毒剤のみを使用してください。
- 製品を適切かつ安全に使用するには、承認済みの洗浄剤と消毒剤に関するメーカーの指示に従ってください。
- 承認済みの薬剤で事前に湿らせたワイプを使用します。または、湿っていない柔らかい抗菌布を承認済みの薬剤で湿らせながら使用します。デバイスに化学薬品を直接吹きかけたり、注いだりしないでください。
- 狭い場所や手の届かない場所については、湿らせた綿棒を使用します。綿棒から出た糸くずは必ず取り除いてください。
- 液体が溜まらないようにしてください。
- 使用する前に、デバイスを自然乾燥させるか、柔らかい糸くずの出ない布またはタオルで乾かしてください。再び電源を入れる前に、電気接点が完全に乾いていることを確認してください。

TC52 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤

クリーナーの種類は問いませんが、活性成分がイソプロピル アルコール、漂白剤または次亜塩素酸ナトリウム¹(下記の重要な注記を参照)、過酸化水素、塩化アンモニウム、または中性食器洗剤を成分とするものに限定してください。



重要: ウェット ティッシュを使用し、液体のクリーナーが溜まらないようにしてください。

¹次亜塩素酸ナトリウム (漂白剤) ベースの製品を使用するときは、必ず製造業者の推奨手順に従い、使用中は手袋を着用し、使用後は残留分をアルコールで湿らせた布または綿棒で除去して、デバイスを取り扱うときは長時間皮膚と接触しないようにしてください。

液状 (ウェット ティッシュを含む) の次亜塩素酸ナトリウムに暴露されると、この化学物質の強力な酸化性によりデバイスの金属面が酸化 (腐食) しやすくなります。このような消毒剤がデバイスの金属に触れた場合、クリーニングの手順の後、アルコールで湿らせた布または綿棒でただちに除去することが重要です。

TC52-HC 向けの承認済みの洗浄剤と消毒剤

TC52-HC 構成向けの承認済み洗浄剤および消毒剤の詳細については、www.zebra.com/tc5x-hc-cleaning を参照してください。

クリーニングの際の注意事項

フタレートを含む手袋を着用してデバイスを扱わないようにしてください。また、手袋を外した後は、手を洗って汚染残留物を除去してからデバイスを扱ってください。

デバイスを扱う前に、エタノールアミンを含む除菌ローションなど、上記の有害成分を含む製品を使用していた場合、デバイスの損傷を防止するために、手を完全に乾燥させてからデバイスを扱うようにしてください。



重要: バッテリー コネクタに洗浄剤が付着した場合、薬剤をできる限り完全に拭き取ってから、アルコール ウェット ティッシュでクリーニングします。コネクタに薬剤が蓄積するのを最小限に抑えるため、デバイスのクリーニングと消毒の前にターミナルにバッテリーを取り付けることもお勧めします。

デバイスで洗浄/殺菌剤を使用するとき、洗浄/殺菌剤の製造業者により規定された指示に従うことが重要です。

クリーニングの頻度

モバイル デバイスが使用される環境はそれぞれ異なるため、クリーニングの頻度はユーザーが判断し、必要に応じた頻度でクリーニングを行ってください。汚れに気付いたら、モバイル デバイスをまめにきれいにし、汚れが蓄積して後のクリーニングが面倒にならないようにします。

常に最適な画像をキャプチャできるように、特に汚れや埃の多い環境で使用した後など、カメラ ウィンドウの定期的なクリーニングを推奨しています。

デバイスのクリーニング

筐体

使用可能なアルコール ワイプですべてのボタンやトリガを含め、筐体を完全に拭き取ります。

ディスプレイ

ディスプレイは使用可能なアルコール ワイプで拭いてもかまいません。ただし、ディスプレイの端の付近に液体がたまらないように注意してください。すぐに柔らかい布でディスプレイを乾かします。このとき、傷が付かないよう、目の粗い布は使わないでください。

カメラと出カウインドウ

レンズ用ティッシュ ペーパーまたはメガネなど光学材料のクリーニングに適した用具で定期的にカメラと出カウインドウを拭いてください。

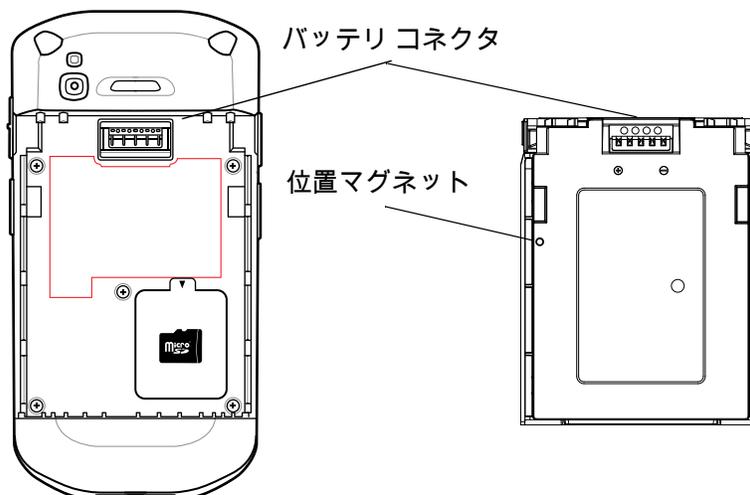
バッテリー ガイド スロット

アルコールに浸した綿棒をバッテリー ガイド レールに挿入してごみをきれいに取り除き、乾いた 綿棒でふき取って乾かします。

バッテリー コネクタと位置マグネットのクリーニング

バッテリー コネクタと位置マグネットをクリーニングするには、次の手順に従います。

図 162 バッテリー コネクタと位置マグネット



1. モバイル コンピュータからメイン バッテリを取り外します。
2. 綿棒のコットン部をイソプロピル アルコールに浸します。
3. 油分や汚れを取り除くには、綿棒のコットン部で、バッテリーとターミナル側にある位置マグネットとコネクタ部分を軽くこすります。コネクタまたはマグネットに綿の屑が残らないようにしてください。
4. これを 3 回以上繰り返します。
5. 乾いた綿棒で、ステップ 3 と 4 を繰り返します。コネクタまたはマグネットに綿の屑が残らないようにしてください。
6. 油分や埃が残っていないか確認し、必要であればクリーニング処理を繰り返します。



注意: 漂白剤ベースの化学薬品でバッテリー コネクタまたは位置マグネットをクリーニングした後は、バッテリー コネクタとロケータ マグネットのクリーニング手順に従って、コネクタや位置マグネットから漂白剤を取り除きます。

クレードルのコネクタのクリーニング

クレードルのコネクタをクリーニングするには、次の手順に従います。

1. クレードルから DC 電源ケーブルを取り外します。
2. 綿棒のコットン部をイソプロピル アルコールに浸します。
3. 綿棒のコットン部で、コネクタのピンに沿って拭きます。コネクタの片側から反対側に向けて、ゆっくり綿棒を往復させます。コネクタにコットンの屑が残らないようにしてください。
4. コネクタのすべての面も、綿棒で拭く必要があります。
5. 綿棒のコットンの屑をすべて取り除きます。
6. クレードルの他の部分に油分や埃が見つかった場合、糸くずの出ない布とアルコールを使用して取り除きます。
7. アルコールが蒸発するまで 10 ~ 30 分 (周辺の温度と湿度による) 置いてから、クレードルに電源をつないでください。

気温が低く湿度が高い場合、長い乾燥時間が必要となります。温度が高く、湿度が低い場合は、乾燥時間が短くなります。



注意: 漂白剤ベースの化学薬品でクレードル コネクタをクリーニングした後は、クレードル コネクタのクリーニング手順に従って、コネクタから漂白剤を取り除きます。

トラブルシューティング

デバイスのリセット

リセット機能には、ソフトリセットとハードリセットの2種類があります。

ソフトリセットの実行

アプリケーションが応答を停止した場合、ソフトリセットを実行します。

1. メニューが表示されるまで、電源ボタンを長押しします。
2. [Restart] (再起動) にタッチします。
3. デバイスが再起動します。

ハードリセットの実行



注意: デバイスに microSD カードが取り付けられている状態でハードリセットを実行すると、microSD カードの損傷やデータ破損が発生する可能性があります。

デバイスが応答を停止した場合は、ハードリセットを実行します。

1. 電源ボタン、左スキャンボタン、および音量上げボタンを 4 秒以上同時に押します。
2. 画面がオフになったら、ボタンを放します。
3. デバイスが再起動します。

TC52

表 18 TC52 のトラブルシューティング

問題	原因	対処方法
バッテリーを取り付けた後に、デバイスが起動しない。	電源ボタンを押していない。	電源ボタンを押します。
電源ボタンを押してもデバイスの電源がオンにならない。	バッテリーが充電されていない。	デバイスのバッテリーを充電または交換します。
	バッテリーが正しく取り付けられていない。	バッテリーを正しく取り付けます。
	システムがクラッシュした。	リセットします。
電源ボタンを押しても、デバイスの電源がオンにならないが、LED が 2 つ点滅する。	データを維持できるレベルのバッテリー残量があるが、充電が必要。	デバイスのバッテリーを充電または交換します。
バッテリーが充電されない。	バッテリーに問題がある。	バッテリーを交換してください。それでもデバイスが動作しない場合、リセットします。
	バッテリーの充電中にデバイスをクレードルから取り外した。	デバイスをクレードルに差し込みます。19 ページの「バッテリーの充電」を参照してください。
	バッテリーが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5°C (41°F) 未満になるか 40°C (104°F) を超えると、バッテリーは充電されません。

表 18 TC52 のトラブルシューティング (続き)

問題	原因	対処方法
ディスプレイの文字が見えない。	デバイスの電源が入っていない。	電源ボタンを押します。
ホスト コンピュータとのデータ通信中に、データが転送されなかったか、転送されたデータが不完全である。	通信中に、デバイスをクレードルから取り外したか、ホスト コンピュータから切断した。	デバイスをクレードルに置き直すか、通信ケーブルをつなぎ直して再度転送します。
	ケーブル接続が間違っている。	システム管理者にお問い合わせください。
	通信ソフトウェアのインストールまたは設定が誤っている。	セットアップを実行します。
Wi-Fi でのデータ通信中に、データが転送されなかったか、転送されたデータが不完全である。	Wi-Fi 無線がオンになっていない。	Wi-Fi 無線をオンにします。
	アクセス ポイントの通信範囲から外れている。	アクセス ポイントの近くに移動します。
Bluetooth でのデータ通信中に、データが転送されなかったか、転送されたデータが不完全である。	Bluetooth 無線がオンになっていない。	Bluetooth 無線をオンにします。
	別の Bluetooth デバイスの範囲から外れている。	もう一つのデバイスの 10m (32.8 フィート) 以内に移動します。
音が鳴らない。	音量設定が低いかオフになっている。	音量を調整します。
デバイスの電源が切れる。	デバイスが非アクティブになっている。	ディスプレイは使用しないまま一定時間が経過するとオフになります。この時間を、15 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分、10 分、または 30 分に設定します。
	バッテリーが放電している。	バッテリーを交換します。
ウィンドウのボタンやアイコンをタップしても、対応する機能が動作しない。	デバイスが反応しない。	デバイスを再起動します。
デバイスのメモリが満杯というメッセージが表示される。	デバイスに保存されているファイルが多すぎる。	使用しないメモや記録を削除します。必要に応じて、その記録をホスト コンピュータに保存します (または SD カードを使用してメモリを追加します)。
	デバイスにインストールされているアプリケーションが多すぎる。	ユーザーがデバイスにインストールしたアプリケーションを削除し、メモリを回復します。 [Settings] (設定) > [Apps & notifications] (アプリと通知) を選択します。リストからアプリを選択して、[UNINSTALL] (アンインストール) を選択します。

表 18 TC52 のトラブルシューティング (続き)

問題	原因	対処方法
デバイスが読み取った バーコードがデコード されない。	スキャンアプリケーション がロードされていない。	デバイスにスキャンアプリケーションをロードする か、DataWedge を有効にします。システム管理 者にお問い合わせください。
	バーコードを読み取れない。	コードに汚れがないことを確認します。
	出カウインドウとバーコード との距離が適切ではない。	デバイスを正しいスキャン範囲に置きます。
	デバイスが当該バーコード 用に設定されていない。	スキャンするバーコードに対応するように、デバ イスをプログラムします。EMDK または DataWedge アプリケーションを参照します。
	デバイスがビープ音を鳴ら すようにプログラムされて いない。	正しく読み取ったときにデバイスがビープ音を鳴 らさない場合、正しく読み取ったときにビープ音 を鳴らすようにアプリケーションを設定します。
	バッテリー残量が少なくなっ ている。	スキャナのトリガを押したときにレーザー光線の 放射が停止する場合、バッテリーレベルを確認し ます。バッテリー残量が少なくなっていると、バッテ リ残量が少ないことをデバイスが通知する前に、 スキャナがシャット オフします。注: この対処法 を実行してもスキャナがコードを読み取らない場 合、代理店またはグローバル カスタマー サポー ト センターにお問い合わせください。
デバイスが近くの Bluetooth デバイスを 検出できない。	他の Bluetooth デバイスから 遠すぎる。	他の Bluetooth デバイスから 10m (32.8 フィート) 以内にデバイスを近づけます。
	近くの Bluetooth デバイスの 電源がオンになっていない。	検出するには、近くの Bluetooth デバイスの電源 をオンにします。
	Bluetooth デバイスが検出可 能なモードになっていない。	Bluetooth デバイスを検出可能なモードに設定し ます。必要に応じて、デバイスのユーザー マニユ アルを参照してください。
デバイスのロックを解 除できない。	ユーザーが正しくないパス ワードを入力している。	ユーザーがパスワードの入力を 5 回間違えると、 PIN、パターンまたはパスワードを使用するとき に 30 秒待つように求められます。

1 スロット充電専用クレードル

表 19 1 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処
デバイスのバッテリー または予備バッテリー を差し込んでも LED が点灯しない。	クレードルに電力が供給 されていない。	電源ケーブルが、クレードルと AC 電源の両方にしっ かり接続されていることを確認します。
	デバイスがクレードルに しっかりとセットされて いない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりセッ トされるように差し込み直します。
	予備バッテリーがクレード ルにしっかりとセットされ ていない。	予備バッテリーを充電スロットから取り外して、しっ かりセットされるように差し込み直します。

表 19 1 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	対処
デバイスのバッテリーが充電されない。	デバイスをクレードルから抜くのが早すぎたか、クレードルを AC 電源から抜くのが早すぎました。	クレードルに電力が供給されていることを確認します。デバイスが正しくセットされていることを確認します。メインバッテリーが充電中であることを確認してください。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。
	デバイスがクレードルに完全にセットされていない。	デバイスをクレードルから取り外して、しっかりセットされるように差し込み直します。
	バッテリーが極端な高温か低温になっている。	周辺温度が 5 °C (41 °F) 未満になるか 40 °C (104 °F) を超えると、バッテリーは充電されません。
予備バッテリーが充電されない。	バッテリーが充電スロットに完全にセットされていない。	予備バッテリーをクレードルから取り外して、しっかりセットされるように差し込み直します。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが正しく差し込まれていない。	バッテリーの充電端子とクレードルの端子を合わせて、バッテリーを差し込み直します。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。

4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き) のトラブルシューティング

表 20 4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き) のトラブルシューティング

問題	原因	対処方法
バッテリーが充電されません。	クレードルからデバイスを取り外すのが早すぎた。	デバイスをクレードルに差し込み直します。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。
	デバイスがクレードルに正しく挿入されていない。	デバイスを取り外して正しく差し込み直します。充電がアクティブになっていることを確認します。⚙️ > [System] (システム) > [About phone] (電話機情報) > [Status] (ステータス) の順にタッチして、バッテリーのステータスを表示します。
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が 5 °C (41 °F) ~ 40 °C (104 °F) の場所に移動します。

5 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

表 21 5 スロット充電専用クレードルのトラブルシューティング

問題	原因	対処方法
バッテリーが充電されません。	クレードルからデバイスを取り外すのが早すぎた。	デバイスをクレードルに差し込み直します。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。
	デバイスがクレードルに正しく挿入されていない。	デバイスを取り外して正しく差し込み直します。充電がアクティブになっていることを確認します。⚙️ > [System] (システム) > [About phone] (電話機情報) > [Status] (ステータス) の順にタッチして、バッテリーのステータスを表示します。
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が 5°C (41°F) ~ 40°C (104°F) の場所に移動します。

5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング

表 22 5 スロット イーサネット クレードルのトラブルシューティング

問題	原因	対処方法
通信中に、データが転送されないか、転送されたデータが不完全である。	デバイスが通信中にクレードルから取り外されました。	デバイスをクレードルに戻し、転送し直してください。
	ケーブル接続が間違っている。	正しいケーブル構成であることを確認します。
	デバイスにアクティブな接続が存在しない。	接続がアクティブになっている場合は、ステータスバーにアイコンが表示されます。
バッテリーが充電されません。	クレードルからデバイスを取り外すのが早すぎた。	デバイスをクレードルに差し込み直します。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。
	デバイスがクレードルに正しく挿入されていない。	デバイスを取り外して正しく差し込み直します。充電がアクティブになっていることを確認します。⚙ > [System] (システム) > [About phone] (電話機情報) > [Status] (ステータス) の順にタッチして、バッテリーのステータスを表示します。
	クレードルの周辺温度が高すぎる。	クレードルを、周辺温度が 5°C (41°F) ~ 40°C (104°F) の場所に移動します。

4 スロット バッテリー充電器のトラブルシューティング

表 23 4 スロット バッテリー充電器のトラブルシューティング

問題	原因	対処方法
予備バッテリーを挿入しても、予備バッテリーの充電 LED が点灯しない。	予備バッテリーが正しくセットされていない。	予備バッテリーを充電スロットから取り外し、正しくセットされるように差し込み直します。

表 23 4 スロット バッテリ充電器のトラブルシューティング (続き)

問題	原因	対処方法
予備バッテリーが充電されない。	充電器に電力が供給されていない。	電源ケーブルが、充電器と AC 電源の両方にしっかりと接続されていることを確認してください。
	予備バッテリーが正しくセットされていない。	バッテリーをバッテリーアダプタから取り外して、正しくセットされるように差し込み直します。
	バッテリーアダプタが正しく装着されていない。	充電器からバッテリーアダプタ取り外して、正しくセットされるように差し込み直します。
	バッテリーを充電器から取り外したり、充電器を AC 電源から抜いたりするのが早すぎた。	充電器に電力が供給されていることを確認してください。予備バッテリーが正しくセットされていることを確認してください。バッテリーが完全に空になっている場合、約 2.5 時間で 90%、約 3 時間で 100% 充電されます。
	バッテリーが故障しています。	他のバッテリーが正しく充電されるか確認します。充電される場合は、故障したバッテリーを交換します。

技術仕様

デバイスの技術仕様については、www.zebra.com にアクセスしてください。

表 24 データ収集読み取り可能コード

項目	説明
1D バーコード	Chinese 2 of 5、Codabar、Code 11、Code 128、Code 39、Code 93、Discrete 2 of 5、EAN-13、EAN-8、Interleaved 2 of 5、MSI、UPCA、UPCE、UPCE1、ISBN/Bookland、ISSN、Coupon Code、Matrix 2 of 5
2D バーコード	Australian Post、Aztec Code、Canada Postal、Composite AB、Composite C、DataMatrix、Dutch Postal、GS1 DataBar、GS1 Expanded、GS1 Limited、GS1 Datamatrix、Han Xin、Japan Postal、Maxicode、Micro PDF、Micro QR Code、PDF-417、QR Code、TLC-39、PDF-417、UK Postal、US4state、US4State FICS、US Planet、US Postnet

読み取り可能距離

以下の表には、選択されたバーコード密度の通常の間隔が記載されています。最小光源幅 (または「シンボル密度」) は、シンボルで最も幅の狭いエレメント (バーやスペース) の幅 (mil) です。

表 25 SE4710 の読み取り可能距離

シンボル密度/バーコードタイプ	通常の間隔	
	近距離	遠距離
4 mil Code 39	3.3 インチ 8.4cm	8.8 インチ 22.4cm
5.0 mil Code 128	2.8 インチ 7.1cm	8.2 インチ 20.8cm
5 mil Code 39	2.0 インチ 5.08cm	13.5 インチ 34.3cm
5 mil PDF417	3.1 インチ 7.9cm	8.4 インチ 21.3cm
10 mil Data Matrix	2.9 インチ 7.4cm	10.1 インチ 25.7cm

表 25 SE4710 の読み取り可能距離 (続き)

シンボル密度/バーコード タイプ	通常の読み取り幅	
	近距離	遠距離
100% UPCA	1.8 インチ 4.6cm*	26.0 インチ 66.0cm
20 mil Code 39	2.0 インチ 5.08cm*	30.0 インチ 76.2cm
20 mil QR Code	3.2 インチ 8.1cm	15.8 インチ 40.1cm

*読み取り幅内のバーコードの幅により制限されます。
注: 30fcd 周辺光の下、15°の傾斜ピッチ角で使用する写真品質のバーコード。
スキャン エンジン シャーシの前端から測定された距離。

I/O コネクタのピン配列

図 163 I/O コネクタ

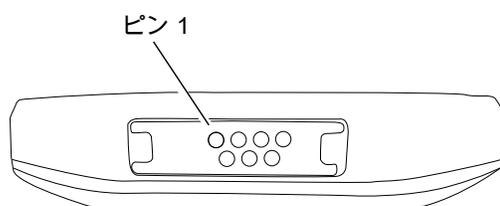


表 26 I/O コネクタのピン配列

ピン	信号	説明
1	VBUS	USB Power Input
2	D-	USB Data-
3	CC	USB Type C Control
4	GND	接地
5	D+	USB Data+
6	未使用	未使用
7	ID	Cradle ID

1 スロット充電専用クレードルの技術仕様

表 27 1 スロット充電専用クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 9.9cm (3.9 インチ) 幅 : 9.8cm (3.86 インチ) 奥行き : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	378g (13.3 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 15 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10 kV 接触放電 ± 10 kV 間接放電

4 スロット充電専用クレードル (バッテリー充電器付き) の技術仕様

表 28 5 スロット充電専用クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 10.6cm (4.17 インチ) 幅 : 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	2020g (71.3 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 95 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	0 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電 ± 10kV 間接放電

5 スロット充電専用クレードルの技術仕様

表 29 5 スロット充電専用クレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 10.6cm (4.17 インチ) 幅 : 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	1937g (68 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 65 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	0 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電 ± 10kV 間接放電

5 スロットイーサネットクレードルの技術仕様

表 30 5 スロットイーサネットクレードルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 10.6cm (4.17 インチ) 幅 : 48.9cm (19.25 インチ) 奥行き : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	2010g (71 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 70 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電 ± 10kV 間接放電

4 スロット バッテリ充電器の技術仕様

表 31 4 スロット バッテリ充電器の技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 9.7cm (3.82 インチ) 幅 : 9.8cm (3.86 インチ) 奥行き : 13.3cm (5.24 インチ)
重量	450g (15.9 オンス)
入力電圧	12VDC
消費電力	最大 48 ワット
動作温度	0°C ~ 50°C (32°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
充電温度	5°C ~ 40°C (41°F ~ 104°F)
湿度	5 ~ 95% (結露なきこと)
落下	室温にて 76.2cm (30.0 インチ) の高さからビニール張りのコンクリート面へ落下後、動作可能
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電 ± 10kV 間接放電

トリガ ハンドルの技術仕様

表 32 トリガ ハンドルの技術仕様

項目	説明
寸法	高さ : 11.5cm (4.53 インチ) 幅 : 13.2cm (5.19 インチ) 奥行き : 8.0cm (3.15 インチ)
重量	114g (4.0 オンス)
動作温度	-20°C ~ 50°C (-4°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
湿度	10 ~ 95% (結露なきこと)
落下	動作温度範囲下で、1.8m (6 フィート) の高さからコンクリート面に落下しても動作可能。
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電

高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様

表 33 高耐久性充電/USB ケーブルの技術仕様

項目	説明
長さ	164 +/- 6cm (64.6 +/- 2.4 インチ)
入力電圧	5.0VDC
動作温度	-20°C ~ 50°C (-4°F ~ 122°F)
保管温度	-40°C ~ 70°C (-40°F ~ 158°F)
湿度	10 ~ 95% (結露なきこと)
静電気放電 (ESD)	+/- 20kV 大気放電 ± 10kV 接触放電

索引

数字

1 スロット USB/ 充電専用クレードル キット	119
4 スロット 充電専用クレードル (バッテリー 充電器キット付き)	119
4 スロット バッテリー充電器キット	120
5 スロット イーサネット クレードル キット	119
5 スロット 充電専用クレードル キット	119

A

ActiveEdge タッチ ゾーン	48
使用	51
設定	48
ドロワのアプリの選択	49

B

Bluetooth	103, 111
PIN	112
セキュリティ	111
デバイスの検出	114
電源の状態	113
名前の変更	114
プロファイル	112
無効にする	114
有効にする	113
Bluetooth デバイスの検出	114
Bluetooth の名前の変更	114
Bluetooth の無効化	114
Bluetooth の有効化	113

D

DataWedge	100
デコーダ	100
無効	100
有効	100
DataWedge デモンストレーション	61
DC 電源コード	122
Device Central	
My Device (マイ デバイス) タブ	62

RS6000 リング スキャナの呼び出し	64
(周辺機器) タブ	63
(スキャンおよびペアリング) タブ	62
(マイ デバイス) タブ	64
周辺機器のペアリング解除	64

DS3678

Bluetooth HID を使用してペアリングする	98
Simple Serial Interface を使用してペアリン グする	97
スキャン	91
ペアリング	97

E

EAP	103
-----	-----

M

microSD カード	17, 22
microSD カードの取り付け	17

N

NFC	115
情報の共有	117
リーディングカード	116
NFC アンテナ	16
NFC カードの読み取り	116
NFC を使用した情報の共有	117

P

PTT Express	
PTT 通信	69
Voice クライアント	68
音声通知	68
グループ通話	70
通信の無効化	70
通信を有効にする	69
通知アイコン	68
トーク グループ	69

プライベート応答	70	RxLogger ユーティリティ	80
PTT ボタン	16	SimulScan デモ	71
R		アクセス	47
RS507		カメラ	55
スキャン	90	サウンドレコーダ	81
RS507/RS6000		診断ツール	65
Bluetooth HID を使用してペアリングする	96	バッテリー マネージャ	53
Simple Serial Interface を使用してペアリン グする	95		
ペアリング	94	い	
RS507 スキャン	90, 91, 92, 93	イーサネット接続	139
RS6000		一般的な音設定	38
スキャン	89	インタラクティブなセンサー テクノロジ	31
RS6000 スキャニング	89		
RxLogger	79	う	
構成	79	ウェイクアップ ソース	39
構成ファイル	79		
ログの無効化	79	お	
ログの有効化	79	オーディオアダプタ	120
ログ ファイルの抽出	79		
RxLogger ユーティリティ	80	か	
S		カメラ	16, 44, 55
SimulScan デモ	71	写真設定	57
サンプル フォームの印刷	71	写真の撮影	55
詳細設定	75	前面カメラの写真設定	58
製造サンプルの使用 方法	73	前面カメラのビデオ設定	59
設定	75	背面カメラの写真設定	58
デフォルトのテンプレート	78	背面カメラのビデオ設定	60
デモ カスタマイズの作成	77	パノラマ写真の撮影	56
郵送、運輸、物流サ ンプルの使用 方法	72	ビデオ設定	59
		ビデオの録画	57
		カメラの設定	57, 59
		画面の回転	35
		画面のフォント サイズ	36
U		き	
USB	32	機能	15
USB を使用したファイルの転送	32	キーボード	
		英字タブ	42
W		数字、記号、および特殊文字の入力	41
WEP	103	数字タブ	41
Wi-Fi ダイレクト	110	設定	40, 43
Wi-Fi の削除	105	追加文字タブ	42
WLAN	103	テキストの編集	41
WPA	103	キャスト	118
あ		近距離無線通信	103, 115
アプリ		近接センサー	15
ActiveEdge タッチ ゾーン	48		
DataWedge デモン ストレーション	61		
PTT Express	68		
RxLogger	79		

く		せ	
クイック アクセス パネル	28	セキュリティ	103
クイック設定		設定	34, 103
アイコンの編集	29	アクセス	34, 103
クリーニング	191, 192	一般的な音	38
頻度	193	ウェイクアップ ソース	39
方法	191	カメラ	57, 59
クレードル		カメラの写真	57
コネクタのクリーニング	194	カメラ ビデオ	59
クレードル マウント	119	周辺光で調整されるディスプレイ	36
		通知 LED	38
こ		ディスプレイ	34
構成	12	そ	
高耐久性充電 /USB ケーブル	120	ソフトウェアのバージョン	13
高耐久性ブーツ	120	ソフトウェア バージョン	13
		ソフト ホルスタ	121
さ		ソフト リセット	195
サウンド レコーダ	81		
		た	
し		タッチ モード	37
写真			
カメラ設定	57	つ	
撮影	55	通知	
パノラマ	56	管理	27
写真転送	32	通知アイコン	26
周辺光で調整されるディスプレイの設定	36	通知の管理	27
使用可能な洗剤	192		
診断ツール	65	て	
バッテリーテスト情報	66	ディスプレイ	
Bluetooth テストの情報	67	クリーニング	193
GPS テストの情報	66	ディスプレイの設定	34
WLAN テストの情報	67	低バッテリー通知	30
WWAN テストの情報	67	適応型周波数ホッピング	111
システム テストの情報	66	デコーダ	100
設定	66	デジタル カメラ	82
シンボル体系	202	データ収集	82
		バーコード スキャン	82
す		データ収集	
スキャン	86, 88	デジタル カメラ	82
DS3678	91	デバイスのリセット	195
RS507	90	電源	121
RS6000	89		
スキャン操作		と	
考慮事項	86	トラブルシューティング	195
スキャン ボタン	16	トリガ ハンドル	120
スタイラス	121	トリガ ハンドル キット	120
ステータス バー	25		
スピーカ	15		

は

バーコード スキャン	
デジタル カメラ	82
バッテリー	16, 120
使用量の監視	30
低バッテリー通知	30
バッテリー管理	30
バッテリーの現在の状態	30
バッテリー レベル	30
バッテリー交換	21
バッテリー最適化	31
バッテリー使用量の監視	30
バッテリーの充電	19
バッテリー マネージャ	53
ハードリセット	195
パノラマ	56
パノラマ写真の撮影	56
ハンズフリー イメージャ	84
ハンドストラップ	121

ひ

光センサー	15
ピックリスト	83
ビデオ	
カメラ設定	59
録画	57
表記規則	12

ふ

ファイル転送	32
フォント サイズ	36

へ

ペアリング	
Bluetooth HID を使用 (DS3678)	98
Bluetooth HID を使用 (RS507/RS6000)	96
DS3678	97
RS507/RS6000 ハンズフリー イメージャ	94
Simple Serial Interface を使用 (DS3678)	97
Simple Serial Interface を使用 (RS507/RS6000)	95
ベーシック ハンドストラップ	121
ヘッドセット ジャック	17

ほ

ホスト コンピュータの切断	33
ホーム画面	24
回転	25

む

無線 LAN	103
--------	-----

め

メッセージ URL http	
//techdocs.zebra.com/datawedge/	100
//www.zebra.com/support	181, 183, 185
メンテナンス	
クリーニングの際の注意事項	192
クリーニングの頻度	193
クリーニング方法	191

ゆ

指の使用	37
------	----

り

リセット	195
リニア イメージャ	83

